

# 八日市地方遺跡Ⅱ

—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1部 遺構編

第2部 石器編

2013.3

石川県小松市教育委員会

## 序 文

本書は、平成5年～平成12年の8カ年にかけて実施された小松駅東土地区画整理事業に伴う発掘調査報告Ⅱである。事業終了が平成14年度であったことから、発掘調査完了後2カ年のうちに膨大な未整理分の資料を残しながら、遺跡の概要と重要遺物が膨大に発見された埋積浅谷を中心とした報告を報告Ⅰとして刊行した。

しかし、八日市地方遺跡の内容は、北陸地域における大規模環濠集落として、弥生時代集落を考える際に重要な遺跡であることから、市の単独事業として、10カ年を要し刊行にこぎつけたのが、本書に該当する。

報告書作成にあたって、属性ごとに担当を振り分けながら、それぞれに複数の担当者を介在して実施してきた訳であるが、最終的に最後まで携わったのは、宮田と下濱であり、十分な成果を伝えられないまま、刊行に及んだ箇所があること、限られた時間、予算のなかでの報告であることを了承された。

### 報告書の構成

報告Ⅰに対して報告Ⅱとし、構成は次のとおりである。

第1部 遺構編 第2部 石器編 第3部 製玉編 第4部 木器編 第5部 土器編 第6部 補遺編 第7部 総括編

それぞれ、紙面が限られている中、宮田との相談の下、できる限り未報告資料を出さない形にしたいとの思いで、属性表、図面等の補足箇所はDTP編集を行った報告書作成であることから、添付 DVDROMのみの掲載分があることを了承された。

また、各部構成内の遺構名表記、遺物名表記を総合的に行なうにあたって、旧表記名と新規表記名を提示した形での報告とし、なるべく誤解のないわかりやすい報告になればと考えている。

## 例 言

1. 本書は、小松駅東土地区画整理事業に係る八日市地方遺跡の発掘調査のうち、報告Ⅰを補完する調査報告Ⅱであり、そのうちの第1分冊 第1部 遺構編と第2部 石器編である。

2. 出土品整理及び報告書の作成は下記の分担により実施し、宮田・下濱が総括した。

『石器の分類・実測・トレース作業』 中谷巧一、宮田

『遺構のトレース』 杉直子、北山可奈子、北村史織、宮田、下濱

『石器の写真』 宮田

なお、一部緊急雇用創出対策事業の一環として（株）太陽測地社、（株）バスコにより石器の実測・トレース作業を実施している。

3. 本書の編集は下濱が行い、執筆分担は第1部 下濱、第2部 宮田 が行つた。

4. 本書に示す方位は座標北である。平成9年度以降着手の調査区は、日本湖底系（VII系）X=44.51km, Y=63.22kmを原点(0-0)とするグリッドを設定し、図上の表示もこれによっているが、それ以外の調査区は任意グリッドであり、土地の区画に従い図上の座標軸は座標北より東に振れている。水平基準は標高(T.P.)に準拠している。

5. 本書に示す土色はマンセル表色系に準拠している。

6. 本書に利用する時期は報告Ⅰの時期設定に準じており、八日市地方1～3期（弥生時代前期～中期初頭）、八日市地方4、5期（中期前葉）、八日市地方6～8期（中期中葉）、八日市地方9、10期（中期後葉）

合わせて、集落Ⅰ期＝八日市地方4～6期、集落Ⅱ期＝6～8期、集落Ⅲ期＝9、10期に相当する。

6. 発掘調査で出土した遺物をはじめ、遺構・遺物の実測図・写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。

7. その他、本書の作成にいたるまで、以下の機関・団体・個人より協力・助言・指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。(50音順、敬省略)

赤澤徳明、澁野良治、石川考古学研究会、石川日出志、石黒立人、伊丹徹、伊藤洋、伊藤雅文、宇野隆夫、浦容子、大原道則、金闇恕、亀井聰、河合草行、川添和曉、木下尚子、楠正勝、後藤長平、小林正史、小松謙、坂井秀弥、佐古和枝、笛澤正史、設楽博己、篠宮正、杉山拓己、関雅之、高野陽子、高橋浩二、田嶋明人、長井謙治、永井宏幸、中村晋也、能城修一、橋本達夫、馬場伸一郎、林大智、原田昌幸、肥後弘幸、久田正弘、深澤芳樹、藤田三郎、本田秀生、前田清彦、光谷拓実、宮本一夫、三好孝一、村上恭通、村上由美子、森岡秀人、安英樹、安中哲徳、湯尻修平、吉田広、米田克彦、若林邦彦、渡邊明和



II次・III次（西から）



15地区(その2) 北から



13地区(その2) 西から



8地区 南から 6. 11地区望む  
13地区(その1)



17 地区(その3) 東から



12 地区 西から



11 地区(その3) 平地式確認状況 西から



11 地区(その3) 西から



環濠 01 17 地区 b アゼ 南から



環濠 02 13 地区 a アゼ 南から



環濠 01 28 地区 B アゼ 西から



環濠 02 17 地区 b アゼ 南から



環濠 01 28 地区 c アゼ 東から



環濠 03A,03B 12 地区 B アゼ 南から



環濠 02,03 28 地区 c アゼ 西から



環濠 03 17 地区 f アゼ 南西から



11 地区 SE01 北から



13 地区 SE01 南から



17 地区 SE01 北東から



26 地区 SE01 南から



I 次 井戸と周溝 東から



11 地区 SB03 北から



12 地区 SB01 東から



12 地区 SX01 主柱 北から



17 地区 SB01 北から



26 地区 SB01 南東から



6 地区 SK118 遺物検出状況 西から



6 地区 SX08 南溝内 東から



6 地区 SX09 北溝内 南から



11 地区 SX02 周溝内 碧玉チップ集中



11 地区 環濠 06 中層遺物出土状況 南から



12 地区 環濠 03B 内出土状況 北から



17 地区 環濠 03 中層遺物出土状況



20 地区 SX16 北から

# 第1部 遺構編

## 第Ⅰ章 層序及び概要

|             |   |
|-------------|---|
| 第1節 調査既往の概要 | 2 |
| 第2節 層序      | 4 |
| 第3節 遺構の概要   | 4 |
| 1. 環濠       |   |
| 2. 建物       |   |
| 3. 方形周溝墓    |   |
| 4. 土坑       |   |

## 第Ⅱ章 弥生時代の遺構

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 第1節 1次・28・30地区・31地区 | 9   |
| 第2節 26地区            | 23  |
| 第3節 II・III次・2・4区    | 30  |
| 第4節 6・8地区           | 44  |
| 第5節 18・20地区         | 66  |
| 第6節 17地区            | 93  |
| 第7節 15・16地区         | 117 |
| 第8節 12・13地区         | 130 |
| 第9節 11地区            | 148 |

## 凡例

1. 遺構番号は、調査区をまたがる遺構及び整理段階で認識された遺構は調査時とは別に新規名称を併記記載する。

2. 編成時期は、基本として『報告Ⅰ 第Ⅲ章』道跡全体の概要に準拠した区分である。

3. 遺構の分類呼称と記号は次のとおりである。

SA・・柵列。SB・・掘立柱建物。SD・・溝。SE・・井戸。SK・・土坑。SP・・ピット。SX・・方形周溝墓。平地式建物

# 第Ⅰ章 層序及び概要

## 第1節 調査の概要

### 1. 調査既往の概要

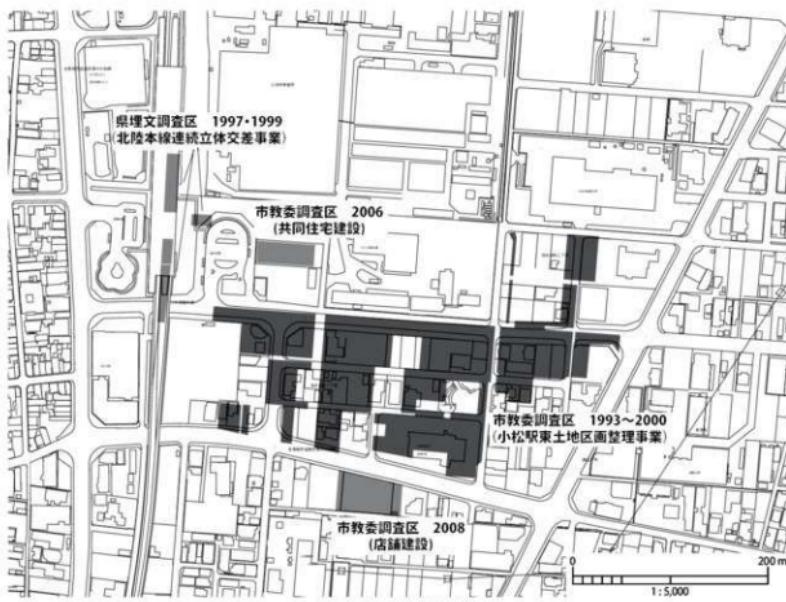
八日市地方遺跡の発掘調査箇所は、本論で扱う小松駅東土地区画整理事業の他、石川県埋蔵文化財センターによる北陸連続立体交差事業及び民間開発による2006年、2008年の調査と複数箇所にまたがる。県の調査箇所では、埋積浅谷の右岸に集落域が確実に展開することが判明し、さらに2006年実施箇所から環濠内に囲まれる生活域を拡充する形となった。

一方、平成9年に実施した試掘結果をもとに、2008年に実施した調査箇所では、弥生土器の出土はあるものの明瞭な遺構には恵まれず、墓域の南端を示す結果となった。

### 2. 調査区の位置

平成5年度から平成6年度にかけての調査は、I次、II次、III次とした名称のもと実施しているが、調査区が複数箇所にまたがることから第2図のとおり調査区割りを設定し、平成9年度からは、統一的なグリッドを採用した調査方法へと移行している。その結果、旧GRをもつ調査区や、調査区名称が複数生じた。

なお、以下の章での報告は、調査担当が複数携わりながら経年で実施したものであることから、より事実的な報告を行うため、調査区ごとに扱うこととした。





第2図 グリッド配点図(1/2,500)

## 第2節 層序

### 1. 層序

客土以下埋立前の耕作土には、弥生時代中期及び室町時代から近現代の遺物が混入し、調査区各所には17世紀後半から19世紀に渡る水田畦畔をみることができることから、近世以降の水田面利用の際に若干の搅拌を受け、埋積浅谷から離れ次第に標高地が高くなる箇所ほど、明治42年の耕地整理の影響で削平を受けたものと思われる。

検出された遺構は河川肩部を除くと弥生時代中期併行が主体であり、6、8地区の元太郎丸神社が存在した周辺には中世の遺構が散見する。

弥生時代遺構確認面は、主に褐色～淡黄色細粒～粗粒砂であり、この層に縄文後期土器が含有する箇所がみられるものの、遺構確認までには至っていない。

この層が残存する範囲は後世の削平が少なく、それ以下の黄灰白粘土層、灰白色微粒砂が露出する箇所では大きく削平を受けたものと思われ、80基以上に及ぶ方形周溝墓の検出があるものの主体部が確認できたものは3基のみである。

遺構の埋土は、黒色～黒褐色埴土～砂壤土を主体とし、浸水に伴うベース面の崩壊砂、腐食土に分けられる。

環濠の堆積状況をみていると数回にわたる浸水があったものと思われる。第35図の4地区土層断面図からわかように、幾度となく遺構が掘り込まれるにも係らず、基本として1面での調査をしていることから、遺構は錯綜し各時期の様相を知ることが困難な状況である。

しかし、11、12地区にみられる褐色細粒砂・viiiIS層（調査時には包含層として扱っている）は洪水の影響と思われる層であり、厚い箇所では20cmほど堆積している。その層に含有する土器は、6～8期であるため、8期もしくはそれ以降に生じたものと考えられる。その砂上面に造られる遺構は9期以降、凹線文併行期以降であり、居住域・生産域である箇所の上に新たに、墓もしくは平地式建物が造られたものと思われ、こういった例から2面確認された箇所も少なからず存在する。

## 第3節 遺構の概要

### 1. 環濠

確認された環濠は埋積浅谷左岸部では12本あり、各調査区ごとに溝名称が付くため、西側から環濠01とし12まで新名称で説明するものとする。

環濠01は皿状もしくは逆台形を呈している。上層堆積層は砂層であり、一見確認面の砂層との分別しづらいほどであり、その様相は13地区から28地区東側までは続くようである。土器の混入が少ないものの、おおよそ4期～5期の土器が下層でみられることから、もっとも古い機能を果たした環濠と思われる。次に環濠02、04、11は5～6期の土器が中・下層でみられる。02は逆三角形状で、04、11は逆台形または皿状を呈する。03A・03Bは6～7期の土器が下層でみられ、03Aは03Bに切られており、03Aは04と併走する可能性が高い。また、02と03との切り合いは17地区で明瞭であり、03は17地区北側でほぼ1本になっていることがわかる。03に関しては浅谷付近は埋まりやすいため再掘削したものと思われる。環濠10は確認しづらかったのか、各所で深い溝があつた様子が伺われるため調査時に完掘できなかった環濠と思われ、11に比し10は若干の時期差をもつ可能性がある。06は16地区付近までは、7期の土器が下層からみられ、おおよそ03と併走した

ものと考えられる。07は下層から8期の土器がみられることから西部域を囲む最終段階の溝と思われる。

なお、環濠05、08、09は弥生時代の遺構に切ることはなく、後世に至るまで埋まりきっていない溝である。

総じて環濠は浅谷に注ぎ込む形で掘削され、浸水により幾度と再掘削を行ったものと思われる。浅谷左岸域でみられる西部域、東部域を分ける環濠は、集落Ⅱ期から存在し、集落Ⅲ期では、環濠04、05がその機能を果たすものと思われる。

## 2. 建物

建物の種類としては、掘立柱建物、平地式建物があり、ピットの数は無数にあるため、膨大な建物もしくは建替えがあったとの思われる。

平地式建物跡として確認できたものは、集落Ⅱ期相当では11、15、6、2地区のみであり、集落Ⅲ期併行最終段階は、遺構確認の際に黒色泥層の残存状態で確認されるものであり、11、12、13地区でみることができる。当初、10期併行の方形周溝墓堆積土と同様な様子を示すことから、墓との区別が困難であったが、遺構図を精査していくことで中央部に炭集中範囲が確認できるものや、複数の柱根残存から区別して報告するものとした。規模は、周溝を含めて10m前後である。

掘立柱建物は、木柱根が残存していたり、遺構の重複が少ない箇所で確認できている。

もっとも大きな柱穴を有する掘立柱建物は、集落西部域、特に環濠01に囲まれる箇所である1次、26地区で発見されており、周囲に井戸があることから井戸と建物の関係が気になるところである。また、11地区内で木柱根が残存することから発見された1間×4間の建物は掘立柱建物になるのか、もしくはちょうど周溝が巡ることから平地式か、今後の検討を要する。

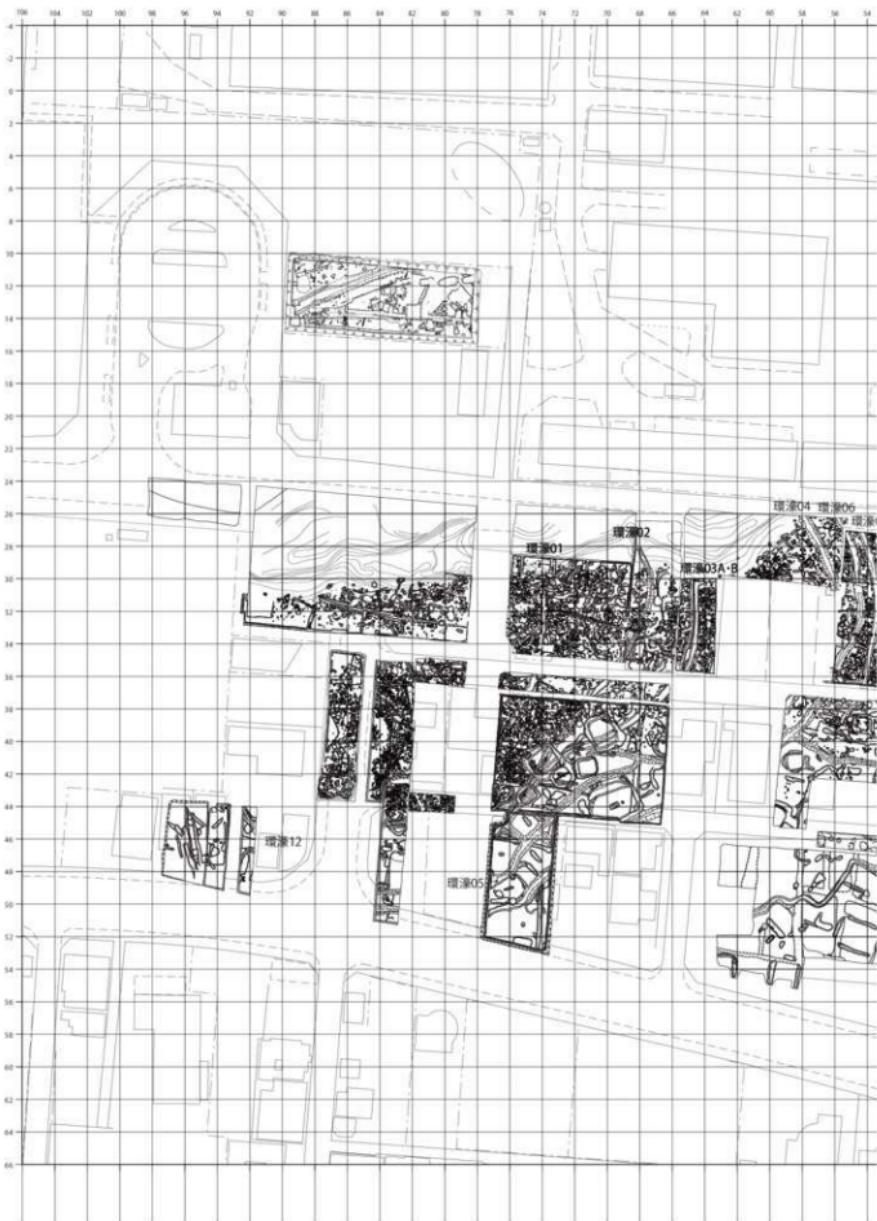
## 3. 方形周溝墓

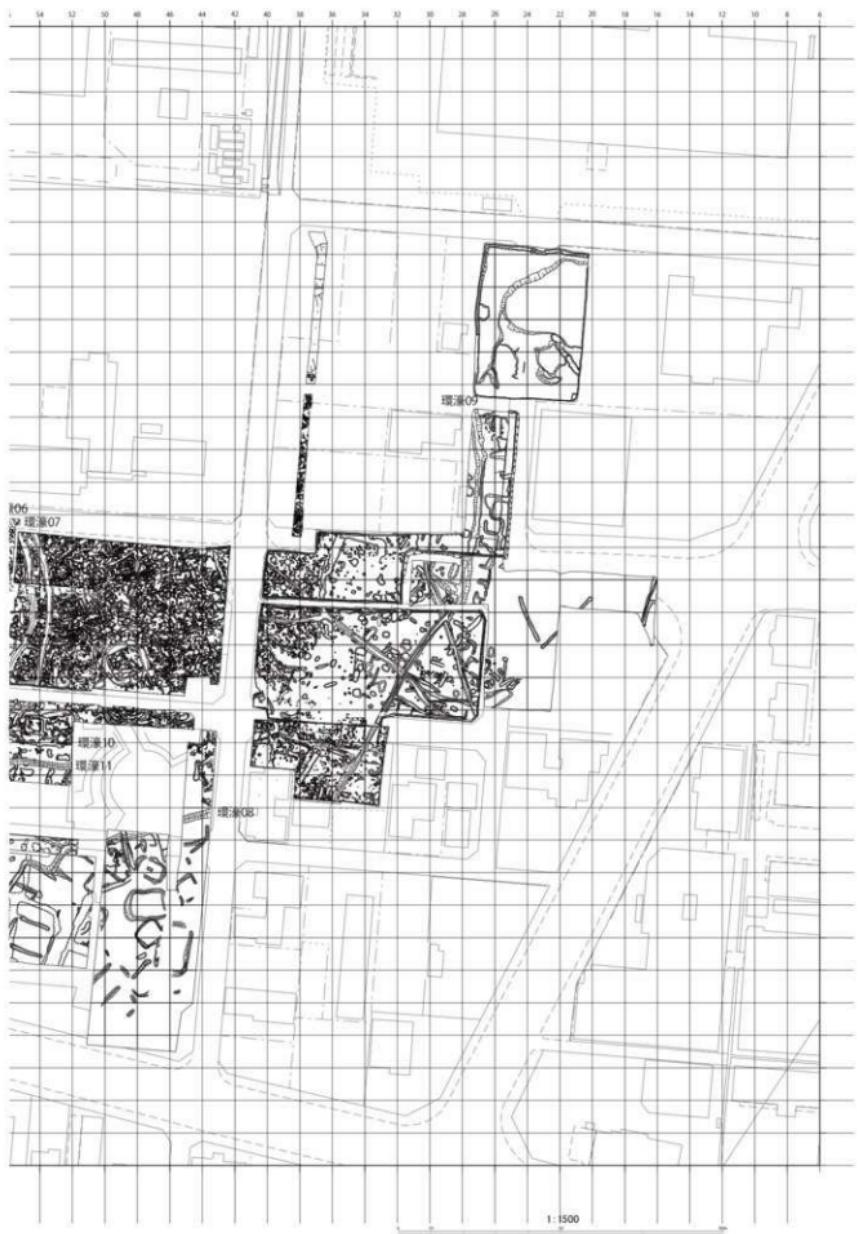
上記したように、埋積浅谷左岸域だけで、80数基の方形周溝墓が確認されている。現在のところ、もっとも古いものは八日市地方6～7期併行、集落Ⅱ期に相当し、集落最終段階10期併行まで継続する。第3図の遺跡全体図を概観すると、環濠は生活域・生産域と墓域を区分けしてみえるが、溝が区画機能を果たしているのは八日市地方7期相当のみで、8期以降は生活域と隣接している様子が伺われる。規模は周溝も含めて18m超えるものから7m前後のものがある。陸橋部は4隅切れのものから全周するものまでみられる。当初、墓は生活域と画する環濠に付随して造られ、生活域が縮小するとともに、環濠間の高まりを利用して造墓するものもみられる。また、環濠08、09及び環濠05、環濠06は17地区以降の箇所では増墓時に機能している可能性が高い。

発見された主体部はすべて單数埋葬であり、木棺が遺存していた例(20地区SX02)や上層觀察から木棺利用していたことが分かっている(17地区SX01、18地区SX01)。また、方形周溝墓周辺では、素掘りの土坑も複数みられることから、方形周溝墓に付随する土坑墓もあったと思われる。

## 4. 土坑

土坑は複数の機能をもつと思われ、埋積浅谷肩部周辺では樹皮を巻いた例や、板を杭止めして維持する機能を持つものがみられる。それらの利用法としては、貯木、穀物貯蔵などがあげられる。また、連結した不定形土坑で平地式建物周溝になるものや土器、石器埋納土坑などの機能をもったものもあげができる。形状は、隅円長方形から方形、円形とあり、規模も2mを超える大型のものから1m以下のものまで様々であり、中には大型柱穴になる可能性が高いものも含まれる。本論では、井戸のみを報告対象とし、遺物検証なしでは性質を語ることが困難な遺構である土坑に関しては、土器編もしくは補遺編で報告するものとする。





第3図 遺跡全体図(1/1,500)



第4図 環濠変遷図 (1/2,000)

## 第Ⅱ章 弥生時代の遺構

### 第1節 I次・28・30地区・31地区

#### 1. 調査区の概要

I次は平成5年度に発掘調査を実施した箇所である。調査区は任意のグリッドを設定し、9Grに関しては杭を調査区に収めるためか4m設定となっている。調査方法は、全点ドットによる遺物の取り上げ、航空測量図化を実施している。28地区は28地区から30地区にまたがる箇所で、3回に分けて実施している。平成10年度に南北に広い箇所935m<sup>2</sup>を調査実施している。その後、平成11年度に道路箇所の調査として、28③A、28③B計224m<sup>2</sup>を調査実施している。31地区は平成8年度370m<sup>2</sup>、平成10年度216m<sup>2</sup>を調査実施している。いずれも手実測による平面図化作成を行っている。

#### 2. 遺構の概要

##### 1) I次・28地区

調査区は一部近世以降の畦畔がみられるものの、概ね良好である。

検出した遺構は、環濠01、環濠02・03、環濠05、環濠12及び28地区から方形周溝墓3基、I次から井戸1基、方形周溝状遺構1、31地区から方形周溝墓3基である。環濠01は良好な残りの箇所では、上面に灰黄褐色粗粒砂がみられることから、当調査区では、ほぼ砂で埋まっていたものと思われ、SX02周溝が切っている様子が伺われる（第8図参照）。

また、環濠02・03は出土する土器から、八日市地方遺跡6-7期に位置づけられることから、17地区同様、環濠03が機能していたものと思われる。環濠05は9、10層まで黒色埴上がみられるところから、後世に至るまで埋まりきっていなかったものと考えられる。

SD02Bは調査担当者は環濠の切れ目である可能性を考えており、環濠12の始まりとして報告する。出土土器から環濠03とほぼ同時期と考えられる。環濠05は、11層を下底面を持つ時期と、21、22層を下底面にもつ時期と最低でも二時期は確認することができ、おそらく、環濠06との重なりを示しているものと思われる。

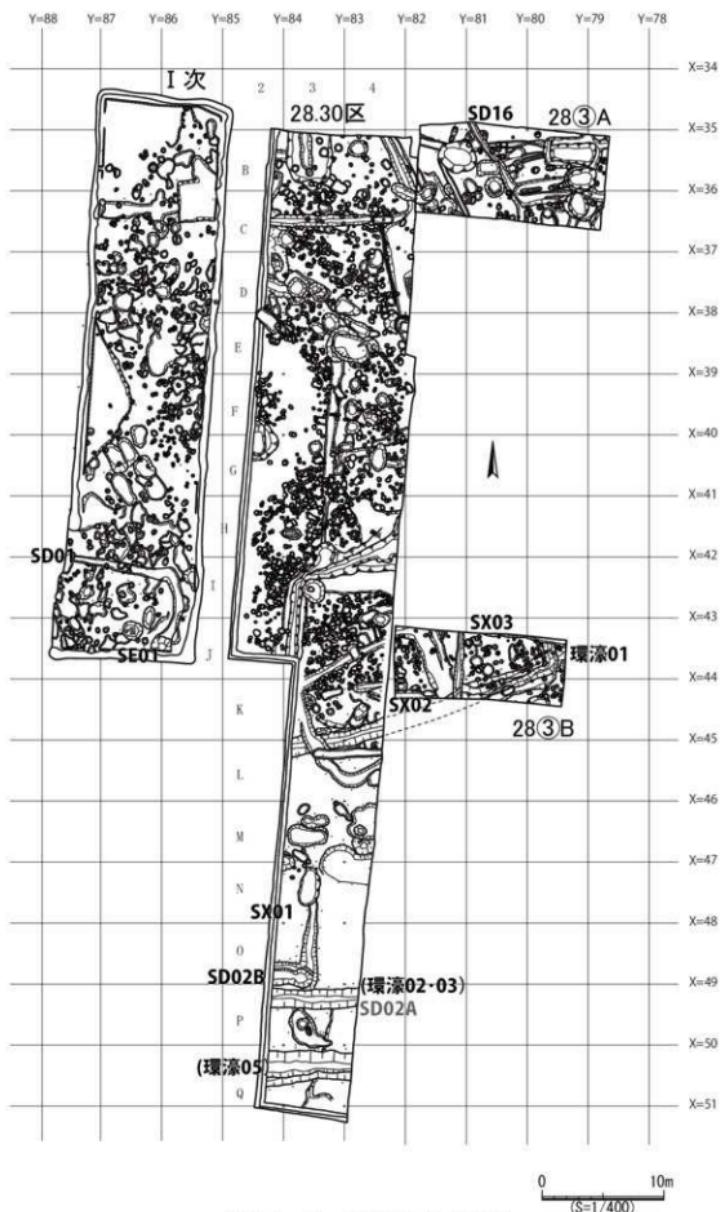
方形周溝墓は出土土器からすべて集落Ⅲ期に位置づけられ、SX03からは多くの供献土器が出土している。SX02と03との切り合はCアゼ（第11図）からわかるように、SX02が03を切っているが、土器をみるとほとんど時期差はなく、共有した造墓の2個1対の関係をもつものである可能性が高い。

ピット及び土坑は環濠01北に集中することから、生活域は環濠01内に囲まれた範囲であると考えられる。土坑から出土する土器は、主に集落Ⅱ期の遺構であり、X=39付近より北からは、集落Ⅲ期の土器もみられる。I次調査区からはケヤキ製樹皮を利用した曲物状井戸枠が発見されており、出土遺物が細片の弥生土器しかないことから、時期比定が困難なものである。調査担当者は、弥生時代の遺構と考えて記録を残している。この井戸を囲むSD01からは数点の集落Ⅲ期の土器が発見されていることから、墓の可能性というよりは井戸に伴う遺構として捉えたほうが良いかもしれない。

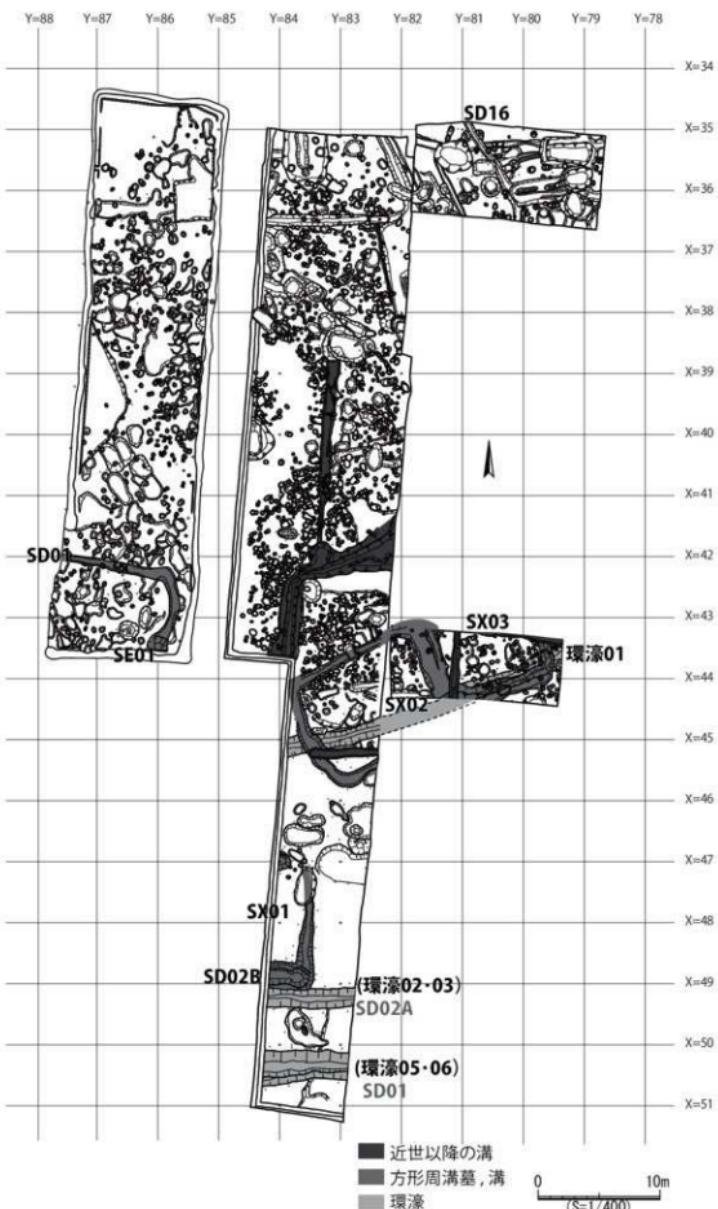
また、X=37付近では径30cmを超える柱根が3つ発見されており、大型建物があったと思われる。

##### 2) 31地区

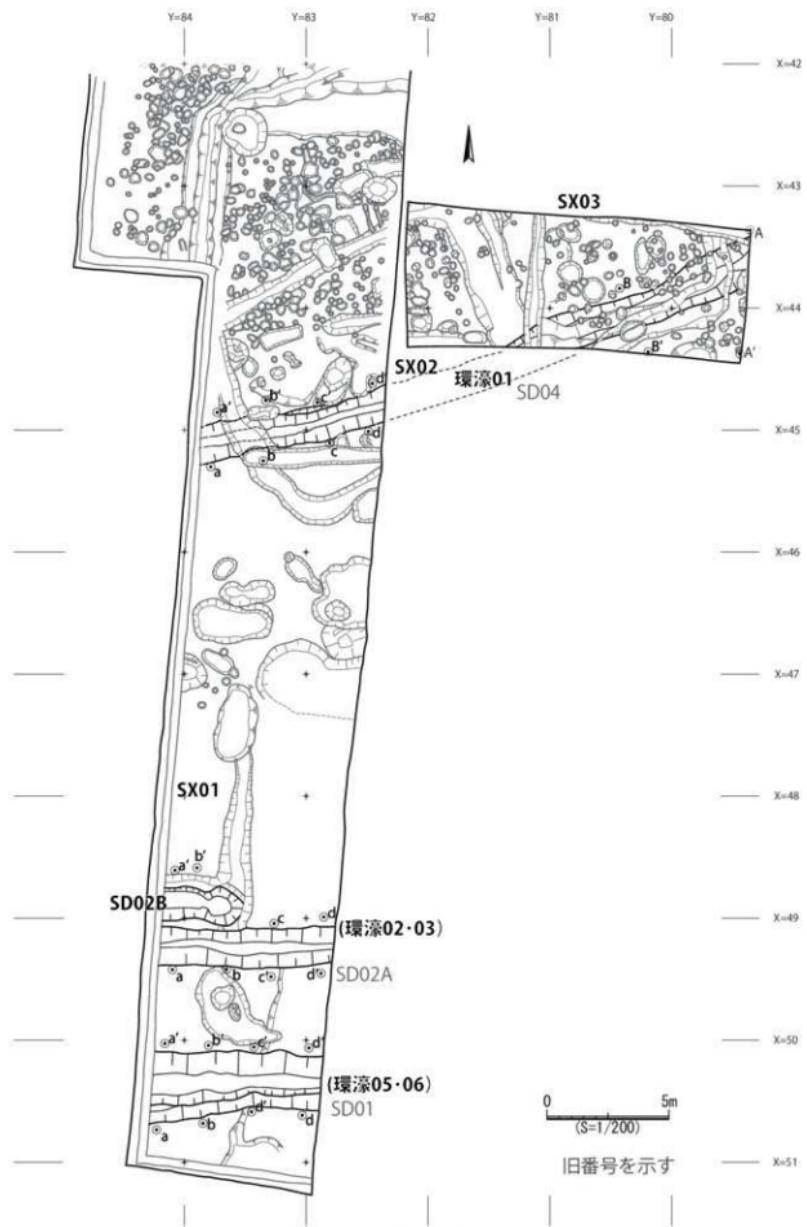
当調査区で弥生時代の遺構として考えられるものは少なく、墓域のみが検出された調査区である。SX02は環濠12が埋まった後に造墓されたもので、bセクションのところから、供献土器と考えられるほぼ完形の壺形土器が出土している。



第5図 I 次・28 地区全体図 (1/400)

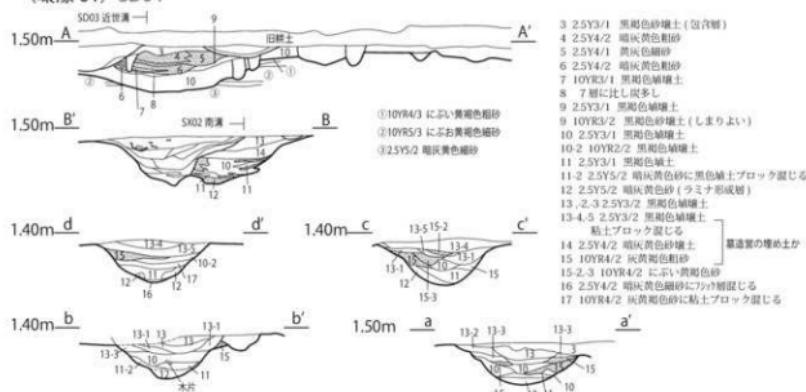


第6図 1次・28地区変遷図 (1/400)

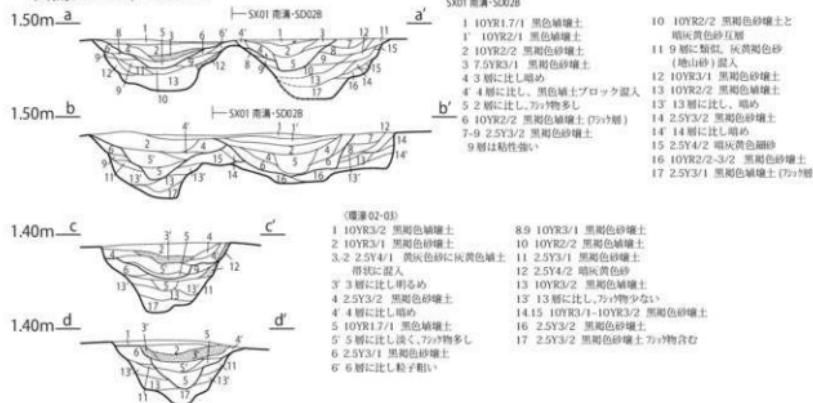


第7図 I次・28地区 環濠平面図(1/200)

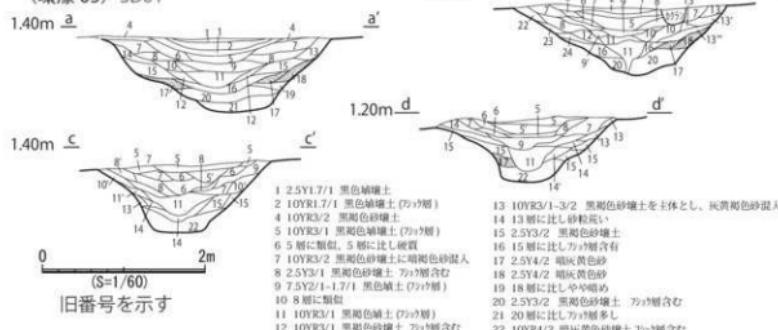
〈環濠 01〉 SD04



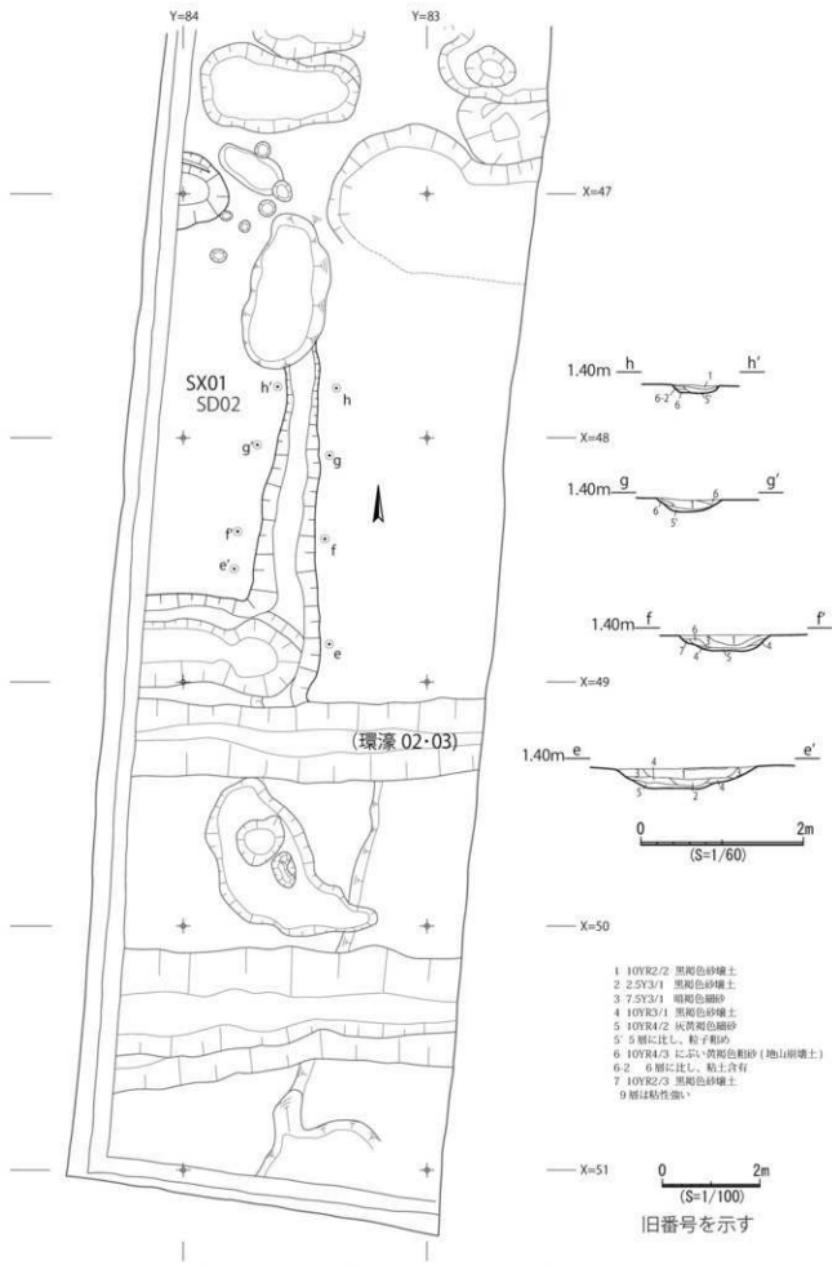
〈環藻 02·03〉 SD02A



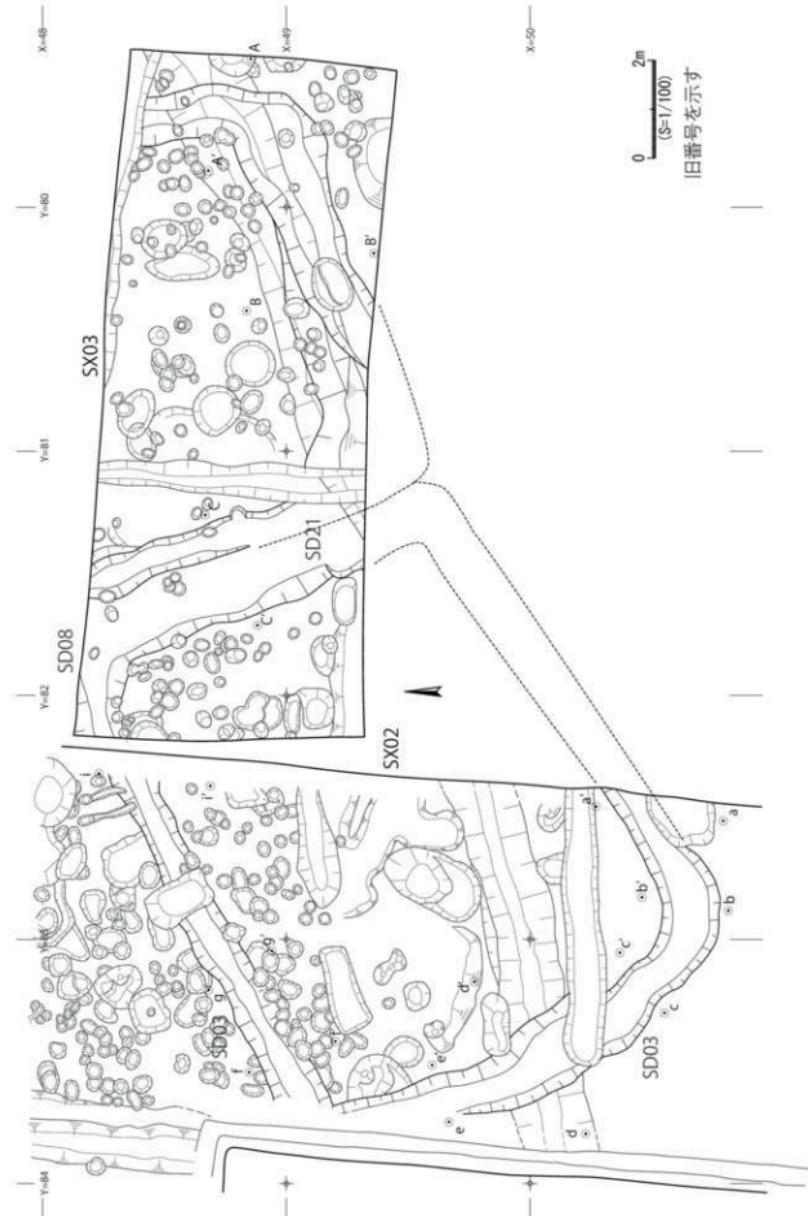
〈環濠 05〉 SD01



第8図 1次・28地区環濠断面図(1/60)

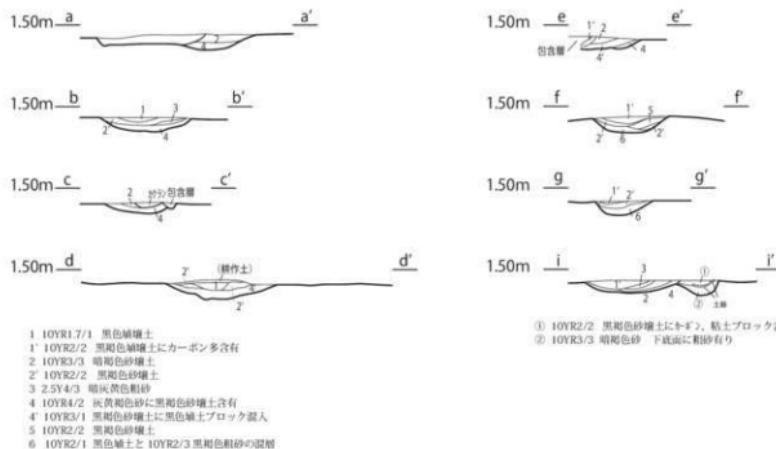


第9図 1次・28地区 SX01 平面図(1/100)、断面図(1/60)

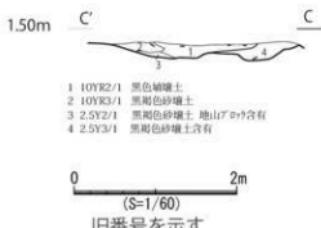


第10図 1次・28地区SX02,03平面図(1/100)

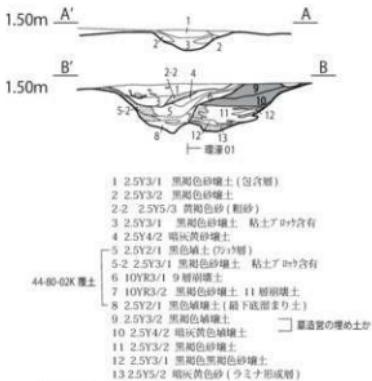
〈SX02〉 SD03



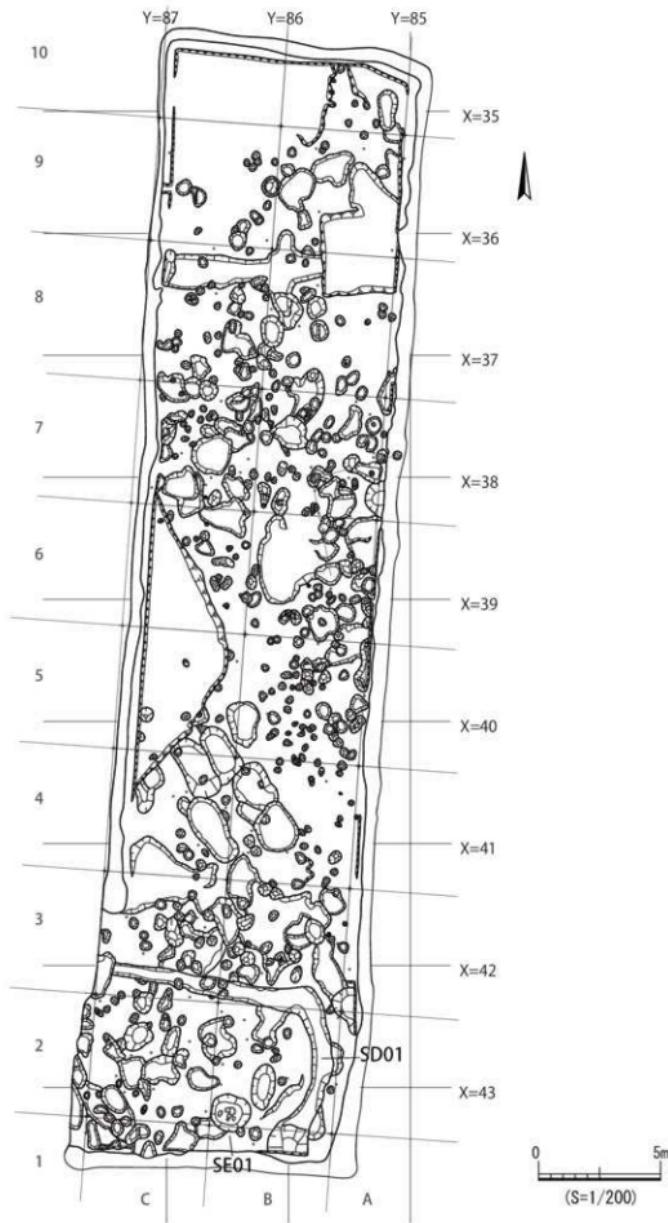
〈SX02 東溝〉 SD21



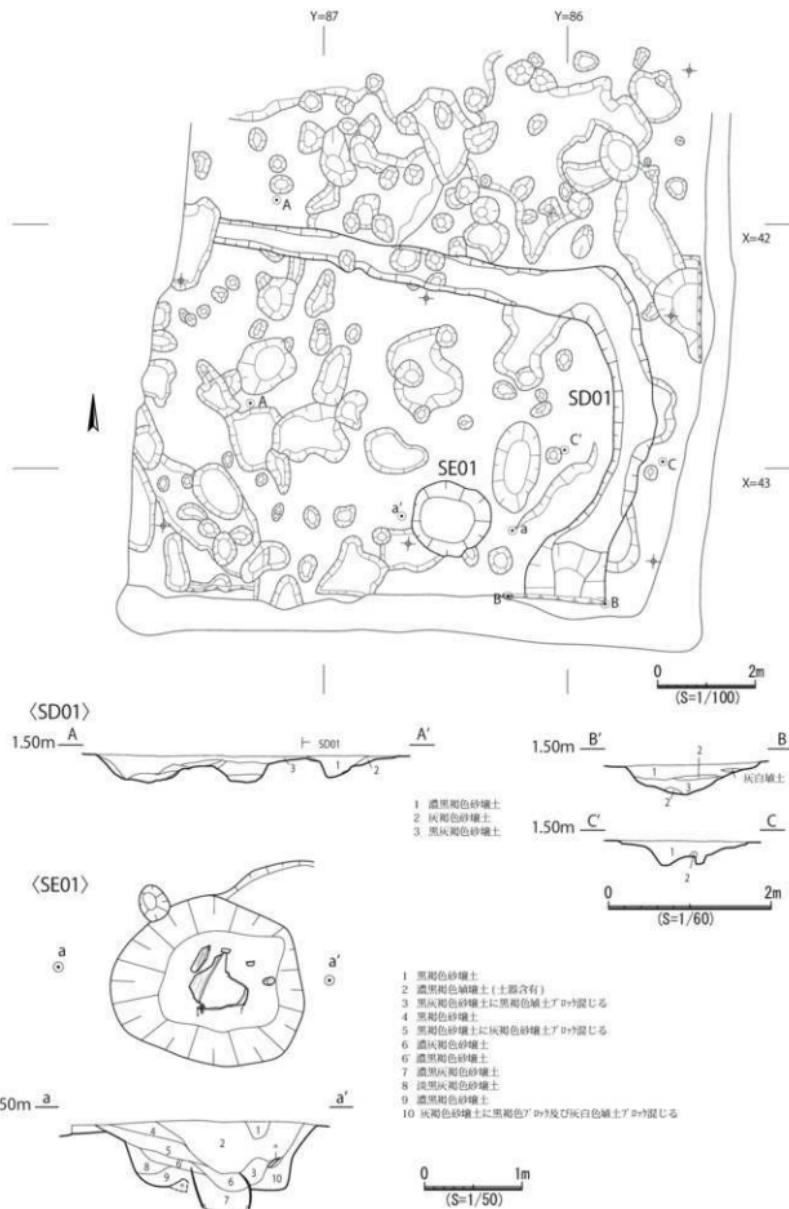
〈SX03 南溝〉 SD21



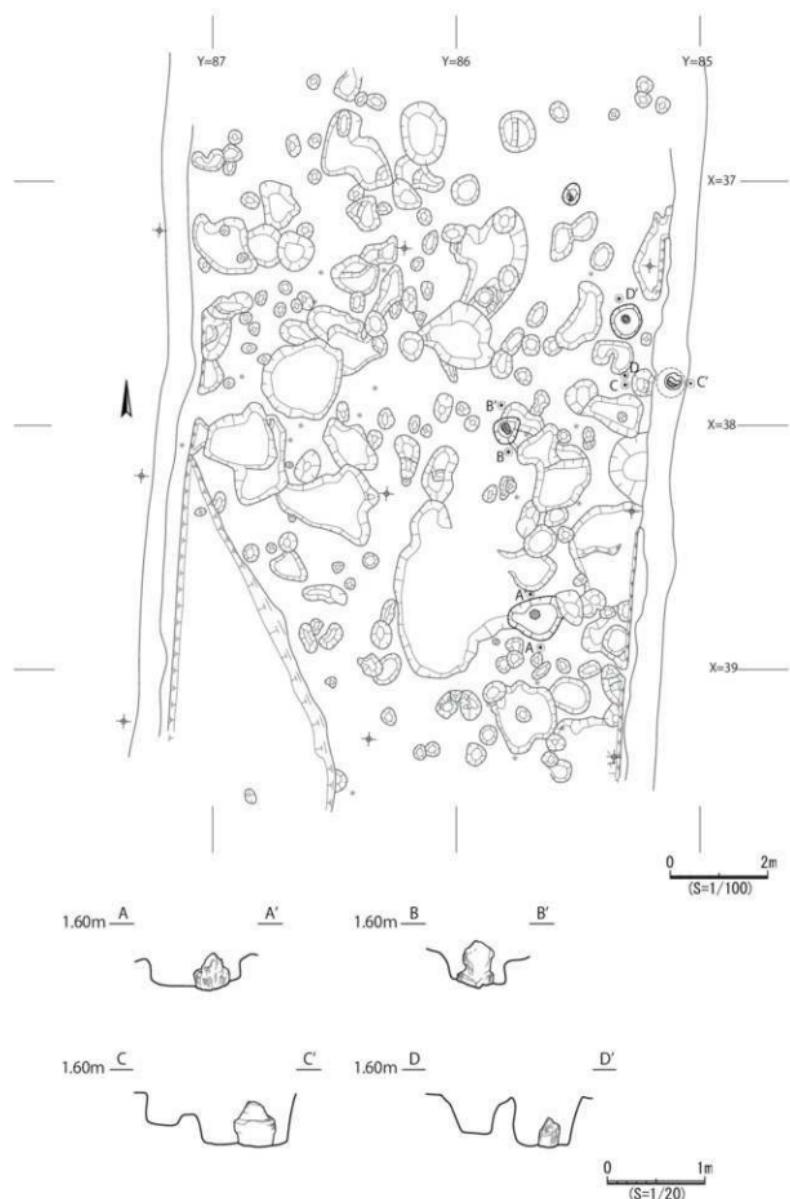
第11図 1次・28地区 SX02,03断面図(1/60)



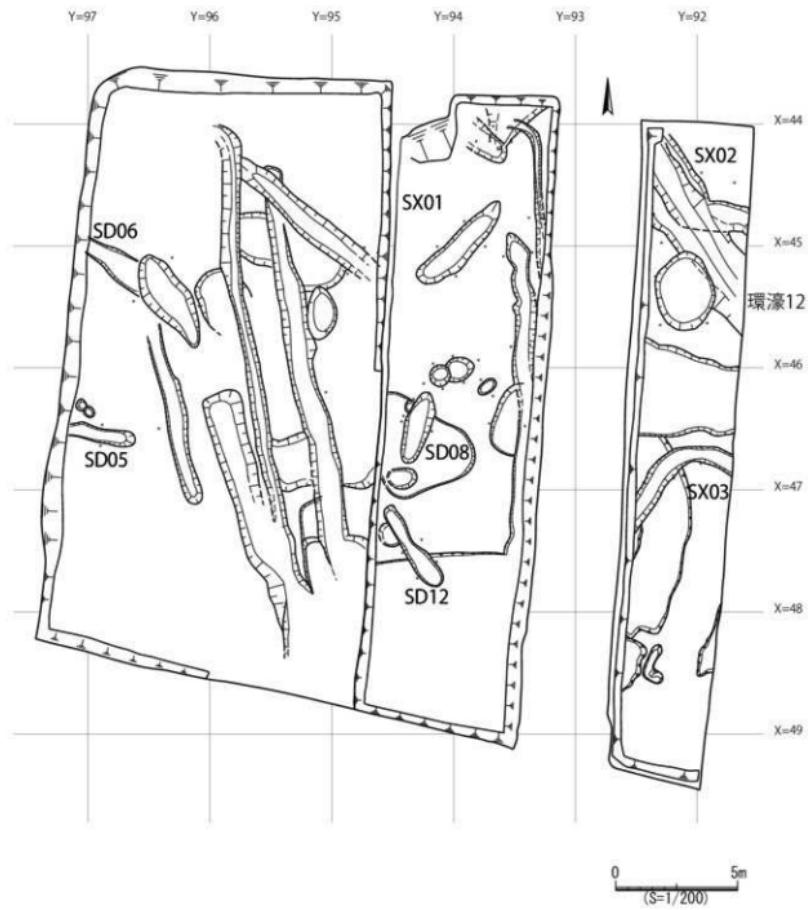
第12図 1次 全体図 (1/200)



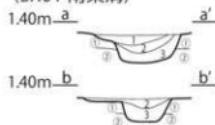
第13図 1次SD01平面図(1/100)、断面図(1/60),SE01平面・断面図(1/50)



第14図 1次建物平面図(1/100),断面図(1/20)

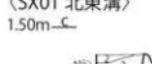


〈SX01 南東溝〉

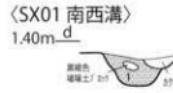


- 1 2.5Y2/2 黑褐色粘壤土  
2 2.5Y2/2 黑褐色砂壤土  
3 2.5Y3/1 黑褐色砾壤土

〈SX01 北東溝〉



〈SX01 南西溝〉

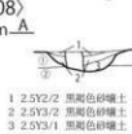


- 1 10Y4/3 に赤い黄褐色砂壤土  
2 2.5Y3/2 黑褐色砂壤土  
3 2.5Y3/1 黑褐色砾壤土

〈SD12〉

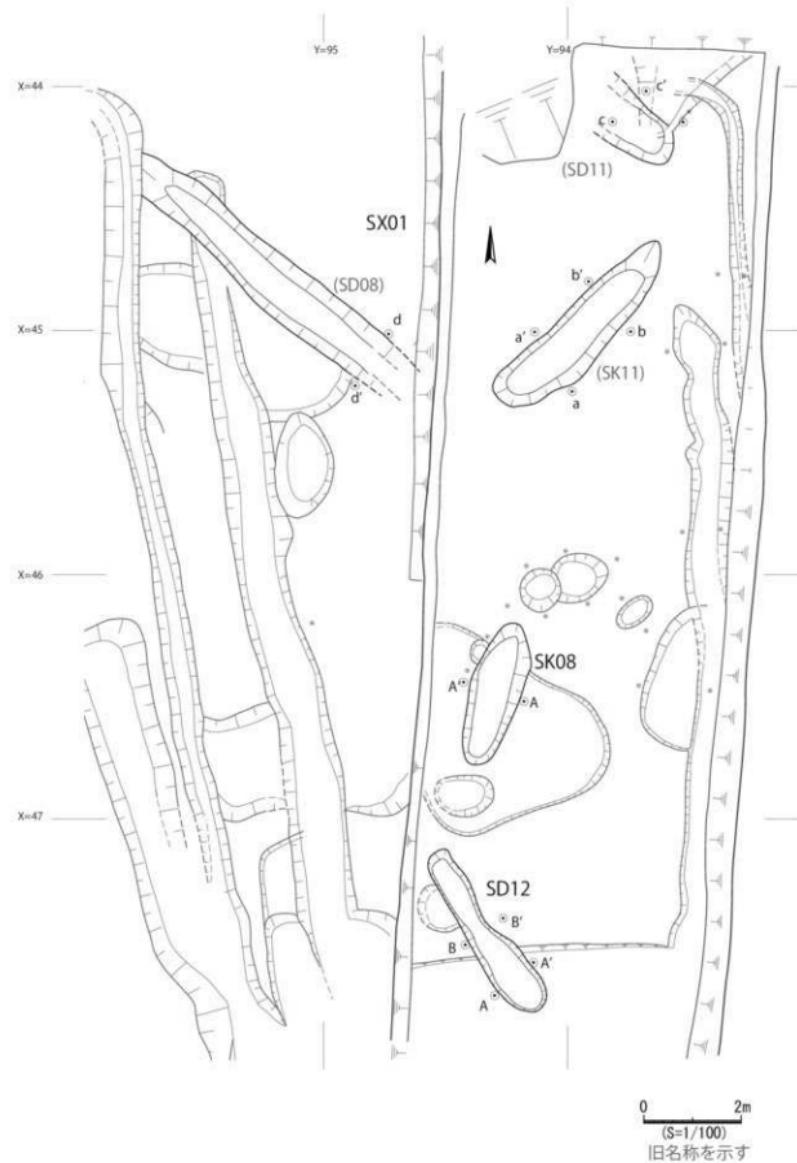


〈SK08〉

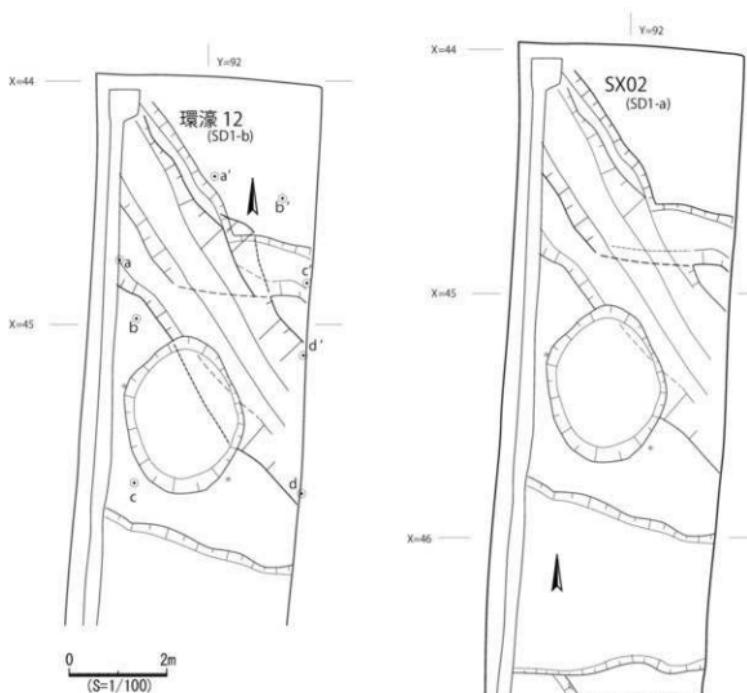


- 1 2.5Y2/2 黑褐色砂壤土  
2 2.5Y3/2 黑褐色砂壤土  
3 2.5Y3/1 黑褐色砾壤土
- 0 2m  
(S=1/60)

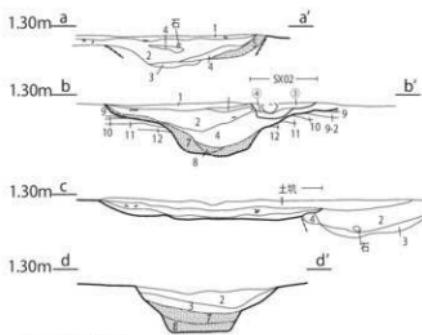
第 15 図 31 地区全体図 (1/200)・SX01 他 断面図 (1/60)



第16図 31地区 SX01 他平面図 (1/100)

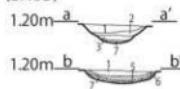


〈環濠 12・SX02〉



X=47 —————

〈SX03〉



- 1 2.5Y3/1 黑褐色砂綈土
- 2 2.5Y3/1 黑褐色砂綈土
- 3 2.5Y4/1 黑色砂綈土
- 5 2.5Y4/3 オリーブ黑色粗綈
- 6 5Y4/3 帽オリーブ色粗綈
- 7 2.5GY5/1 オリーブ灰色粗綈

0 2m  
(S=1/60)

第17図 31地区 環濠03,SX02平面図(1/100)、断面図(1/60)

## 第2節 26地区

### 1. 調査区の概要

26地区は平成7年度埋積浅谷箇所を600m<sup>2</sup>調査しており、人物陽刻意匠板や完形の匙など重要文化財指定品が発見された箇所である。その後、平成8年から10年の2カ年にかけて、平成7年度の任意グリッドを引き継ぎ、2,880m<sup>2</sup>の調査を実施している。遺構が確認された約1,000m<sup>2</sup>のみ航空図化測量を実施している。その他の埋積浅谷部分は手実測による遺物の取り上げ及び平面図作成を実施している。当調査区は、広域な埋積浅谷調査により、左岸部から右岸部の立ち上がりを確認できた調査区であり、土器量はパンケース約800箱出土、膨大且つ良質な木製品が発見されている。また、弥生時代前期中段階併行期の土器の発見から、後期前葉の水辺祭祀に伴う良好な土器群を発見したことから、当遺跡の時間軸形成の基準になった調査区である。調査区の3分の2は河道であり、生活域・生産域は少ない。環濠01に囲まれる集落形成時期から終焉までの土器が見られるわりには、11地区や13地区等に比べると土坑の切り合いも少なく大型建物も発見されている。埋積浅谷肩部には、報告1(2003)で報告した貯蔵穴や貝層、貯木場などさまざまな生産活動がみられた調査区である。

### 2. 遺構の概要

調査区は近世以降の用水がみられるものの、概ね良好である。

検出した遺構は、掘立柱建物2棟、井戸1基、竪穴状遺構3基、肩部に沿った柵列が主な遺構であり、集落Ⅲ期併行の貯木土坑が複数みられる。

SB01は遺構の重複が少ない箇所から発見された良好な掘立柱建物である。調査時からSD11・12が伴う1間×2間以上の建物もしくは、類似したP87が直交した箇所にあることから、棟持ち柱に該当しないか検討の余地がある。いずれも柱根は残存せず、掘り込みから確認された柱部分の痕跡のみである。SD11とSE01の関係は、井戸が溝を切っているようにも見えたが決め手に欠ける。

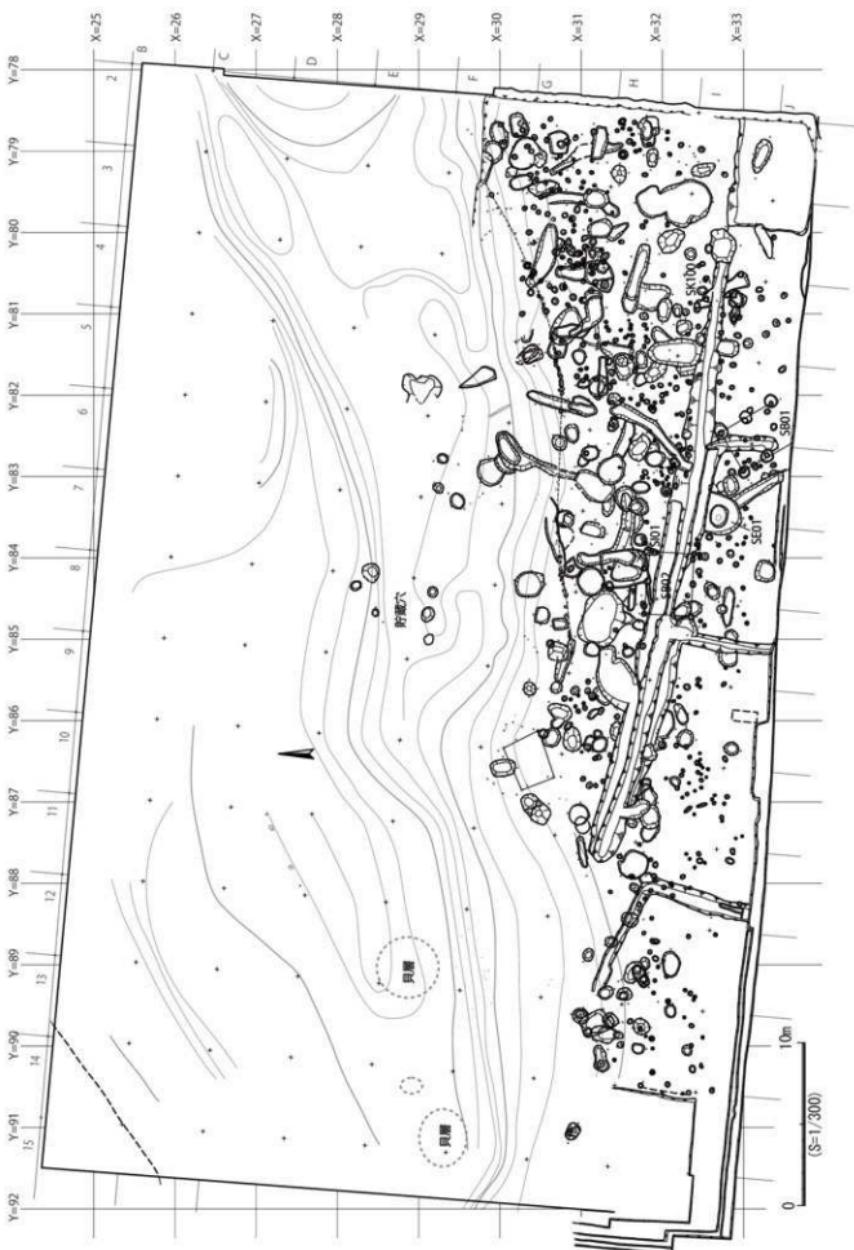
SE01はタブノキ製の一木削貫の井戸柱が利用されており、中からはサクラ皮製の曲物状のもの(報告I第365図31)が発見されている。また井戸柱内は当遺跡で唯一の浄水機能を示すと思われる5cm前後の川原石が敷かれていた。SB01及びSE01,SD11,12いずれも集落Ⅲ期に位置づけられる。

SB02は近世の溝両肩から発見された1間×2間の掘立柱建物である。柱間寸法は2mと同様であるものの柱穴はSB01と比べ柱、掘り方いすれも小さい。

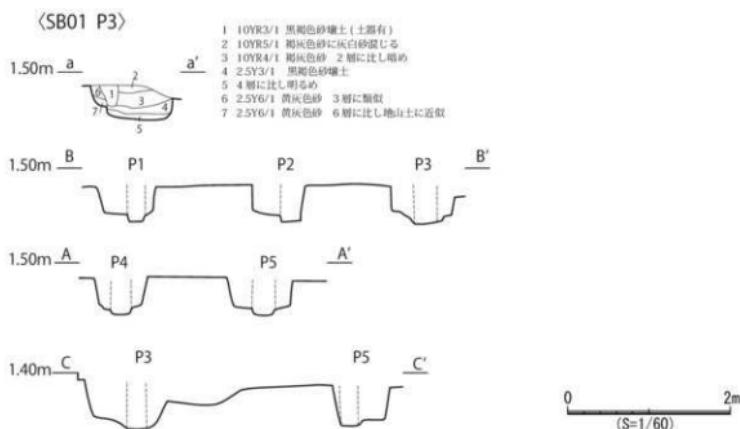
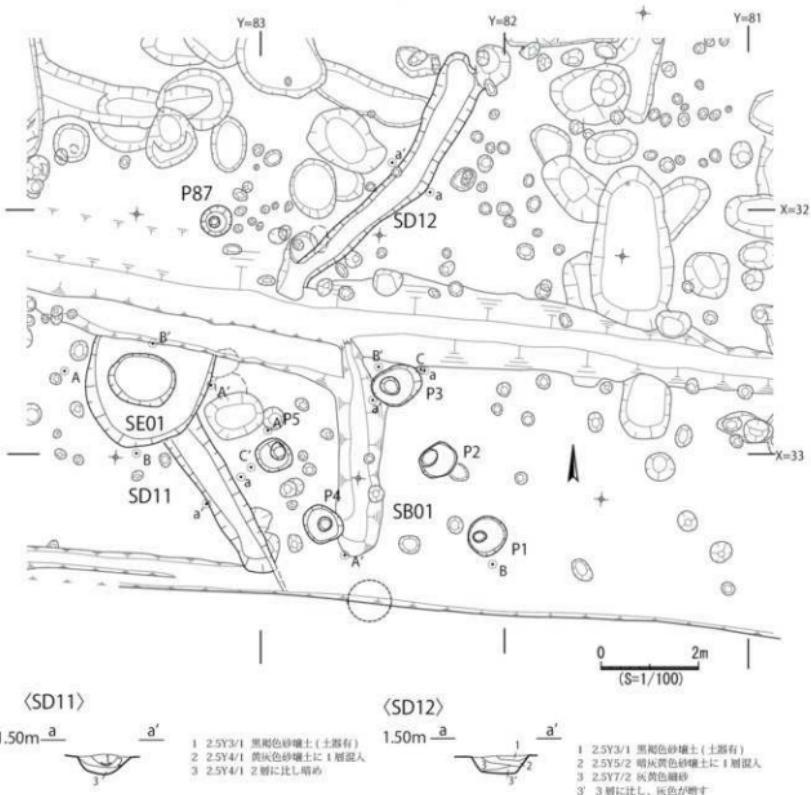
X=30,Y=87付近では柱根が確認され、1間×1間以上の建物と思われる。柱間寸法も上記SB01,02と比較しても申し分ない。

SI01は約2×3mの方形竪穴状遺構であり、床面は平坦である。八日市地方10期の土器とともに分銅形土製品(報告I第98図11)が発見されている。SD13を切る形で確認することができた。SK81、SK102も不定形ではあるが床面は平坦であり、当遺跡内ではこういった小竪穴状遺構が各調査区でも散見する。いすれも集落Ⅲ期に該当する。

なお、SD13はL字状の溝であり、溝内からは多量の碧玉チップが見つかっている。当初平地式建物周溝にならないかと現地において検討したが周溝内に柱は検出されなかった。碧玉に関連した施設である可能性は高い。

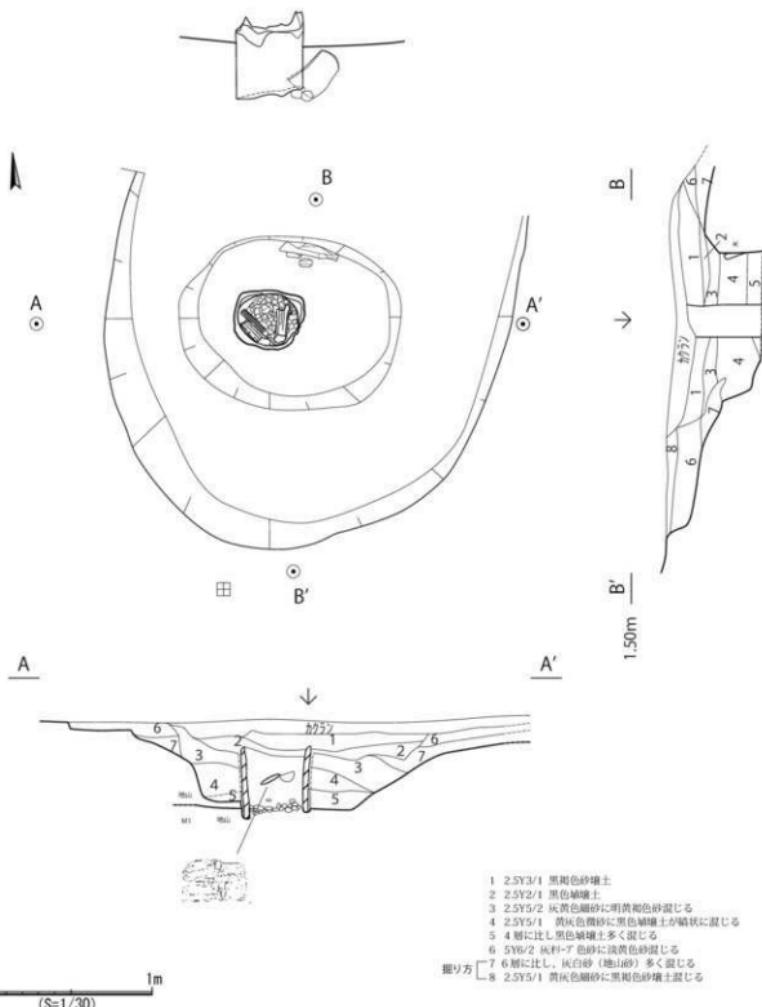


第18図 26地区全体図(1/300)

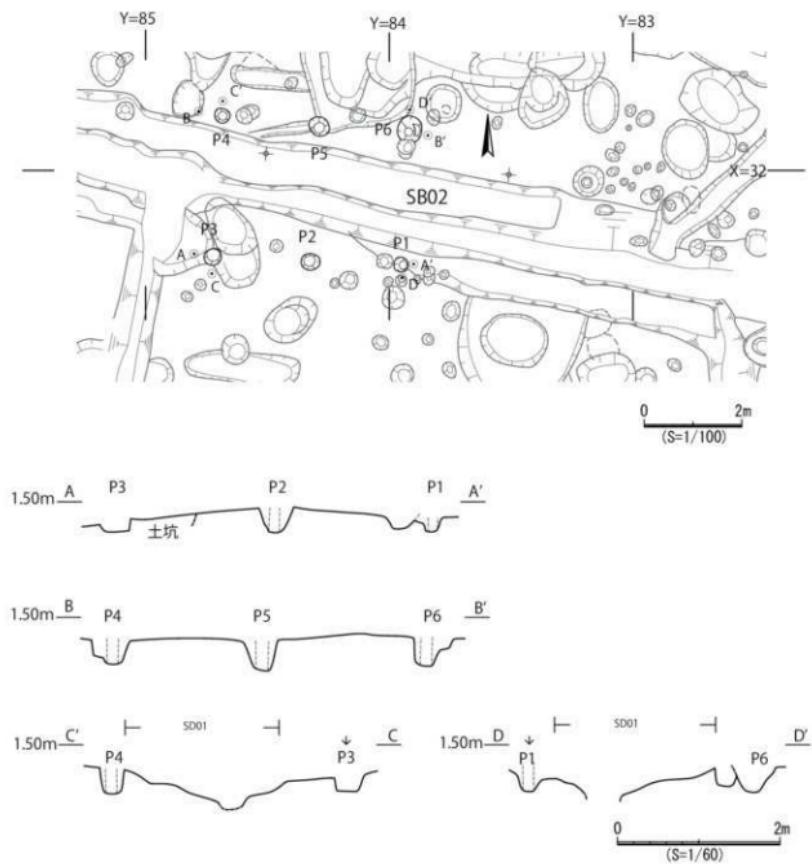


第19図 26地区 SB01,SE01 平面図(1/100),SB01 断面図(1/60)

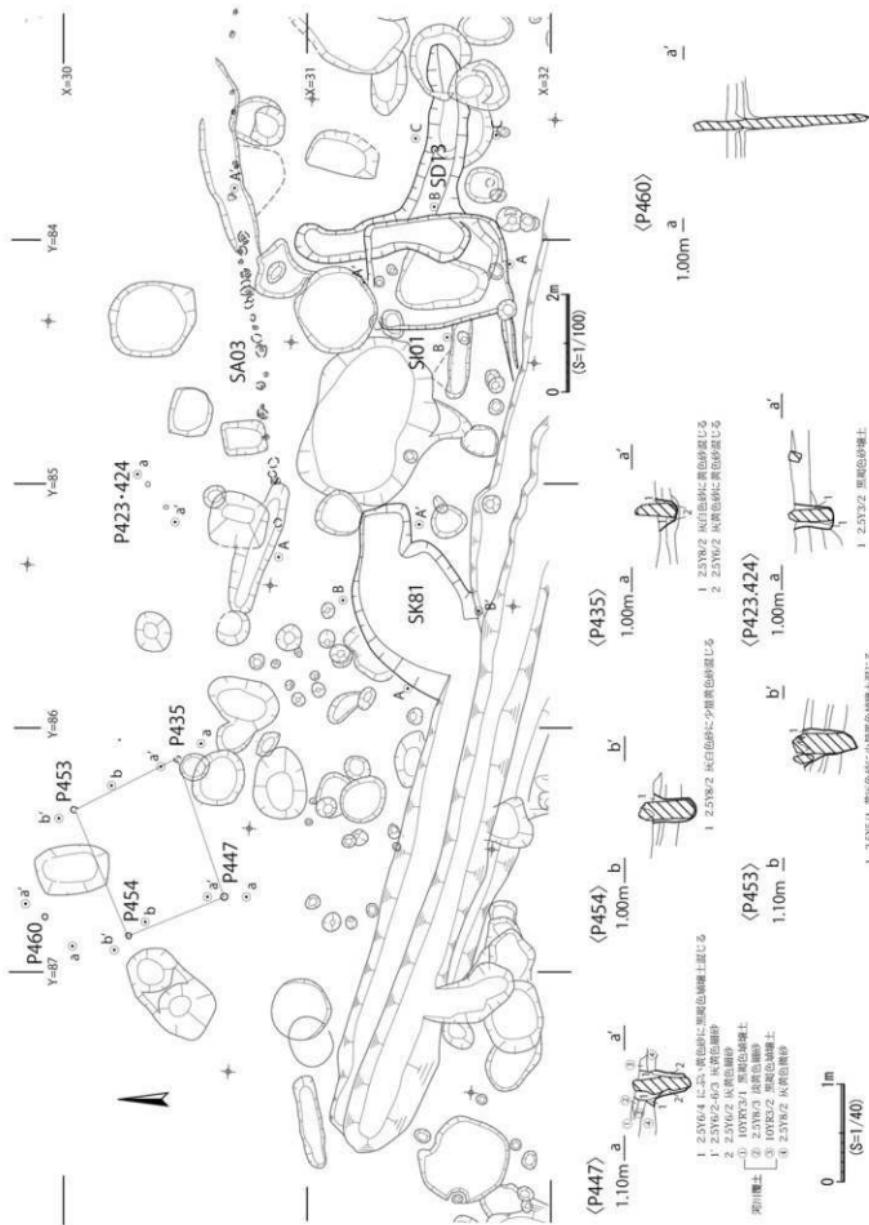
1.50m



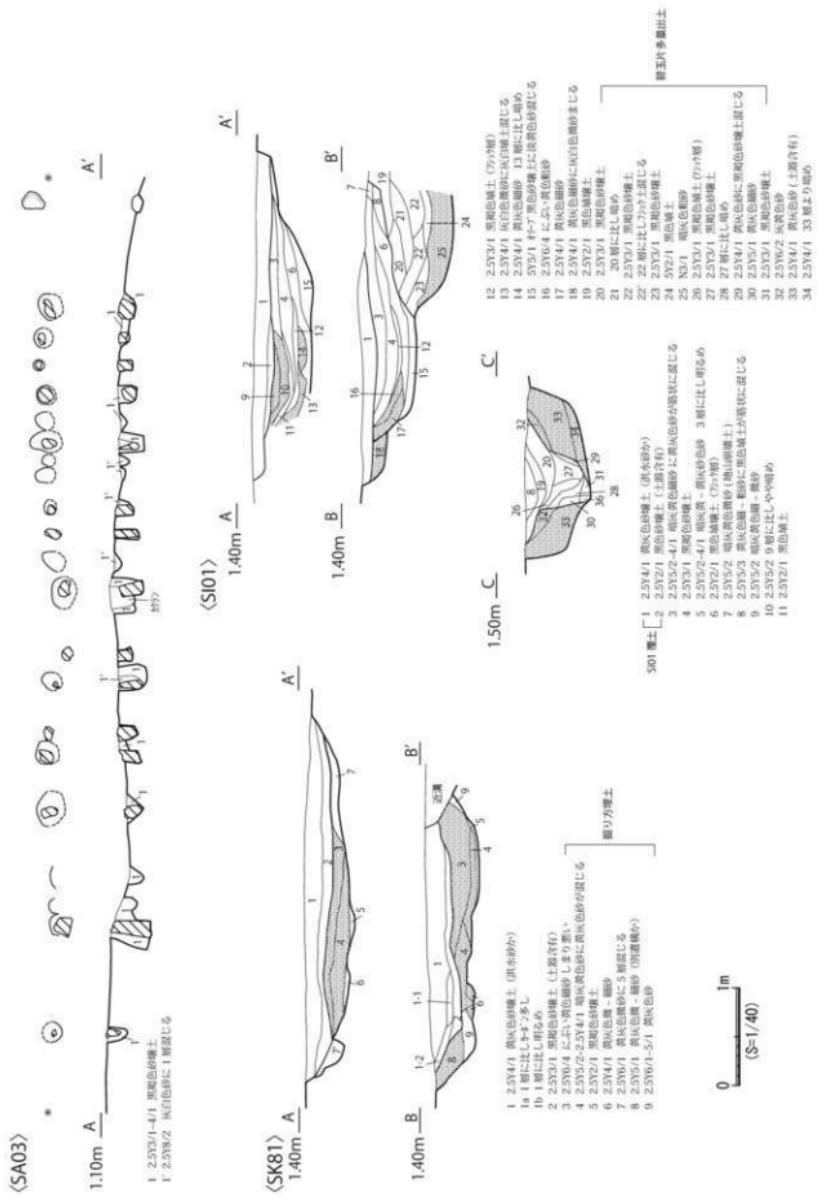
第20図 26地区 SE01 平面図及び断面図 (1/30)



第21図 26地区SB02平面図(1/100),断面図(1/60)



第22図 26地区 SI01他 平面図(1/100)、断面図(1/60)



第23図 26地区 SI01 他断面図(1/40)

### 第3節 Ⅱ次・Ⅲ次・2・4地区

#### 1. 調査区の概要

Ⅱ次は平成5年度1,300m<sup>2</sup>、Ⅲ次は平成5、6年にかけて計3,901m<sup>2</sup>調査しており、当遺跡で初めて方形周溝墓が確認された箇所に該当する。いずれも任意のグリッドを設定し、航空図化測量を実施している。本節はこのうちの埋積浅谷部分を除く遺構部分を報告する。

2・4区は用水新設工事に伴い、仮用水箇所の確保のため平成10年度250m<sup>2</sup>の調査を実施している。新規設定された国土座標を利用したグリッド設定している。平面図は手実測による図化作成を行っている。

#### 2. 遺構の概要

##### 1) Ⅱ次・Ⅲ次

調査区は近世以降の用水及び攪乱がみられるものの、概ね良好である。Ⅲ次調査区東側には弥生時代の遺構は展開しておらず、環濠09から離れた箇所には墓域は括がりをみせないものと思われる。

第25図は、担当者の知見により弥生時代と認識したもの及び出土土器から判断しマーキングした図である。弥生時代に相当する遺構は、環濠09付近に方形周溝墓が展開し、SD02より西側から土坑やピットといった生活域が括がっている様子が伺われる。

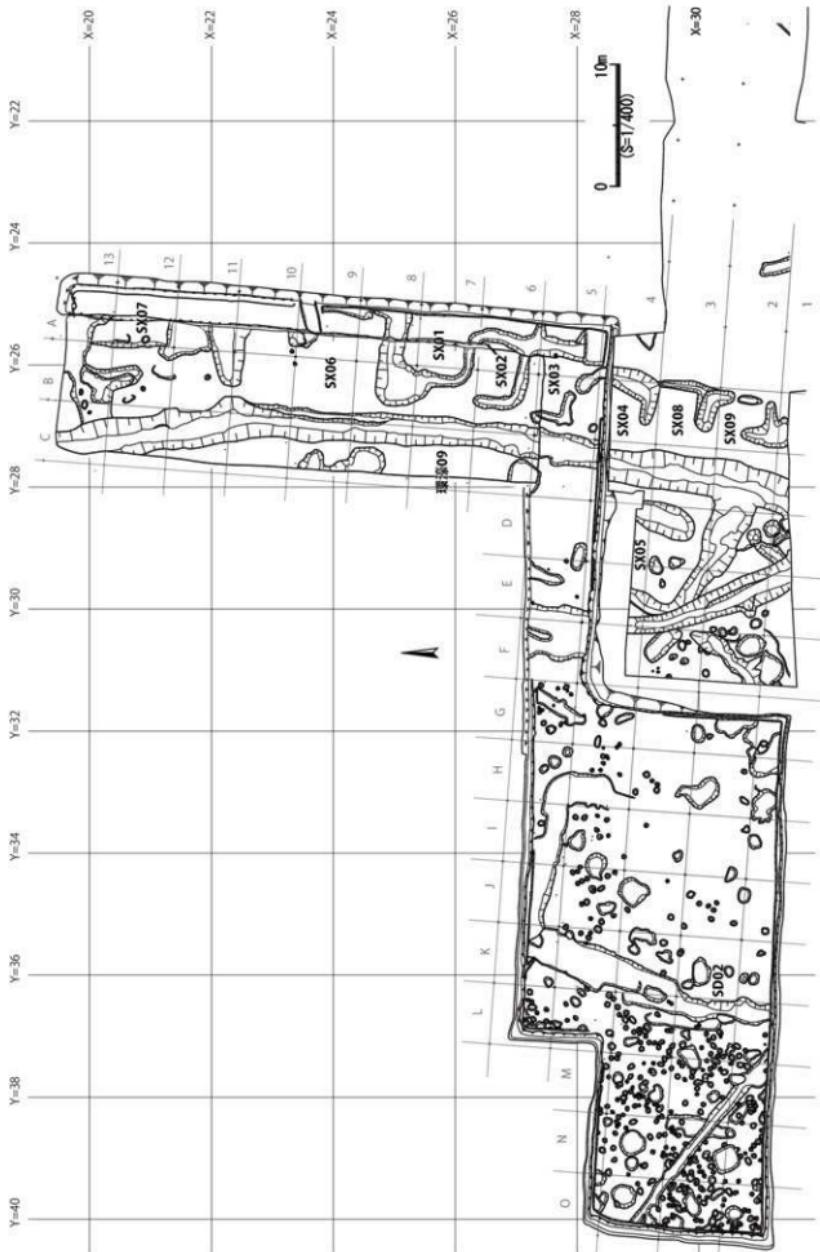
検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓10基、複数の土坑、掘立柱建物等がみられる。

環濠09と方形周溝墓の関係は、環濠最下底である6層まで、ほぼ黒色から黒褐色の泥炭層を主体とした層であり、後世に至るまで中層上位は埋まりきってなかったものと思われる。環濠機能時に造墓が行われている可能性が高く、環濠を利用して形で展開しているものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形状を呈し、6m前後の小型のものが多く、いずれの墓からも主体部は発見されていない。

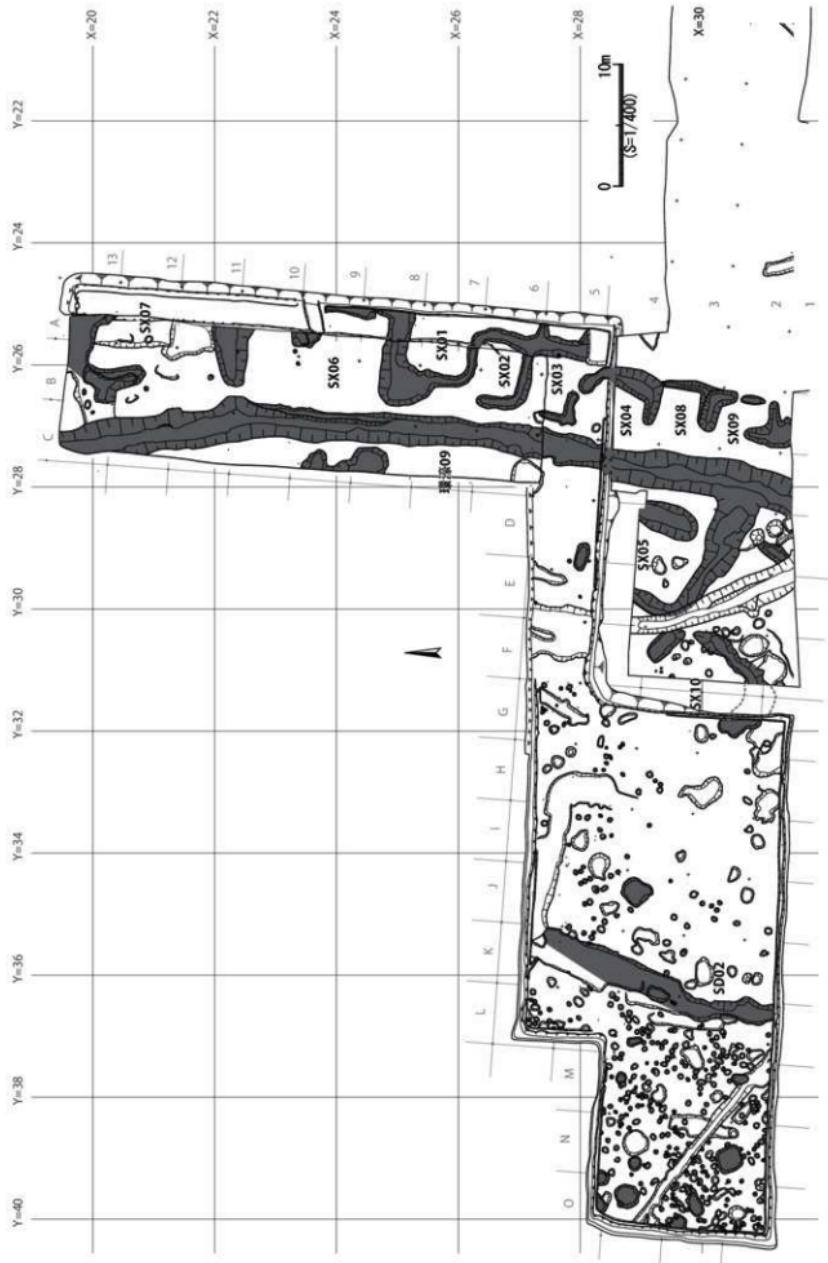
方形周溝墓の時期は集落Ⅱ期に該当する。なお、SD02以西の土坑やピットは遺構の重複も少なく、集落Ⅱ期相当の土器しか発見されていないことから、当調査区は集落Ⅱ期の拡大期のみ展開した箇所と思われる。SX08北東溝からは完形の小型壺形土器が出土しており、供獻土器と考えられる。

##### 2) 2・4調査区

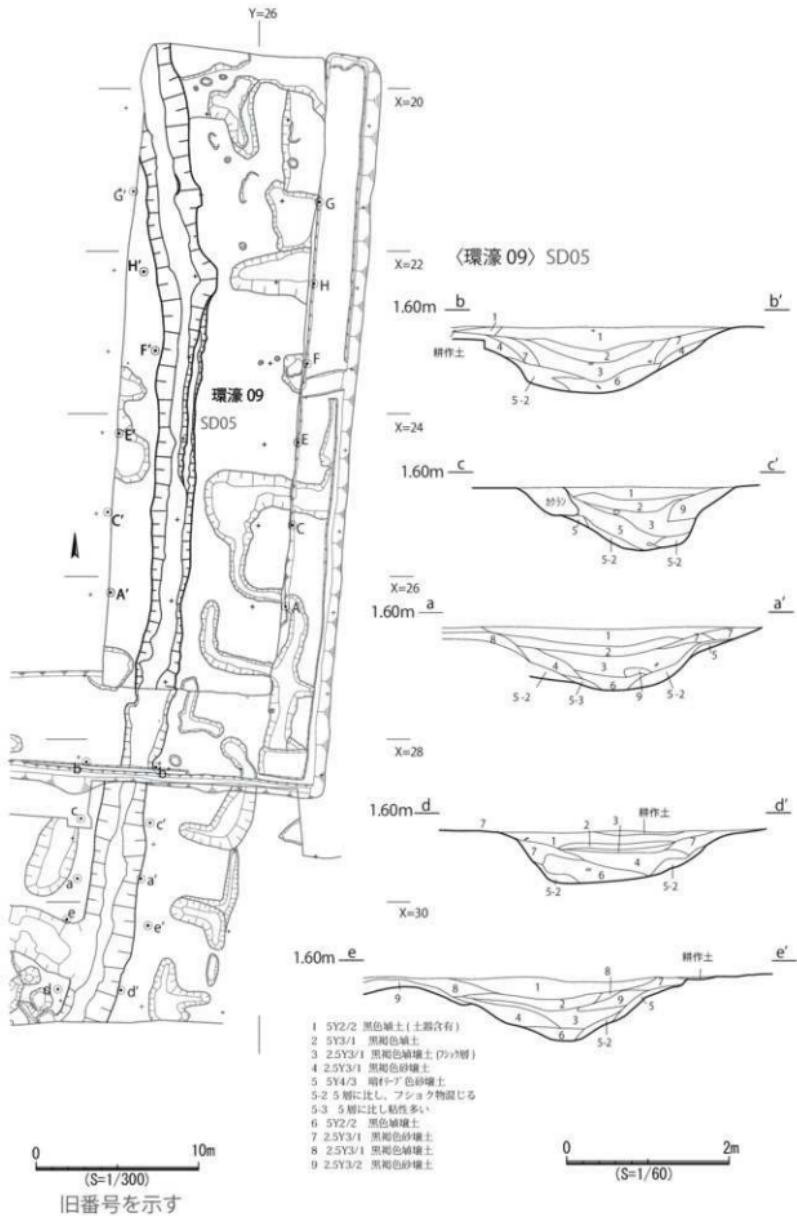
狹小な範囲で南北に長く調査した箇所であるが、調査成果からⅢ次同様に集落東部域の様子をうかがい知ることができる。調査区からは複数の土坑及びピットとSD01、02の溝及び埋積浅谷肩部が確認されている。調査区西側の土層断面図には、当遺跡の遺構埋積状況を端的に示す断面図が作成されており、その断面図からは平地式建物の周溝の可能性として考えられるSD03と、それを切るSD02の状況が見て取れる。SD02とSD01間には調査担当者が盛土の可能性として捉えた層があり、両溝を方形周溝墓周溝の可能性を上げている。SD01、SD02ともに完形近い土器が発見されており、两者とも集落Ⅲ期、八日市地方遺跡9期に相当する。また前述したSD03以下埋めた土坑群からは集落Ⅱ期、6期から8期に至るまでの土器が出土していることから、層序と土器との関係は合致しており、生活域として展開した後に、造墓されたものと考えられる。



第24図 Ⅱ次・Ⅲ次 全体図(1/400)



第25図 II次・III次弥生時代遺構抽出図(1/400)



第26図 II次・III次環濠09平面図(1/300), 断面図(1/60)

〈環濠 09〉 SD 05

1.50m A

A'

C

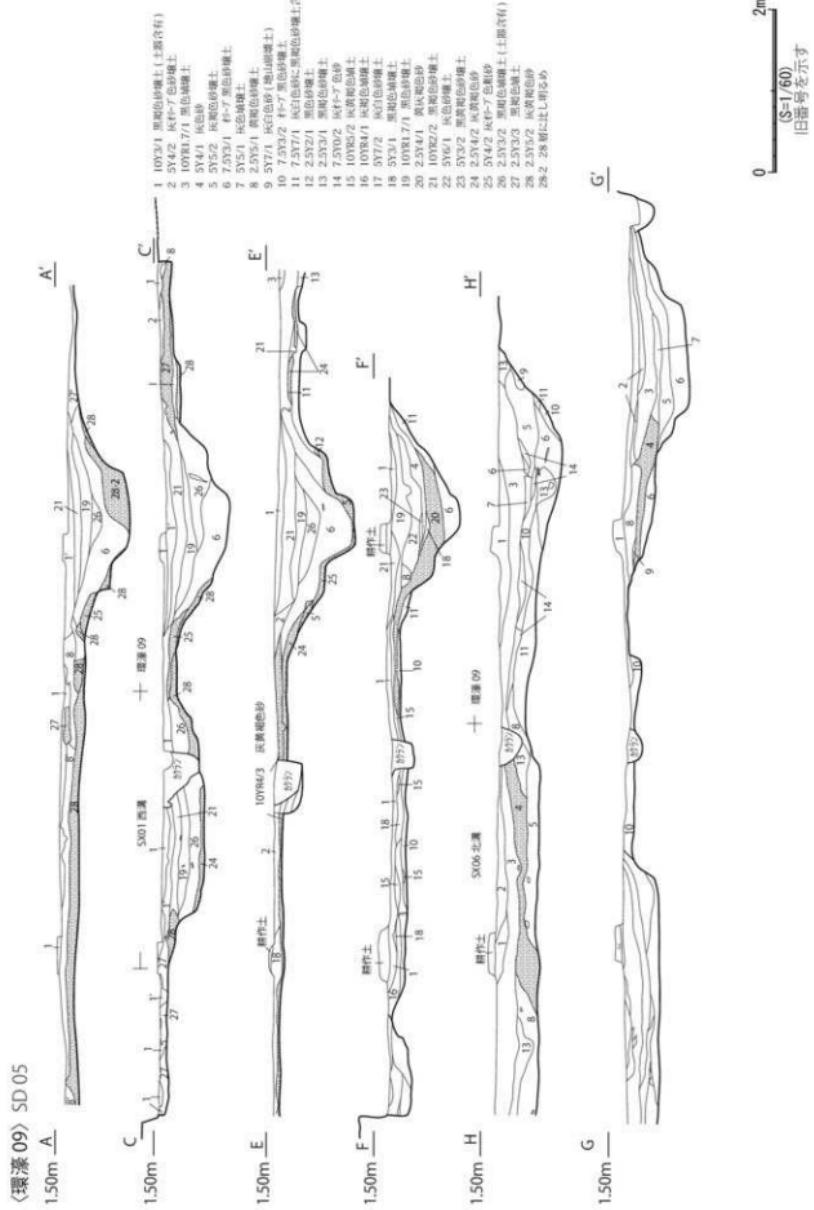
E

F

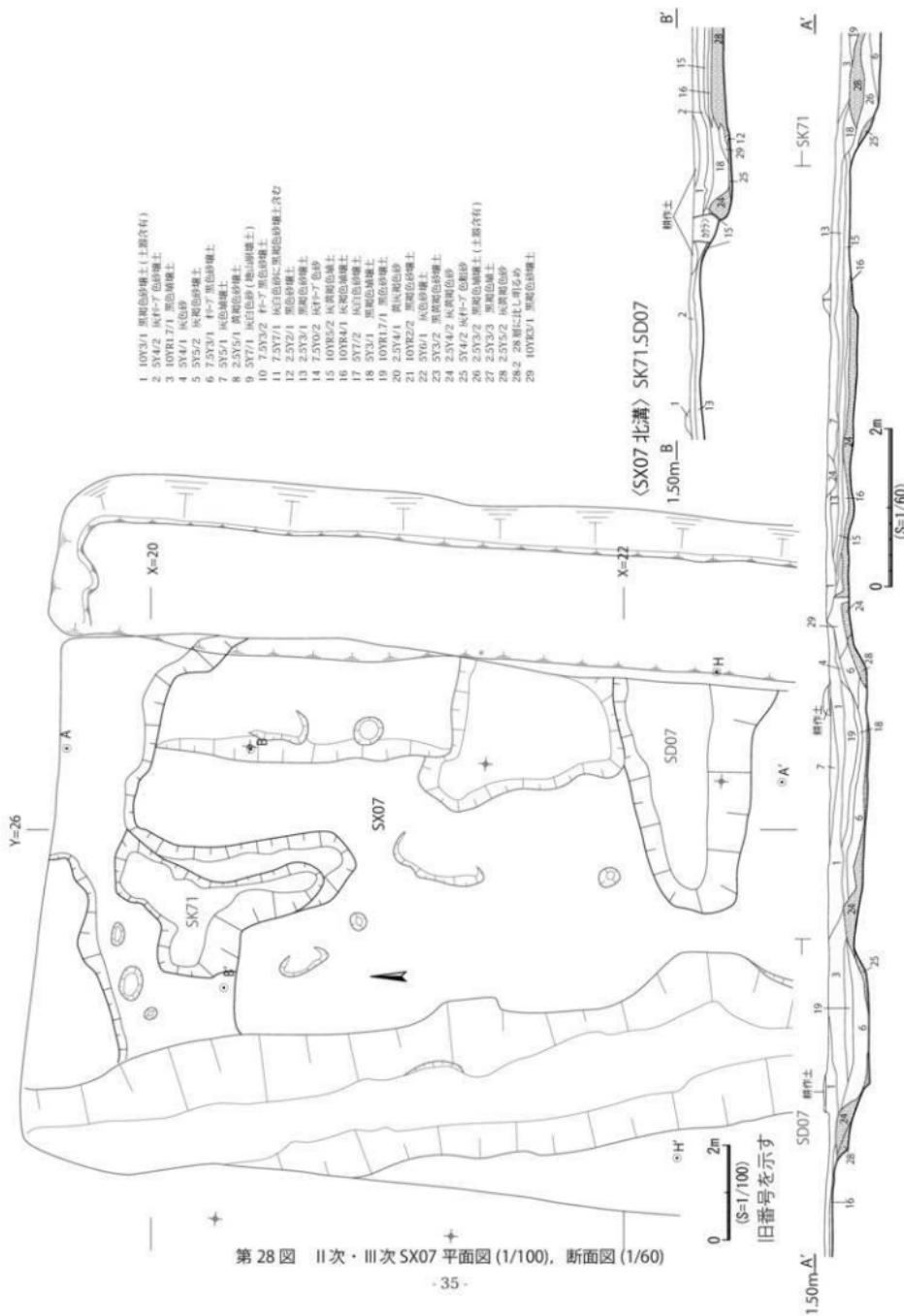
H

G

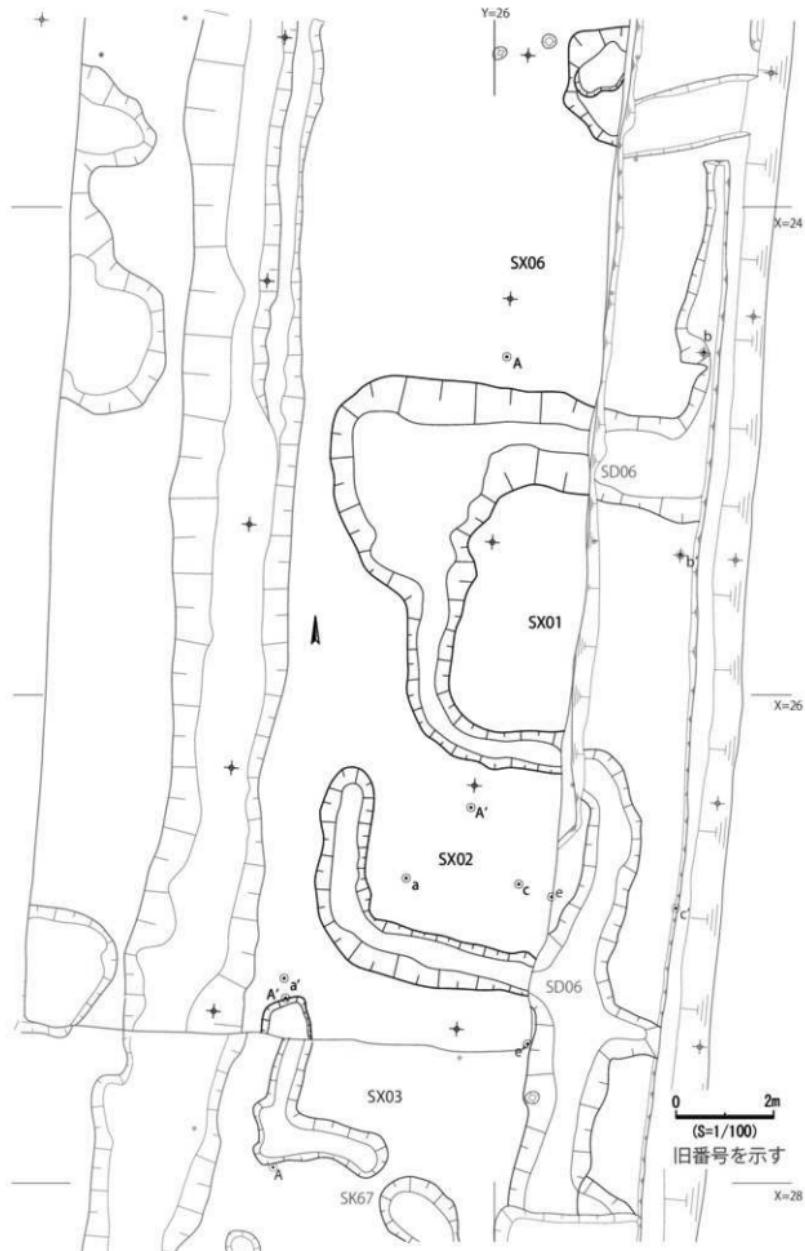
C'



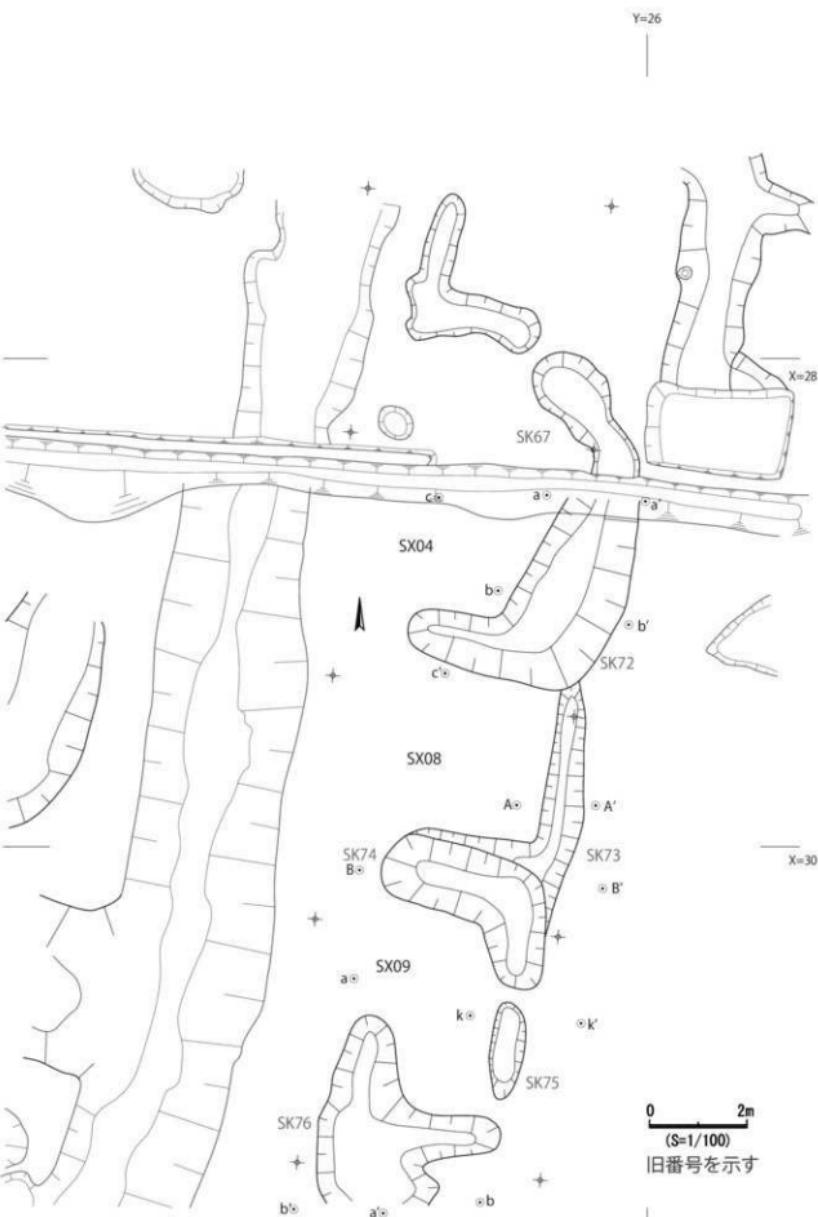
第 27 図 II 次・III 次環濠 09 断面図 (1/60)



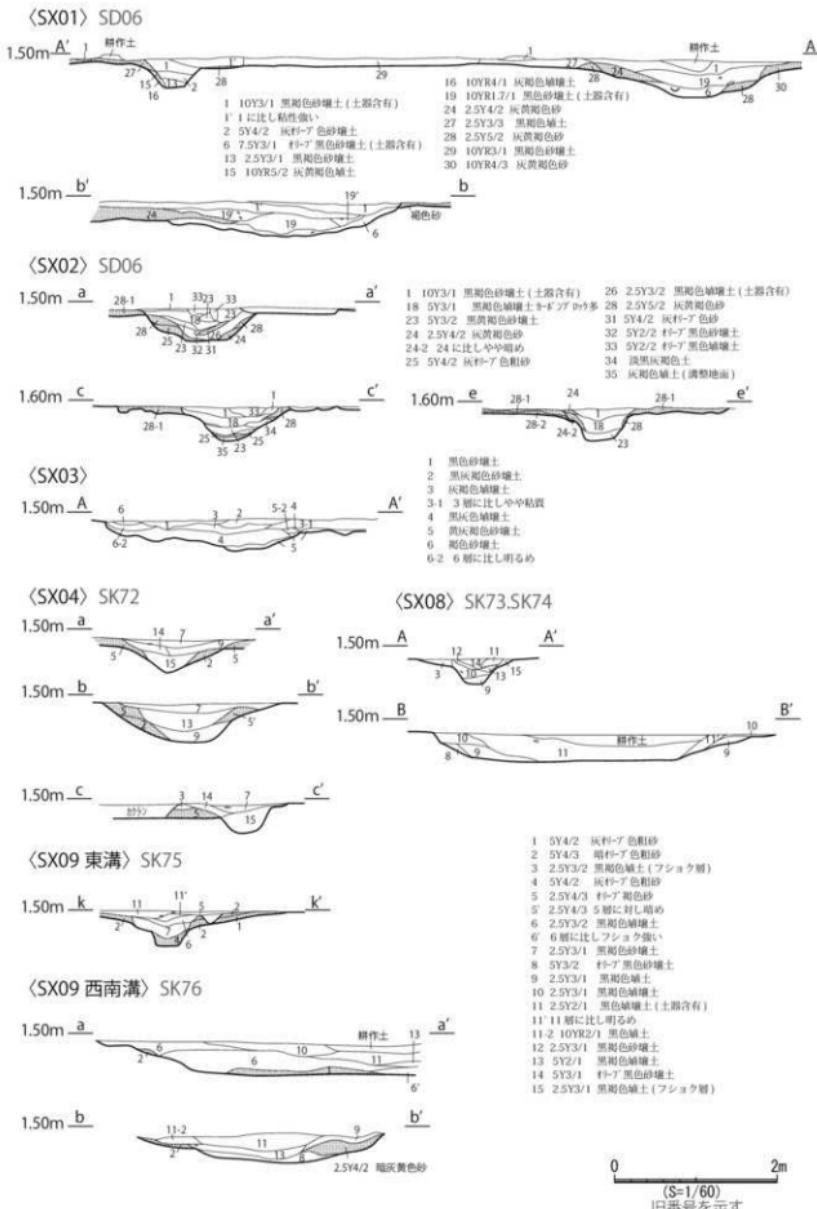
第28図 II次・III次 SX07 平面図(1/100), 断面図(1/60)



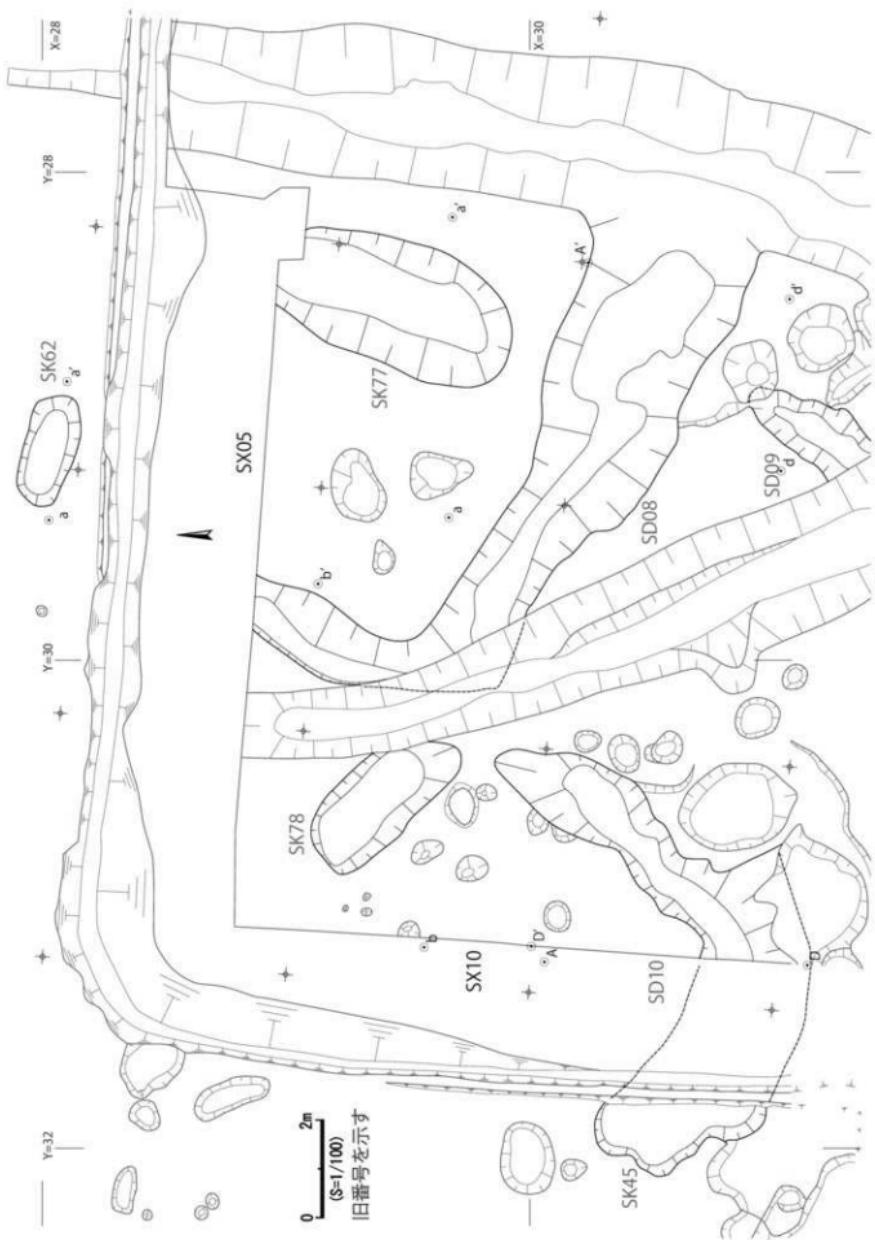
第29図 II次・III次 SX01,02,03,06 平面図 (1/100)



第30図 II次・III次 SX04,08,09 平面図 (1/100)

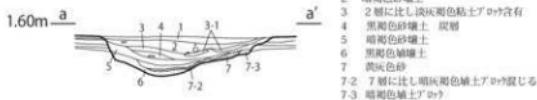


第31図 Ⅱ次・Ⅲ次 SX01~04,SX08,09 断面図 (1/60)

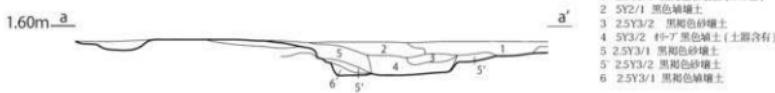


第32図 Ⅱ次・Ⅲ次 SX05,09 平面図 (1/100)

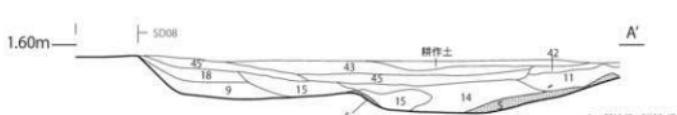
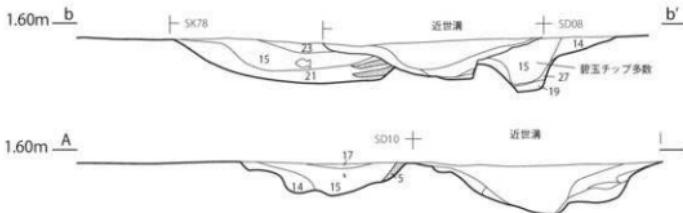
〈SX05 北溝〉 SK62



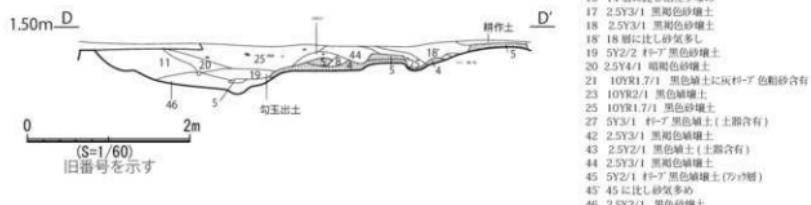
〈SX05 東溝〉 SK77



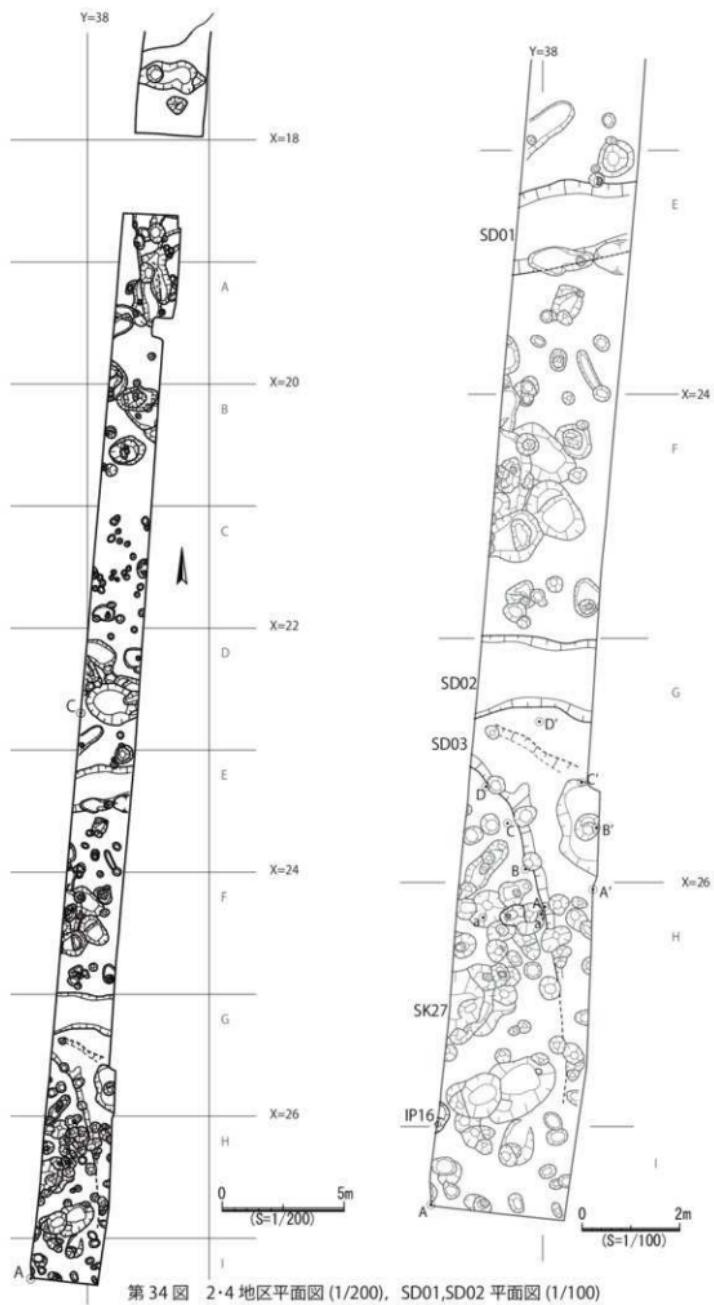
〈SX05 西溝・SX10 北東溝〉 SD08, SK78



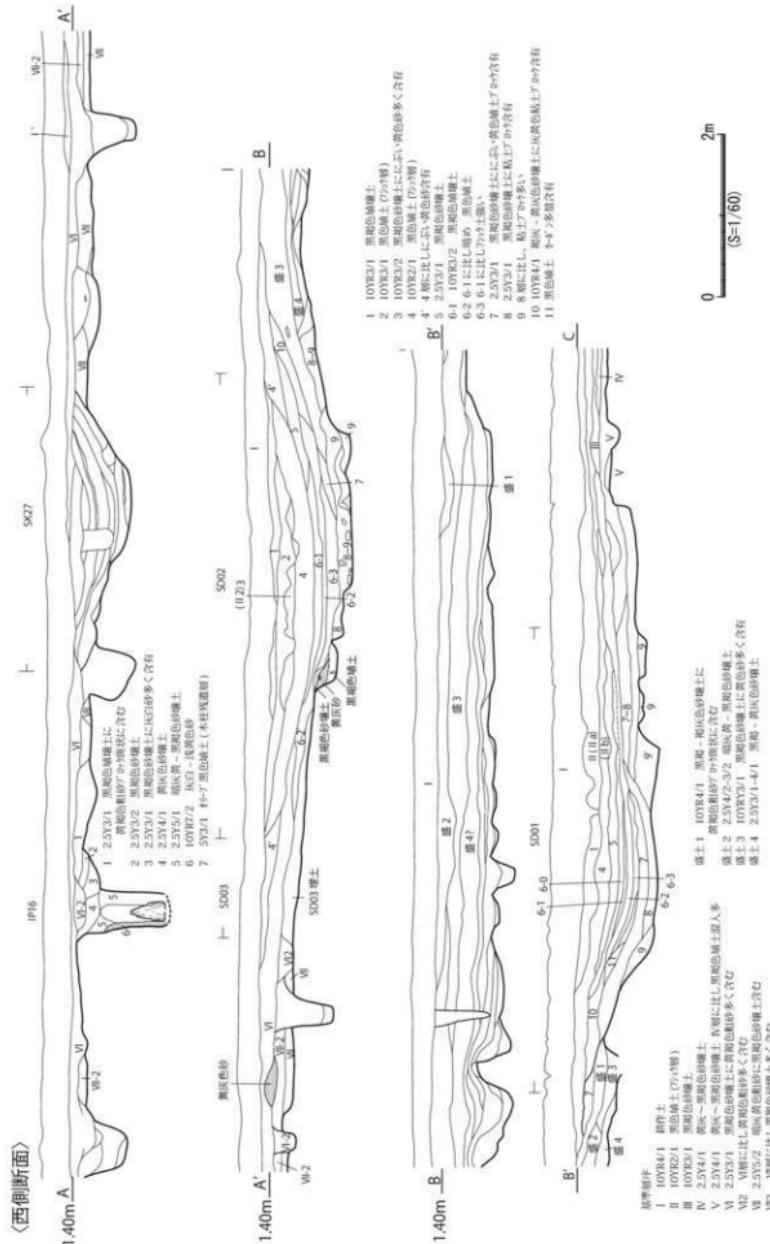
〈SX10 南西溝〉 SD10



第33図 II次・III次 SX05,SX10 断面図 (1/60)



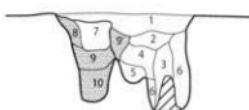
第34図 2・4地区平面図(1/200), SD01, SD02平面図(1/100)



第35図 4地区西側断面図(1/60)

## 〈HP4.5〉

1.50m A'

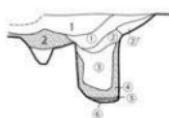


a

- 1 2.5Y4/1-3/1 黒灰 - 黑褐色砂礫土ににぶい黄色砂多く含有
- 2 2.5Y3/1 1-7 黑褐色砂礫土 かすみ多く含有
- 3 2.5Y-5Y3/1 黑褐 - 1-7 黑褐色砂礫土(木質層)
- 4 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土 2層に比し砂少ない
- 5 黑色土と灰黃色砂、灰色土との互層
- 6 2.5Y4/1 黄灰褐色砂礫 喀灰黄砂アホウを斑状に含む
- 7 10YR3/1-4/1 黑褐色砂礫土
- 8 5Y5/1-4/1 灰色砂
- 9 5Y4/2-3/2 灰1-7-4-7 黑灰色粗砂
- 10 5-7.5Y4/1 灰色粗砂

## 〈SD03〉

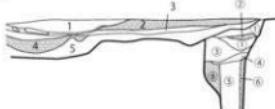
1.50m A'



A

- ① 5Y3/1 村-ア 黑色砂礫土ににぶい黄色粗砂少量含有
- ② 5Y4/2 田村-ア 黑色砂礫土
- ③ 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土(木質層)
- ④ 5Y5/1 灰色砂
- ⑤ 2.5Y4/1 黄灰 - 黑灰色土(木質層)
- ⑥ 2.5Y4/1 黄灰色砂

1.40m C'



C

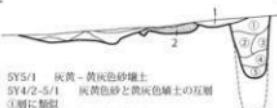
- ① SY3/1 黄色砂礫土に村-ア 黑色土、にぶい黄色砂含有
- ② 2.5Y3/2 喀灰黄色砂
- ③ 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土(木質層)
- ④ SY5/2 にぶい黄 - 田村-ア 色砂にアホウ混じり
- ⑤ SY5/1 灰色砂に村-ア 黑色土アホウ散在
- ⑥ SY6/2 田村-ア 灰砂

1.40m B'



B

1.30m D'



D

- ① SY5/1 黄 - 黄灰褐色砂土
- ② SY4/-5/1 灰黄色砂と黄褐色土の互層
- ③ 1層に類似
- ④ SY5/1 黄褐色砂に灰黄色粘土アホウ混じる
- ⑤ 2.5Y2/1 黑色土

0 2m  
(S=1/40)



〈SD03 土層断面〉

第36図 4地区 HP4.5,SD03 断面図 (1/40)

## 第4節 6・8地区

### 1. 調査区の概要

6・8地区はいずれも平成8年度に調査実施しており、6地区2,627m<sup>2</sup>、8地区は880m<sup>2</sup>調査している。調査担当者は日本窯業史研究所より派遣委託職員を要請し実施している。いずれも任意のグリッドを設定し、航空図化測量を実施している。

### 2. 遺構の概要

#### 1) 6地区

調査区は近世以降の用水及び攪乱がみられ大きく削平を受けた調査箇所である。

第38図は、担当者の知見により弥生時代と認識したもの及び出土土器から判断しマーキングした図である。弥生時代に相当する遺構は、II次III次同様で環濠09付近に方形周溝墓が展開し、Y=38より西側から土坑やピットといった生活域が拡がっている様子が伺われる。

検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓9基、複数の土坑、平地式建物等がみられる。

環濠09はII次、III次調査区である北側と比べ、南下するに従い下底面に砂層が確認される。この状況は8地区も同様で、第39図Cアゼ以南には下底面に砂堆積がみられる。方形周溝墓の関係は、後世に至るまで中層上位は埋まりきっておらず、環濠機能時に增墓が行われている可能性が高く、環濠を利用して展開するものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形状を呈し、10mを超える大型のもので3隅もしくは4隅に陸橋部をもつものがみられる。いずれの墓からも主体部は発見されておらず、方形周溝墓の時期はSX01からSX08は集落II期、SX09は集落III期に該当する。

なお、SX08は四隅に溝を持たず、対に2条あるだけであるが、裴形土器に小型裴形土器が入子状でみつかっていることや(第36図)、無頸壺形土器の完形が出土している。以上のことから、供獻土器と捉えてSX08とした。また、SX08周囲には円筒形を示す土坑SK62がみられ、土壙墓の可能性が高い。

SX09は生活域との重なりを見せる方形周溝墓である。周溝内からは箱(フォーラム成果報告2遺物図版第27図91)が完形で発見されている。また、良好な土器の出土をみせたSK43は尾張の貝田町式壺形土器(フォーラム成果報告2遺物図版第1図1)が完形に近い形で発見されている。

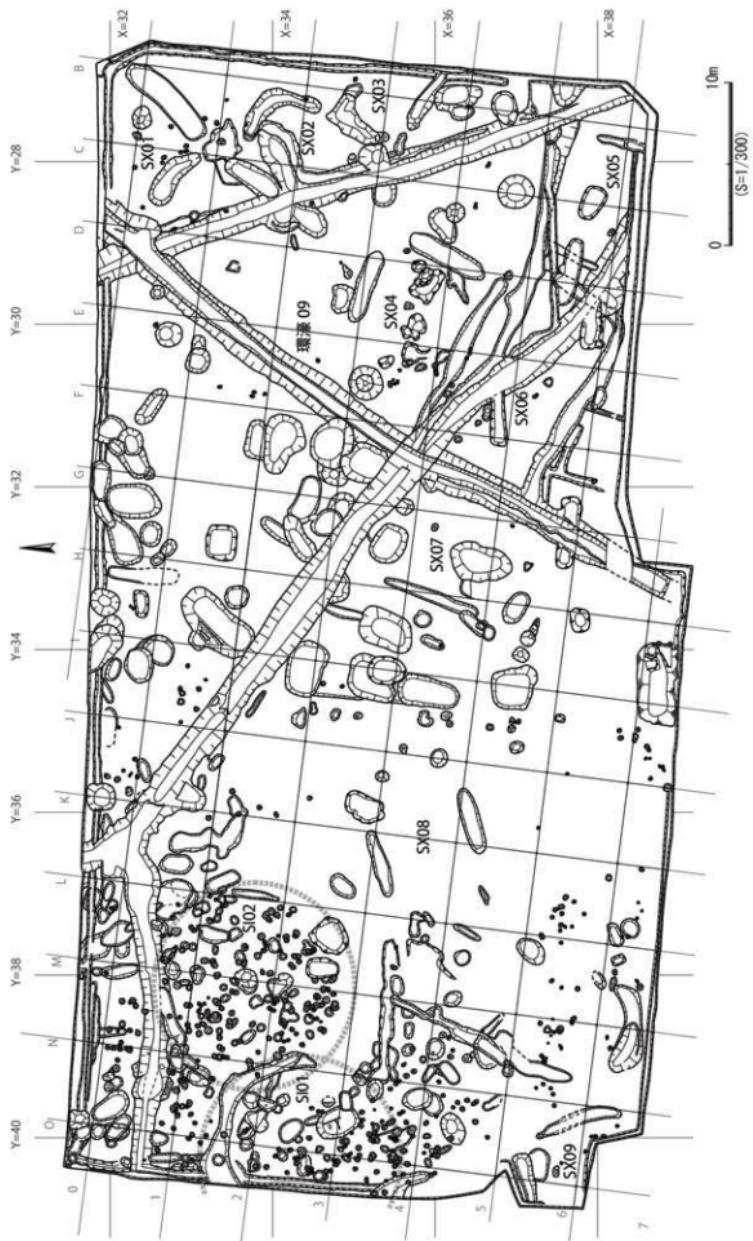
SI01,02は現地調査の際は判断できなかったが、遺構整理をする際、管玉製玉関連遺物が多く集中する箇所であり、住居としての可能性が検討された。太字で記載した遺構からは、碧玉製工程品、もしくは擦切り具、石針といった工具がみられる遺構である。SI01内P1からはまとめて管玉工程品が発見されている(第49図参照)。本報告では、SK84を中心土坑とした多角柱の建物、SK109を中心土坑とした多角柱の建物と想定し、周囲にめぐる溝を周溝または連結土坑であると捉えられ平地建物として報告するものである。この周囲から発見される土器は集落II期を中心としIII期にまたがるため、今後とも遺物との検証が必要とされる箇所である。

なお、SI01と重なるSK108は貯木土坑であり、集落II期、八日市地方遺跡6期に該当し、SI01との関係が気になる土坑でもある。

#### 2) 8地区

6地区よりさらに中世の攪乱を受けており、弥生時代の遺構は深いものののみ検出された状況である。

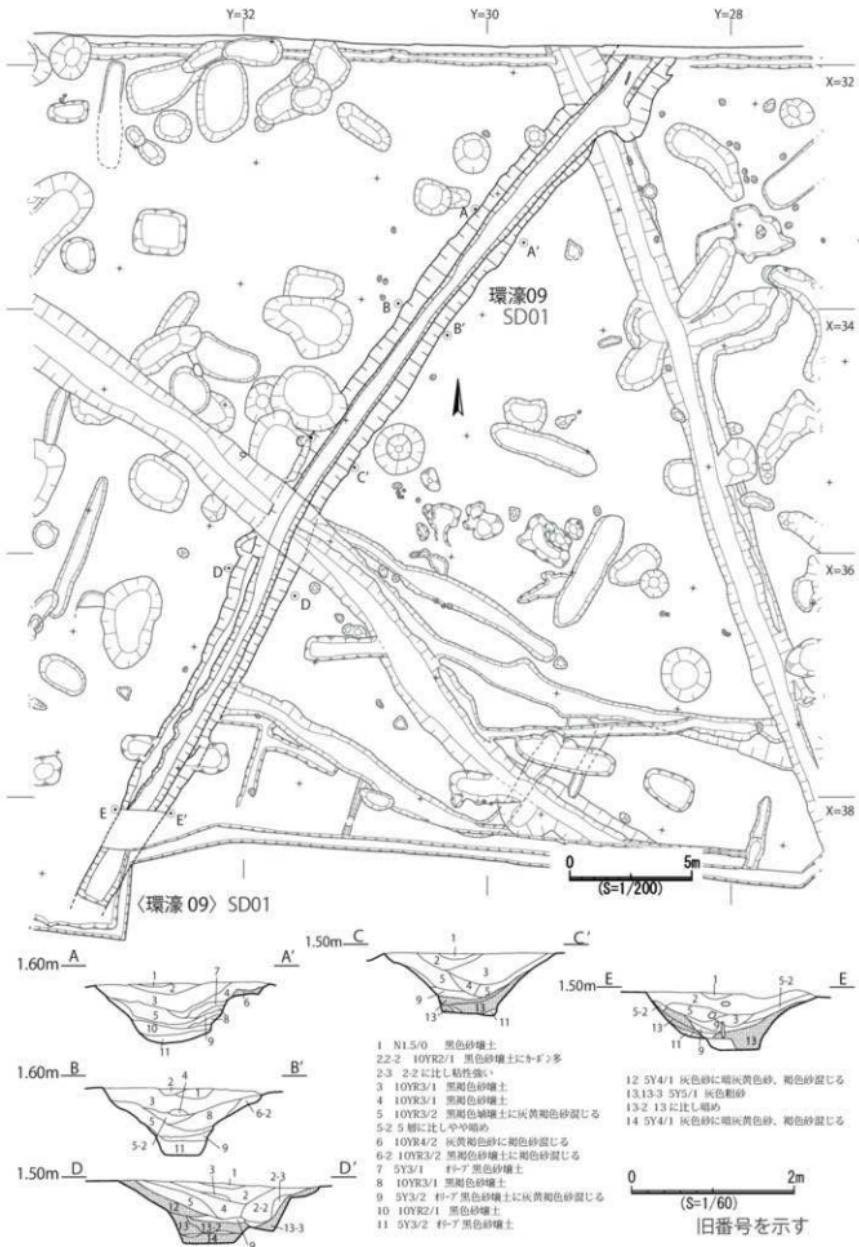
検出した遺構は、環濠09、方形周溝墓1基、溝1条、数基の土坑と柱群である。SX01は集落III期併行であり、YD11は方形周溝墓の可能性があげられ、集落II期に該当する。また、SB01、02は、残された記録の中では、いずれも弥生時代の遺構であるが、環濠との前後差は判断できない。



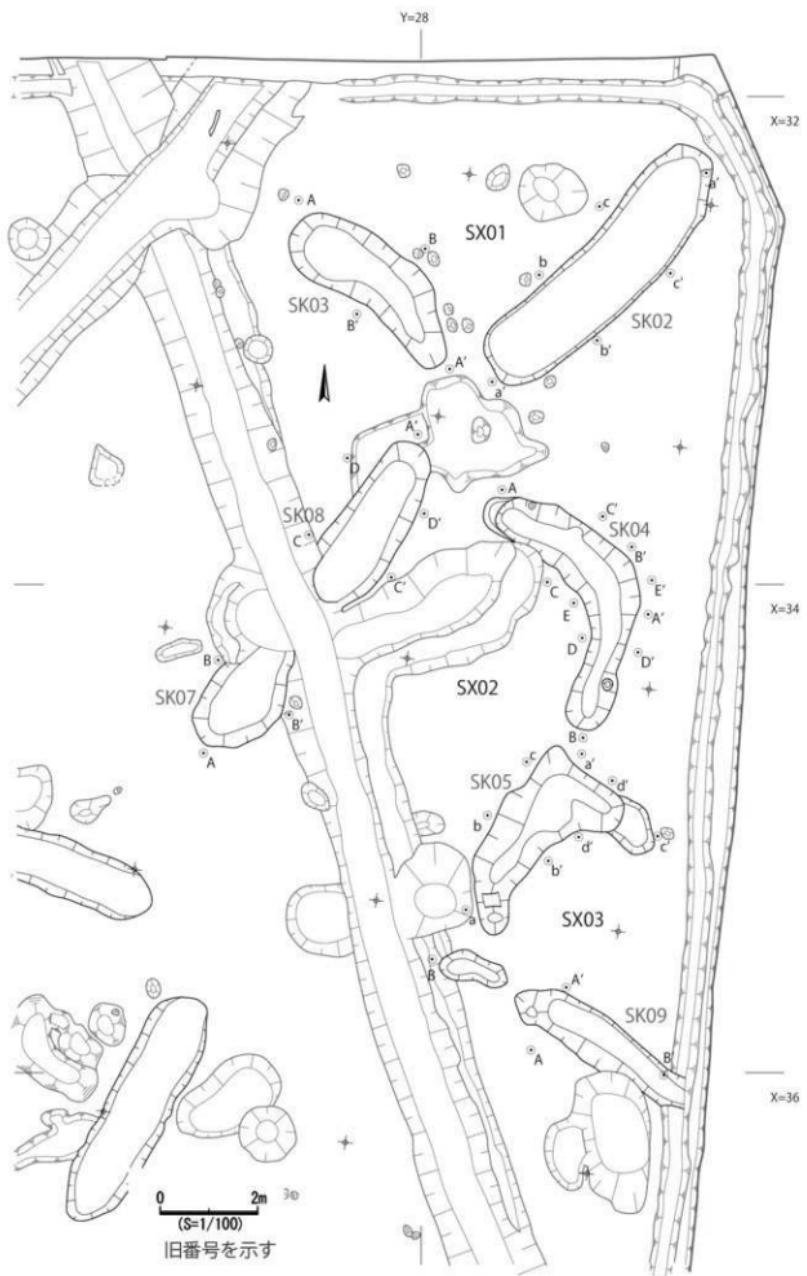
第37図 6地区全体図 (1/300)



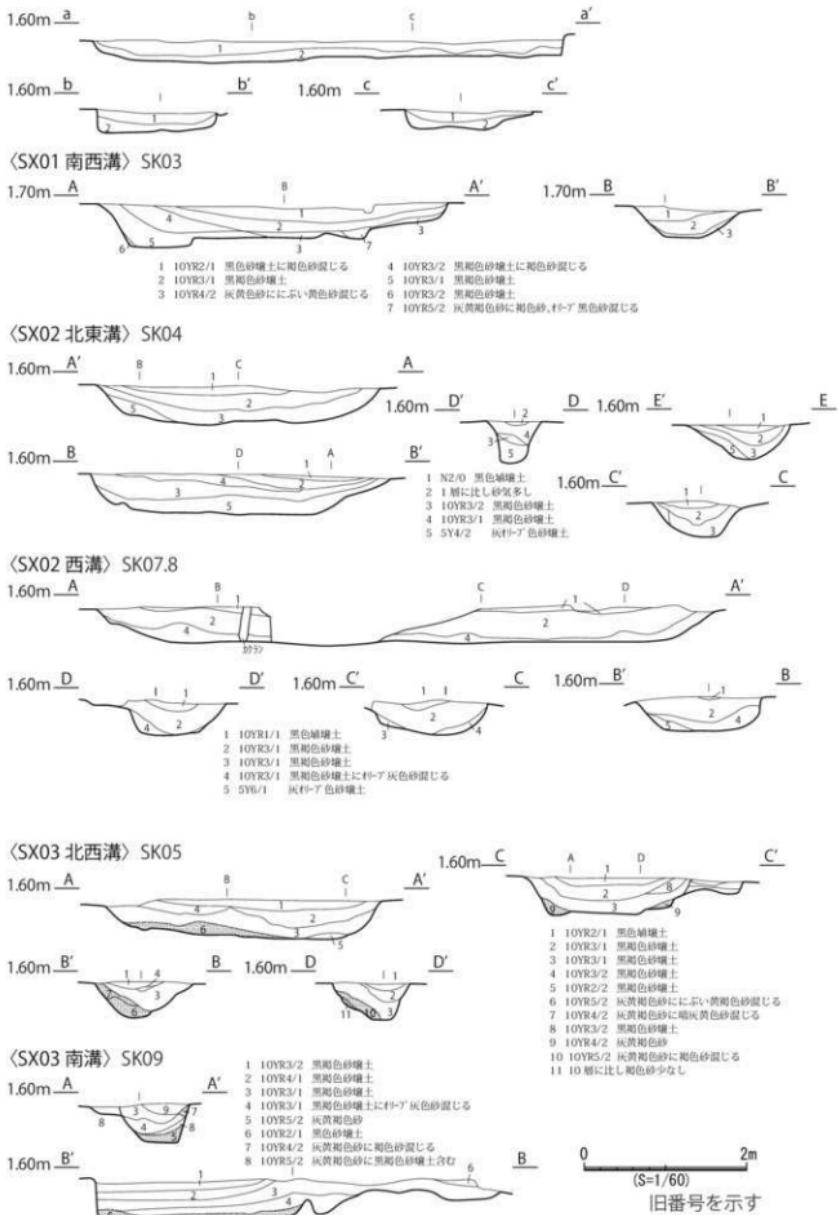
第38図 6地区 弥生時代遺構抽出図 (1/300)



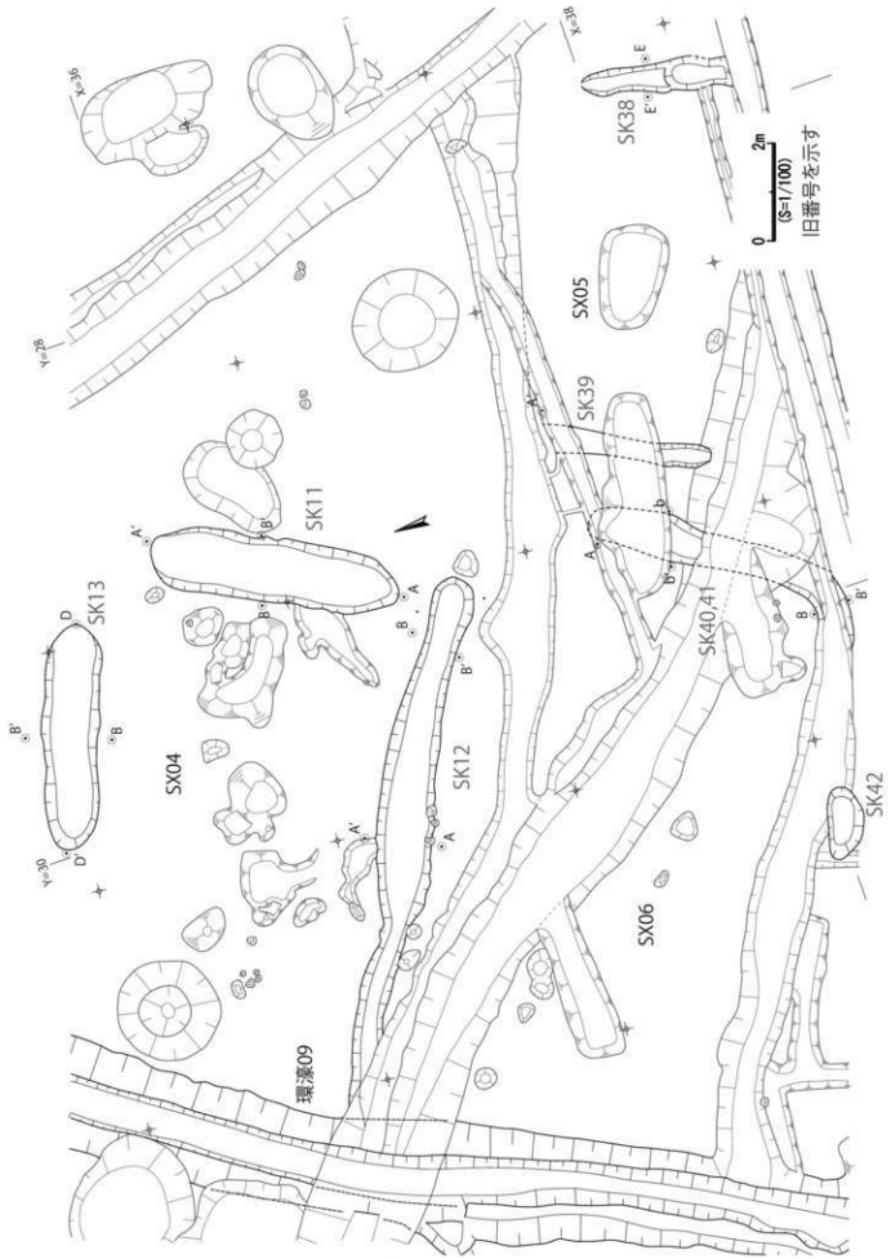
第39図 6地区 環濠 09 平面図 (1/200), 断面図 (1/60)



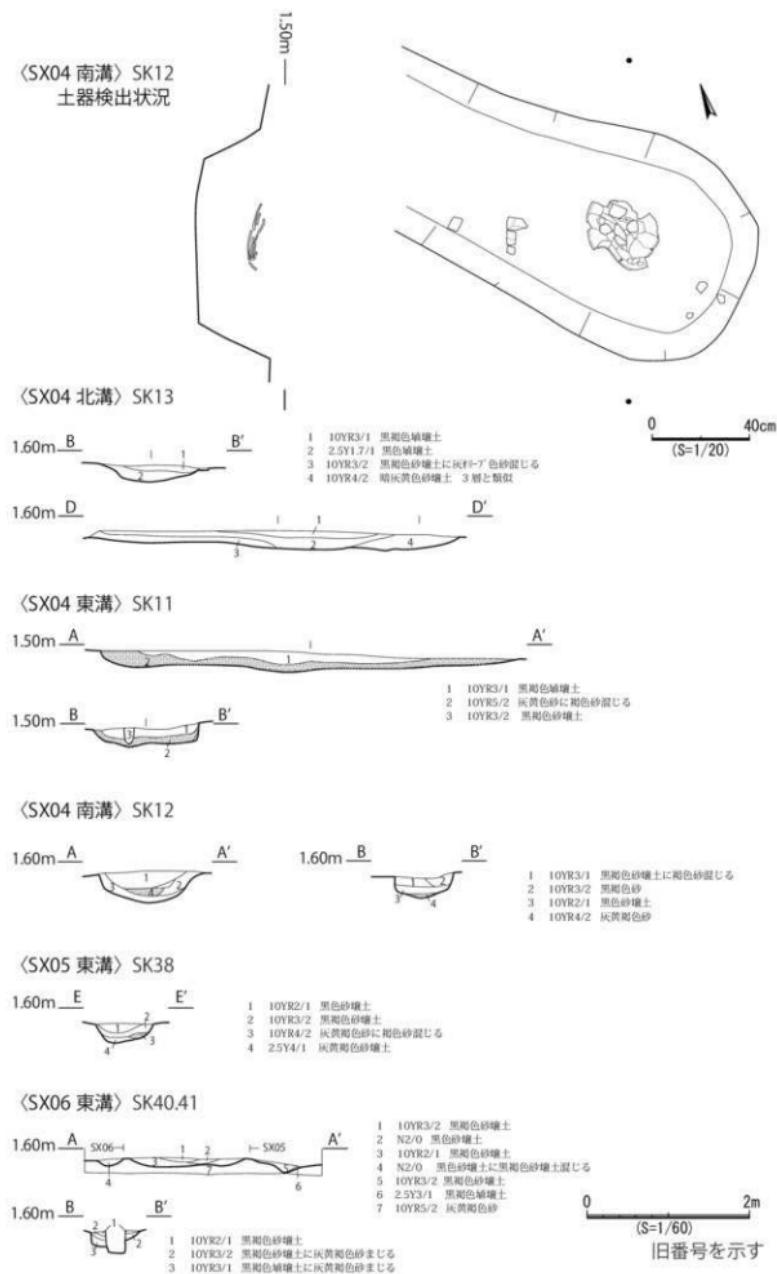
第40図 6地区 SX01,02,03 平面図 (1/100)



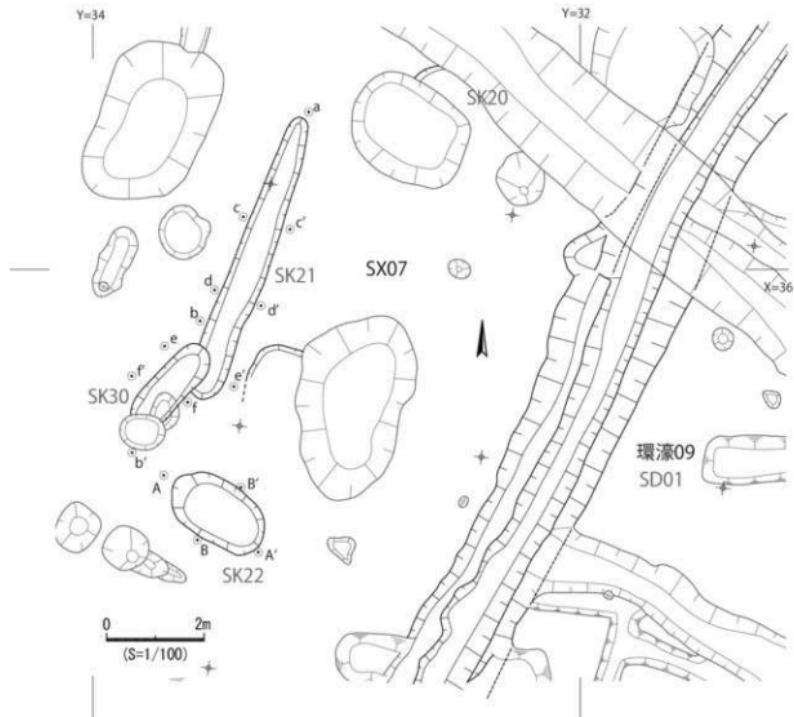
第 41 図 6 地区 SX01,02,03 断面図 (1/60)



第42図 6地区 SX04,05,06 平面図 (1/100)



第43図 6地区 SX04 土器検出状況図(1/20) SX04,05,06 断面図(1/60)

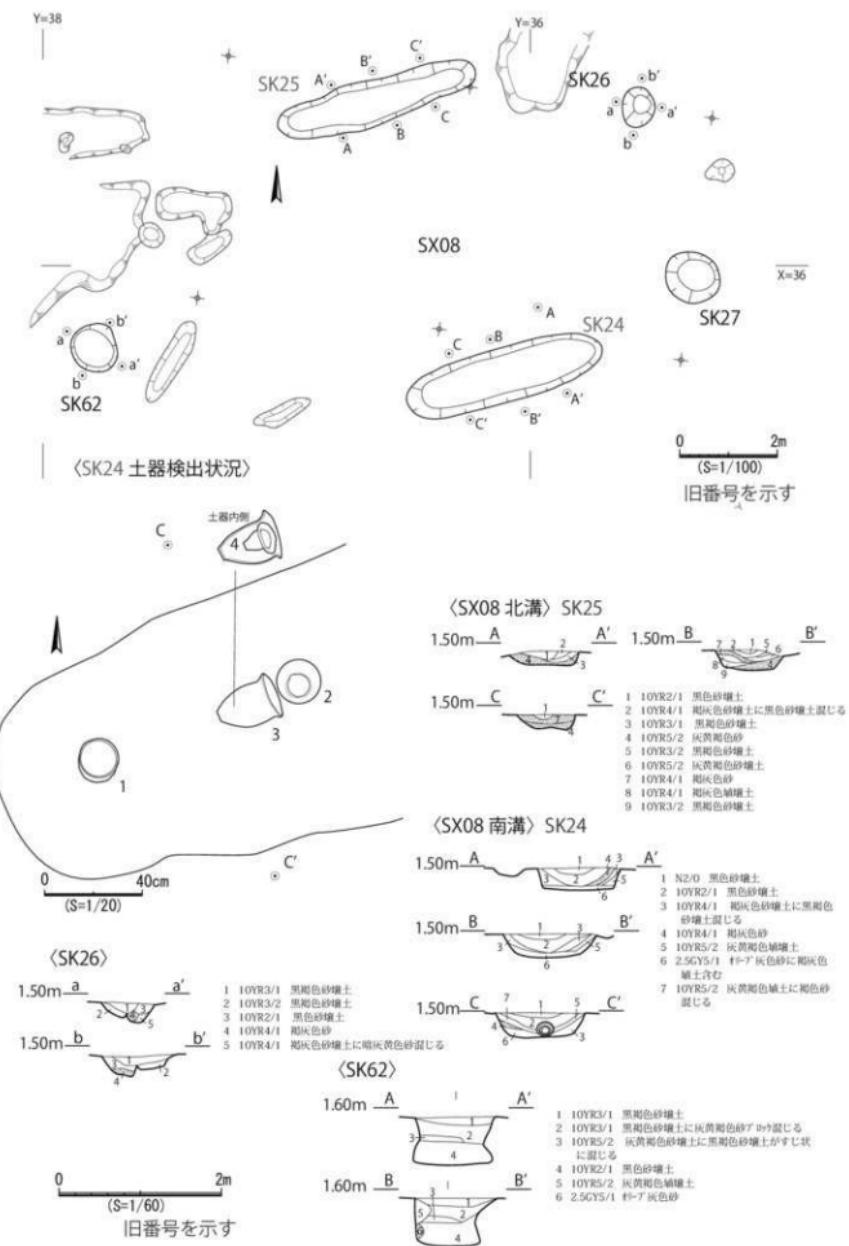


〈SX07 西溝〉 SK21

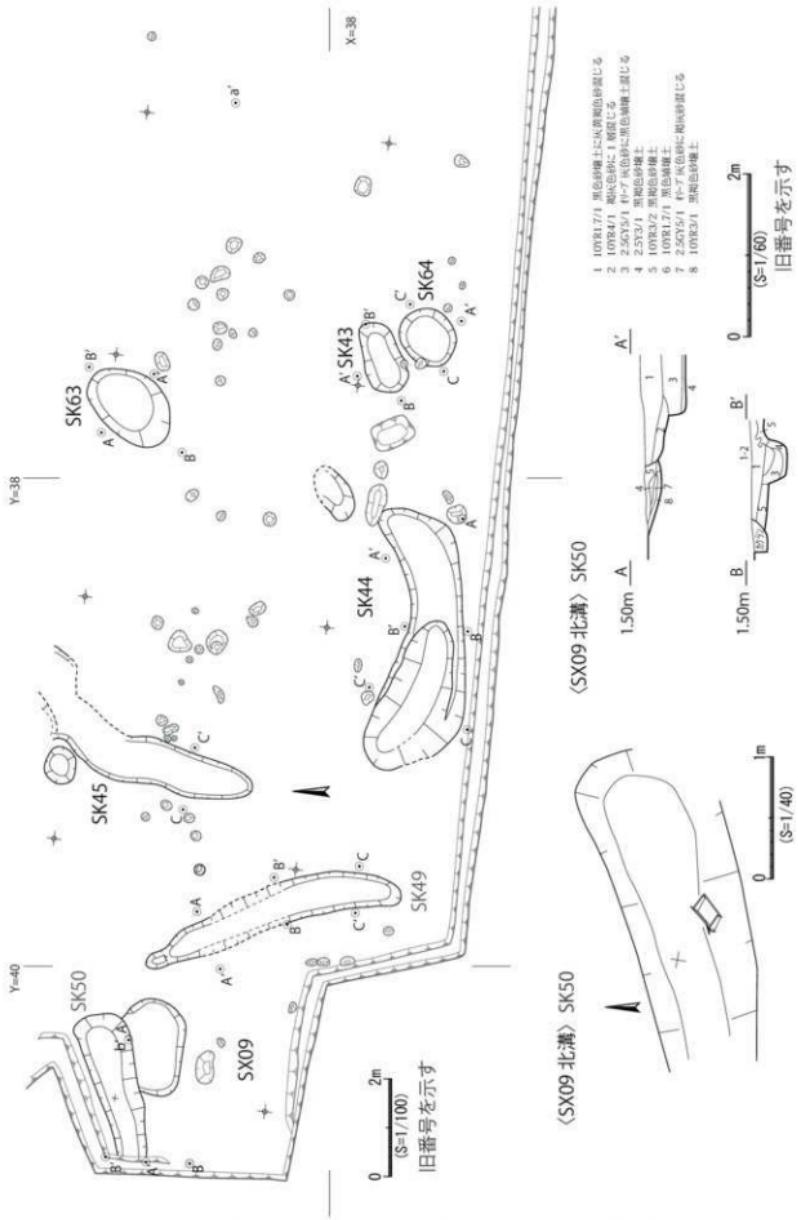


日番号を示す

第 44 図 6 地区 SX07 平面図(1/100)、断面図(1/60)

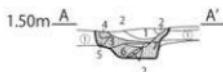


第45図 6地区 SX08 平面図(1/100),断面図(1/60),SX08 土器検出状況図(1/20)

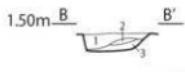


第46図 6地区 SX09 他平面図(1/100),断面図(1/60),SX09 箱検出状況図(1/40)

〈SX09 東溝〉 SK49



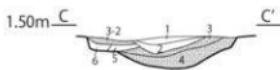
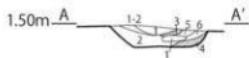
- 1 IOYR2/2 黒褐色砂礫土
- 2 IOYR2/1 黒褐色砂土
- 3 2.5GY5/1 ベーブ灰褐色に褐灰色砂、に赤い黄褐色砂混じる
- 4 IOYR4/2 反覆闊葉砂
- 5 IOYR4/1 褐灰色砂礫土
- 6 IOYR4/1 褐灰色砂にベーブ灰色砂を含む
- 7 2.5GY5/1 ベーブ灰褐色砂に褐灰色砂混じる
- ①地山 灰黃褐色粗砂 ②の上層は黄灰色砂土



- 1 IOYR1.7/1 黒色埴土
- 2 2.5Y4/1 黄褐色埴土
- 3 IOYR3/2 黑褐色砂礫土
- 4 IOYR4/1 褐灰色砂礫土に灰料-ベーコン色混じる
- 5 IOYR5/1 褐灰色砂 - 灰黃褐色砂
- 6 IOYR1.7/1 黑褐色埴土



〈SK44〉



- 1 IOYR1.7/1 黑色埴土に灰黄褐色砂混じる
- 2 IOYR3/2 黑褐色砂礫土
- 3 IOYR4/1 褐灰色埴土
- 3-2 2.5Y5/1 黄褐色粗砂
- 4 IOYR4/2 反覆闊葉砂
- 4 3層に比し暗め
- 5 IOYR3/2 黑褐色砂礫土
- 6 IOYR4/1 褐灰色埴土

〈SK45〉



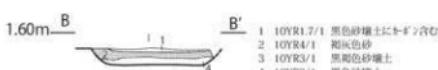
- 1 IOYR2/1 黒色砂礫土
- 2 IOYR3/1 黑褐色砂土
- 3 2.5G5/1 ベーブ灰褐色砂 - 灰黃褐色砂
- 4 IOYR4/1 褐灰色砂礫土
- 5 2.5G5/1 ベーブ灰褐色砂 - 褐灰色砂
- 6 IOYR1.7/1 黑褐色埴土

〈SK63〉

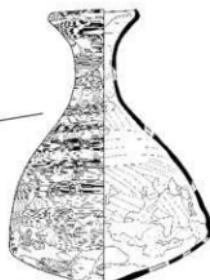


- 1 IOYR1.5/1 黑色砂礫土
- 2 IOYR3/1 黑褐色砂礫土
- 3 IOYR3/1 黑褐色埴土に褐灰色砂混じる
- 4 IOYR6/2 反覆闊葉砂に黒褐色埴土混じる
- 5 IOYR4/1 褐灰色砂礫土
- 6 IOYR5/1 褐灰色砂礫土
- 7 2.5GY5/1 ベーブ灰褐色砂
- 8 7.5YR3/2 黑褐色砂礫土
- 9 7.5YR3/2 黑褐色埴土

〈SK43.64〉

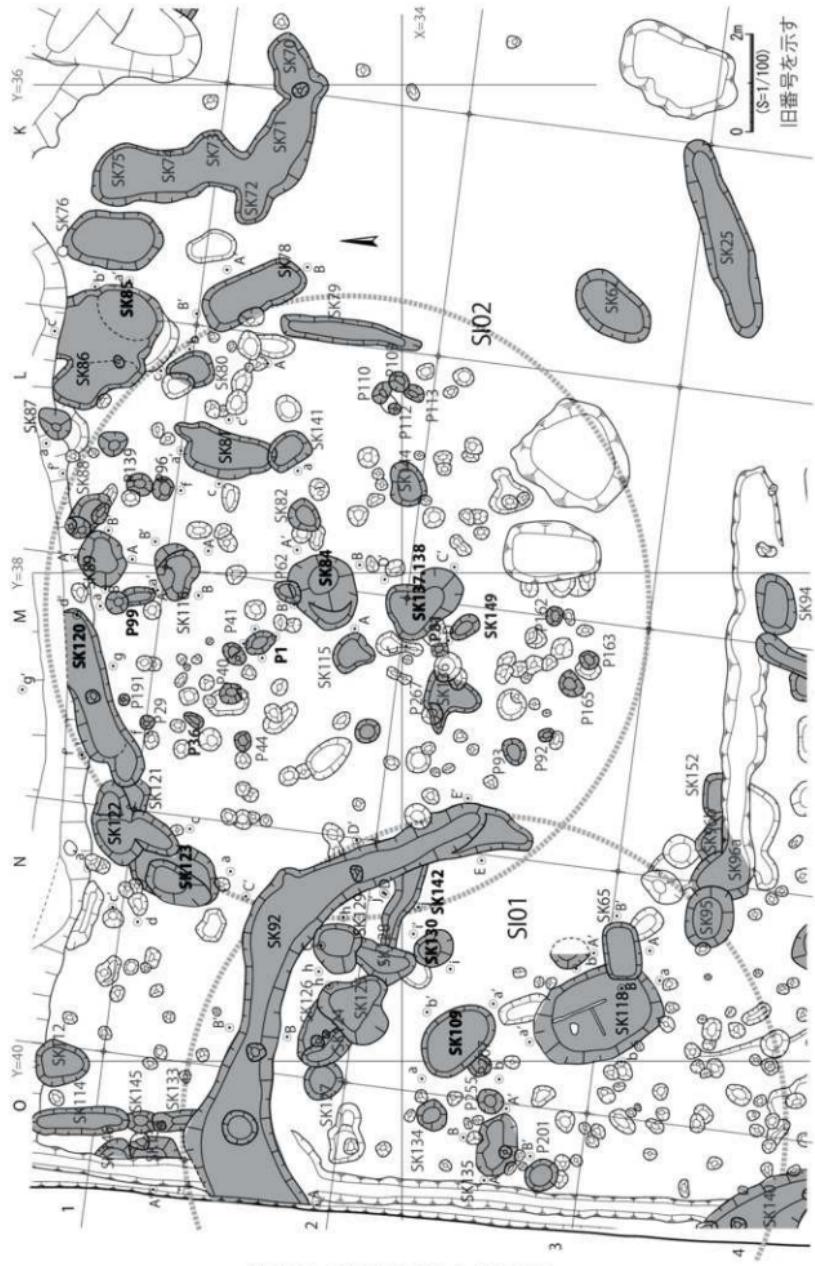


SK43 遺物検出状況

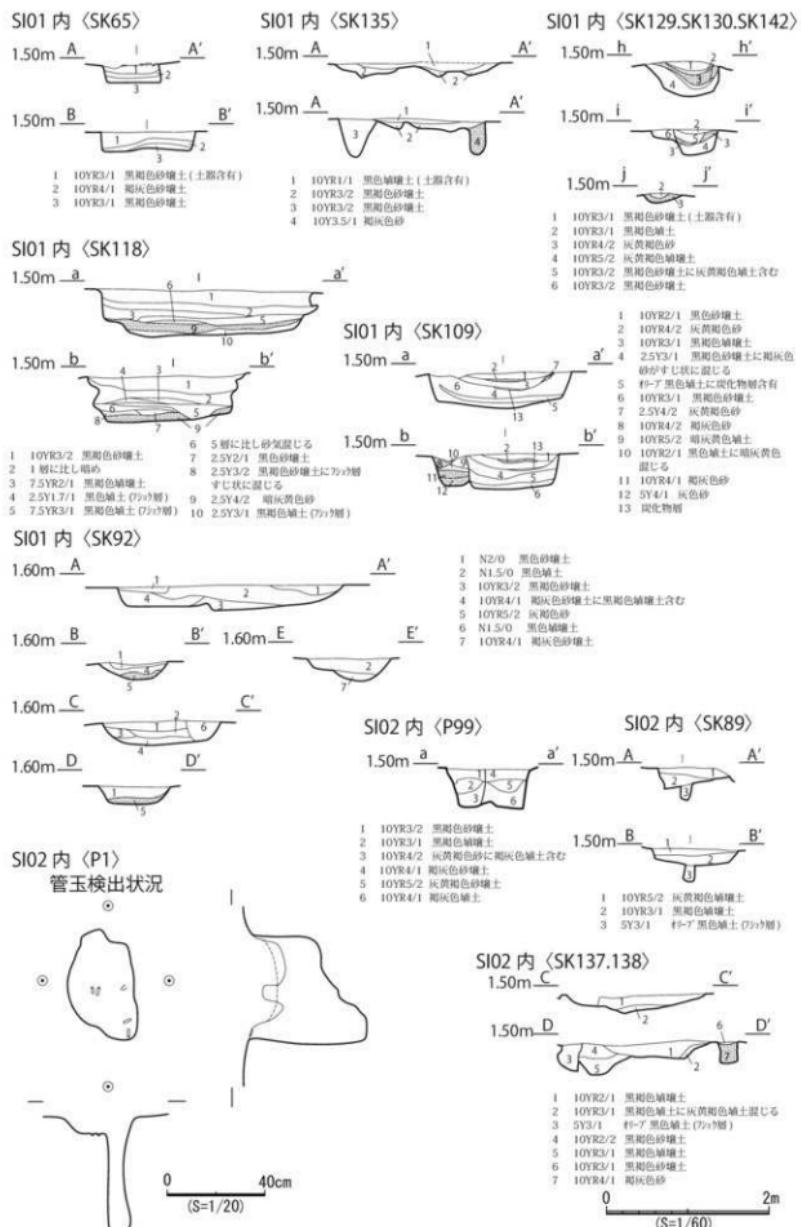


0  
2m  
(S=1/60)  
旧番号を示す

第 47 図 6 地区 SX09 他 断面図 (1/60)

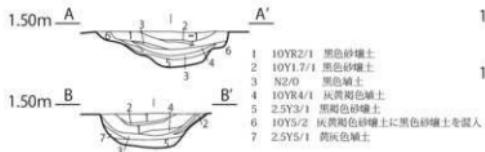


第48図 6地区SI01,02平面図(1/100)



第49図 6地区 SI01,02断面図(1/60), SI01内 P1検出状況(1/20)

### SI02 内 <SK84>



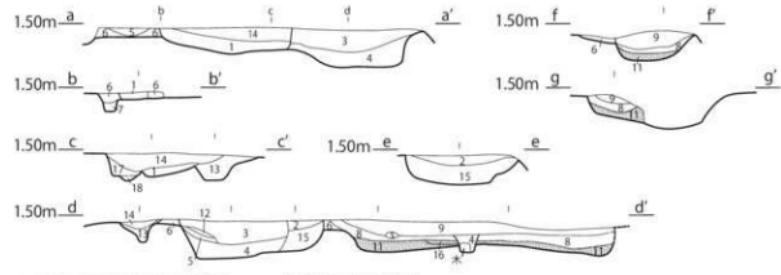
### SI02 内 <SK78>



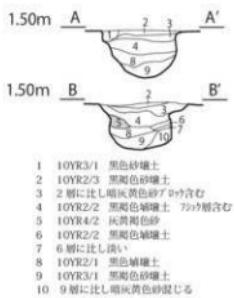
### SI02 内 <SK85 他>



### SI02 内 <SK120 他>



### SI02 内 <SK116>



0 2m  
(S=1/60)

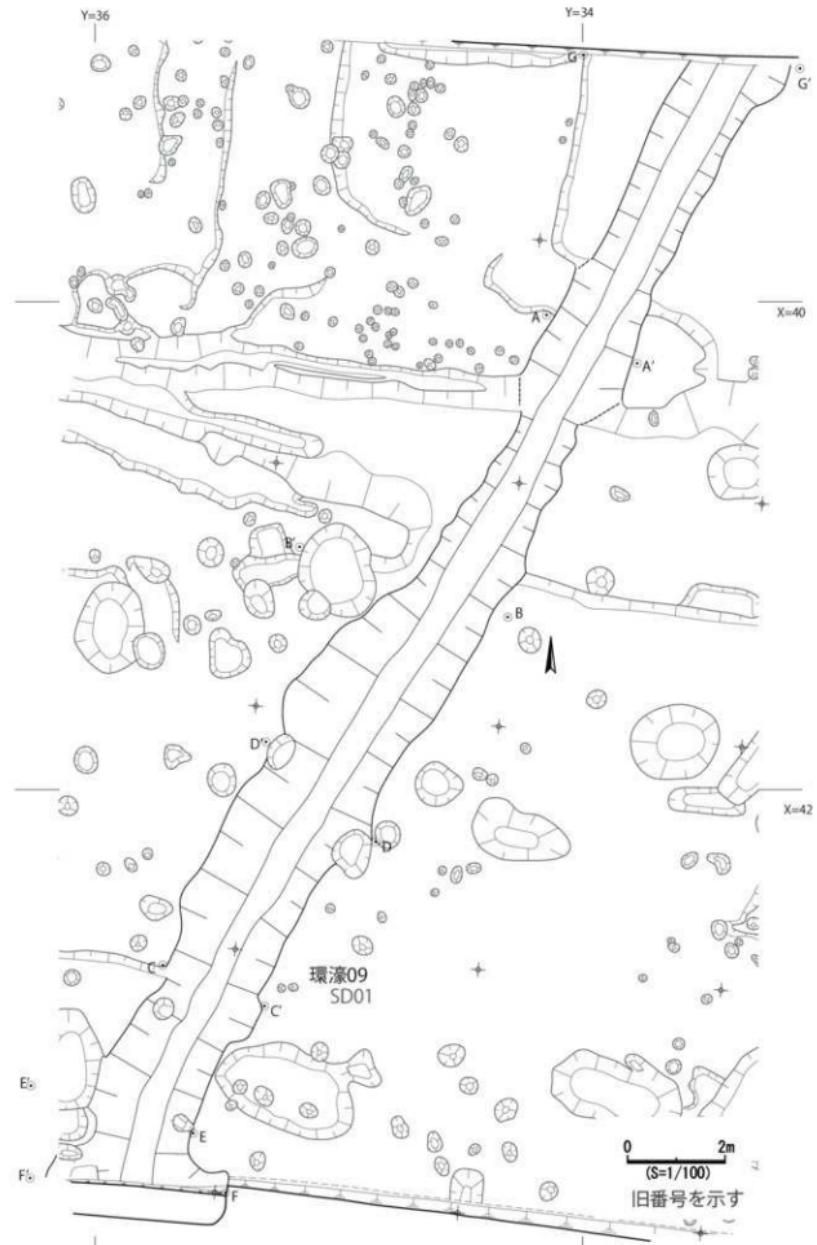
第 50 図 6 地区 SI02 断面図 (1/60)



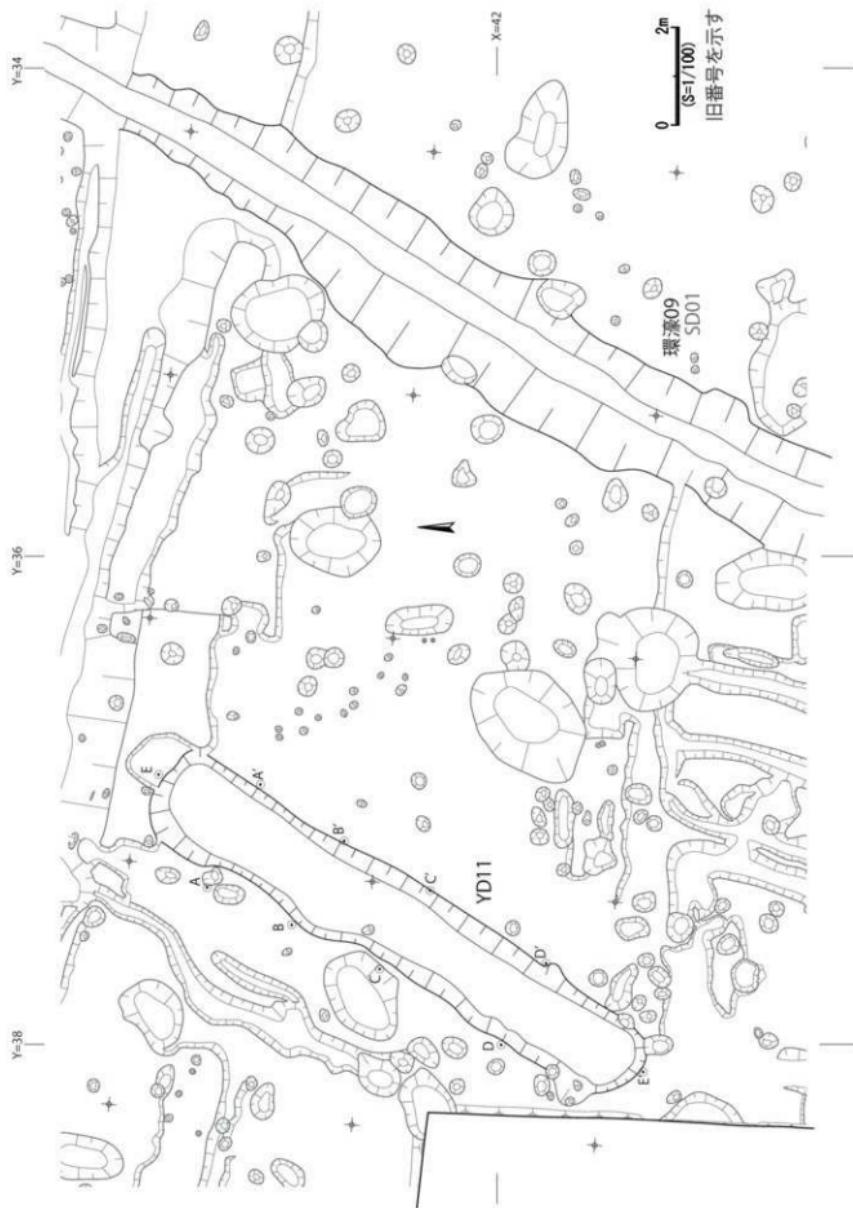
第51図 8地区 全体図 (1/200)



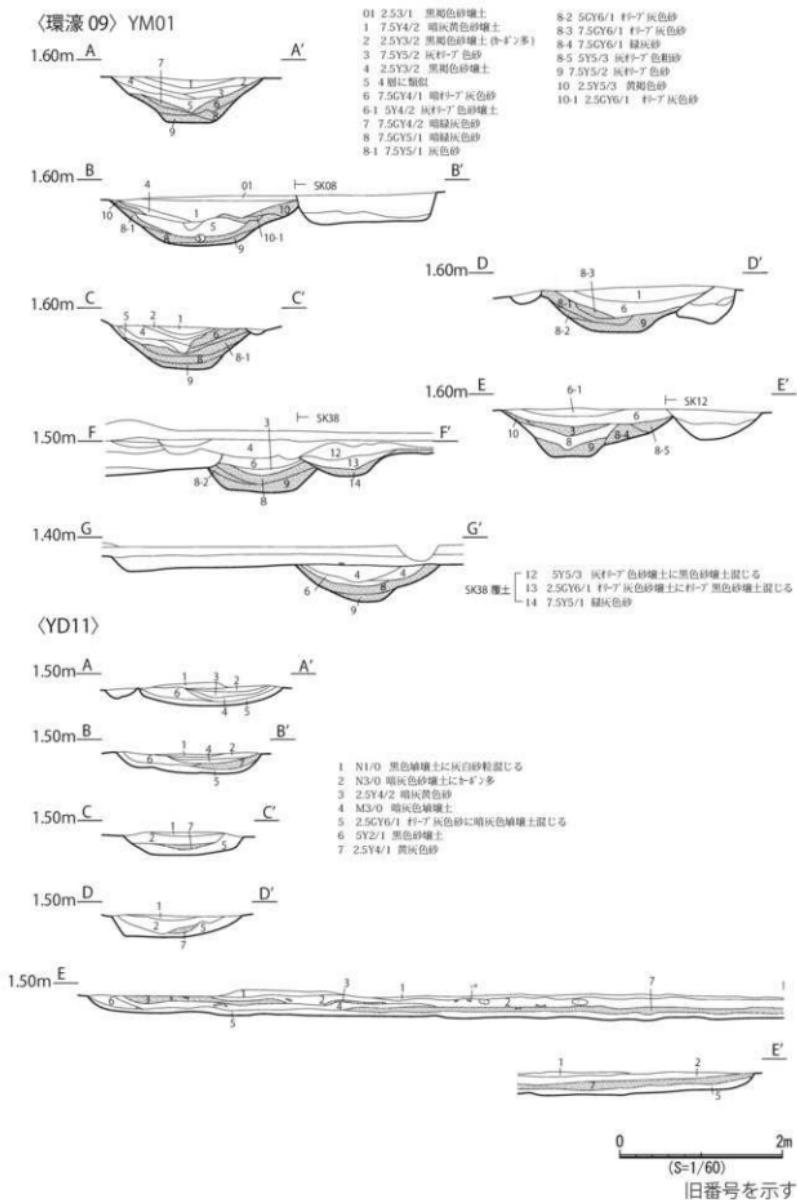
第52図 8地区 弥生時代遺構抽出図 (1/200)



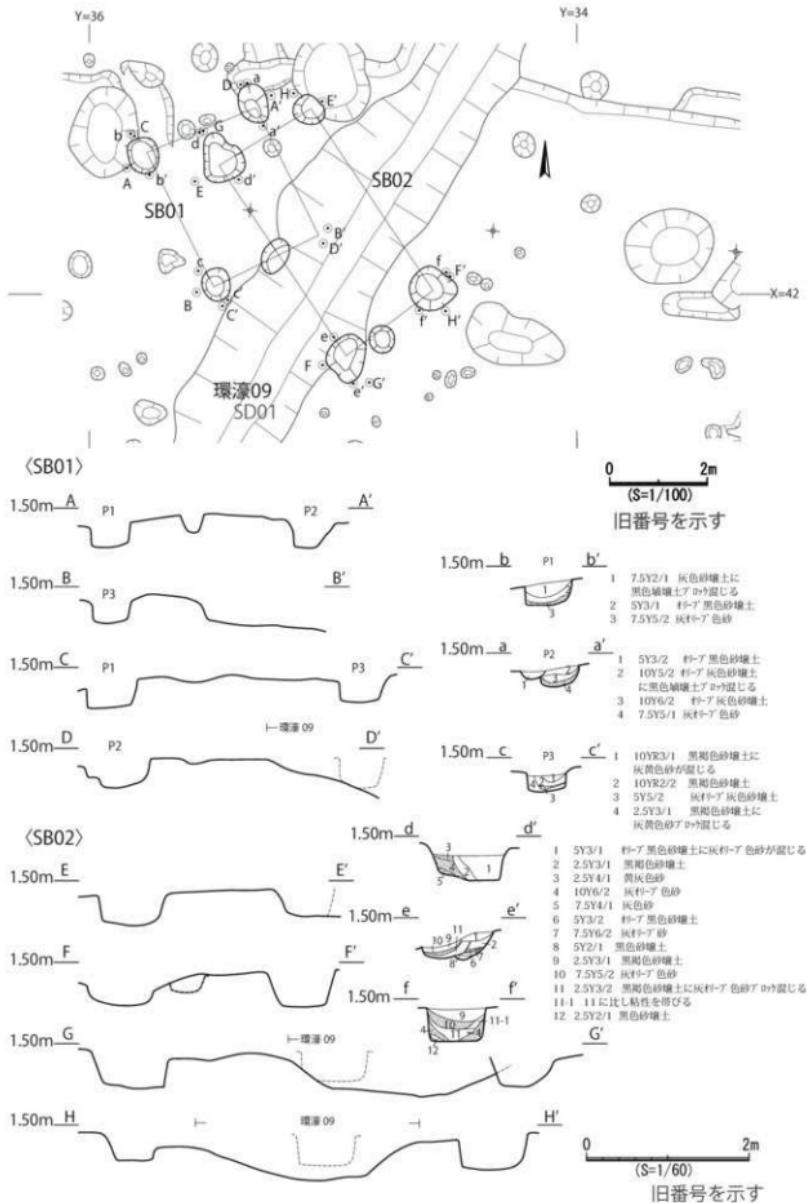
第53図 8地区環藻09平面図(1/100)



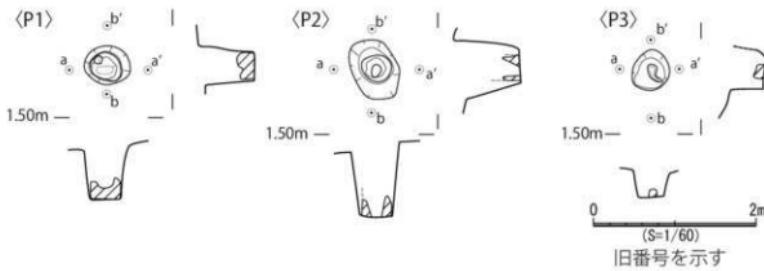
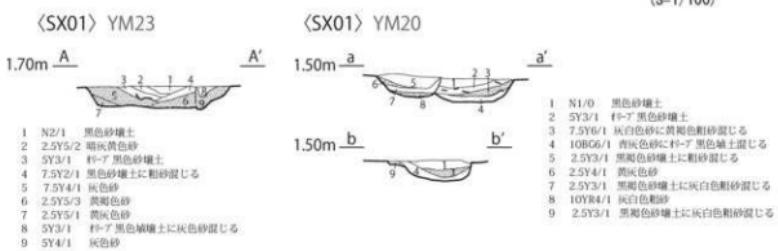
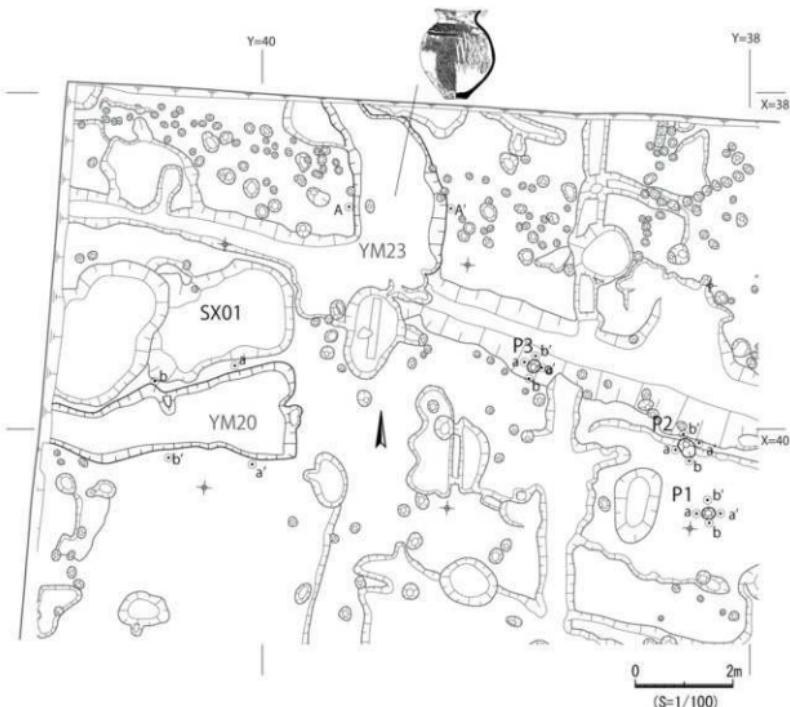
第54図 8地区 YD11 他平面図 (1/100)



第55図 8地区環濠09,YD11断面図(1/60)



第 56 図 8 地区 SB01,02 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第 57 図 8 地区 SX01 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

## 第5節 18・20地区

### 1. 調査区の概要

18地区は平成9年度に2,080m<sup>2</sup>を調査実施しており、20地区は平成12年度、調査最終年に2,350m<sup>2</sup>を対象に調査実施している。いずれも国土地標を利用して統一グリッドを設定し、手実測による平面図化作成を行っている。

なお、本節では平成8年度に15地区として160m<sup>2</sup>を対象とし調査実施した箇所があり、15地区報告箇所より20地区北側に隣接することから、合わせて報告する。

### 2. 遺構の概要

#### 1) 18地区

調査区は細く伸びる調査箇所に合わせ搅乱を受けており、SX07は途切れた状態での発見となっている。環濠08以南は墓域のみの空間であり、相対的に土器の出土も少ない。

検出した主な遺構は、環濠08、方形周溝墓12基、複数の土坑、掘立柱建物3棟がみられる。

環濠08は、環濠09に類似した堆積層であり、中層から出土する土器も八日市地方8期と同様である。後世に至るまで中層上位は埋まりきっておらず、環濠機能時に造墓が行われている可能性が高く、環濠を利用して展開するものと思われる。方形周溝墓の形状は隅円方形または長方形状を呈し、16mを超える大型のSX07は2隅もしくは3隅の陸橋部をもつと考えられる。唯一、SX01からは主体部痕跡が発見されている(第60図)。木棺痕跡から小口・側板とも掘り込む組合せ木棺である。北側隅には、石が1点見つかっており、木棺の調整のためであろうか。

方形周溝墓の時期はSX07は6~7期ともっとも古く、SX01、02、06、09は7期に該当する。これらを切る形で造墓するSX03、08は8期に相当する。SX11、12は供献土器は出土していないが、おそらく6期から7期の範疇に収まるものと思われる。総じてSX01~SX12は集落II期に該当する。また、SD09、13、14、18は周溝ないし土坑墓と考えられ、SD09からは、8期相当の土器が出土している。

なお、調査区北側は生活域と重なりを示すところからSD03、05等溝が発見されており、方形周溝墓の可能性が考えられる。SD03は集落III期の土器が出土している。

掘立柱建物は、1間×1間として現地調査で確認されており、木柱根は残存しない。柱穴から良好な土器の出土がみられないため、詳細な時期比定はできないが、周囲の土坑からは7期~8期の土器が出土していることから、概ね集落II期に該当するものと思われる。

#### 2) 20地区

調査区は全体的に耕地整理後の搅乱を受けており、決して良好な状況ではない。出土土器はパンケースで4箱と面積の割りにもっとも少ない調査区である。

検出した遺構は、環濠08、方形周溝墓17基、土坑墓7基である。四隅に陸橋部を有するSX14は当調査区で八日市地方6~7期ともっとも古い時期に位置づけられ、同様な時期の供献土器が出土するSX16も同じ形状を有する可能性が高い。SX14は当初、上層である1層相当の黒色埴壙土のみが埋土であると判断していたが、遺構確認面に断ち割りをいたれたところ、類似した崩壊砂が埋まっていることが分かったものである(第71図参照)。最下底面及び上層を除き砂堆積であることがわかり、当調査区のなかでも掘り込みの深い方形周溝墓であることがわかる。

方形周溝墓の時期は、SX14~16は6~7期に該当し、SX07は7期、SX01、04、05、13、17は集落III期に該当する。SX06~08、12は集落III期の墓に切られるため、概ね集落II期と思われる。

SX09、10、11は良好な土器資料に恵まれておらず時期は不明瞭であるが、おそらく集落II期の範囲に収まるものと思われる。SX02からは、搅乱を受けながらも唯一木棺が残存していた主体部があり、小口を発見することができた。木棺痕跡から小口・側板とも掘り込まれる組合せ木棺である。また、光谷拓実氏の御好意で2003年度に年輪年代測定を行っている。別分冊で報告するものとしたい。

SX05は15地区と20地区に跨り確認された方形周溝墓である。SX05、08付近は遺構確認面も高く良好に遺構が残存している箇所にあたる。15地区調査区南側で発見されたSK02は、20地区と合成することできょうどSX05墳丘中央にあたることがわかる(第75図参照)。土層は土坑下底面が平坦且つ掘り方と思われる8層がみられることから、主体部の可能性が高いものとして考えたい。

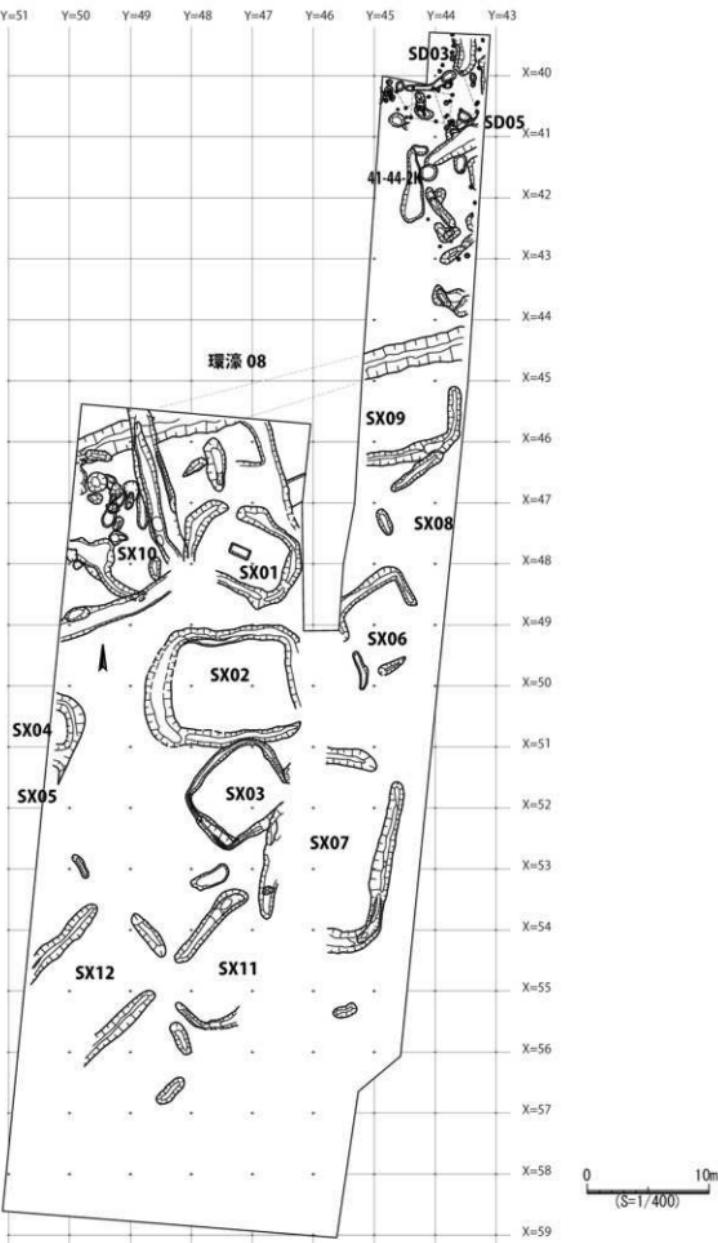
環濠08は、15地区調査区が18地区で確認された環濠08との関係を示す重要な箇所となるが、調査記録の中では狭小な調査範囲であることからも不明瞭である。ただ、SX05北溝は南溝より浅く、Cアゼの切り合いからも(第74、75図参照)おそらく本流の流れとしては、20地区を北東から南西へと流れる溝と同一の可能性が高いものとして、本節では報告するものとする。

20地区で確認された環濠08は、集落II期相当の墓の溝を連結するよう掘削した溝で、集落III期の墓は環濠08を利用した形で造墓を行ったものと考えている。換言すると、集落II期(6~7期相当)造墓→環濠08掘削→その形状を利用した集落III期相当の増墓となる。図版は、墓ごとの報告に合わせて行っているが、墓に伴わない箇所(第77図dアゼ)は浅く、集落II期の墓の掘削を再利用している様子が伺われる。

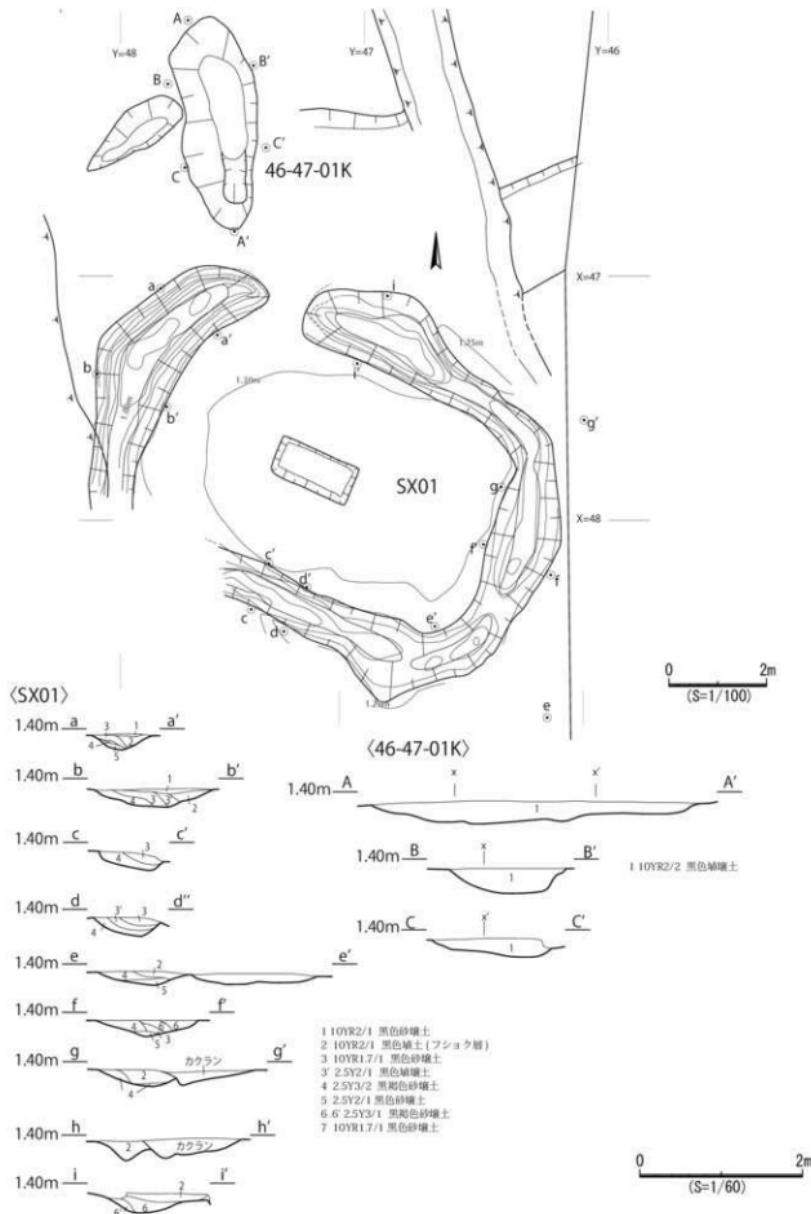
土坑墓と考えられるものは、SK01~07で、SK01、02はSX04付近(第76図参照)、SK03~07はSX01に付随する形でみつかっている。いずれも、土器等遺物の出土ないため、明確な時期比定はできないが、おそらくSX04、SX01と同様の集落III期に該当するものと思われる。



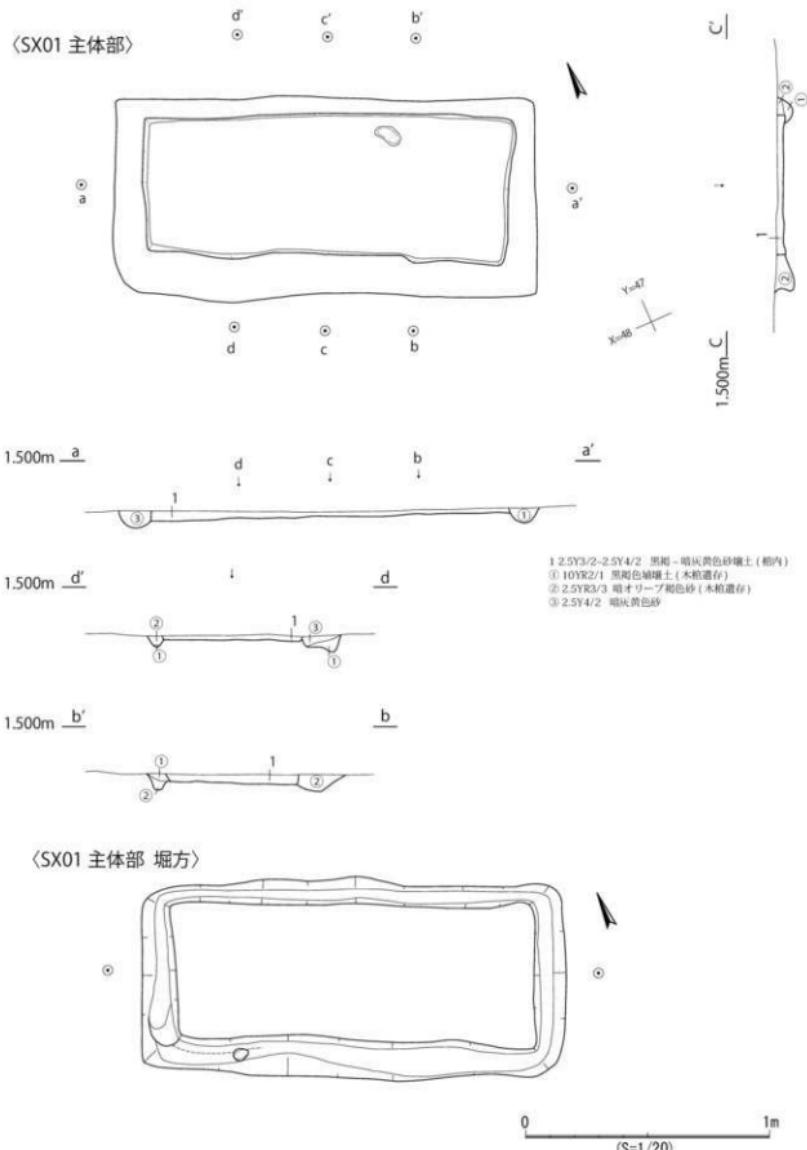
18地区調査区全景(北から)



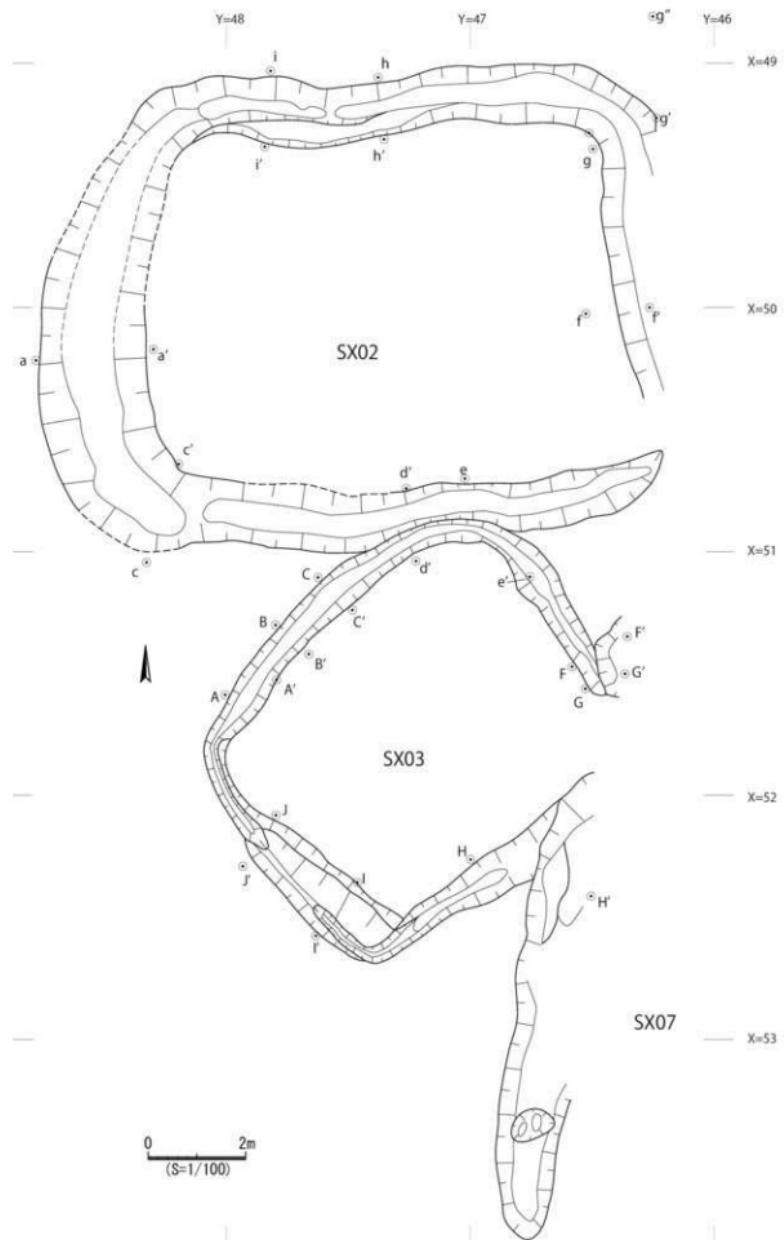
第 58 図 18 地区全体図 (1/400)



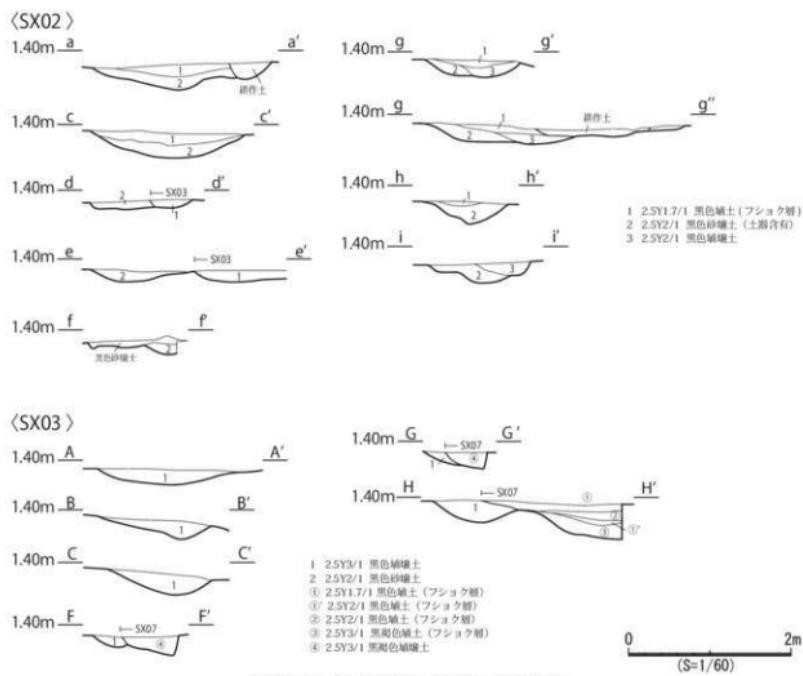
第59図 18地区 SX01 平面図(1/100), 断面図(1/60)



第60図 18地区 SX01 主体部平面図及7F断面図(1/20)



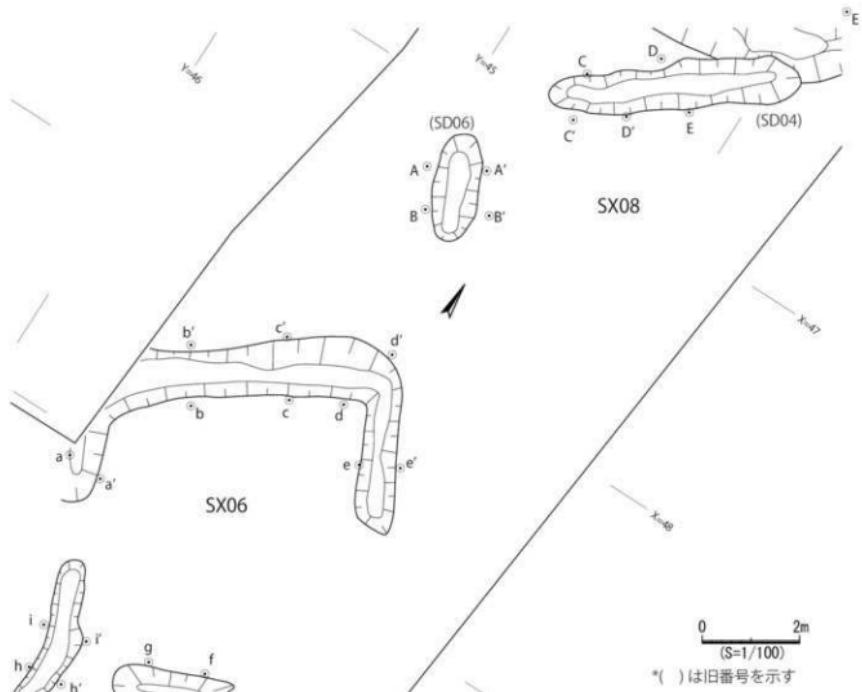
第 61 図 18 地区 SX02,03 平面図 (1/100)



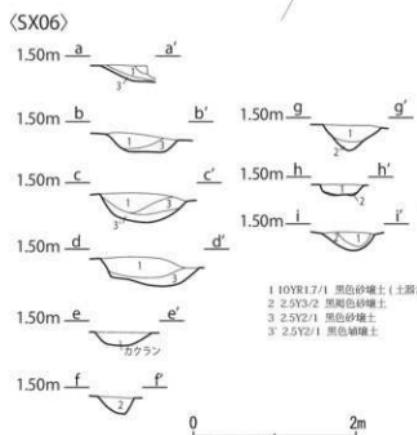
第62図 18地区 SX02,03断面図 (1/60)



SX03・SX07 西溝を 北東から望む

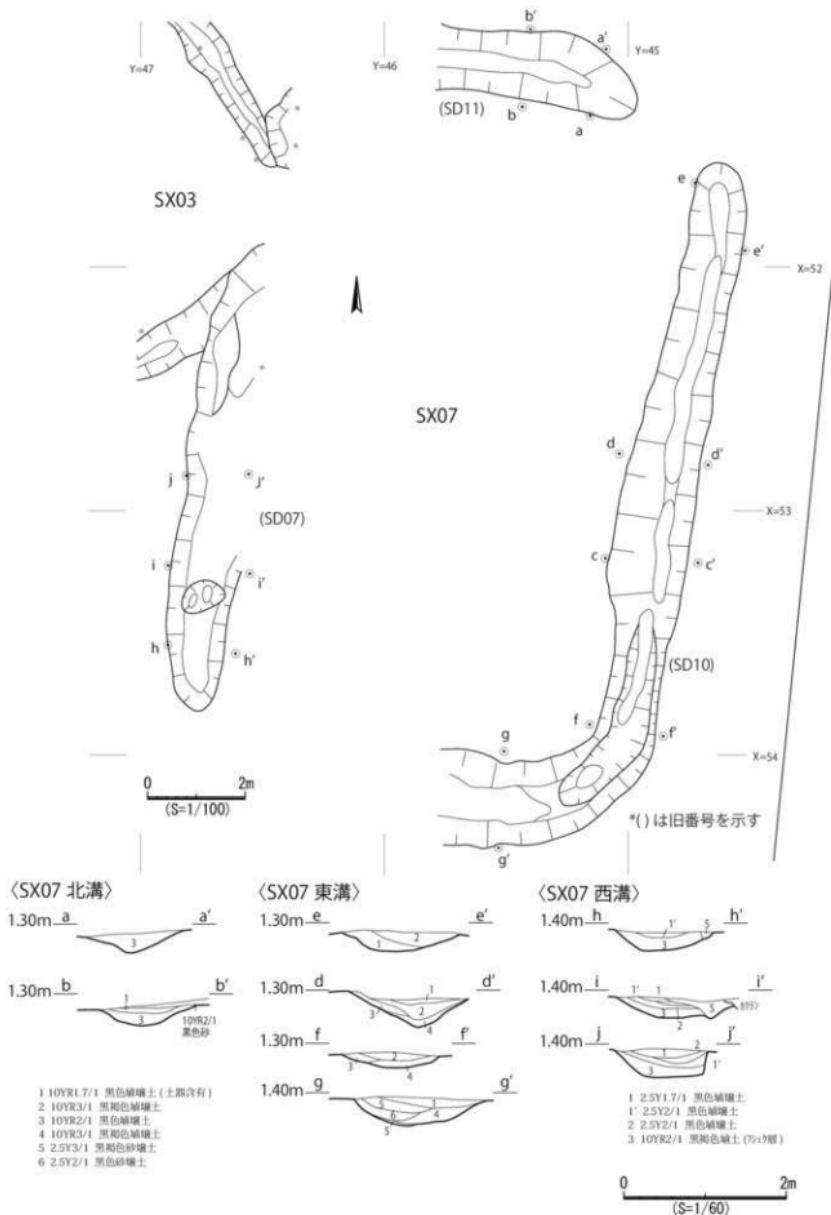


〈SX08 西漢〉



第63図 18地区 SX06.08 平面図(1/100), 断面図(1/60)

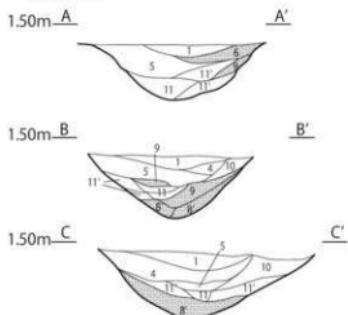
|                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 1 10YR1/1 黑色砂壤土    | 6 10YR3/1 黑褐色砂壤土 (土器含有) |
| 2 10YR2/1 黑色粘壤土    | 7 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土        |
| 3 10YR1.7/1 黑色砂壤土  | 8 2.5Y4/2 噪灰黄色砂         |
| 3' 2.5YR3/2 黑褐色砂壤土 | 9 2.5YR2/1 黑色粘壤土        |



第64図 18地区 SX07 平面図(1/100), 断面図(1/60)

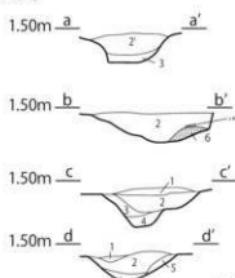


&lt;環濠 08&gt;



- 1 2.5Y2/1 黒褐色土
- 1' 2.5Y2/1 黒褐色細粒土
- 2 2.5Y2.5/1 黒褐色砂礫土 (フショク層)
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 3' 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 4 2.5Y3/2 黒褐色砂礫土
- 5 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土
- 6 2.5Y3/2-4/1 黑褐色 - 噴灰黃色砂 (粗砂)
- 8 2.5Y3/1-4/1 黑褐色 - 噴灰黃色砂 (粗砂)
- 9 2.5Y4/2 噴灰黃色砂
- 10 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土
- 11 2.5Y2/1 黑褐色土 (フショク層)
- 11' 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土

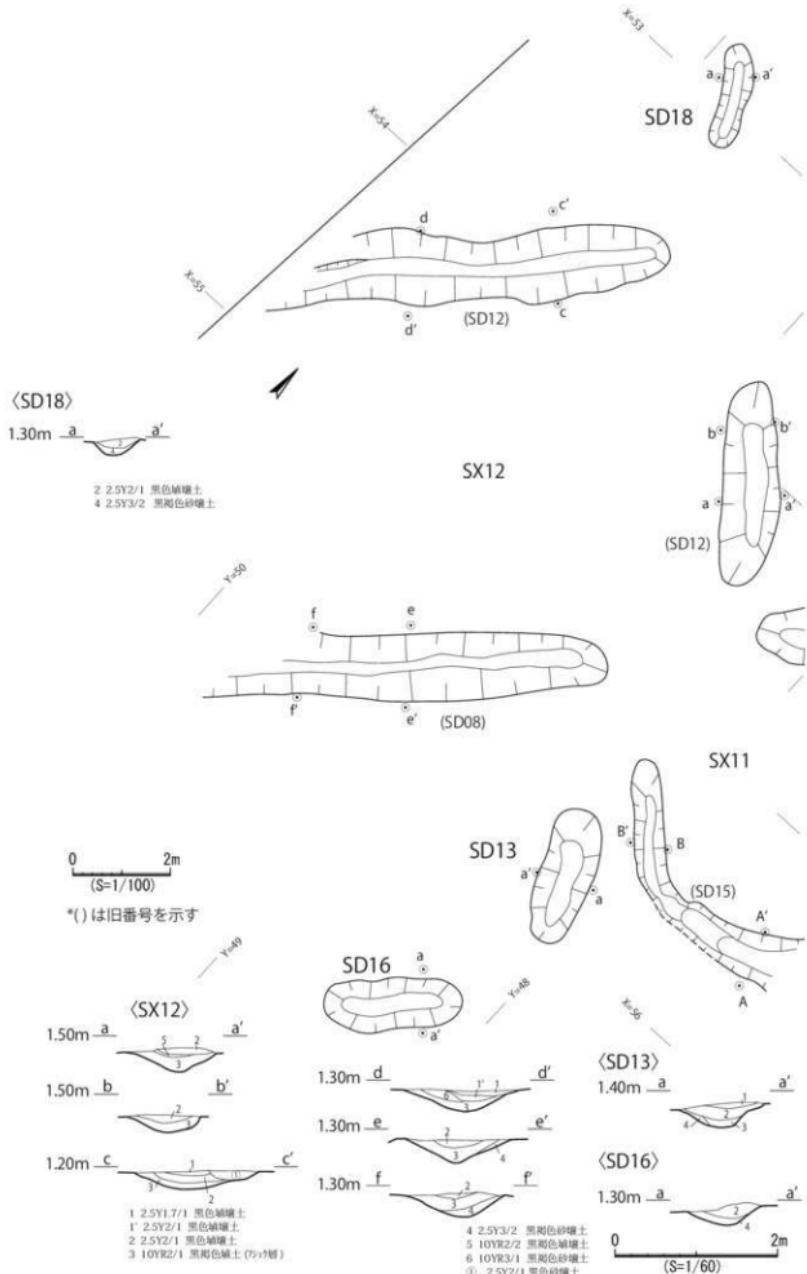
&lt;SX09&gt;



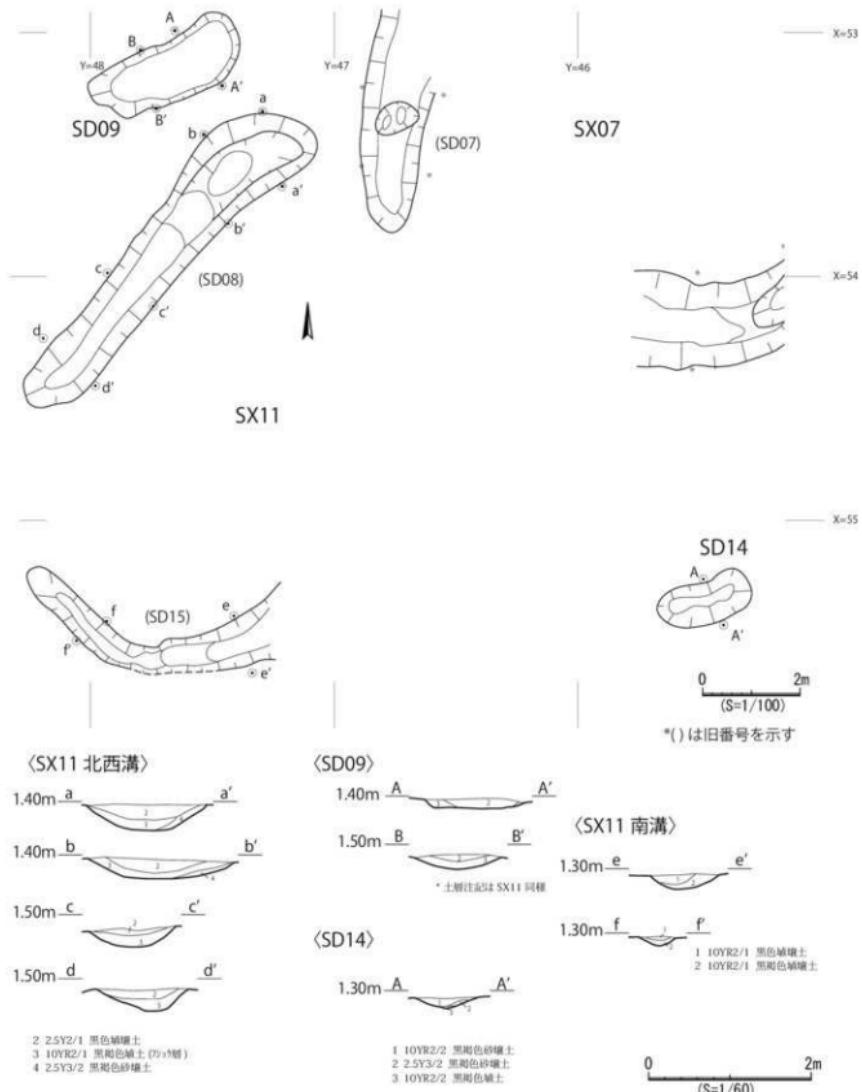
- 1 10YR1/1 黑色砂礫土
- 2 10YR2/1 黑色積層土
- 2' 10YR2/1 黑色積層土 (カーボン含有多)
- 3 10YR1.7/1 黑色積層土
- 4 2.5Y2/1 黑色的積土
- 5 10YR1/1 黑色積層土
- 6 2.5/4/2 噴灰黃色砂

0      2m  
(S=1/60)

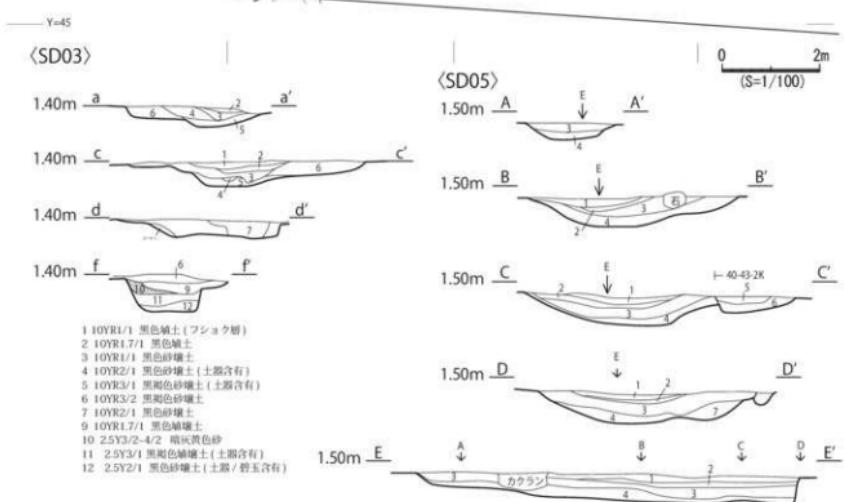
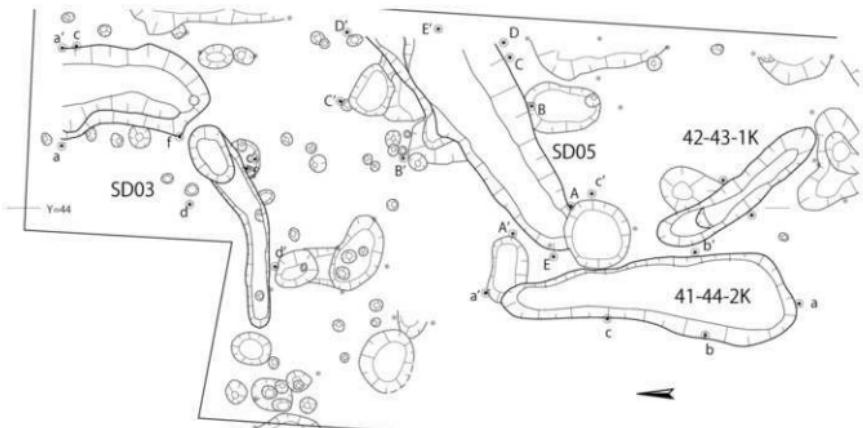
第 65 図 18 地区 環濠 09, SX09 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



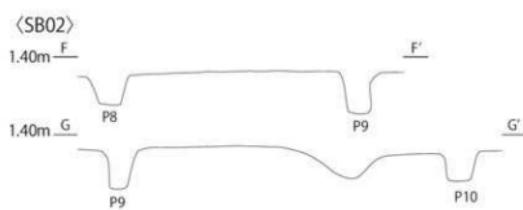
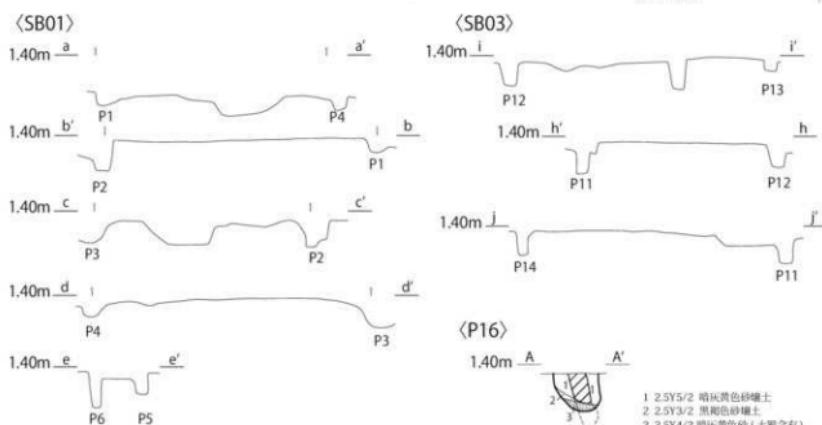
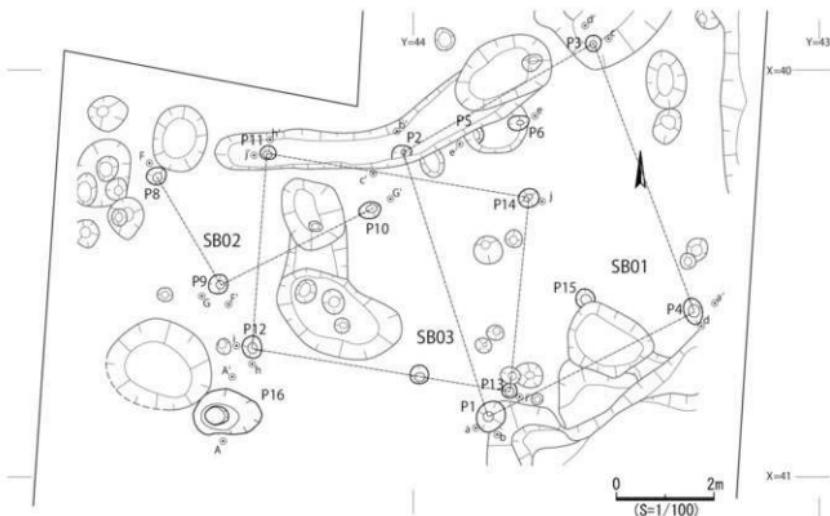
第 66 図 18 地区 SX11,12 他平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第67図 18地区 SX07,11他平面図(1/100),断面図(1/60)

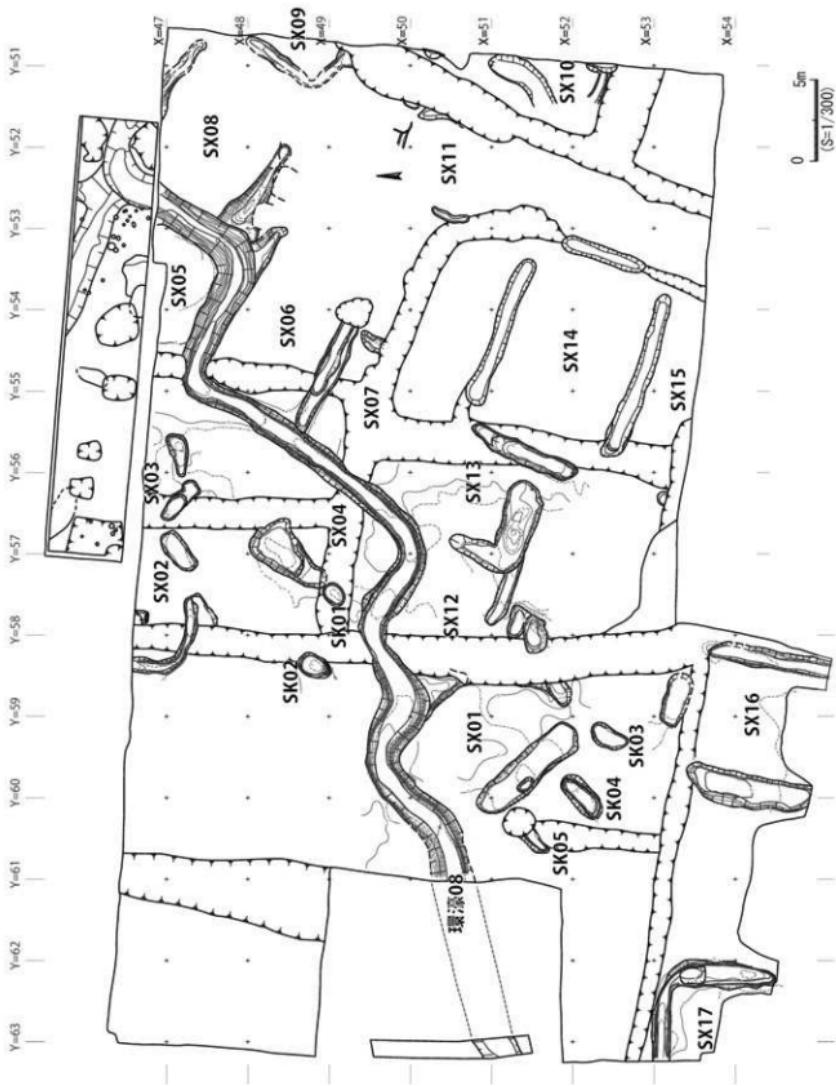


第68図 18地区 SD03,05他平面図(1/100),断面図(1/60)

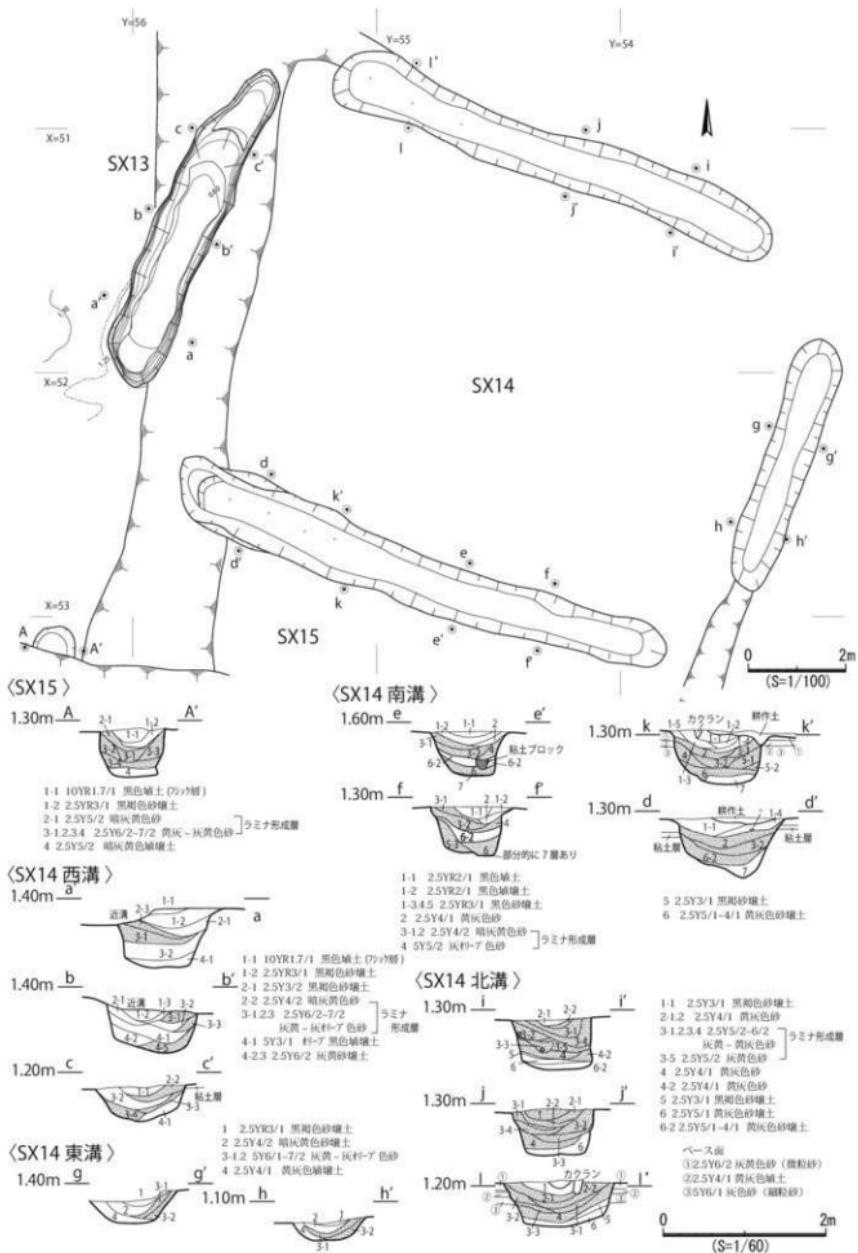


- \*P1=40-43-6P(旧番号)
- P2=40-44-8P(旧番号)
- P3=39-43-4P(旧番号)
- P4=40-43-5P(旧番号)
- P5=40-44-5P(旧番号)
- P6=40-44-6P(旧番号)
- P8=40-44-9P(旧番号)
- P9=40-44-10P(旧番号)
- \*P10=40-44-13P(旧番号)
- P11=40-44-15P(旧番号)
- P12=40-44-15P(旧番号)
- P13=40-43-9P(旧番号)
- P14=40-43-10P(旧番号)
- P15=40-43-9P(旧番号)
- P16=40-44-16P(旧番号)

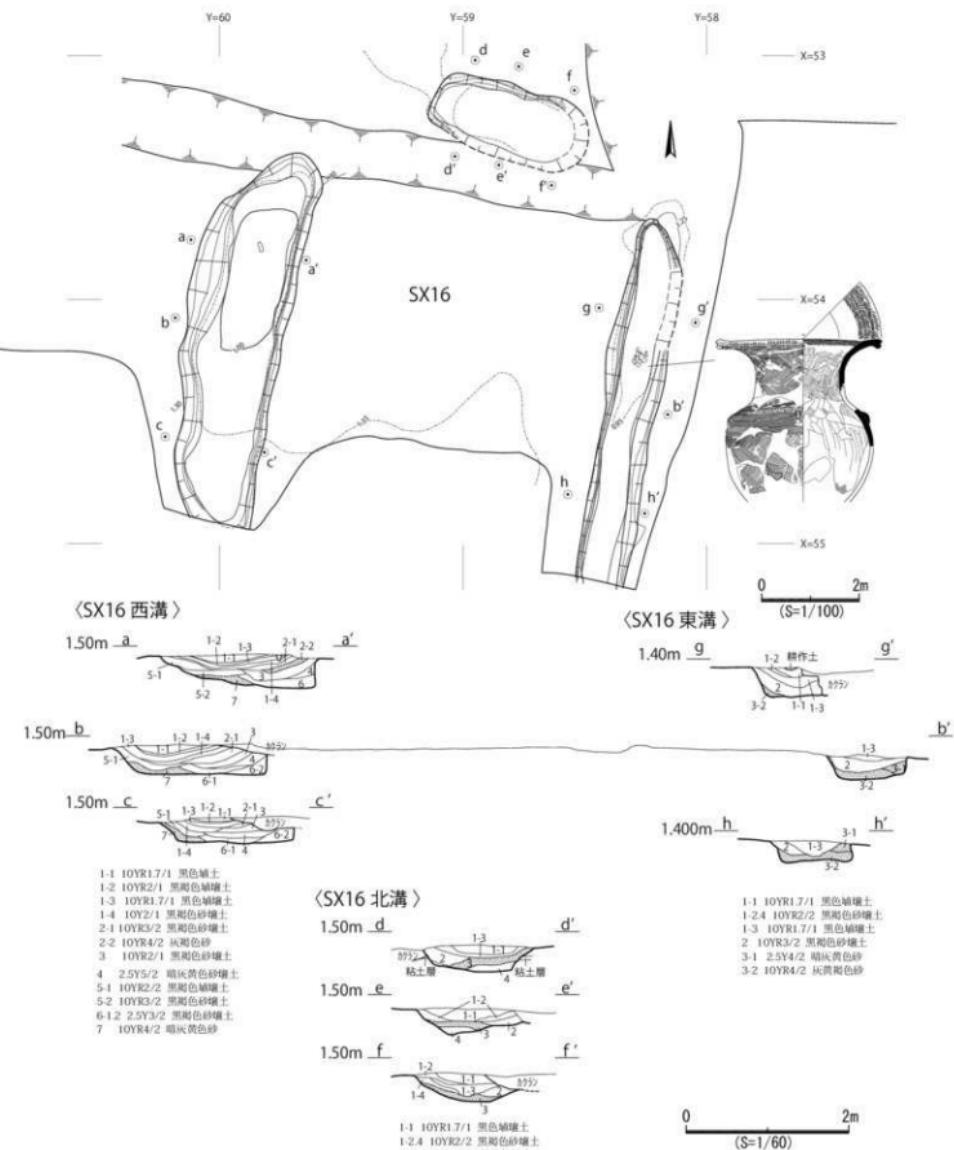
第69図 18地区 SB01,02,03 平面図 (1/100), エレベーション図 (1/60)



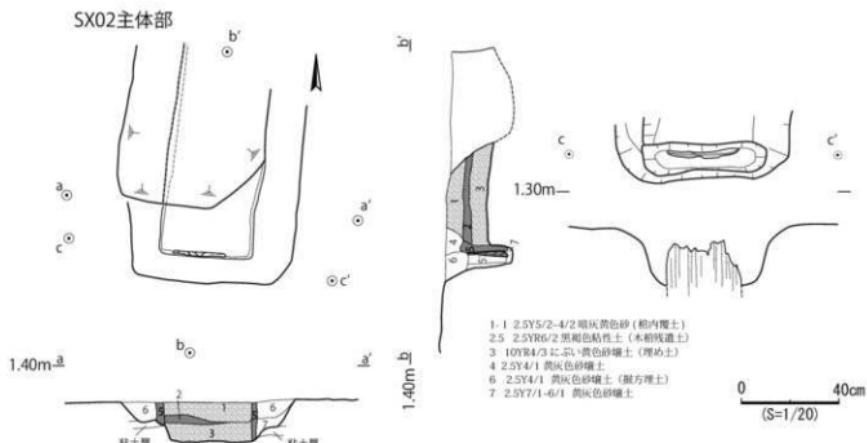
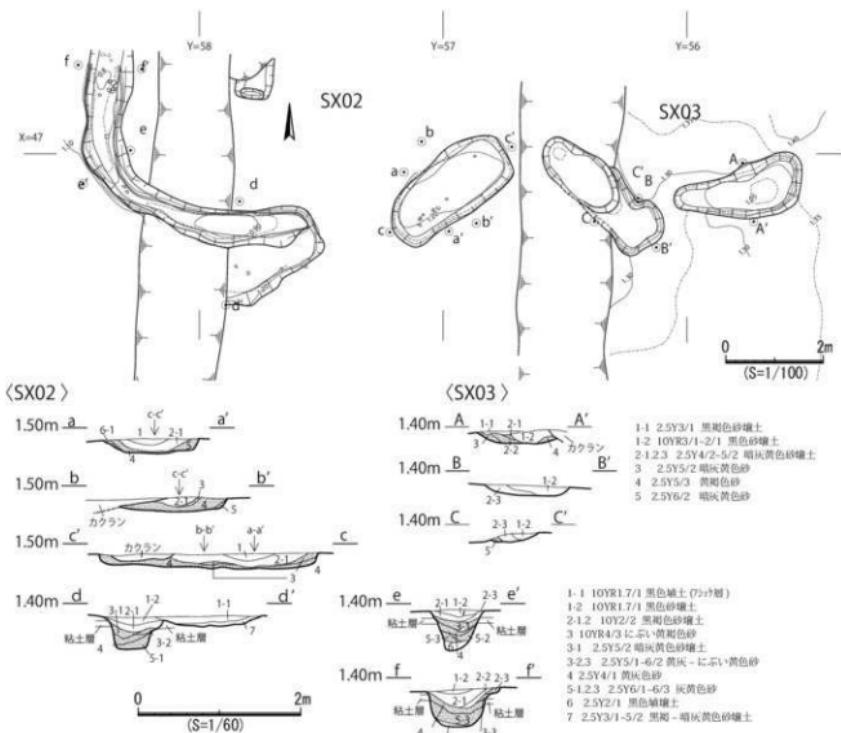
第70図 20地区 SD03,05他全体図 (1/300)



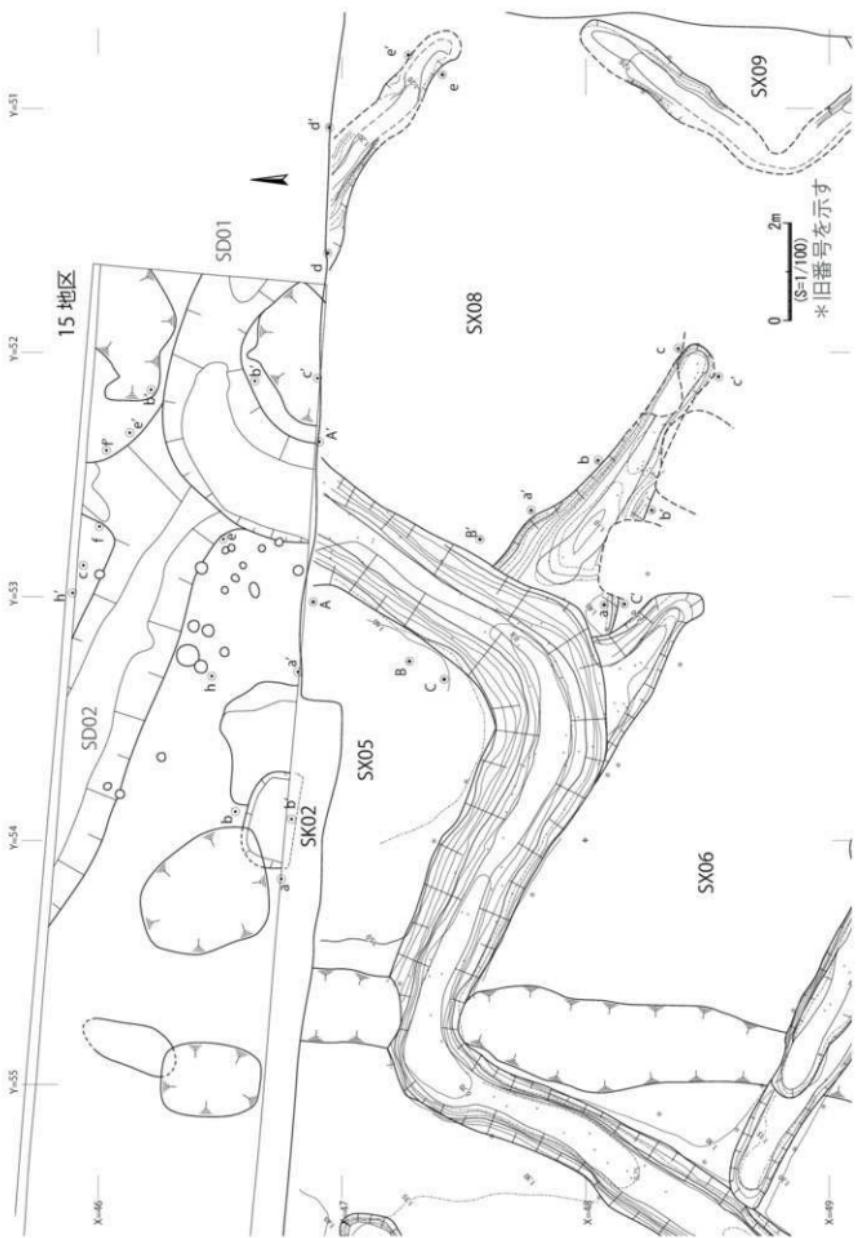
第71図 20地区 SX14 平面図(1/100)、断面図(1/60)



第 72 図 20 地区 SX16 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

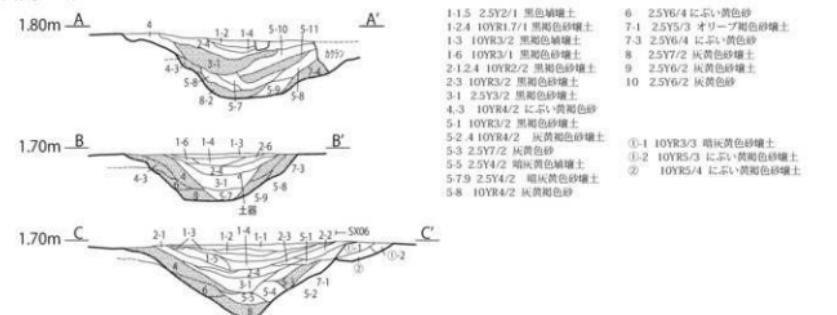


第73図 20地区 SX02.03 平面図(1/100), 断面図(1/60).SX02 主体部平面図及び断面図(1/20)

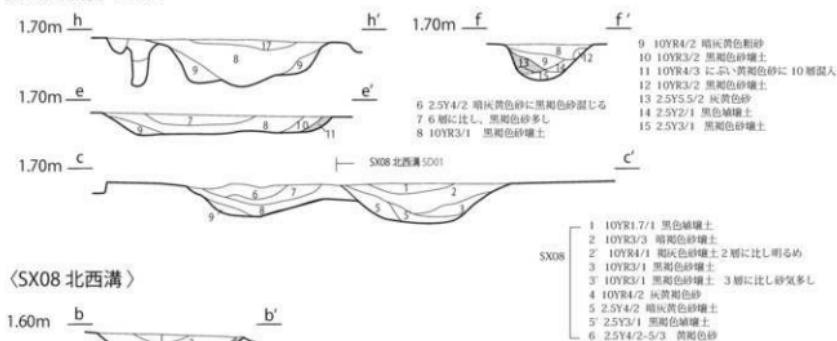


第74図 20地区 SX06,08 平面図 (1/100)

### 〈環濠 08〉



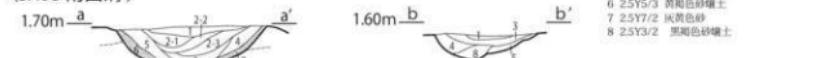
### 〈SX05 北溝〉 SD02



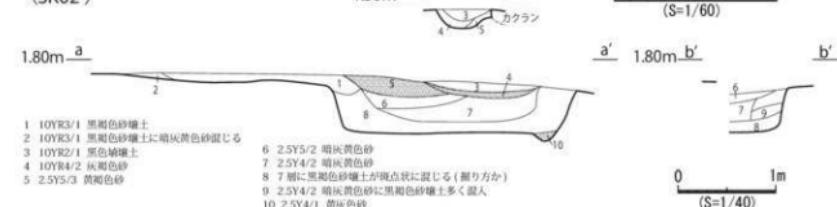
### 〈SX08 北西溝〉



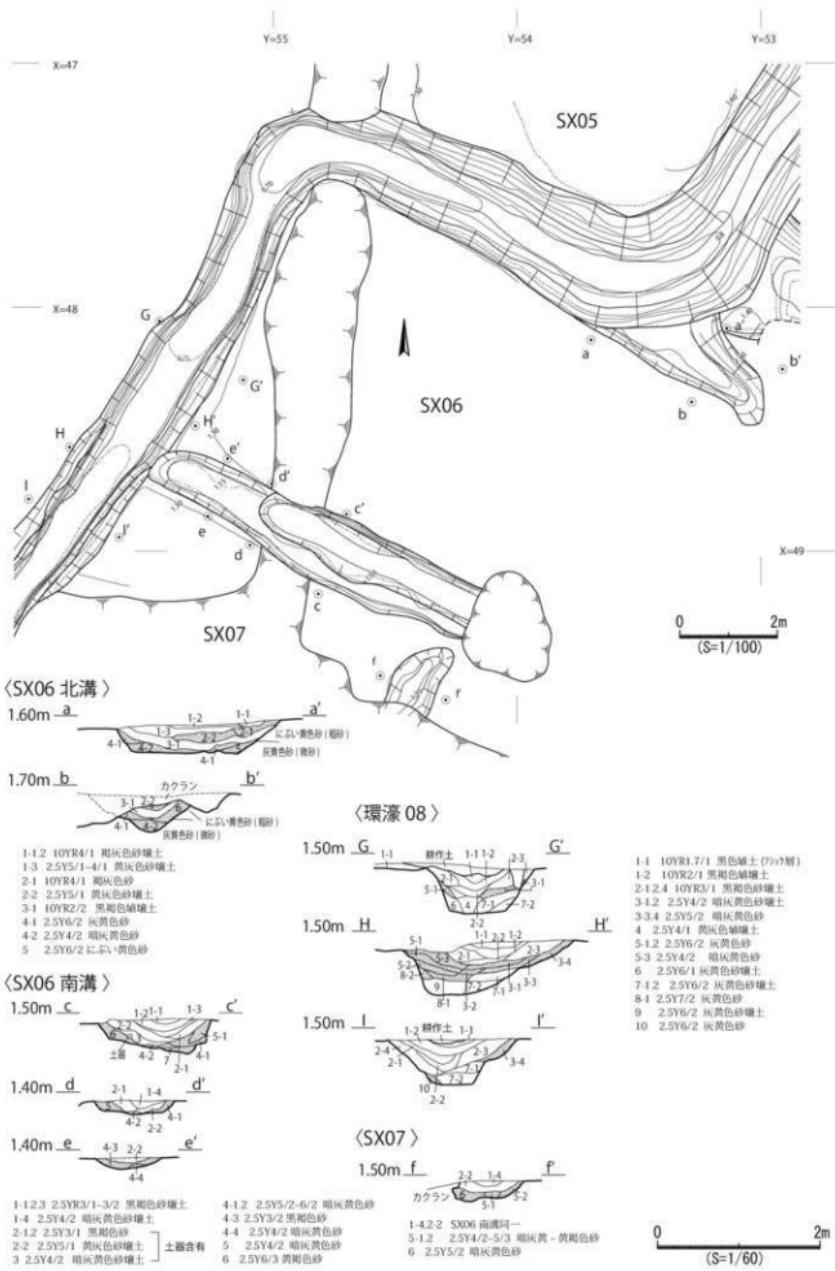
### 〈SX08 南西溝〉



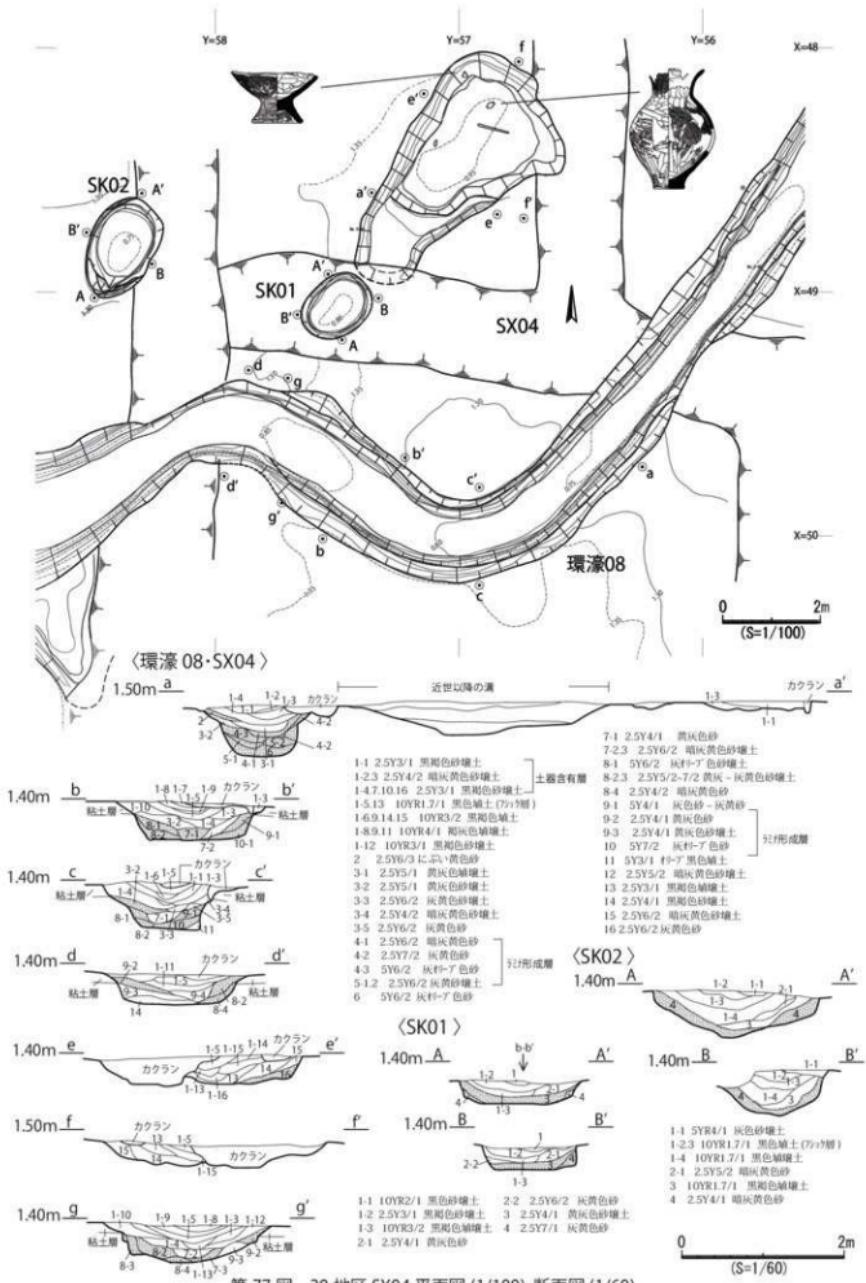
### 〈SK02〉



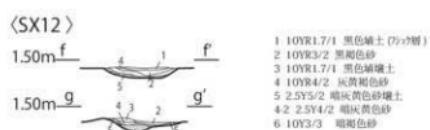
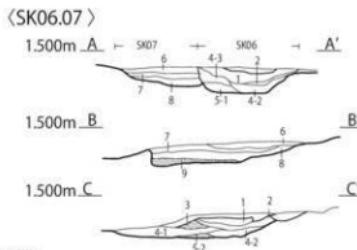
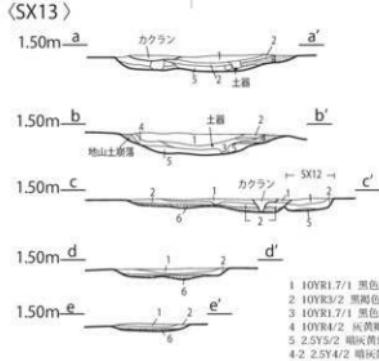
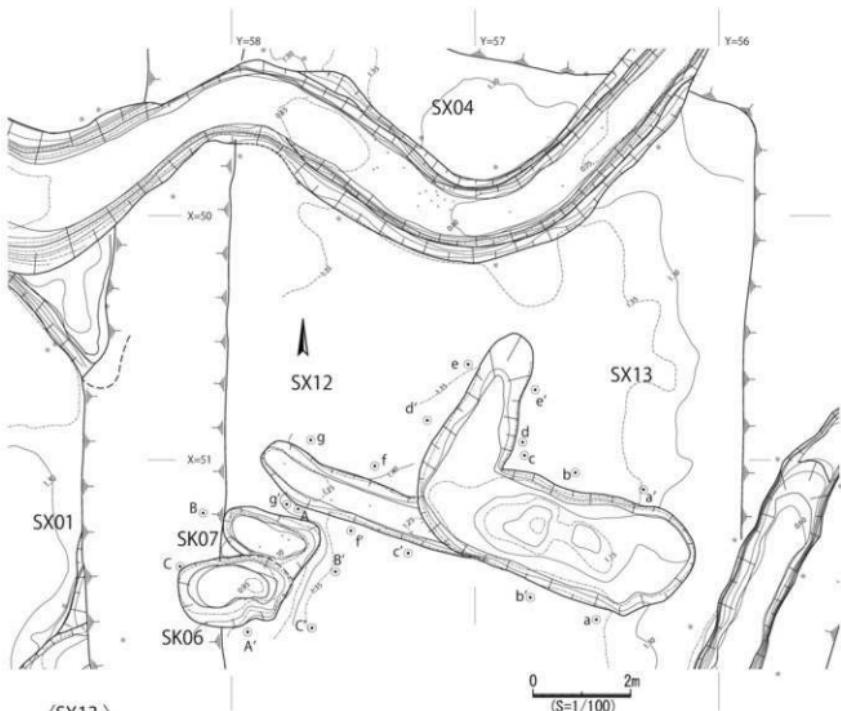
第 75 図 20 地区 SX06,08 断面図(1/60),SK02 断面図(1/40)



第 76 図 20 地区 SX06,07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

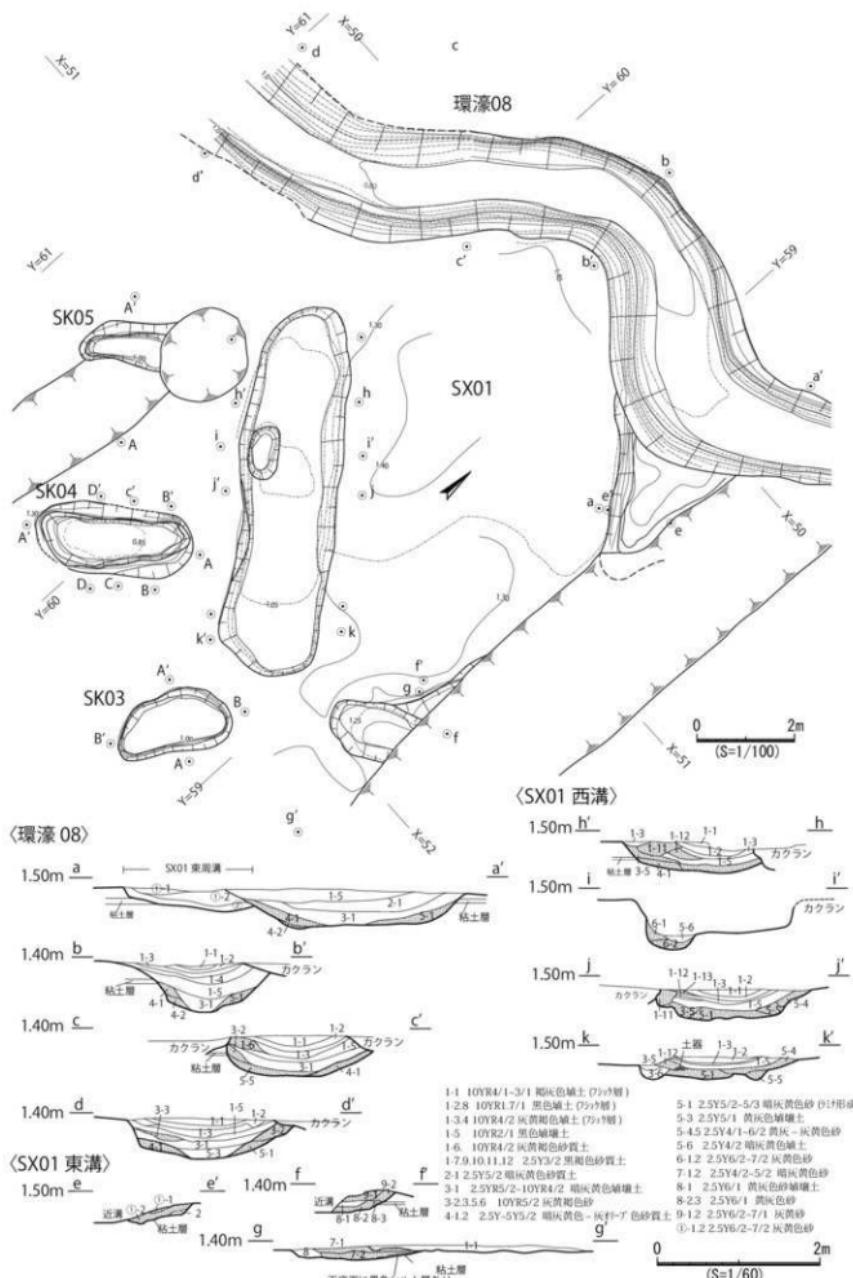


第77図 20地区 SX04 平面図(1/100), 断面図(1/60)

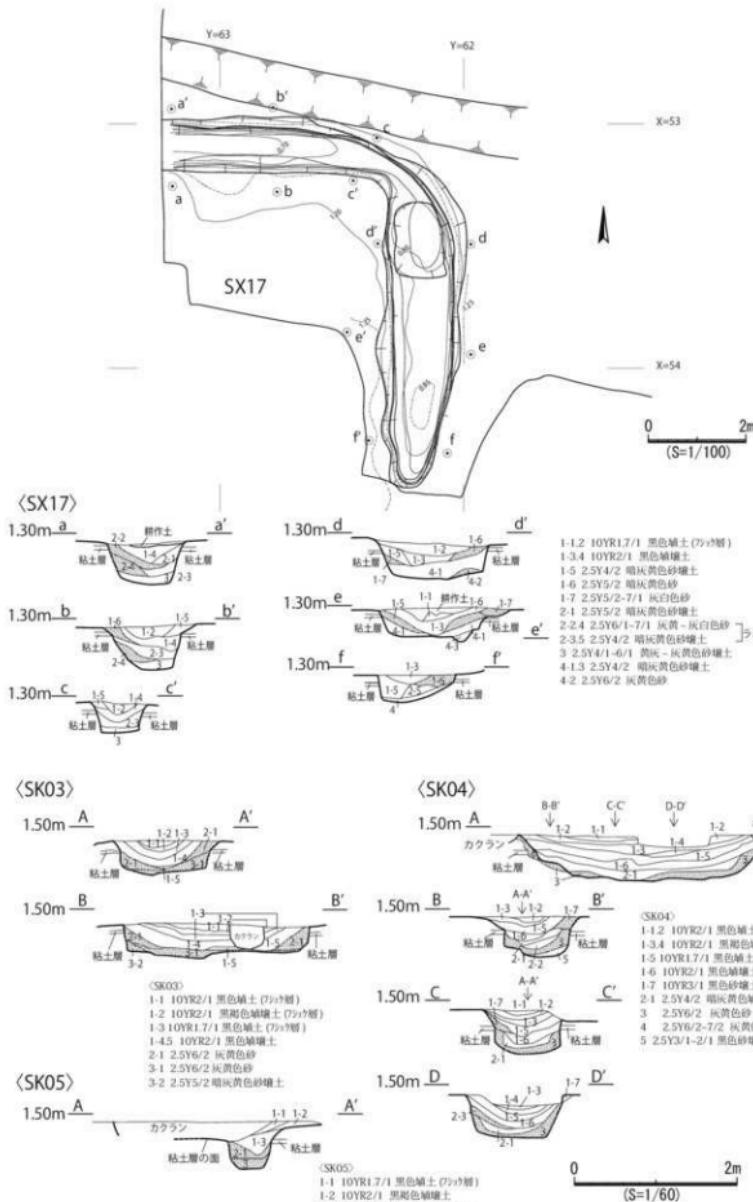


0 2m (S=1/60)

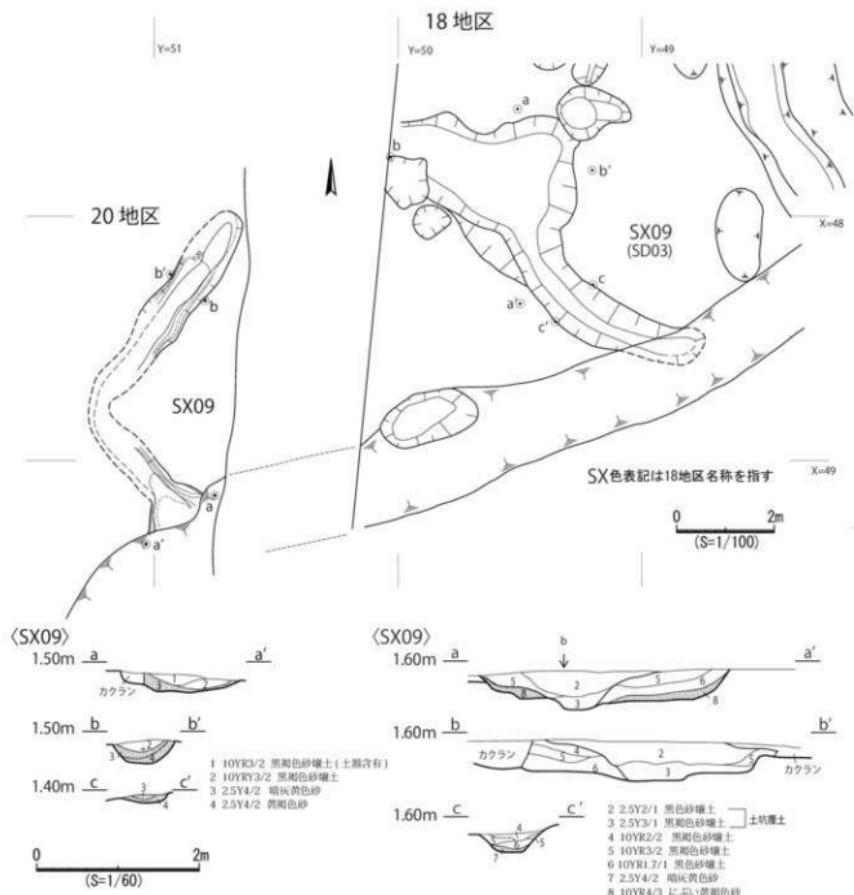
第78図 20地区 SX12,13他 平面図(1/100),断面図(1/60)



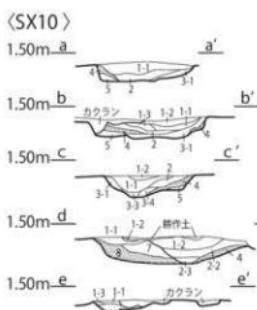
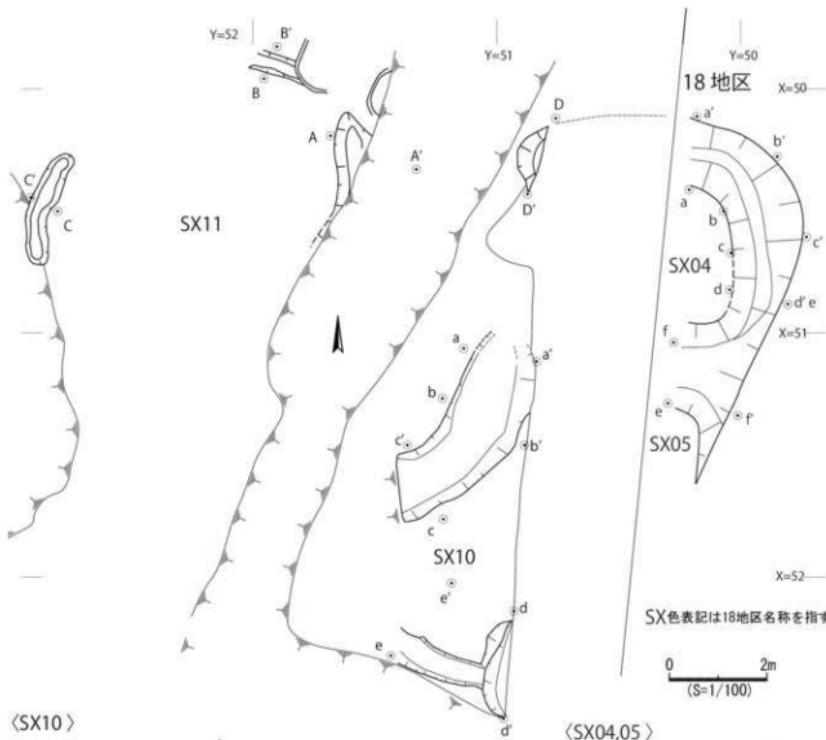
第79図 20地区 SX01他平面図(1/100)、断面図(1/60)



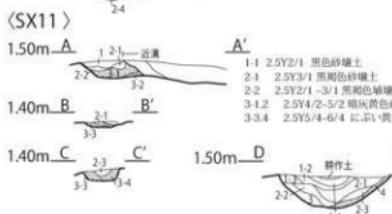
第80図 20地区 SX07 平面図(1/100), 断面図(1/60)



第 81 図 18 地区 SX09, 20 地区 SX09 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



- 1-1 2.5Y2/1 黑色砂壤土
- 1-2 2.5Y1/1 黑色粘土
- 2 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土
- 2-2,3 2.5Y2/1-3/2 喀灰黑色砂壤土 [ 土器含有 ]
- 3-1,4 2.5Y3/1-4/1 黑褐色砂壤土
- 4 2.5Y4/2-5/2 喀灰黄色砂
- 5 2.5Y4/1-3/1 黄灰
- 6 2.5Y4/1-3/1 黑褐色砂壤土
- 7 2.5Y4/1 黄灰色砂
- 8 2.5Y4/1 黄灰色砂



第 82 図 20 地区 SX04,05,10,11 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

## 第6節 17地区

### 1. 調査区の概要

17地区は平成7年度に440m<sup>2</sup>、平成8年度550m<sup>2</sup>、平成9年度17、21地区2,530m<sup>2</sup>を調査実施している。いずれも任意のグリッドを設定し、航空測量図化を行っている。

### 2. 遺構の概要

調査区は近世以降の畦畔が南北に走るが、概ね良好な状態で見つかっている。検出した主な遺構は、環濠01～06の6条、方形周溝墓17基、複数の土坑、掘立柱建物1棟、方形周溝墓もしくは平地式建物周溝と思われる遺構2、樹皮製曲げ物を利用した井戸等である。

方形周溝墓はSX02～07、17、18からは供獻土器が出土しており、集落Ⅲ期に相当する。SX01、09、11～14は、明瞭な供獻土器はないが概ね集落Ⅱ期相当と思われる。SX10及びSX16は、他の墓の周溝と比し不定形な溝であり、平地式建物になる可能性がある。SX10周溝内土坑C8-01-Kは、炭だまり土坑である。両者とも概ね集落Ⅲ期である。

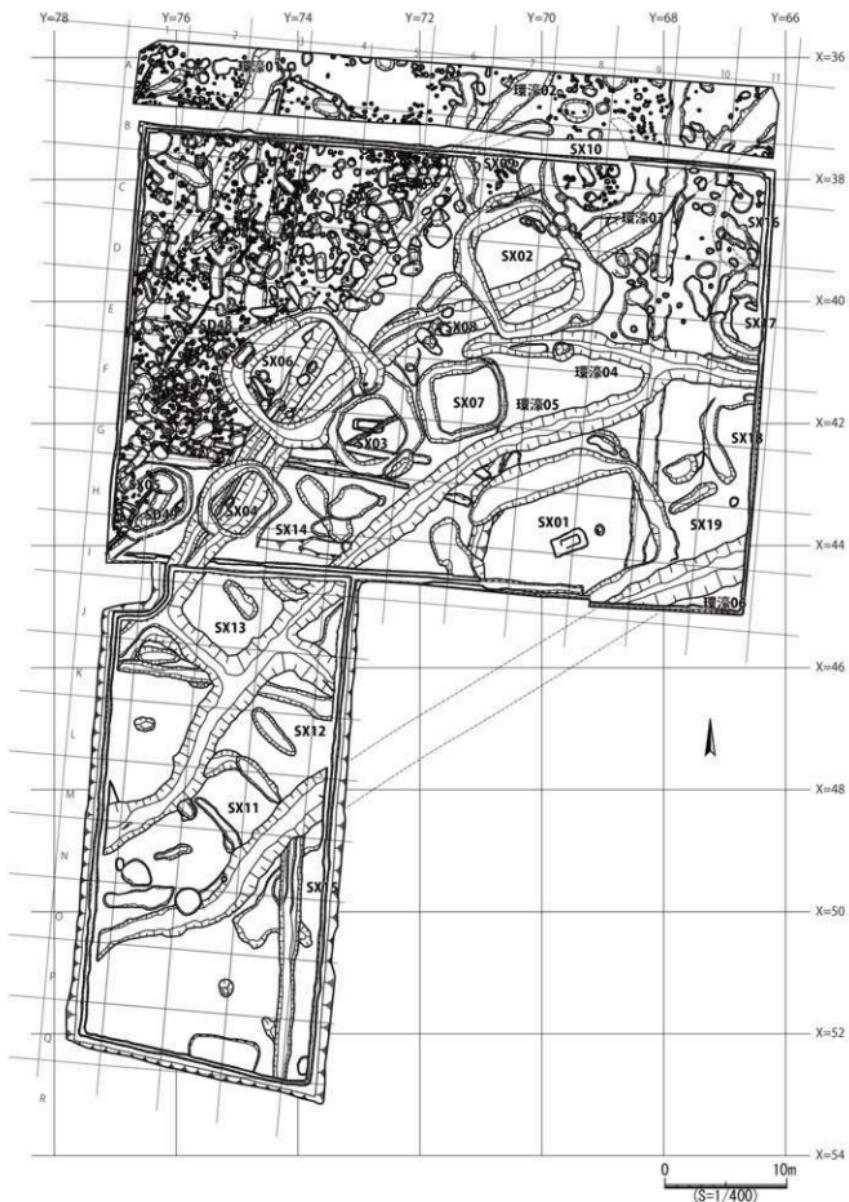
方形周溝墓の形状は隅円方形または長方形状を呈し、14mを超える大型のSX01は1隅の陸橋部をもつと考えられる。また、主体部上方にピットが1つみつかっており、中から大型木製部材や匙など多数みつかっている。主体部痕跡はSX01(第89図)、SX03(第94図)の2基がある。SX01主体部は木棺痕跡から小口・側板とも掘り込まれない組合せ木棺であり、主体部北東部からは、菅玉が35点(報告I第215図1-35)が出土している。SX03主体部は、SD50に切られた形となっているが、どちらかというと環濠03に併走しており、SD48、49と類似したものである可能性が高い。

環濠01は、13地区から継続する環濠で皿状もしくは逆台形を呈する。複数の土坑に切られており、当調査区内で最も古く位置づけられる。出土土器は少量であり、集落Ⅰ期及びそれ以前の破片資料がみつかっている。環濠02～04は集落Ⅲ期の墓に切られている。また、環濠02は環濠03と21地区で合流していること、環濠03A、BはAアゼ(第86図参照)までは、2本の切り合いが確認できる。土器は中層から多く出土しており、環濠02、環濠04は八日市地方5-6期、環濠03は6-7期に相当する。環濠05、06は、土器の出土が少なく時期は不明瞭である。SX14は発掘担当者によると環濠上に造墓する断面になっているが、SX14南西溝からは八日市地方7-8期の土器が出土している。またSX01と環濠06との切り合いを示すEアゼでは環濠06が周溝を切っている(第87図)。SX13と環濠05との切り合いを示すFアゼ(第87図)では、環濠05が切っている。換言すると、環濠05、06はSX13、14より新しい可能性が高く、集落Ⅱ期の方形周溝墓の溝を利用した形で掘削する環濠08と同様のものと考えられる。

また、環濠に併走する溝としてSD48、49があり、布振りの櫛列跡と思われる。SD48、49からは八日市地方5期の土器がみつかっており、環濠01と併走する可能性が高い。

SE01は、ケヤキ製と思われる樹皮を丸めた井戸枠を利用したものである。止め杭等は検出されていない。近くには木柱根を残す1間×2間の掘立柱建物SBO1がみつかっている。両者とも明瞭な時期を示す土器の出土はみられないが、周辺の土坑の時期が集落Ⅱ期であることや、集落Ⅲ期の造墓よりも古い時期の可能性が高く、概ね集落Ⅱ期に相当するものと思われる。

なお、平成7年度に実施した調査区A-11Gr内ピット、J-2Gr環濠03gアゼ付近からは製玉関連遺物が多量に発見されており、土壤洗浄の結果、石鋸、黒色安山岩製、瑪瑙製石針、碧玉工程品がみつかっている。



第 83 図 17 地区全体図 (1/400)



第 84 図 17 地区 変遷図 (1/400)

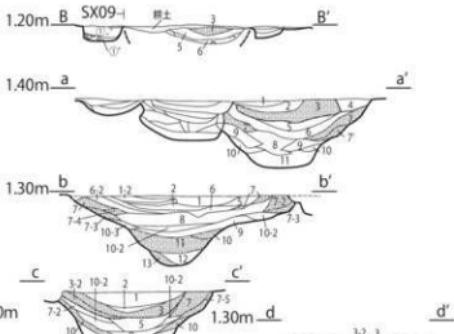


第85図 17地区環濠平面図(1/400)

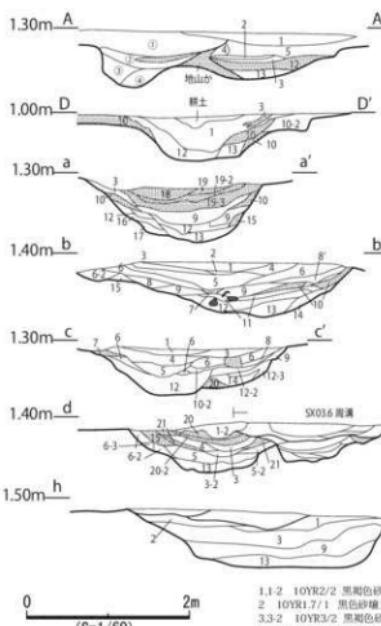
〈環濠 01 〉



〈環濃 02 〉



〈環臺 03 〉



f



第86図 17地区環濠断面図(1/60)

200

〈環濠 04〉



1.40m-a



1.30m-b''



- 1 10YR2/1 黒褐色砂礫土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂礫土
- 3 2.5Y5/2 鮎灰黄色砂礫土
- 4 2.5Y5/3 黄褐色砂
- 5 10YR3/1 黒褐色土(フショク層)
- 6 2.5Y4/4 鮎灰黄色砂礫土
- 7 2.5Y6/6 にじむ黄色砂
- 8 5Y7/3 浅黄色砂
- 9 7.5Y6/3 オリーブ黄色砂
- 10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂土
- 11 5Y5/2 黒褐色砂土
- 12 2.5Y5/2 鮎灰黄色砂
- 13 2.5Y3/3 帽オリーブ褐色砂土
- 14 5Y7/4 浅黄色砂
- 15 10YR1/7/1 黑褐色土(フショク層)
- 15-2 10YR3/2 黑褐色砂礫土
- 16 2.5Y4/1 黄灰色砂に黒色植物付コトロ混潤
- 17 10YR1/7/1 黑褐色土(フショク層)

〈環濠 05〉

C

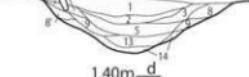


a'



b'

1.40m-c



c'



d'



e'



f'



g'

〈環濠 06〉



1.20m-E



1.40m-A



1.40m-B

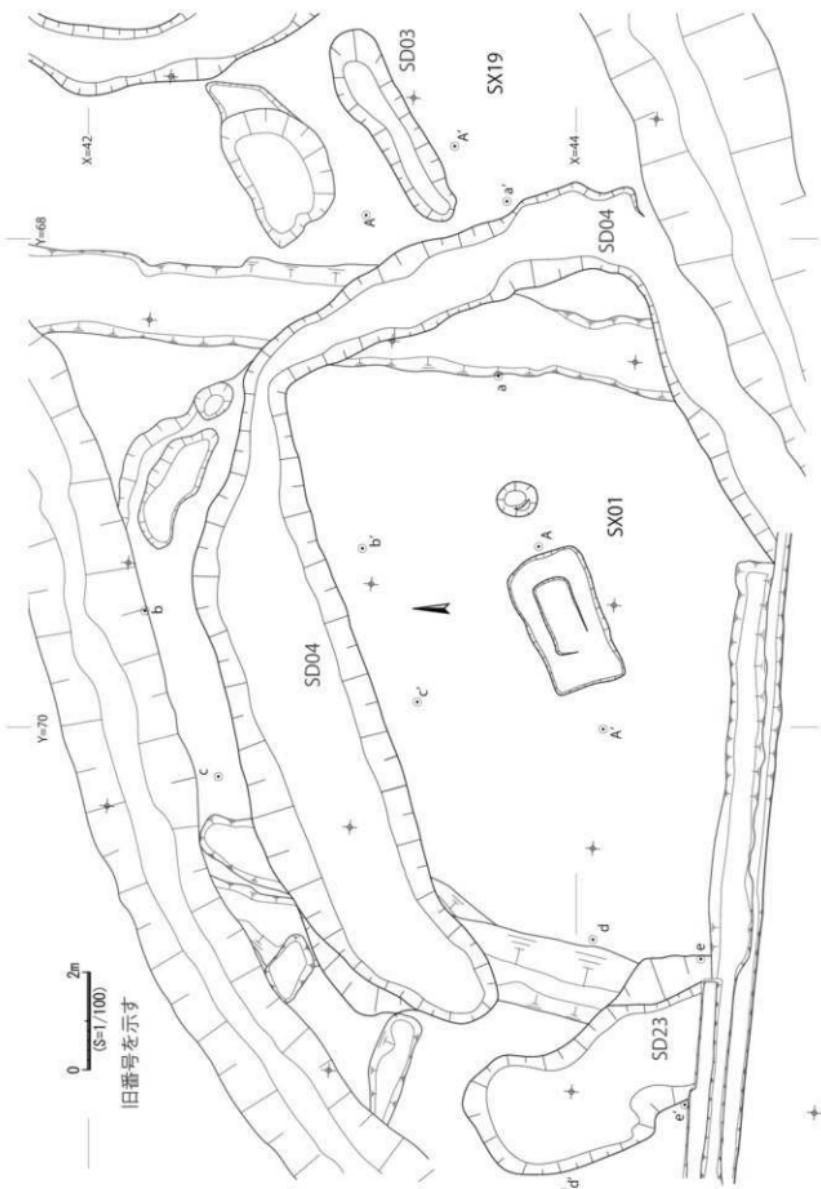


- 1 10YR3/1 黑褐色砂礫土
- 2 10YR1/7/1 黑褐色土(フショク層)
- 3 10YR3/2 黑褐色砂礫土
- 4 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 5 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 6 10YR2/1 黑褐色砂礫土
- 7 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 8 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 9 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 10 10YR2/2 黑褐色砂礫土

- 11 10YR2/2 黑褐色砂礫土
- 12 10YR2/3 黑褐色砂礫土
- 13 10YR4/1 鮎灰色砂
- 14 10YR4/1 鮎灰色砂礫土
- 15 2.5Y3/2-4/1 黃灰 - 黑褐色砂礫土

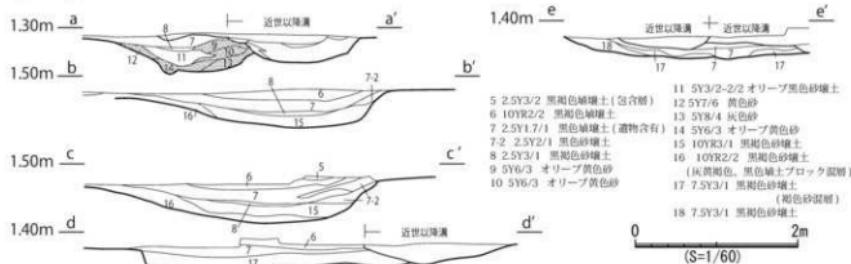
0  
(S=1/60)  
2m

第 87 図 17 地区 環濠断面図 2(1/60)



第88図 17地区 SX01,SX19 平面図 (1/100)

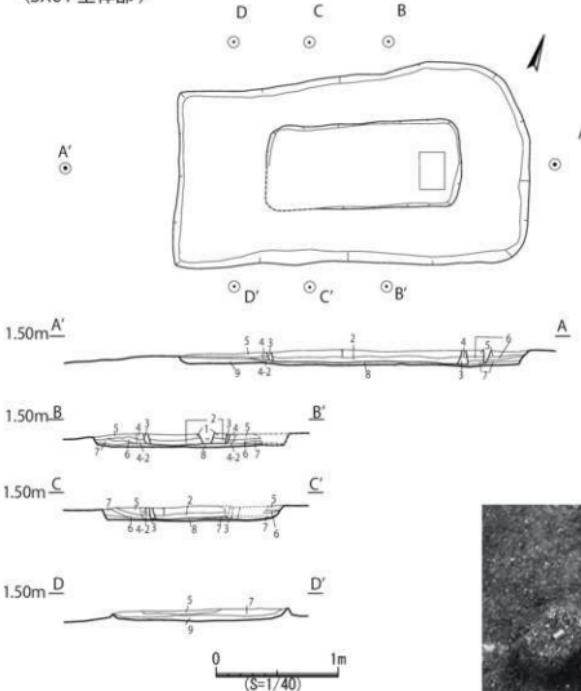
〈SX01〉



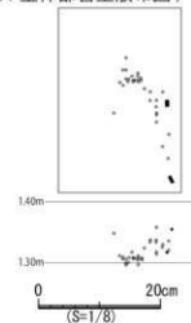
〈SX19〉



〈SX01 主体部〉

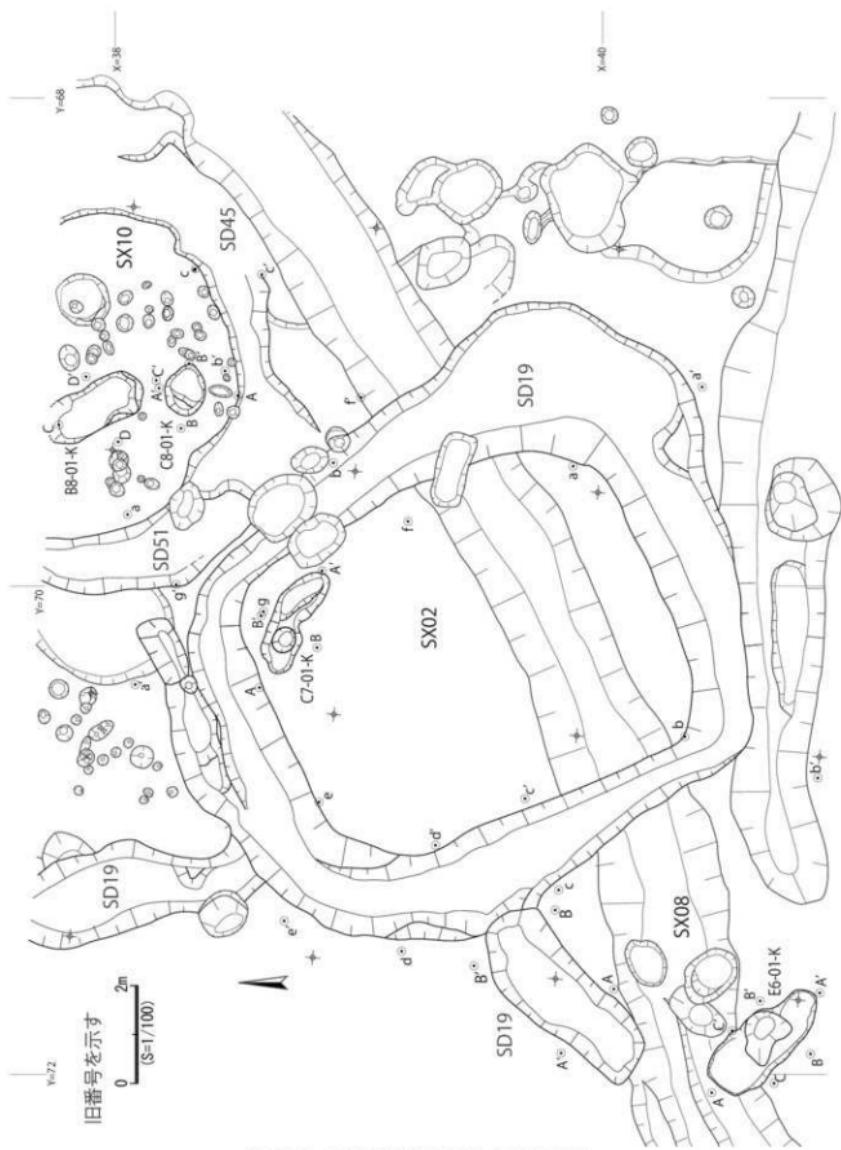


〈SX01 主体部管玉散布図〉



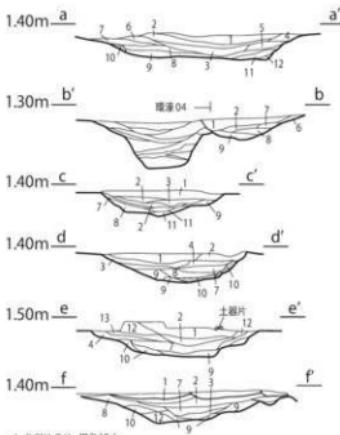
〈SX01 主体部管玉散布状況〉

第 89 図 17 地区 SX01,19 断面図 (1/60),SX01 主体部平面図及び断面図 (1/40)



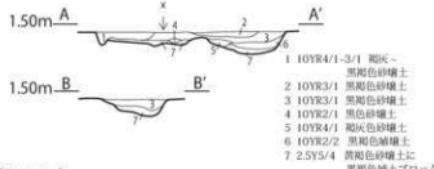
第90図 17地区 SX02,08,10 平面図 (1/100)

**(SX02)**



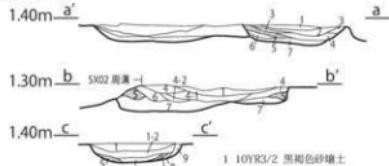
- 1 2.5Y1.7/1 黑色埴土
- 2 2.5Y3/1 黑色砂埴土
- 3 10YR2/1 黑褐色砂埴土
- 4 10YR2/1 黑褐色埴土
- 5 10YR2/1 黑褐色砂埴土
- 6 2.5Y3/1 黑褐色砂埴土
- 7 2.5Y1.7/1 黑色砂埴土
- 8 2.5Y3/1-3/2 黑褐色砂埴土
- 9 2.5Y3/1 黑褐色砂埴土上オリーブ褐色砂、  
黑色埴土ブロック混層
- 10 2.5Y3/1 帽オリーブ褐色砂 (地山崩壊土)
- 11 10YR1.7/1 黑色埴土
- 12 10YR1.7/1 黑色埴土

**(C7-01-K)**



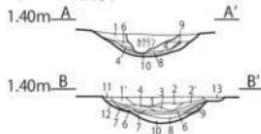
7 2.5Y5/4 黄褐色砂埴土に  
黑褐色埴土ブロック含有

**(SX10)**



- 1 10YR2/2 黑褐色砂埴土
- 2 10YR2/2 黑褐色砂埴土
- 3 10YR4/2-3/2 黑褐色砂埴土
- 4-1 10YR2/2 黑褐色埴土
- 4-2 10YR2/2 黑褐色砂埴土
- 5 10YR4/2 黄褐色砂
- 6-1 10YR3/1 黑褐色砂埴土に  
ふぶ-黄褐色砂、灰黄褐色埴土ブロック混層
- 8 10YR2/1 黑褐色砂
- 9 10YR3/1 黑褐色砂埴土

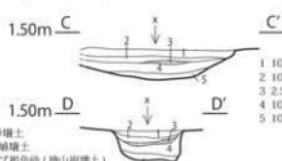
**(SX08 北溝)**



- 1 2.5Y2/1 黑色埴土
- 2 2.5Y2/1 黑色砂埴土 - 砂埴土
- 3 10YR2/1 黑褐色砂埴土に灰黄褐色砂混層
- 4 10YR3/1 黑褐色砂埴土に灰黄褐色砂混層
- 6 2.5Y3/1 黑褐色砂埴土に褐色鉄砂混層

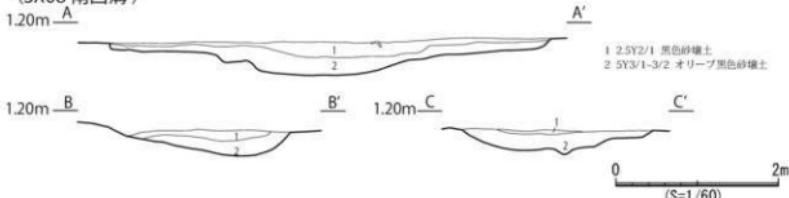
- 7 10YR2/1 黑色砂埴土
- 8 2.5Y3/1 黑褐色砂埴土
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂 (地山崩壊土)
- 10 10YR1.7/1 黑色埴土
- 11 10YR3/2-3/3 黑褐色砂埴土
- 12 10YR2/1 黑褐色砂埴土

**(B8-01-K)**



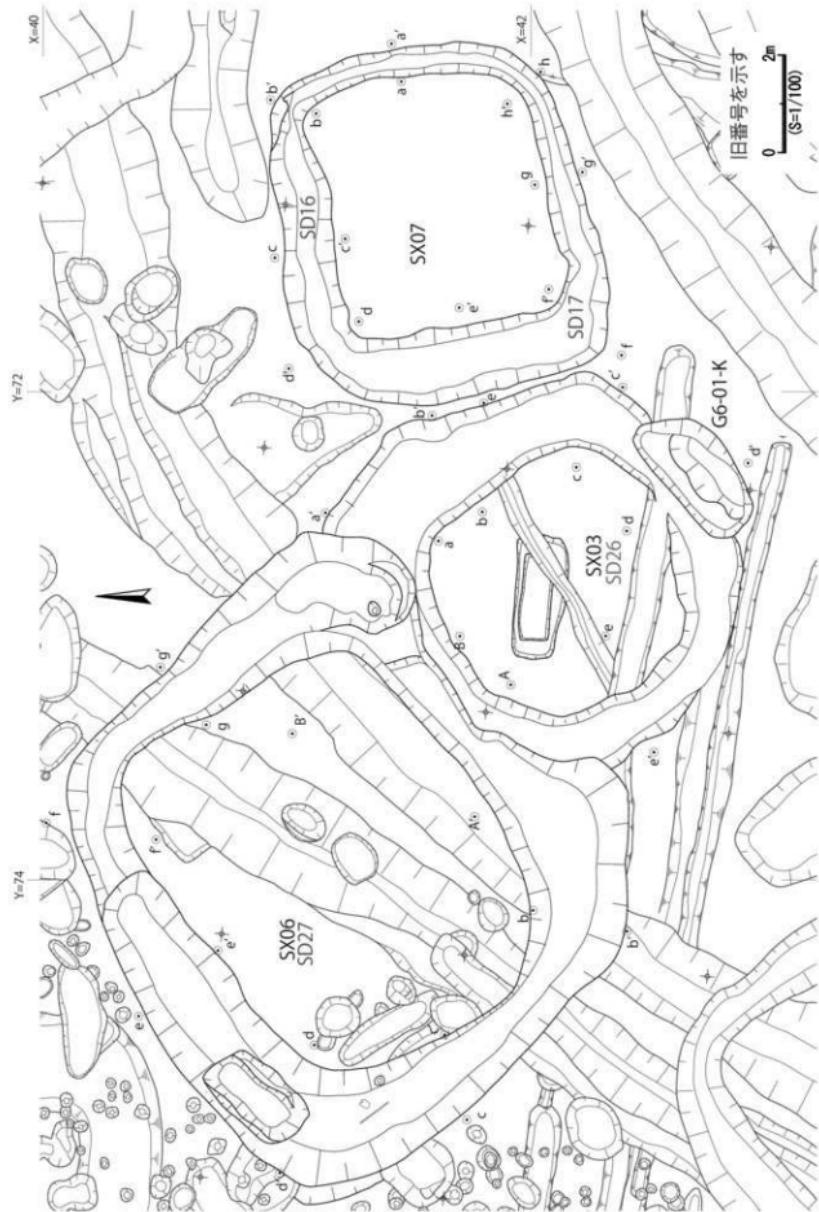
- 1 10YR2/2 黑褐色砂埴土
- 2 10YR3/2 黑褐色砂埴土
- 3 2.5Y3/1 帽オリーブ褐色砂
- 4 10YR3/1 黑褐色砂埴土
- 5 10YR2/2 黑褐色砂埴土 (ショクケ層)

**(SX08 南西溝)**



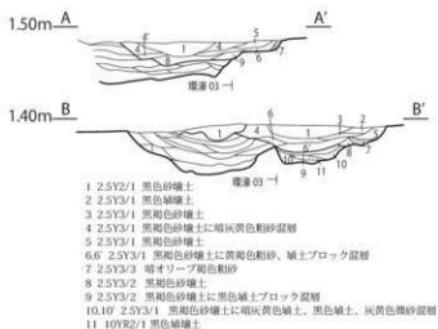
- 1 2.5Y2/1 黑色砂埴土
- 2 5Y3/1-3/2 オリーブ黑色砂埴土

第 91 図 17 地区 SX02,8,10 他 断面図 (1/60)

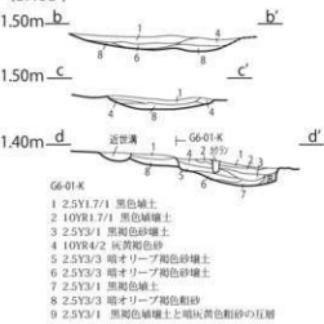


第92図 17地区 SX03,06,07 平面図 (1/100)

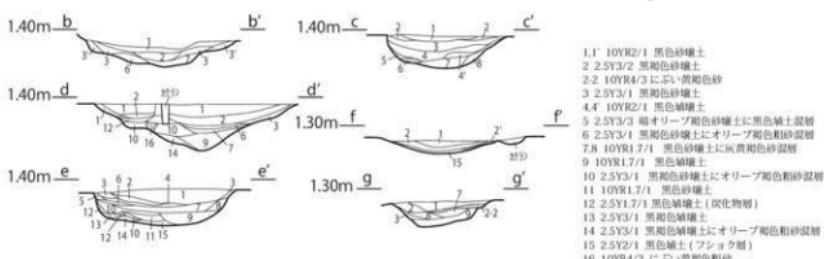
〈SX03,06〉



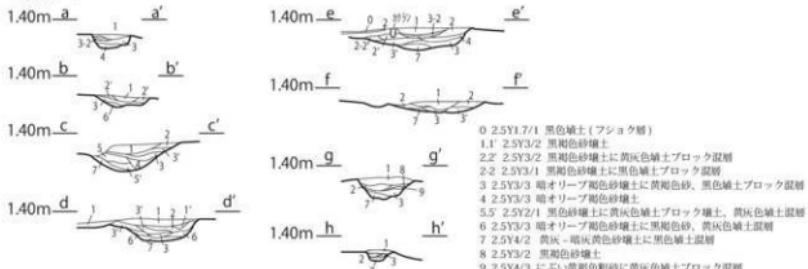
〈SX03〉



〈SX06〉



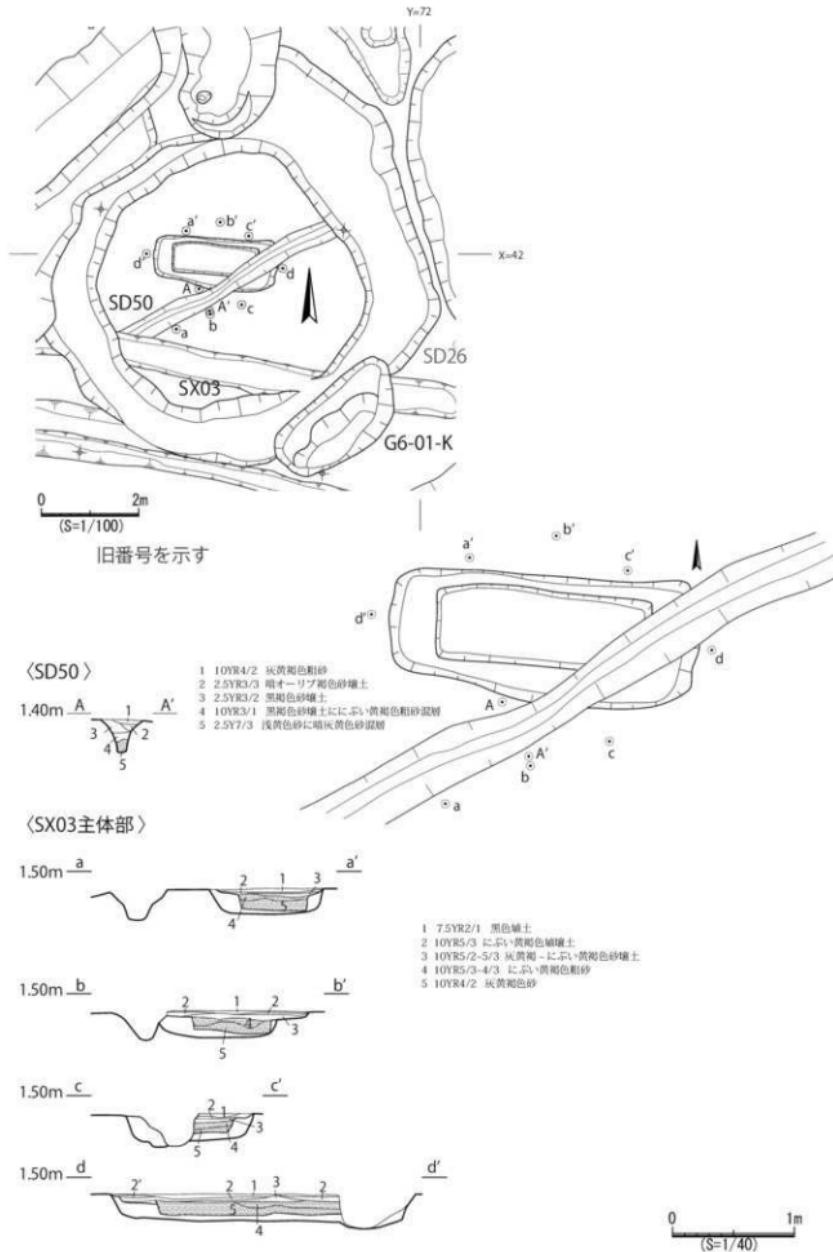
〈SX07〉



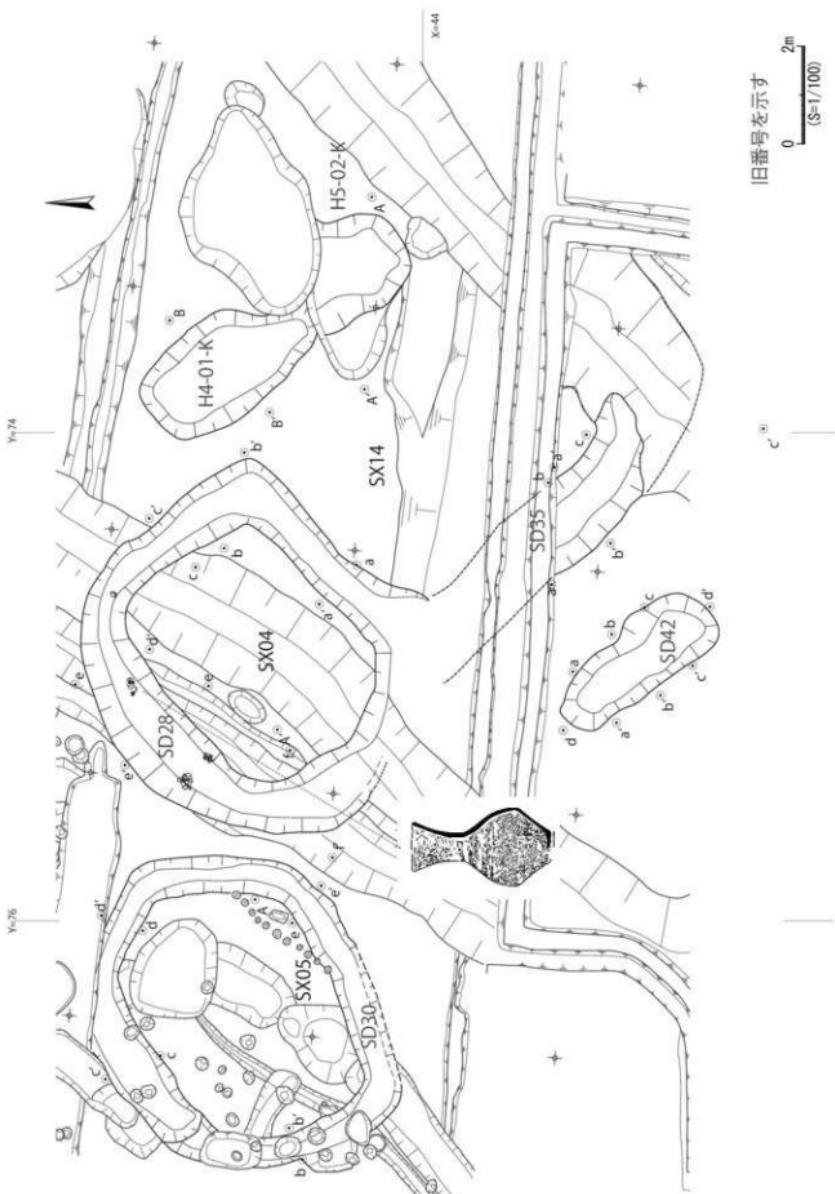
〈SX06 南西溝、鋤検出状況〉

第93図 17地区 SX03,06,07断面図(1/60)

0 2m  
(S=1/60)

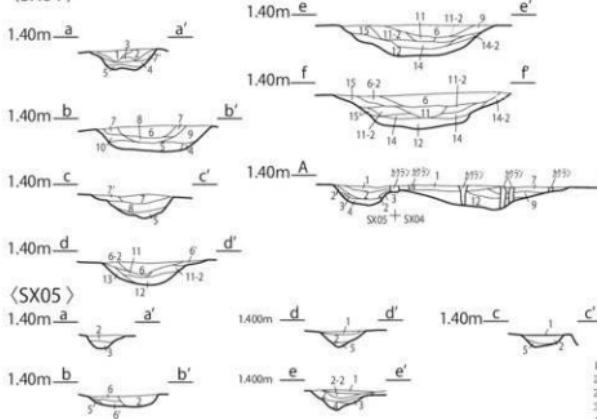


第 94 図 17 地区 SX03 主体部平面図及び断面図 (1/40)



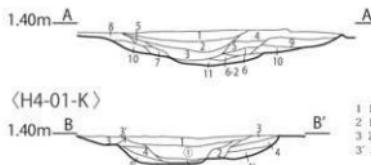
第95図 17地区 SX04,05,14他平面図(1/100)

## 〈SX04〉



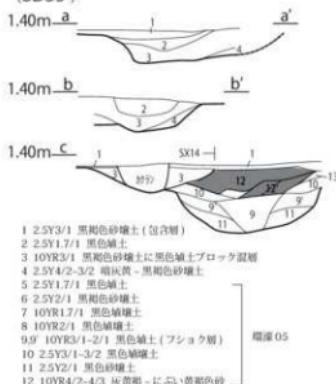
- 1 2.5Y3/3 咬オリーブ褐色砂壤土
- 2 10YR2/1 黑褐色砂壤土
- 3 3' 10YR3/2 黑褐色砂壤土
- 4 10YR2/2 黑褐色砂壤土に灰黄褐色の混層
- 5 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 6 2.5Y1.7/1 黑褐色砂壤土
- 6.2 10YR1.7/1 黑褐色砂壤土に黑色  
埴土ブロック混層
- 7 2.5Y1.7/1 黑褐色砂壤土
- 8 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 9.10 10YR3/1 黑褐色砂壤土に黑色  
埴土ブロック混層
- 11 10YR1.7/1 黑褐色砂壤土(?)
- 12 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土
- 13 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 14 14-2 10YR1.7/1 黑褐色砂壤土(?)
- 15 10YR1.7/1 黑褐色砂壤土に黑色  
埴土ブロック混層

- 1 2.5Y1.7/1 黑褐色砂壤土
- 2' 10YR2/1 黑褐色砂壤土に褐色砂混層
- 2.2 10YR2/1 黑褐色砂壤土
- 3 10YR3/2 黑褐色砂壤土に褐色砂混層
- 4 10YR2/1 黑褐色砂壤土に灰黄褐色砂混層
- 5 10YR3/1 黑褐色砂壤土に灰黄褐色砂混層
- 6 10YR2/1 黑褐色砂壤土に黑色埴土ブロック含有
- 6.2 10YR2/1 黑褐色砂壤土

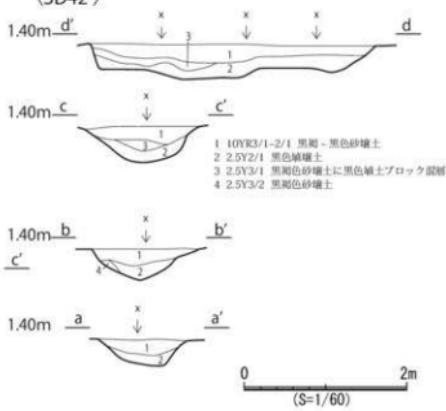
〈SX14 北東溝〉  
(H5-02-K)

- 1 2.5Y1.7/1 黑褐色土
- 2 10YR2/1 黑色埴土
- 3 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 4 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土に褐色砂混層
- 5 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土に黑色埴土ブロック混層
- 6 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 6.2 10YR2/1 黑褐色砂壤土
- 8 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土
- 9 2.5Y3/2 黑褐色砂壤土
- 10 10YR3/2- 黑褐-咬オリーブ褐色砂壤土
- 11 10YR3/1 黑褐色砂壤土

- 4.4' 5Y2/1 黑褐色砂壤土
- 5 10YR3/1 黑褐色砂壤土
- 6 2.5Y1.7/1 黑褐色砂壤土
- 7 10YR1.7/1 黑褐色砂壤土

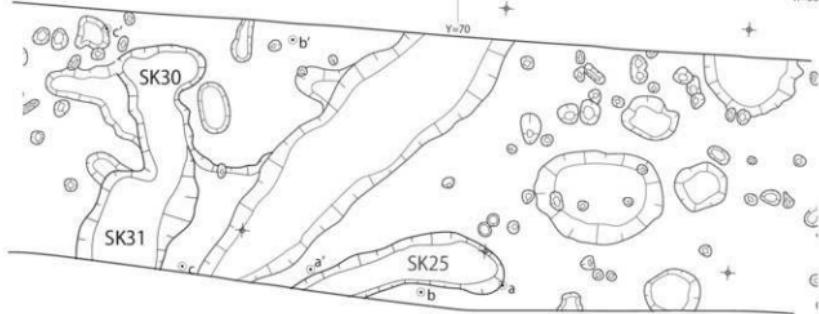
〈SX14 南西溝〉  
(SD35)

## 〈SD42〉

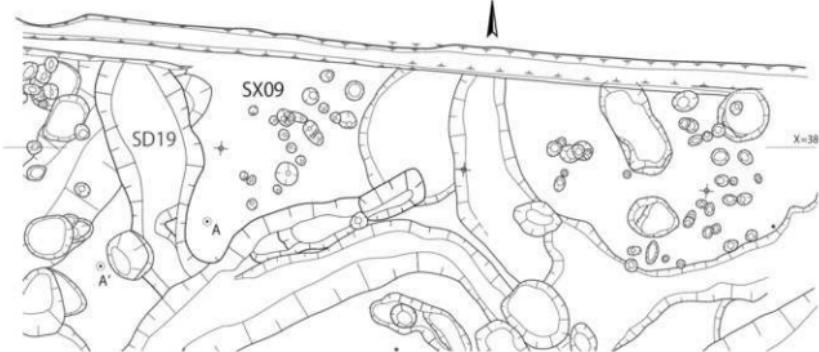


第 96 図 17 地区 SX04,05,14 他 断面図 (1/60)

X=36



X=38



&lt;SX09&gt;

1.50m-A'



A: 1 10YR3/2 黒褐色砂壤土

2 2.5Y5/2 黄灰色砂

3 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土に暗オーブと褐色砂混層

4 10YR3/3 に近い黄褐色砂壤土に暗オーブと褐色砂混層

5 10YR3/1 黑褐色砂壤土に暗オーブと褐色砂底面に堆積

6 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土

7 2.5Y2/2 黑褐色砂壤土

8 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土に褐色砂少部分有

9 2.5Y4/2 黄灰色砂在黑褐色砂壤土上ブロック混層

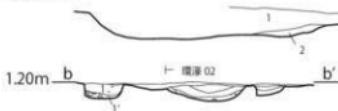
10 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土

旧番号を示す

0 2m  
(S=1/100)

&lt;SK25&gt;

1.20m-a



a'

1 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土  
1' 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土 I に近い粘性強  
2 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土0 2m  
(S=1/60)

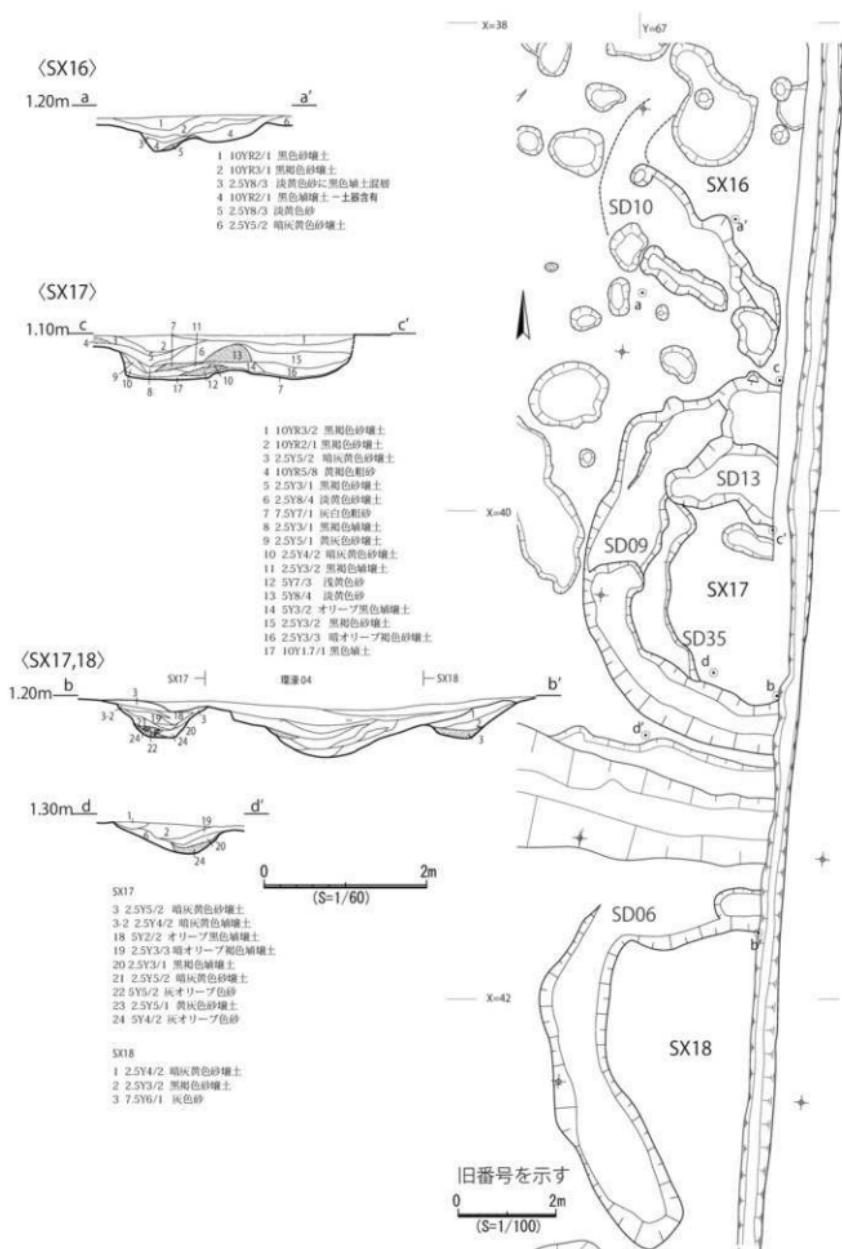
&lt;SK30,31&gt;

1.20m-c



1 10YR2/2 黑褐色砂壤土(フショク解)  
2 2.5Y5/1 黄褐色砂  
3 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土  
4 2.5Y5/1 黄褐色砂在黑褐色砂壤土上  
5 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土  
6 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土上黄灰色砂混層  
7 2.5Y4/1 黄灰色砂  
8 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土上灰黄色砂, 黑褐色砂壤土混層  
9 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土 C 腐蝕似  
10 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土  
11 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土

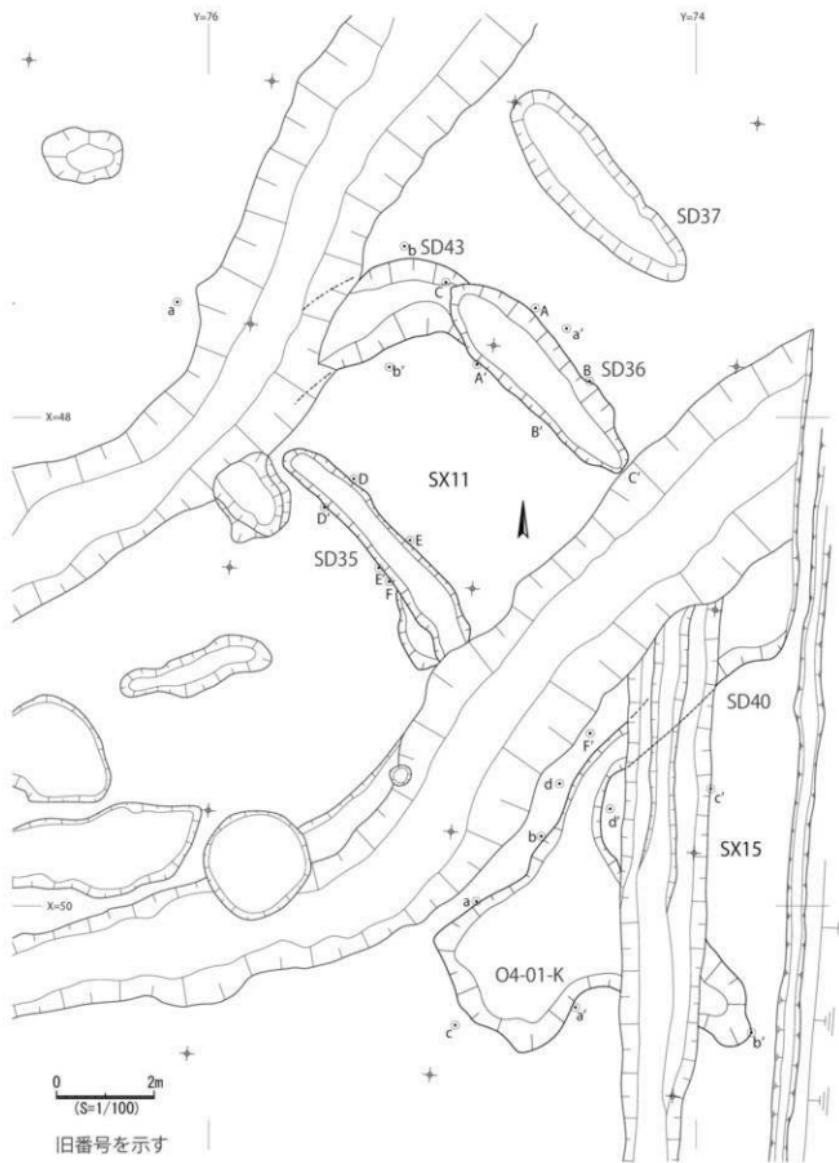
第 97 図 17 地区 SX09 他 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第98図 17地区 SX16,17,18 平面図(1/100),断面図(1/60)

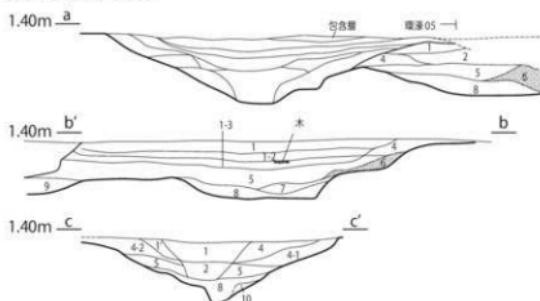


第99図 17(21)地区 SX12,13 平面図 (1/100)



第 100 図 17(21) 地区 SX11,15 他平面図 (1/100)

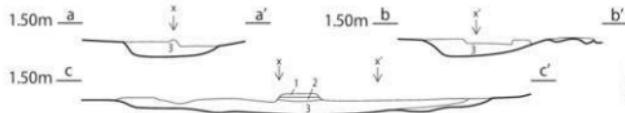
〈SX13 南溝〉 SD39



$a'$

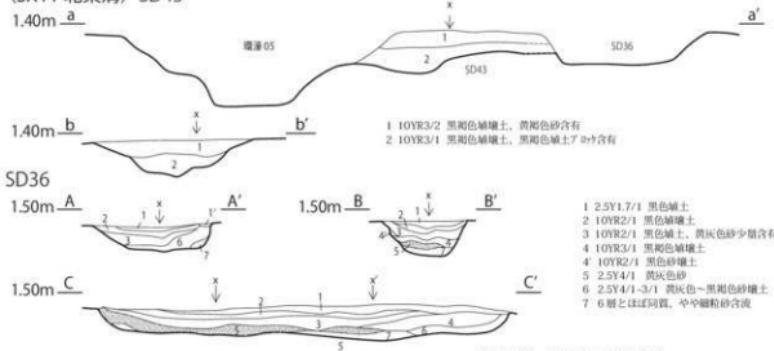
- 1 10YR1.7/1-2.5Y2/1 黒褐色埴土
- 1-2 10YR1.7/1 黒色砂埴土
- 1-3 10YR1.7/1 黑褐色色埴土
- 2 2.5Y3/1 黑褐色色埴土
- 4 2.5Y3/2-3/3 黒泥-暗オリーブ褐色紺土
- 4-1 2.5Y3/1 黑褐色色砂埴土
- 4-2 2.5Y2/1 黑褐色色埴土
- 5 2.5Y3/1-3/2 黑褐色色埴土。黄灰色砂が帯状に現れる
- 6 2.5Y4/2-3/2 暗灰黄-黒褐色紺土(地山崩壊土)
- 7 2.5Y2/1 黑褐色色埴土
- 8 2.5Y2/2 黑褐色色埴土。フジコク土含有
- 9 2.5Y4/1-3/1 黑褐色色埴土
- 10 2.5Y4/2-3/2 暗灰黄-黒褐色色埴土

〈SX12 南溝〉 SD37



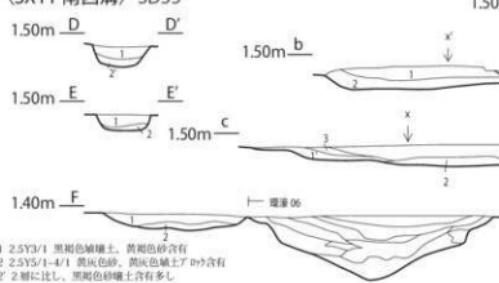
- 1 10YR2/1 黑色砂埴土。しまり有
- 2 10YR2/2 黑褐色色埴土。黑色砂含有
- 3 10YR3/1-2/1 黑褐色色埴土

〈SX11 北東溝〉 SD43

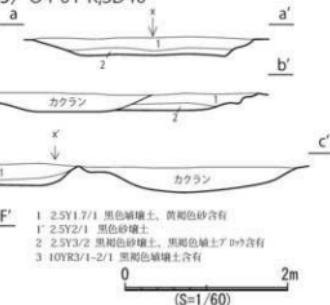


- 1 2.5Y1.7/1 黑色埴土
- 2 10WR2/1 黑色砂埴土
- 3 10WR2/1 黑色埴土。黄灰色砂少含
- 4 10YR3/1 黑褐色色埴土
- 4' 10YR2/1 黑色砂埴土
- 5 2.5Y4/1 黄灰色砂
- 6 2.5Y4/1-3/1 淡灰色-黑褐色色埴土
- 7 6層とはば異質。やや細粒砂含有

〈SX11 南西溝〉 SD35



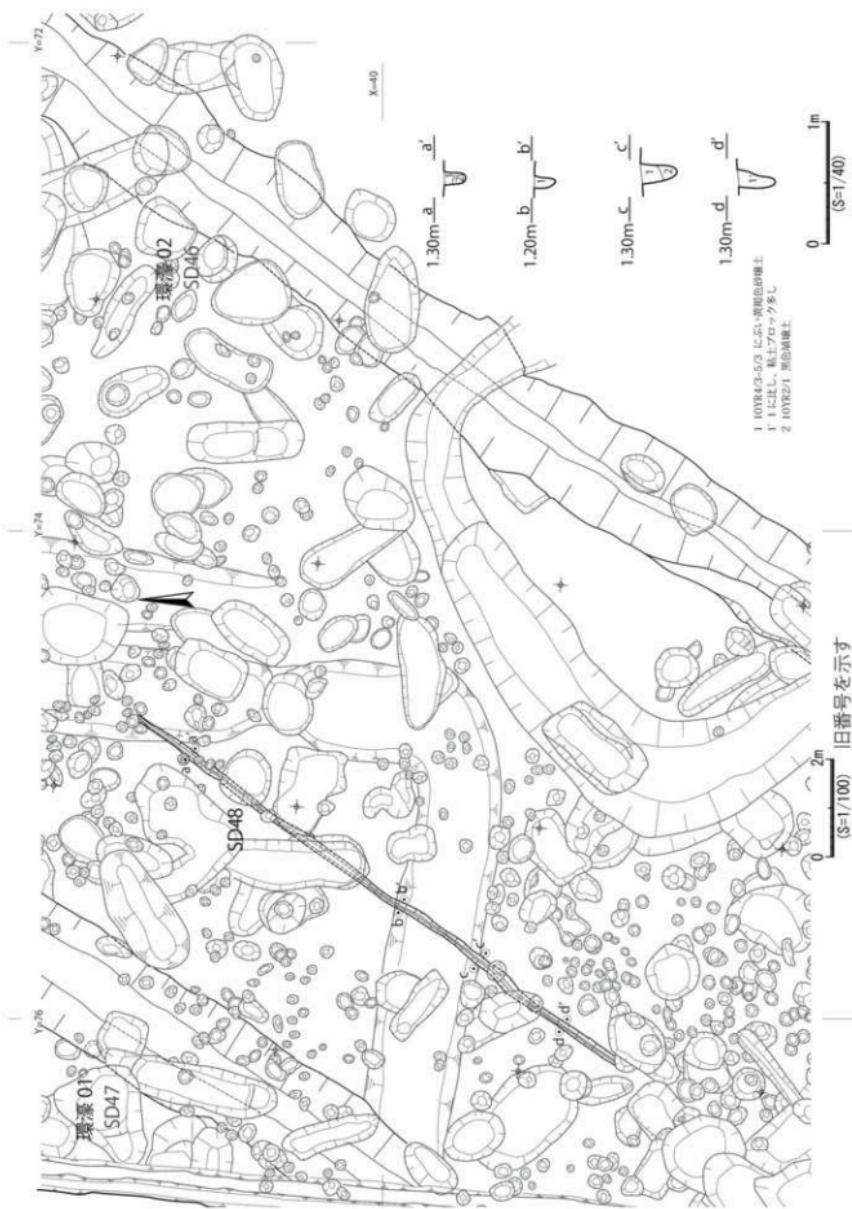
〈SX15〉 O4-01-K,SD40



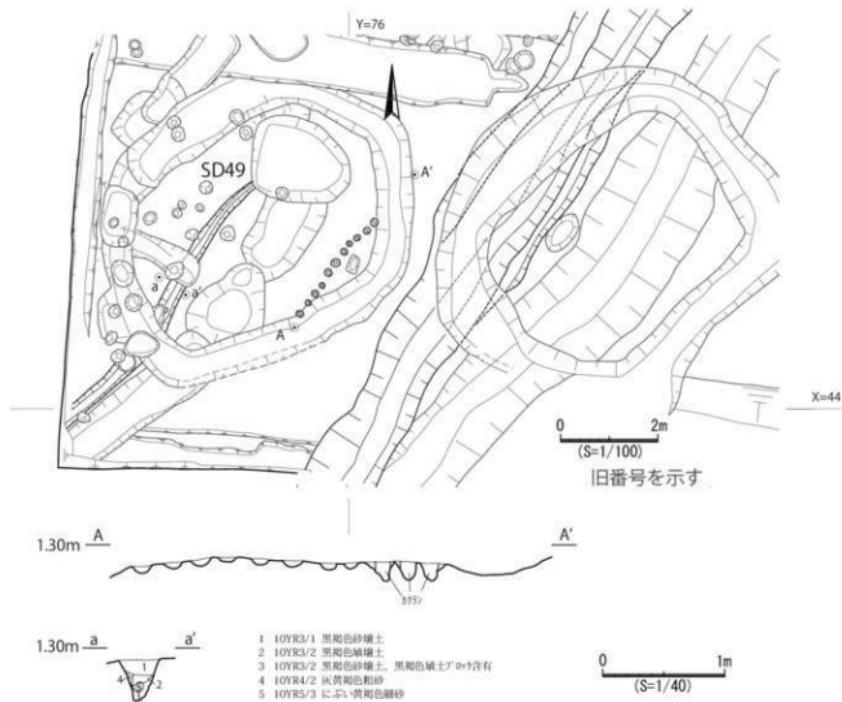
0 2m  
(S=1/60)

旧番号を示す

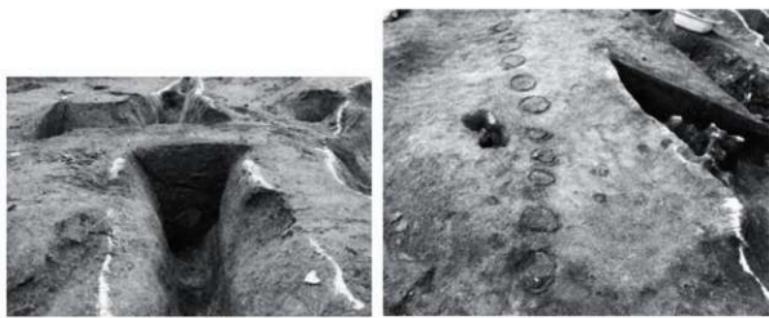
第 101 図 17(21) 地区 SX11,12,13,15 断面図 (1/60)

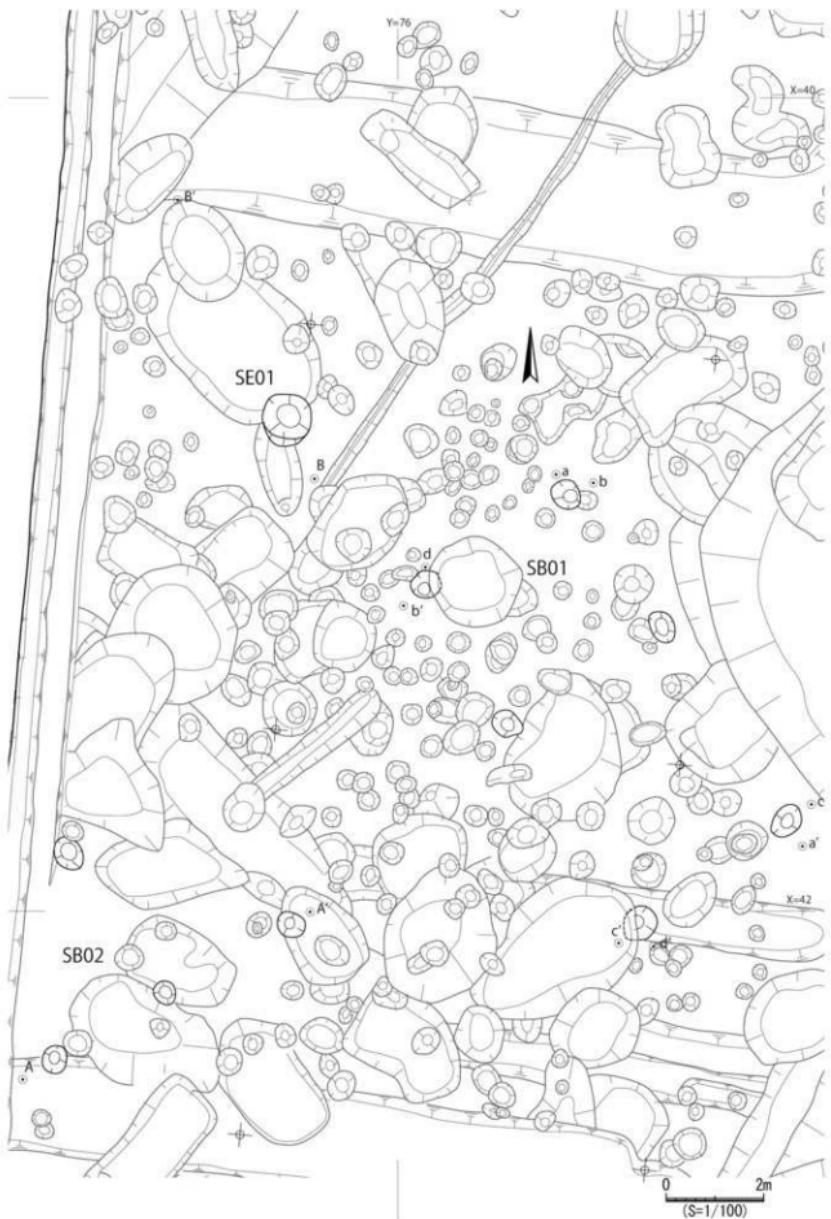


第102図 17地区 SD48 平面図(1/100), 断面図(1/40)



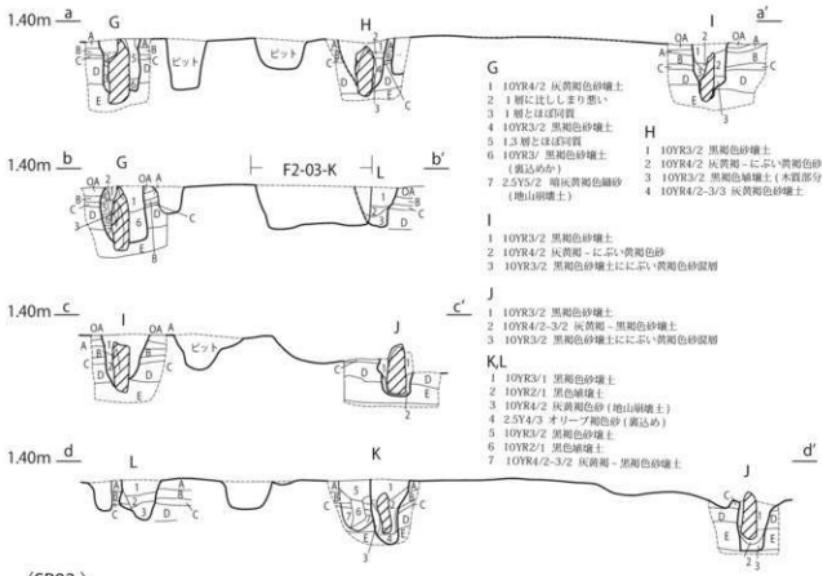
第 103 図 17 地区 SD49, 柵列 平面図 (1/100), 断面図 (1/40)



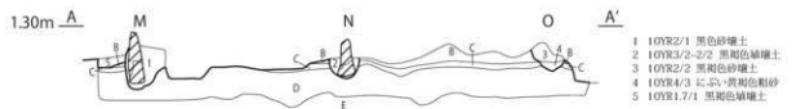


第104図 17地区SB01,SE01他平面図(1/100)

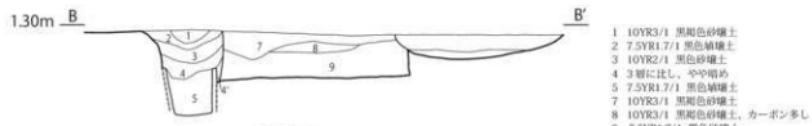
SB01



<SB02>



〈SE01〉



地山

- OA 10YR4/2 灰褐色細砂  
A 10YR4/4 墓色粗砂  
B 10YR4/3 にふい 黄褐色細砂  
C 10YR4/3 にふい 黄褐色細砂に黒褐色埴土含有  
D 10YR5/5 にふい 黄褐色細砂  
E 10YR5/2 灰黃褐色細砂  
F SY4/1 灰色土  
G Fより割れ  
H えんじ色に削り、こすり跡を残す

第105図 17地区 SB01,SB02,SE01断面図(1/40),SE01井戸枠図(1/20)

## 第7節 15・16地区

### 1. 調査区の概要

15、16地区は平成7年度に1,760m<sup>2</sup>を調査実施しており、いずれも任意のグリッドを設定し、平成7年度は航空測量図化を行っている。当調査区は、複数の担当者が各4回にわたり発掘調査を実施した箇所である。

### 2. 遺構の概要

調査区は攤乱が多く見えたのか、重機による表土除去が深く掘削されており、遺構検出面は近隣の調査区と比べると低めである。検出した主な遺構は、環濠04、06、07、10、11、方形周溝墓11基、複数の土坑、平地式建物1棟、掘立柱建物2棟等がみられる。

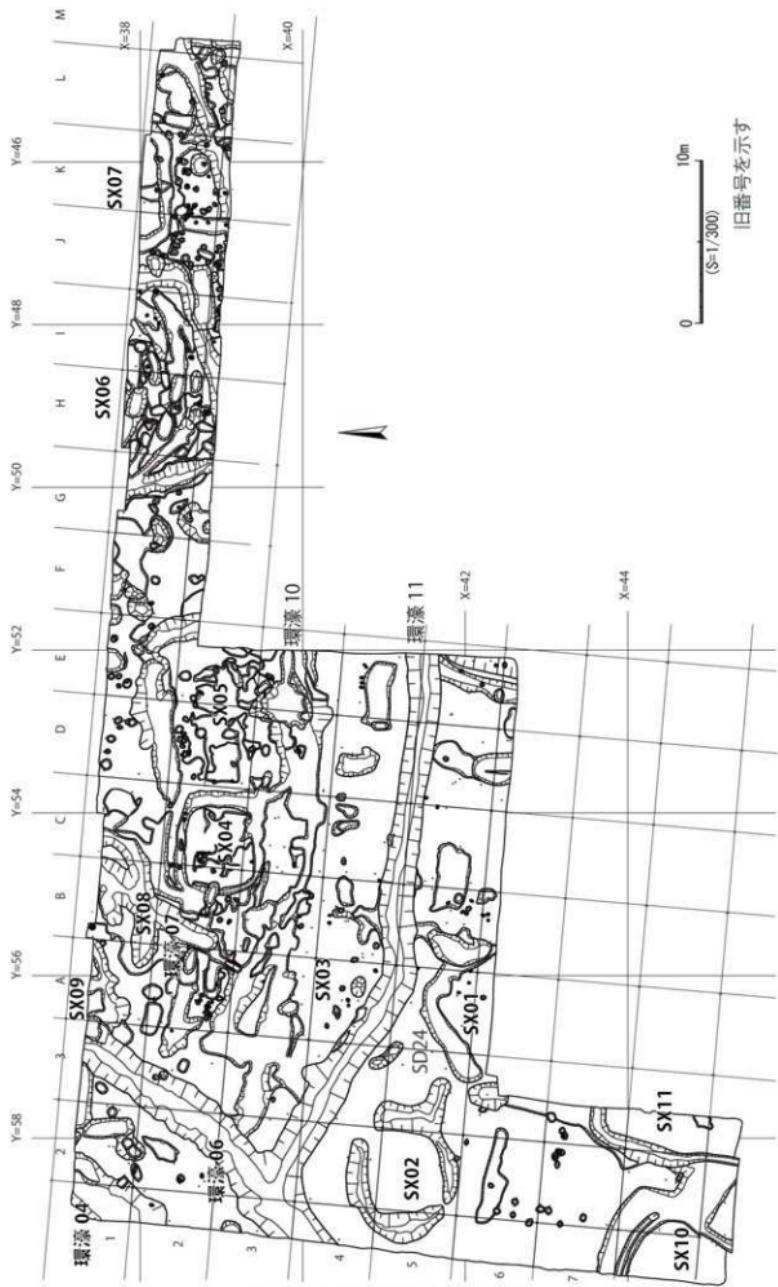
環濠06、11周辺は、検出当初全体に黒色土壤が全域に拡がっていたことから「2イコウ」と名づけ、セクションの設定をもとに遺物の取り上げを行いながら掘削している。掘削するに従い、環濠11に06が合流することが判明している。遺構形状から06と判断される箇所から出土する土器は、八日市地方遺跡6-7期に相当し、環濠11からは八日市地方5-6期の土器が出土している。環濠07は北に位置する11地区から続く環濠で、当調査区で途切れた状態となっている。環濠10は土層断面図及び写真を確認すると黒色埴土壤土がみられ、旧名称でSD07Bと名付けられた遺構は、SD07Cを切っていることがわかり(第113図)、環濠10はSX03より新しいことがわかる。また、SD21もSD07Bと類似した断面をもつことから繋がる溝と思われる。出土土器は八日市地方8期が出土している。

方形周溝墓は現地調査から確認されていたものはSX02、04で、それ以外は図面整理の中から方形周溝墓の可能性が高いものとしてとりあげたものである。形状は隅円方形または長方形を呈し、10m越えるものから6m前後のものまでみられる。主体部はみつかっていない。SX02、04、05～08は供獻土器から集落Ⅲ期に位置づけられる。SX11は八日市地方7期、SX01は八日市地方8期の土器が出土している。

SX06、07付近では、ピットや土坑が複数見つかっており、特にSD06の内側には多重の溝がみられ、調査時は黒色土壤が拡がることから「1イコウ」として設けたセクションに合わせて遺物を取り上げている。この1イコウと名付けられた箇所は多重にめぐる平地式建物の周溝の可能性が高いと思われ、土坑や溝から出土する土器から集落Ⅱ期に位置づけられる。またSD07南側では、柱間寸法2m前後の建物跡がSB01、02がみられ、明瞭な土器は出土していないが、概ね方形周溝墓が築かれる以前、集落Ⅱ期に相当すると思われる。

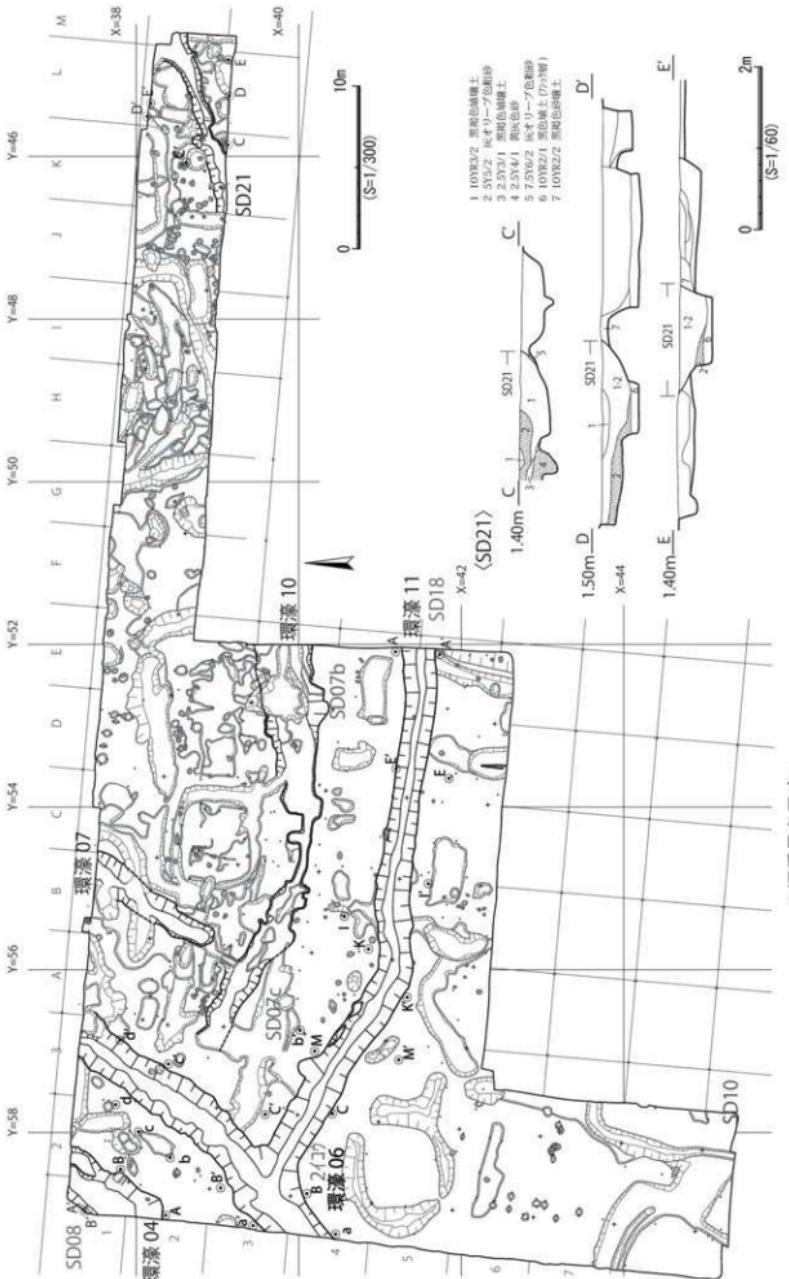


1イコウF区周辺プラン確認状況(北から)



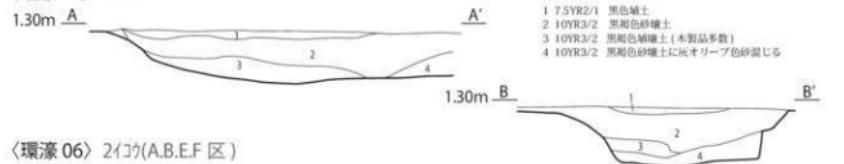


第107図 15,16地区変遷図(1/300)



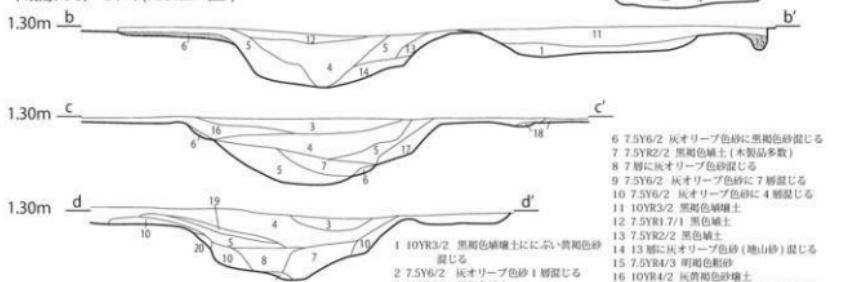
第 108 図 15,16 地区 環濠平面図 (1/300), 断面図 1(1/60)

〈環濠 04〉 SD08



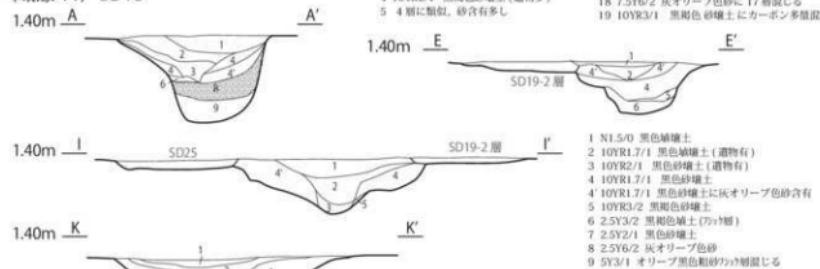
- 1 7YR2/1 黒褐色土  
2 10YR3/2 黒褐色砂礫土  
3 10YR3/2 黒褐色砂礫土(木製品多數)  
4 10YR3/2 黒褐色砂礫土に灰オリーブ色紺じる

〈環濠 06〉 21コウ(A.B.E.F 区)

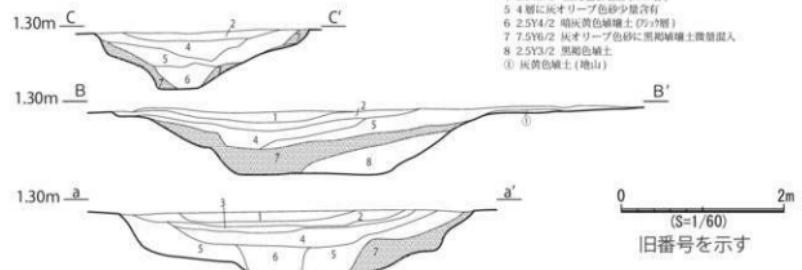


- 6 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に黒褐色紺じる  
7 7.5YR2/2 黒褐色紺土(木製品多數)  
8 7層に灰オリーブ色紺じる  
9 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に7層混じる  
10 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に4層混じる  
11 10YR3/2 黑褐色砂礫土  
12 7.5YR1.7/1 黑褐色土  
13 7.5YR2/2 黑褐色土  
14 13層に灰オリーブ色砂(地山砂)混じる  
15 7.5YR4/3 黃褐色砂  
16 10YR4/2 黄褐色砂礫土  
17 2.5Y6/2 黑褐色砂土に地山砂少層混じる  
18 7.5Y6/2 灰オリーブ色砂に17層混じる  
19 10YR3/1 黑褐色砂礫土にカーボン多量混入

〈環濠 11〉 SD18



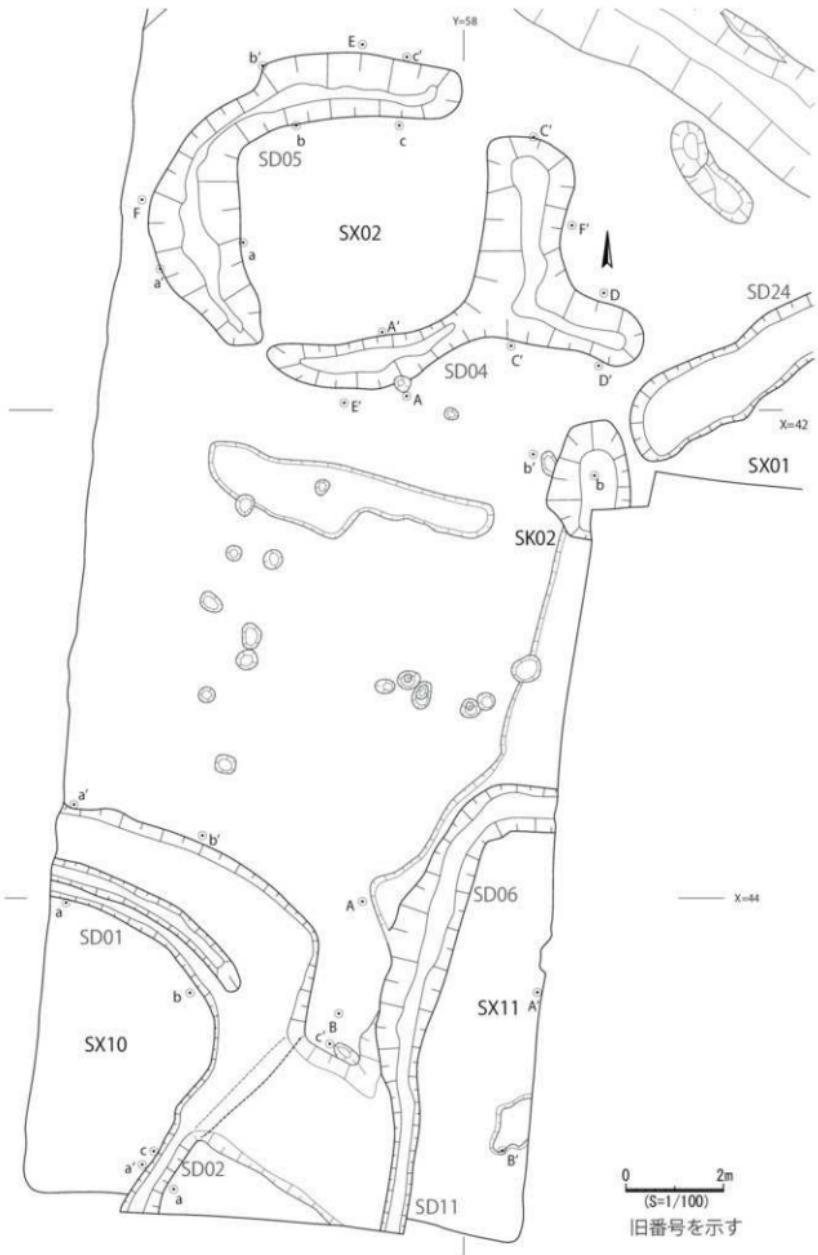
- I N1.5/0 黑褐色土  
2 10YR1.7/1 黑褐色土(遺物有)  
3 10YR2/1 黑褐色砂礫土(遺物有)  
4 10YR1.7/1 黑褐色土  
4' 10YR1.7/1 黑褐色砂礫土に灰オリーブ色紺含有  
5 10YR2/2 黑褐色土  
6 2.5Y3/2 黑褐色紺土(ワッカ層)  
7 2.5Y6/2 黑褐色土  
8 2.5Y6/2 灰オリーブ色砂  
9 3YV3/1 オリーブ黑色粗砂ワッカ層混じる



①番号を示す

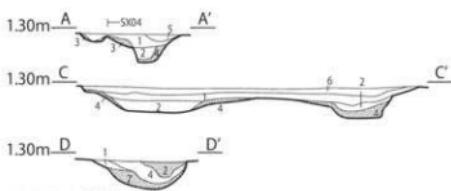
0  
(S=1/60)

第109図 15,16地区環濠断面図 2(1/60)



第 110 図 15,16 地区 SX02,10,11 平面図 (1/100)

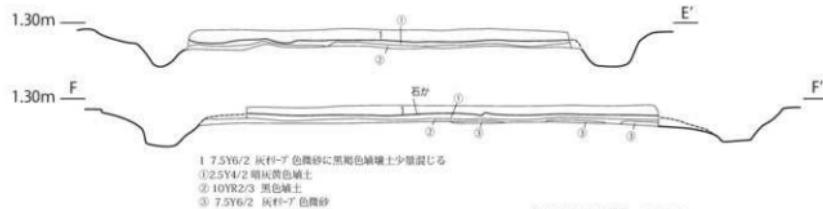
〈SX02 東南溝〉 SD04



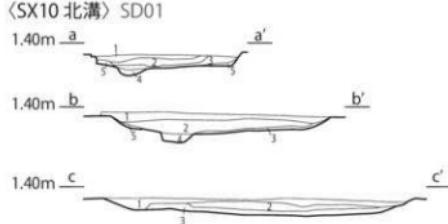
〈SX02 北西溝〉 SD05



E



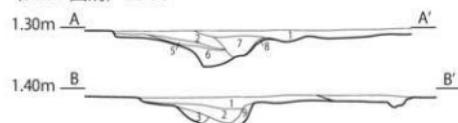
〈SX10 北溝〉 SD01



〈SX10 北溝〉 SD02



〈SX11 西溝〉 SD06

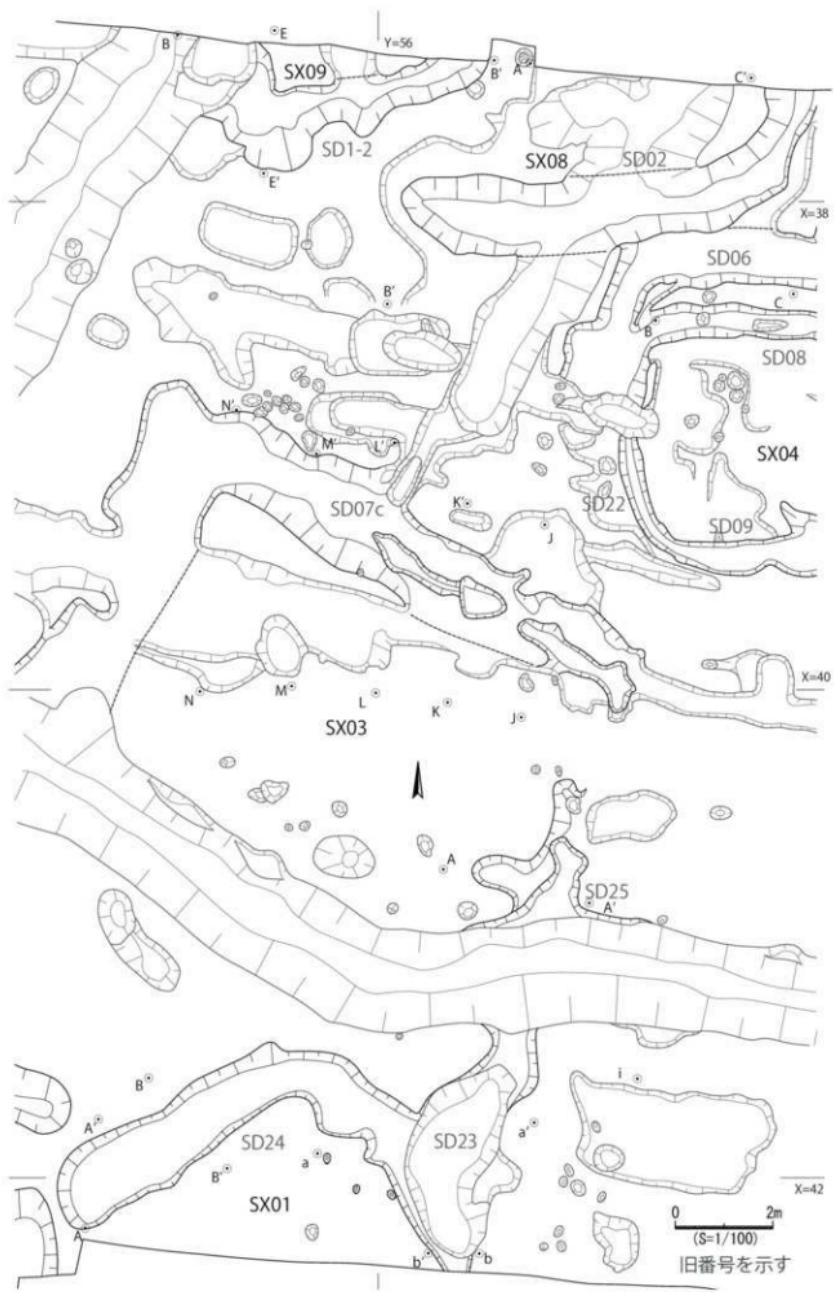


〈SK02〉



0 2m  
(S=1/60)

第 111 図 15,16 地区 SX02,10,11 断面図 (1/60)

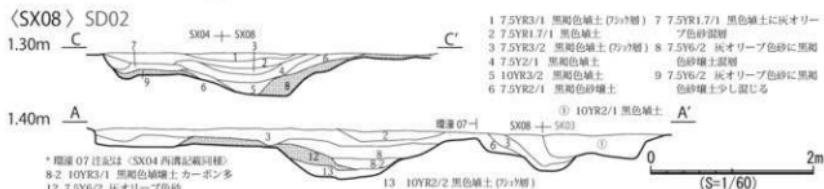
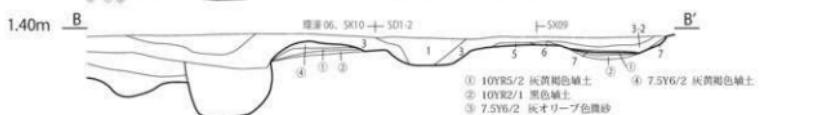
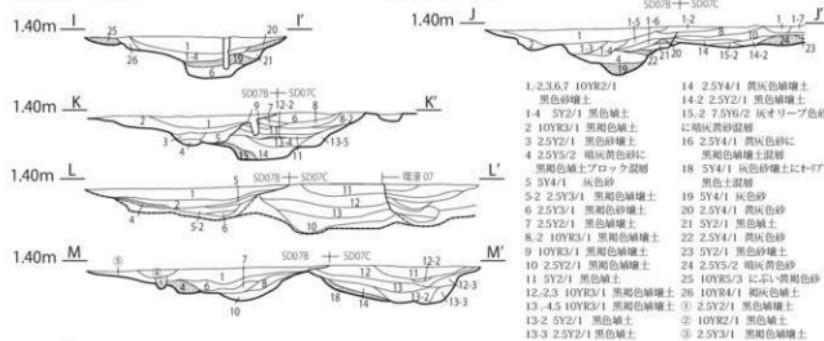


第 112 図 15,16 地区 SX01,03,04,08,09 平面図 (1/100)

## 〈SX01〉 SD24



## 〈SX03〉 SD07C

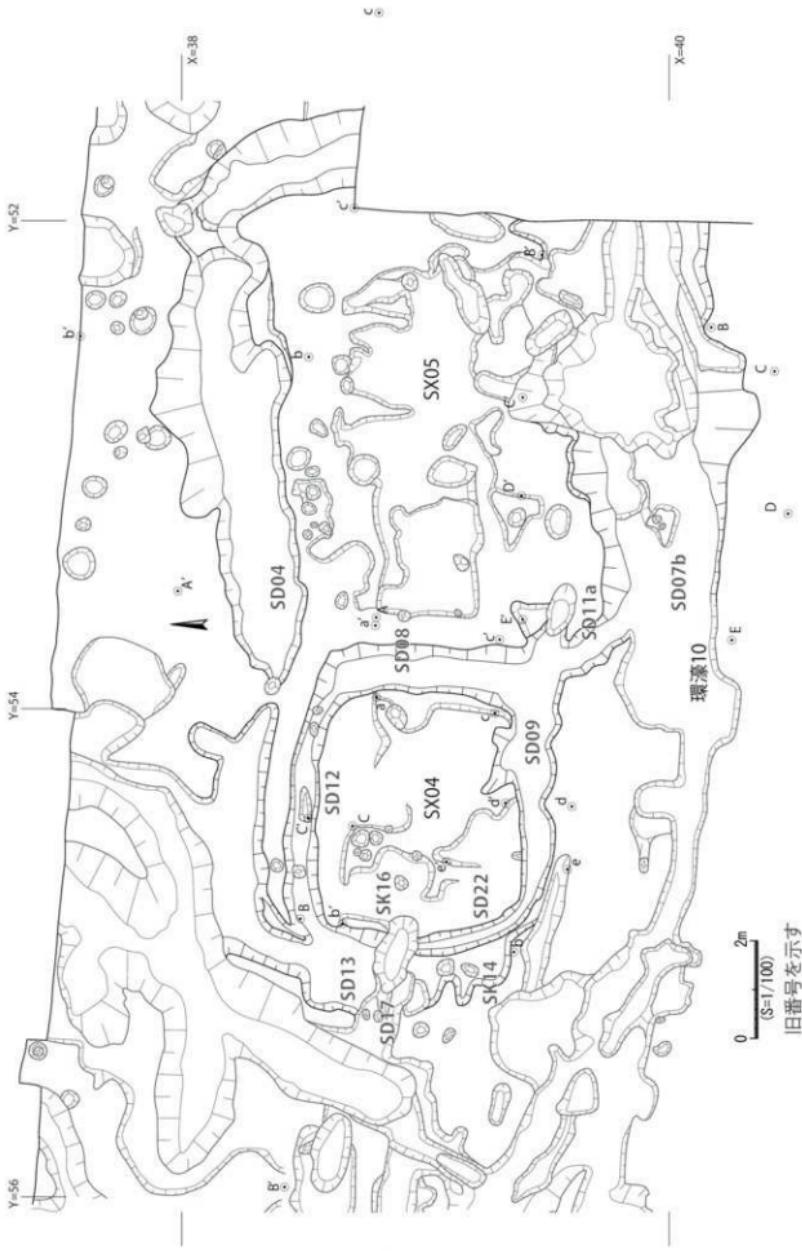


\* 球藻 07 注記は (SX04 西溝記載同様)  
8-2 10YR3/1 黑褐色砂壤土 カーボン多  
12 7.5Y6/2 死オリーブ色砂

| 日番号を示す

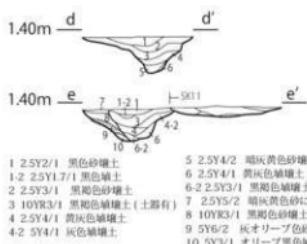
(S=1/60)

第 113 図 15,16 地区 SX01,03,08,09 断面図 (1/60)



第114図 15,16地区 SX04,05 平面図 (1/100)

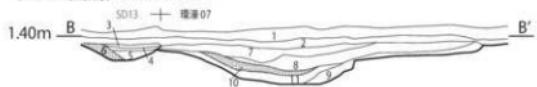
## 〈SX04 南溝〉 SD09



## 〈SX04 東溝〉 SD08



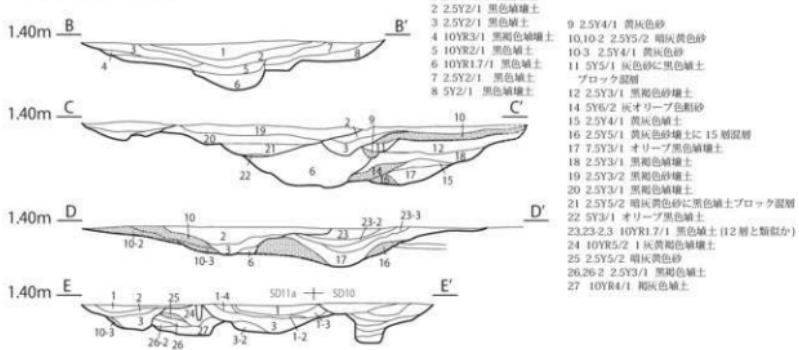
## 〈SX04 西溝〉 SD13・17



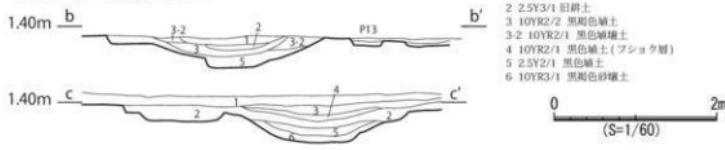
## 〈SX04 北溝〉 SD12



## 〈SX05 南溝〉 SD07A.B

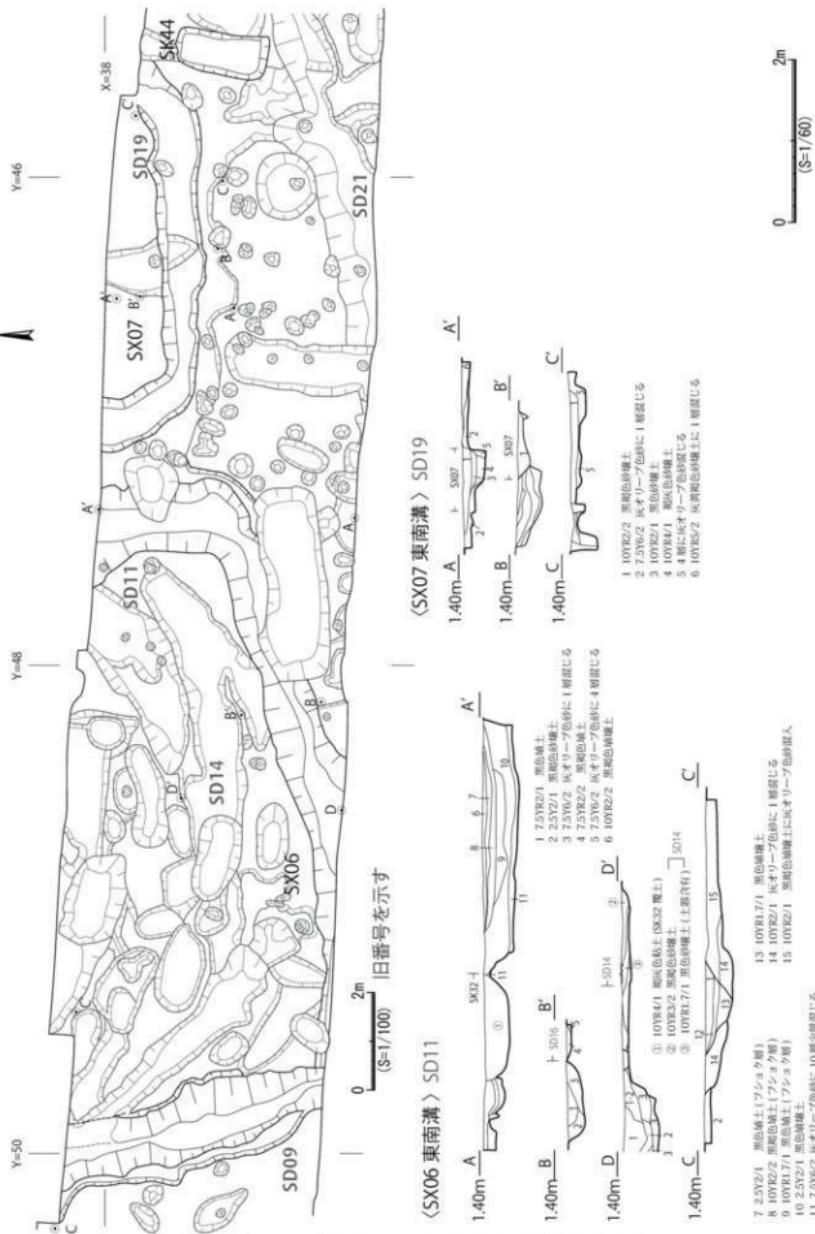


## 〈SX05 北・東溝〉 SD04

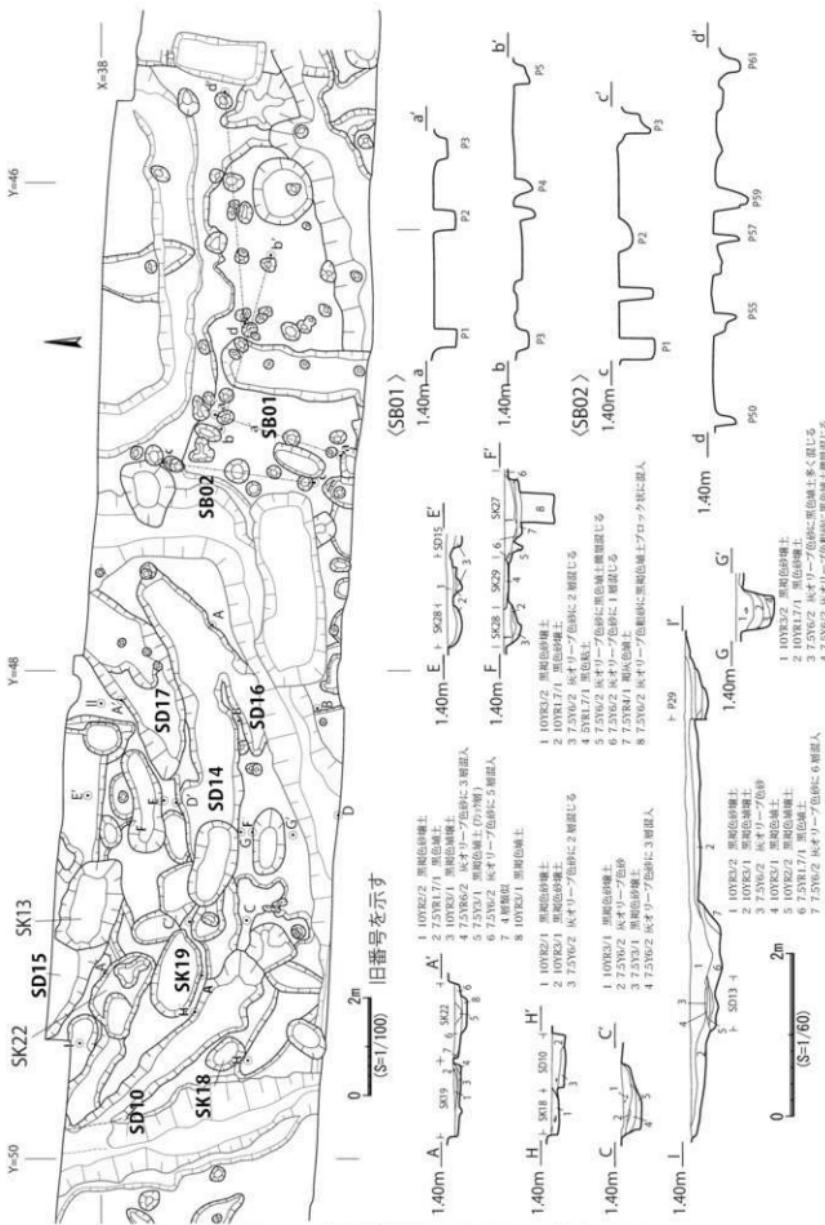


旧番号を示す

第115図 15,16地区 SX04,05断面図(1/60)



第 116 図 15,16 地区 SX06,07 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第117図 15,16地区建物跡他平面図(1/100),断面図(1/60)

## 第8節 12・13地区

### 1. 調査区の概要

13地区は平成7年度に663m<sup>2</sup>、平成8年度1,250m<sup>2</sup>、平成9年度800m<sup>2</sup>を調査実施しており、12地区は平成10年度に1,130m<sup>2</sup>を対象に調査実施している。13地区は任意グリッドを設定し、12地区は国土座標を利用した統一グリッドを設定し、航空測量図化作成を行っている。

なお、本節では埋積浅谷部分は除き、遺構箇所のみの報告とする。

### 2. 遺構の概要

#### 1) 12地区

検出した主な遺構は、環濠03A、03B、04、06、複数の土坑、掘立柱建物1棟、平地式建物3棟がみられる。また、Y=58-60の埋積浅谷肩部には集落II期に位置づけられる貯木土坑である隅円長方形土坑がならぶ。

環濠03は、2本見つかっており、03Aは03Bと西側から称している。土層断面図をみると、03Bが03Aを切っていることが見受けられる(第120図)。03Aは基本的に黒色土壤堆積であるが、03Bは多くが砂を主体とした地山ブロック混じりの人为的埋土である。また中位層からは木製品、土器が多く出土している。03Aは出土土器から17地区からみられる環濠03と同時期の土器が出土しており、03Aが続くものとみられる。03Bは8期には埋まっていると思われ、SB01は両溝が埋まって後に造られたことが窺われる。環濠04は中層位から多くの遺物が出土しており、八日市地方6期に相当する。河道に注ぎ込むあたりは埋まりきっておらず、上層からは集落III期の土器がみられ、離れるとともに次第に集落III期の遺構が切っている。環濠06は11地区に続く溝で、中層位から木製品が多く出土しており、時期は概ね八日市地方6~7期に相当する。

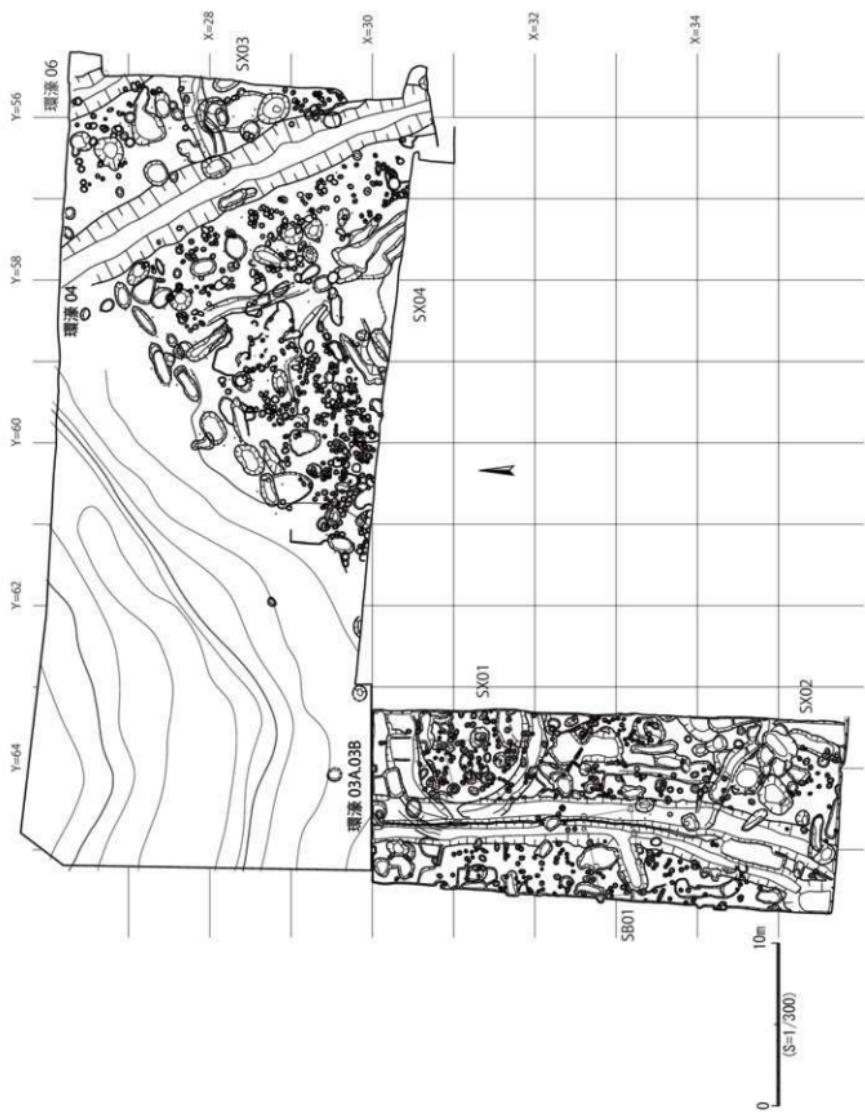
掘立柱建物は、1間×3間として現地調査で確認されており、木柱根は残存しない。柱穴から良好な土器の出土がみられないため、詳細な時期比定はできないが、環濠機能時後であることから集落III期に該当するものと思われる。

平地式建物は3棟見つかっており、いずれも集落III期に位置づけられる。SX01は、中央やや西寄りに木柱根がみつかっており、平面プランから建て替えが行われていたことが窺われる。また、柱中央部からは炭集中範囲がみつかっている。SX01北側である埋積浅谷肩部では多量の碧玉製チップがみつかっている。SX02は当初プラン確認で周溝が巡ることがわかつており、周溝からは近江系甕が出土している。SX04調査区南側は遺構精査を行っており、周溝が全周することがわかつている。周溝からはヘラ記号文をもつ壺型土器(報告1第112図3)が出土している。

#### 2) 13地区

調査区は全体的に近世以降の擾乱を受けており、決して良好な状況ではない。主な遺構は、環濠01、02、平地式建物2棟、井戸2基、複数の土坑等がある。また調査区からは、多くの木柱根もみつかっており、現地調査が急務であったため十分な検討ができていないが、2棟以上の平地式建物並びに多くの掘立柱建物が立つものと思われる。環濠01は主だった土器の出土ではなく、概ね17地区と同様の様相を示す。環濠02下底面からは、八日市地方6期に相当する良好な一括土器資料が見つかっている。

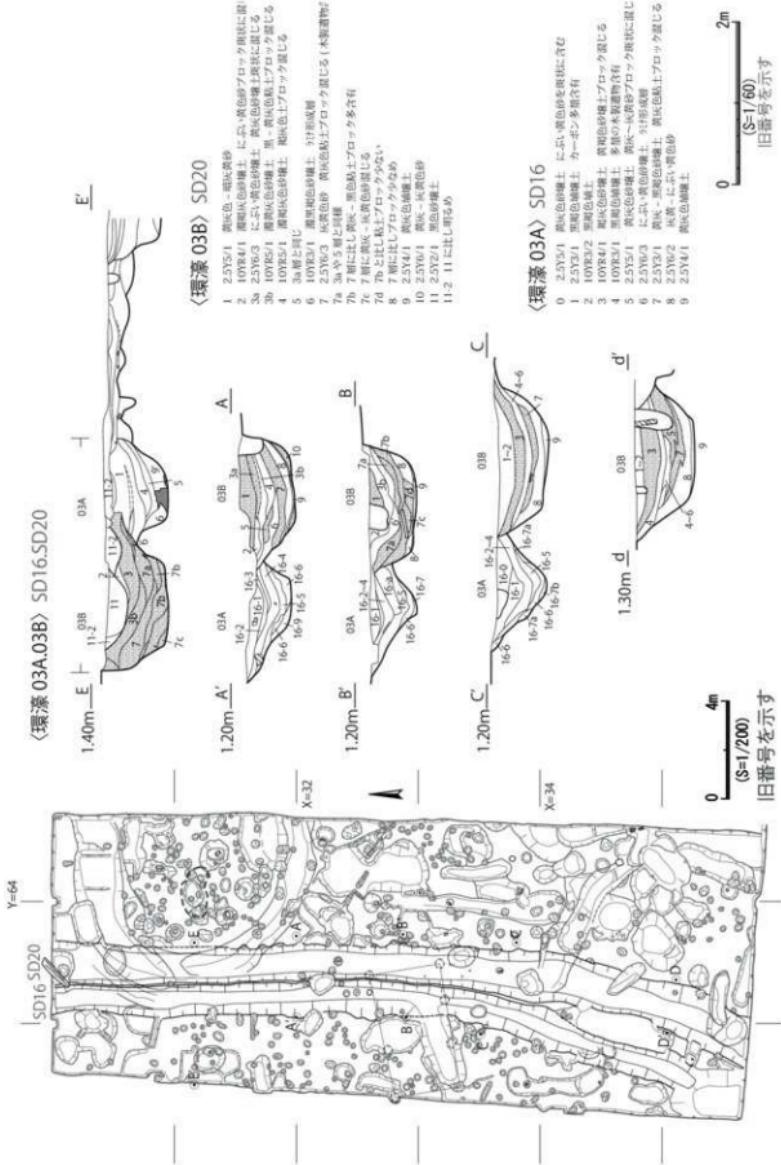
SX01は当初、方形周溝墓と捉え調査していたものの、周溝内から木柱根がみえること等から、平成9年度に実施した現地説明会の際に平地式建物と議論になったものである。本節では、その後の遺物や断面等から平地式建物として報告するに至っている。SX01、02周溝及び周溝内の土坑からは、集落III期の土器が出土している。



第 118 図 12 地区全体図 (1/300)



第119図 12地区変遷図(1/300)

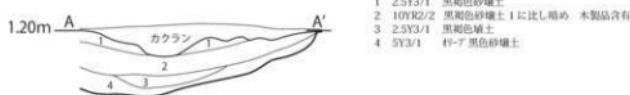


第 120 図 12 地区 環濠 03A・03B 平面図 (1/200), 断面図 (1/60)

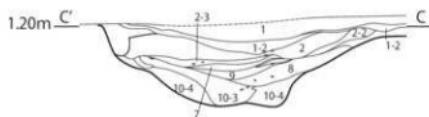
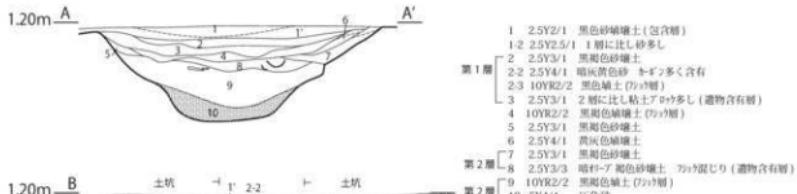


第 121 図 12 地区 環濠 04,06 平面図 (1/100)

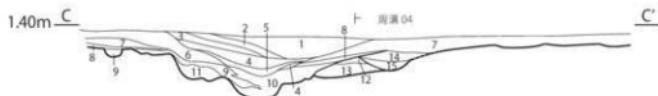
## 〈環濠 06〉 SD24



## 〈環濠 04〉 SD01



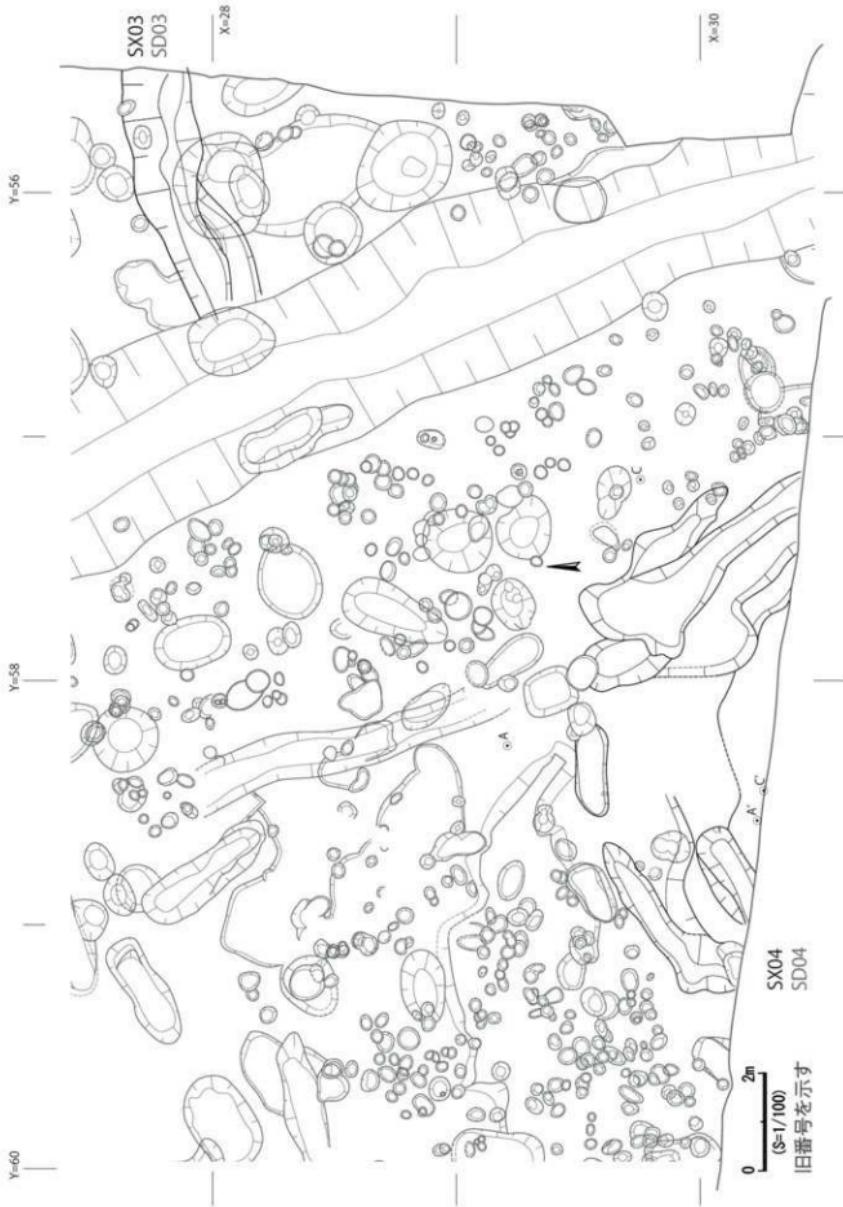
## 〈SX04〉 SD04. 周溝 04



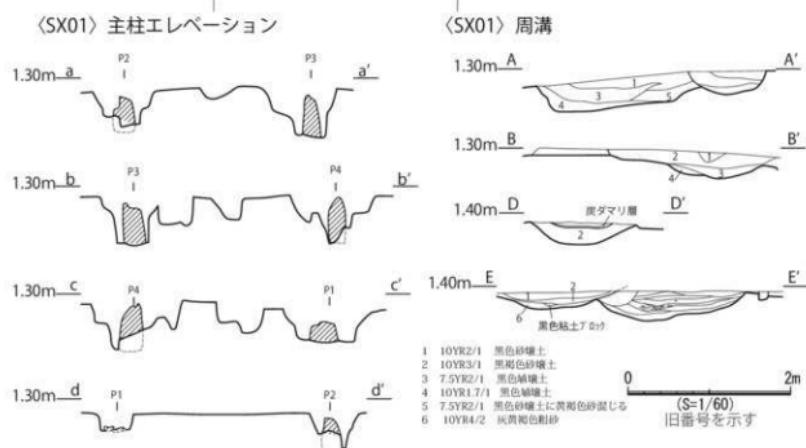
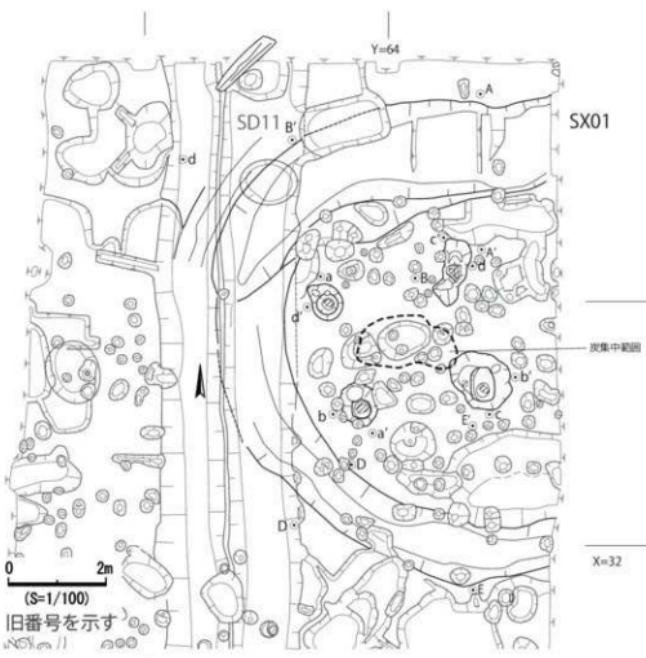
- 1 2.5Y2/1 黑色砂礫土 (包含層)  
2 2.5Y2/1 I 層に比し砂多し  
3 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土 ケーブル多く含有  
4 2.5Y2/2 黑褐色砂礫土 (ワード層)  
5 ワード 層  
6 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土に黄褐色砂混じる (遺物含有層)  
7 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土  
8 成なり層  
9 2.5Y2/1 黑色砂礫土 黄褐色-灰色砂多く含む  
10 2.5Y2/1 黑色砂礫土 (ワード層 遺物含有層) 細画土源出土  
11 2.5Y2/2 黑褐色砂礫土 (ワード層)  
12 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土  
13 2.5Y3/2 黑褐色砂礫土 灰黄褐色粘土より多く含む  
14 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土 微黄褐色粘土より多く含む  
周溝 04  
14-2 10YR2/1.5 黑褐色砂礫土  
15 2.5Y2/2 黑褐色砂礫土  
16 2.5Y2/1 黑色砂  
17 2.5Y2/1 黑色砂礫土

0 2m  
(S=1/60)  
旧番号を示す

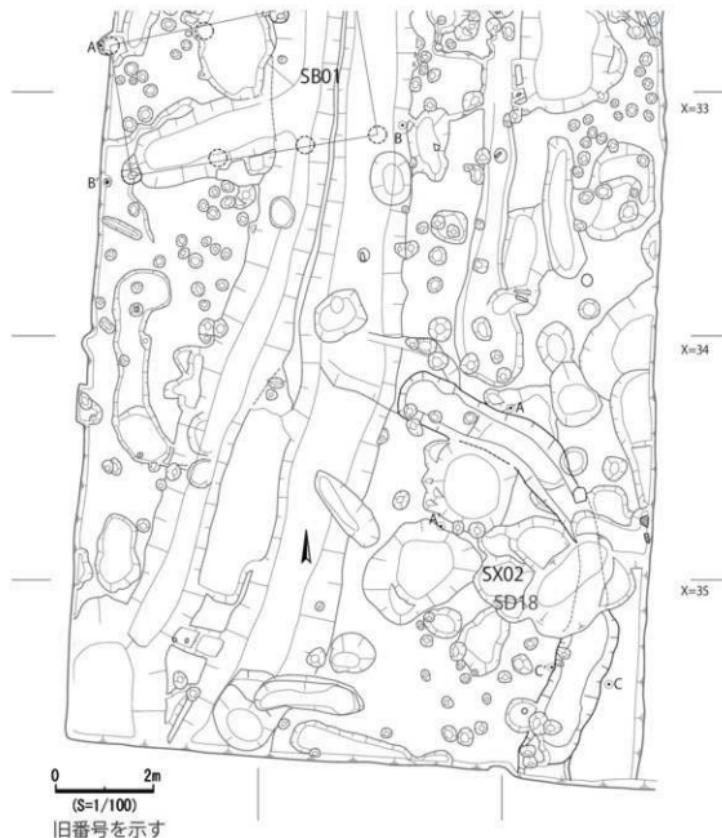
第 122 図 12 地区 環濠 04,06,SX04 断面図 (1/60)



第123図 12地区 SX03,04 平面図 (1/100)



第124図 12地区 SX01 平面図(1/100), 断面図(1/60)



〈SX02〉

1.30m — A'

— SX04

— A

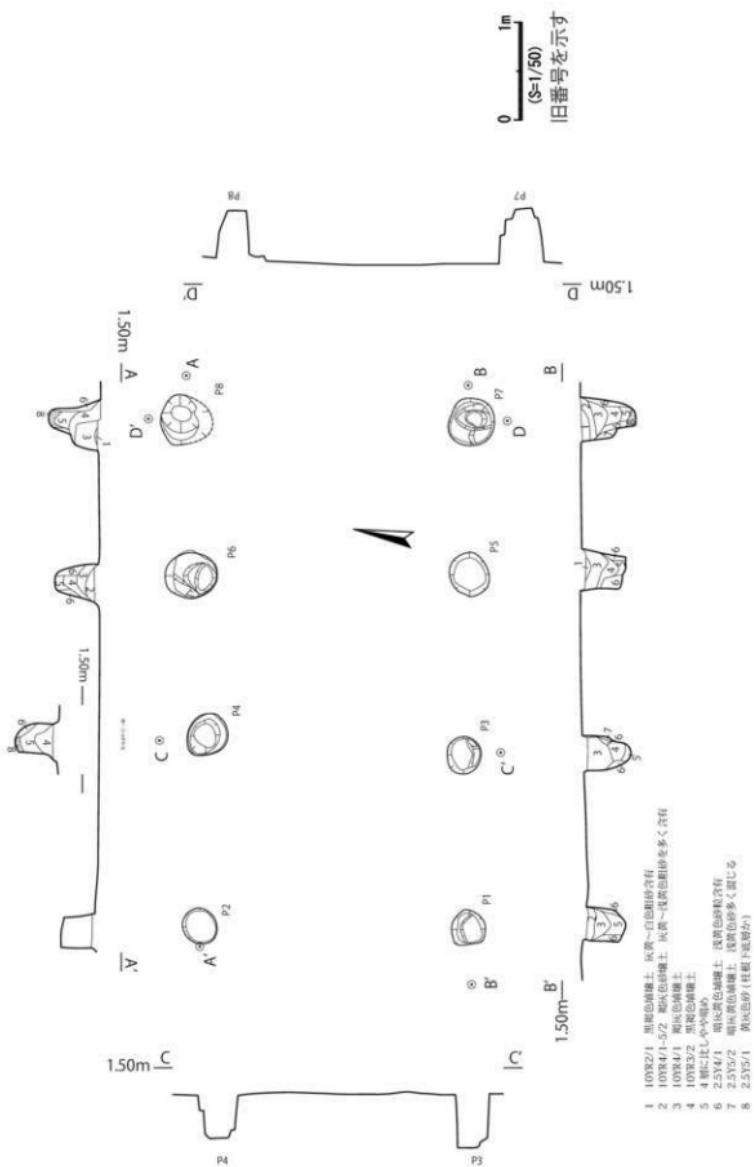
1.30m — C'

— C

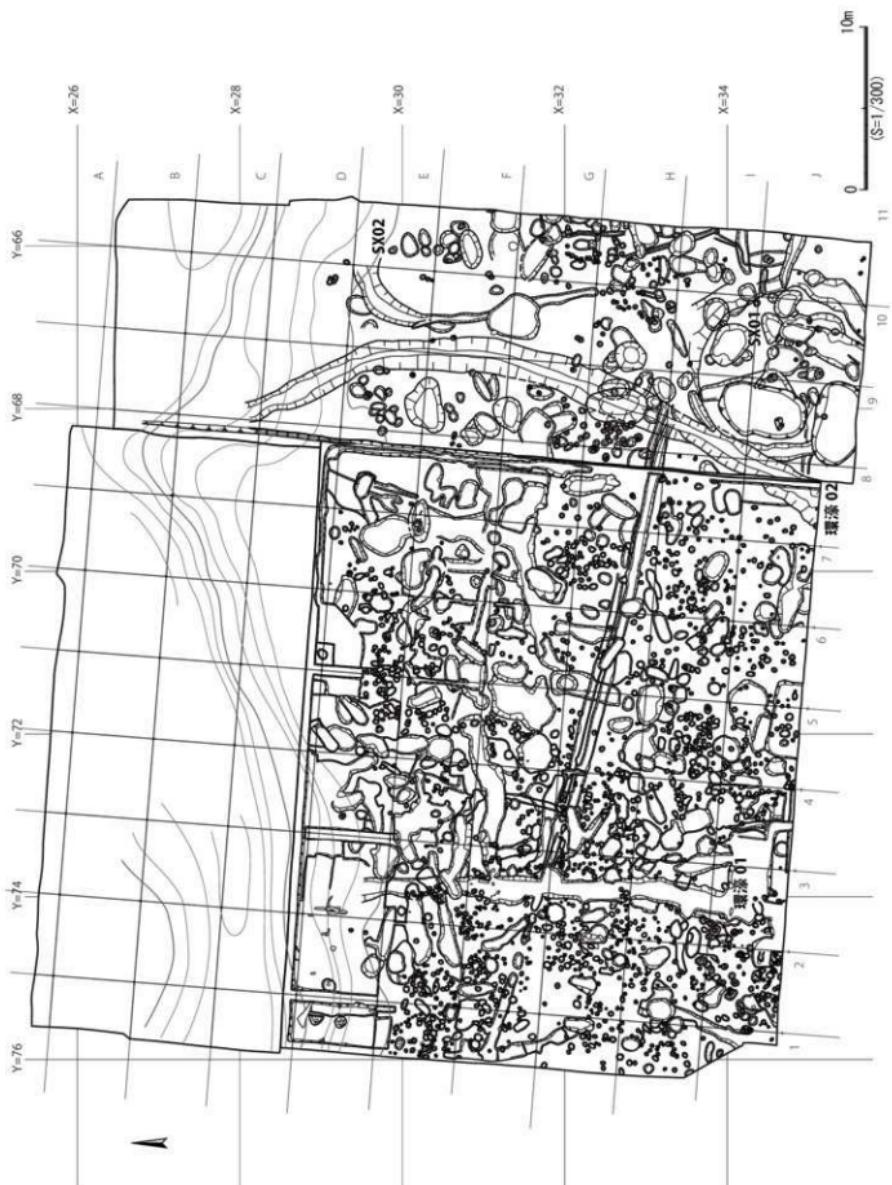
0 2m  
(S=1/60)  
旧番号を示す

I 10YR3/1 黒褐色砂壤土

第 125 図 12 地区 SX02 平面図 (1/100), 断面図 1(1/60)



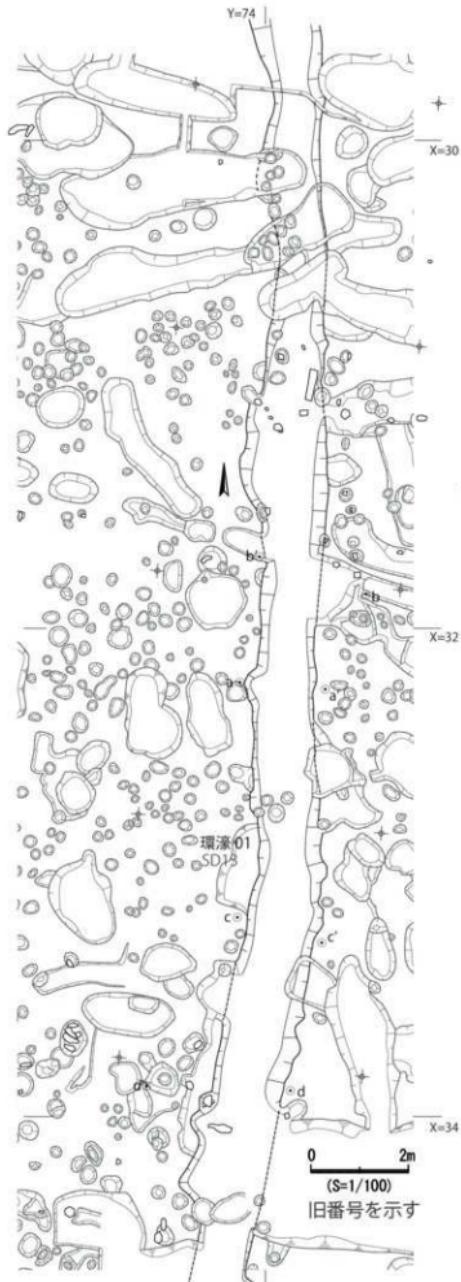
第126図 12地区SB01平面図,断面図(1/50)



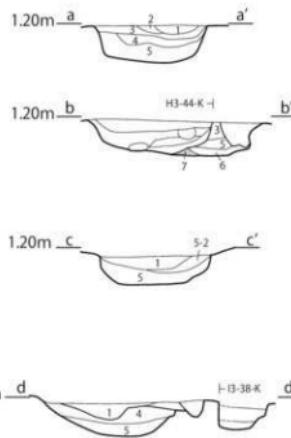
第127図 13地区全体図(1/300)



第 128 図 13 地区 変遷図 (1/300)



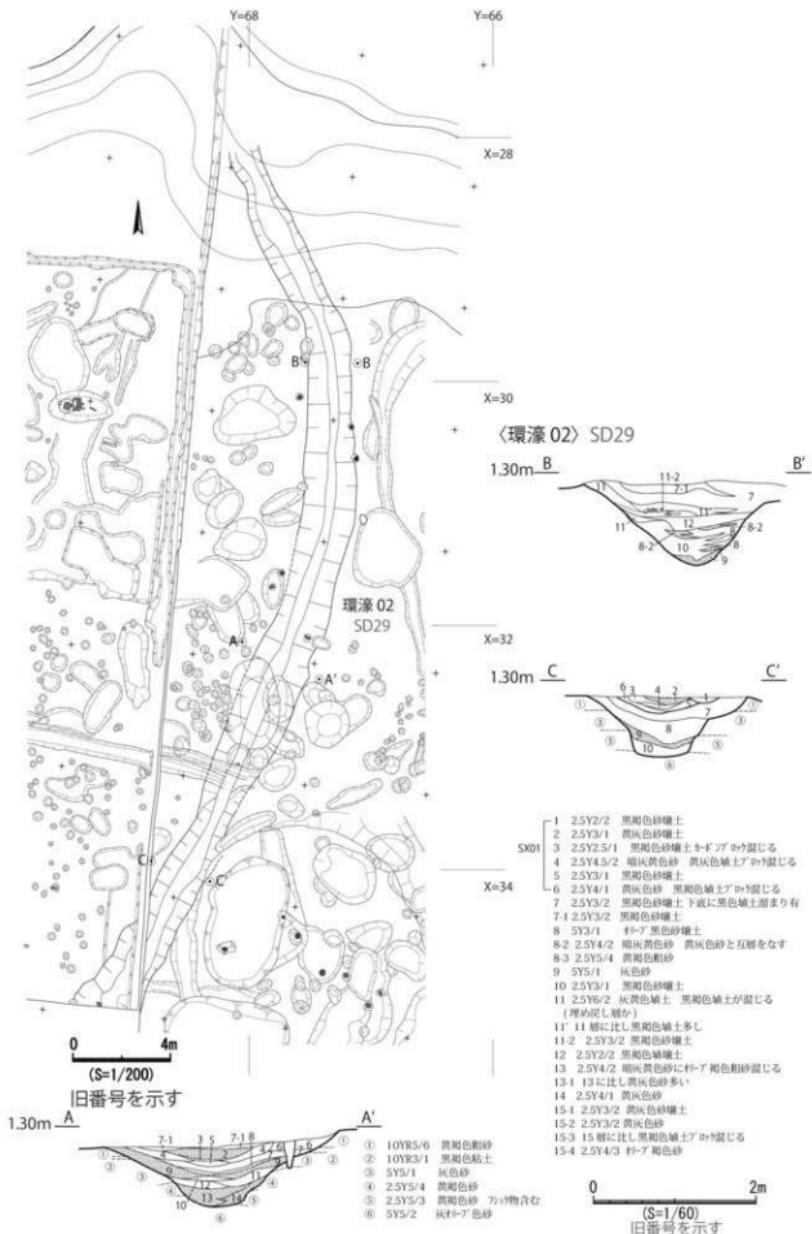
〈環濠 01〉 SD13



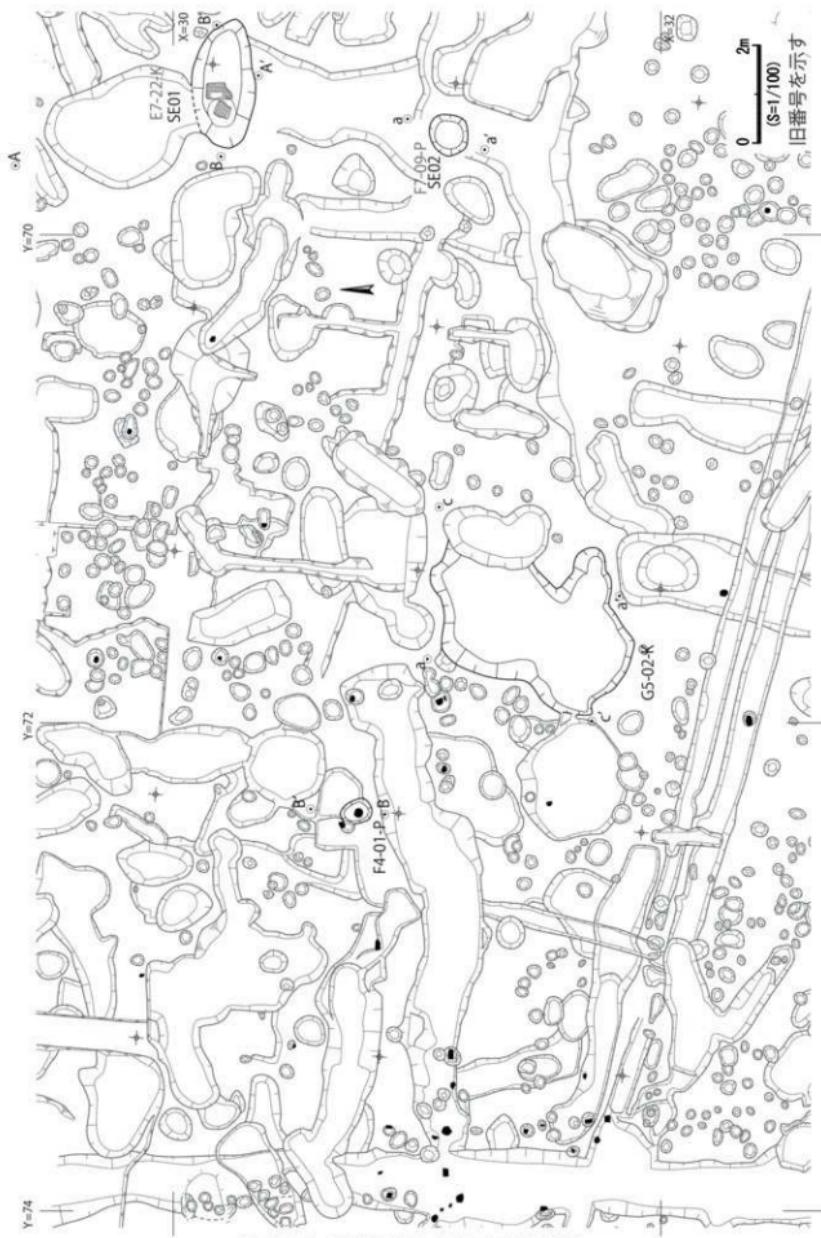
- 1 2.5Y3/1 黒褐色砂礫土
- 2 2.5Y4/1 黄褐色砂礫土
- 3 2.5Y3/1 黑褐色砂礫土に灰黄色砂合む
- 4 3 倍に比し灰黄色砂多く含む
- 5 黄褐色砂 - 黑褐色砂礫土の互層 フジイ物含む
- 6 2.5Y2/1 黑色砂礫土 フジイ物含む
- 7 10YR3/3 喬褐色砂

0  
(S=1/60)  
旧番号を示す

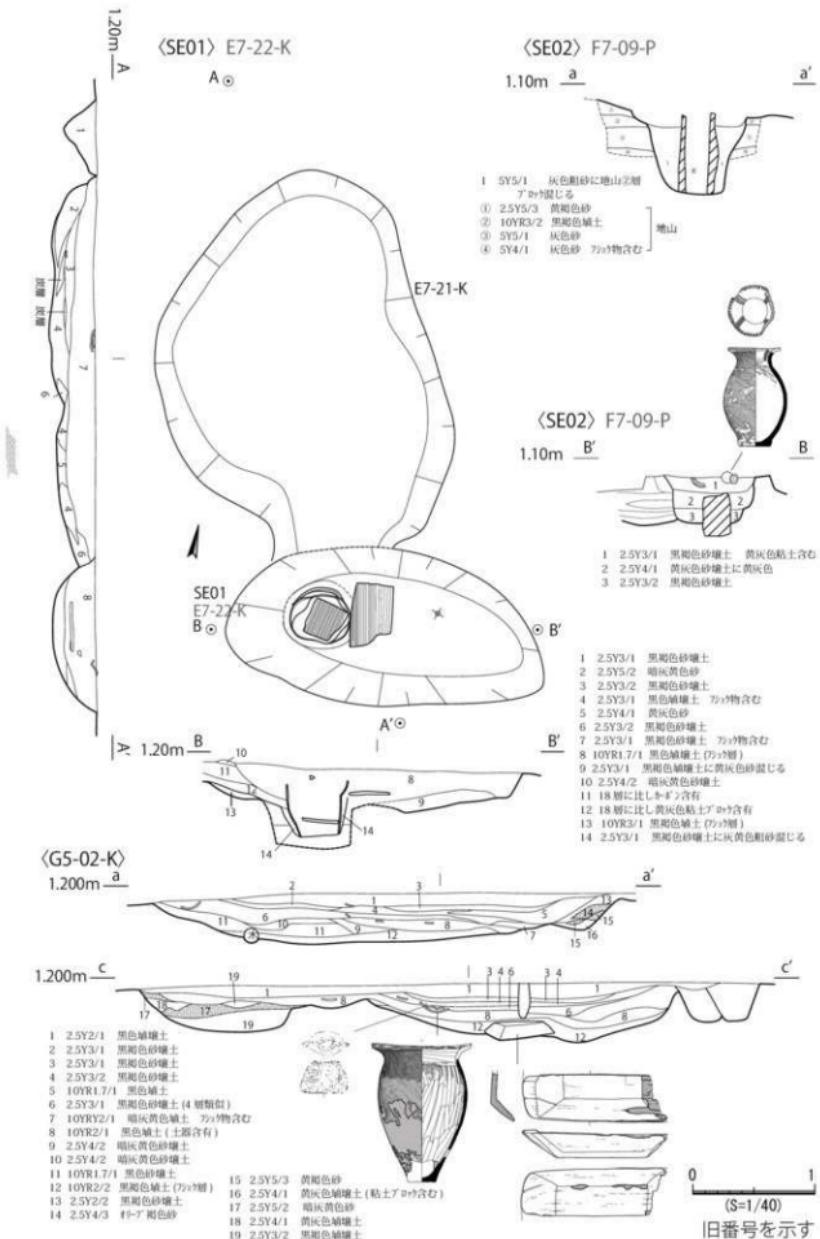
第 129 図 13 地区 環濠 01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



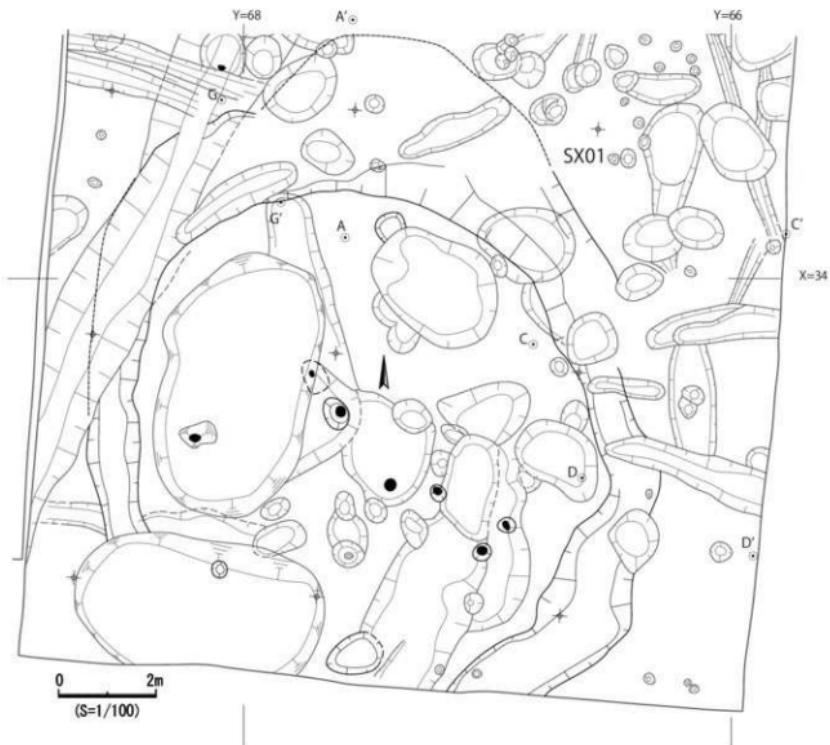
第130図 13地区環濠02平面図(1/200),断面図(1/60)



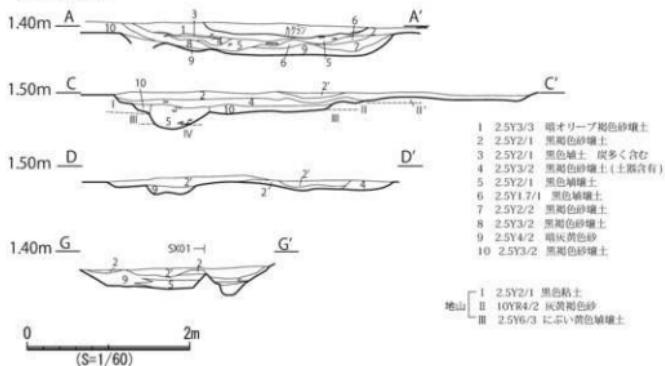
第 131 図 13 地区 SE01,02 他平面図 (1/100)



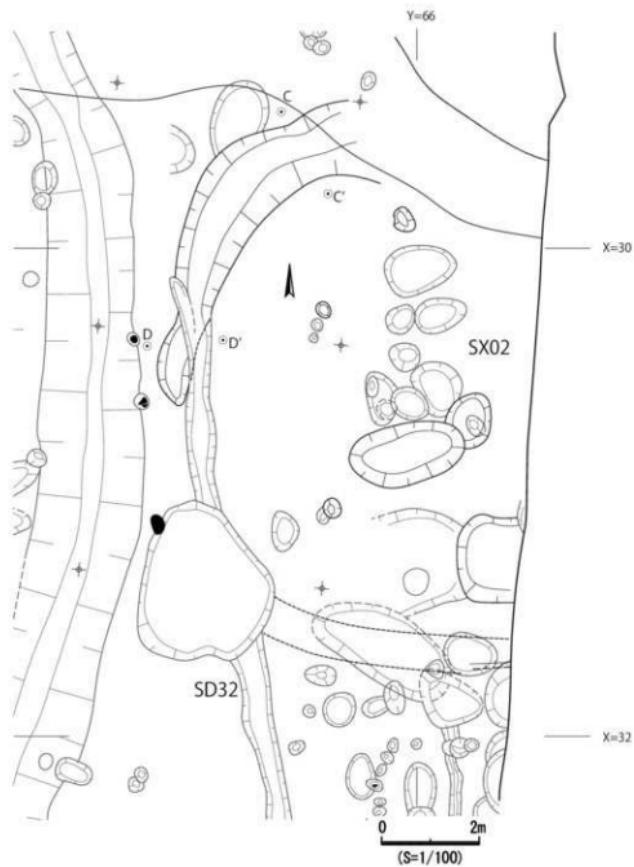
第 132 図 13 地区 SE01,02 他平面図、断面図 (1/40)



〈SX01周溝〉



第 133 図 13 地区 SX01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)



第134図 13地区 SX02 平面図(1/100), 断面図(1/60)

## 第9節 11地区

### 1. 調査区の概要

11地区は平成8年度に2,590m<sup>2</sup>、平成10年度に860m<sup>2</sup>を調査実施している。いずれも平成8年度に設定した任意のグリッドを設定し、航空測量図化作成を行っている。調査担当者はもっとも多い6名にわたり、調査区も大きく3回に分けて実施している。

### 2. 遺構の概要

調査区は黒色埴土壤土を覆土にもつ集落Ⅲ期に併行する遺構下は、全体に褐～褐灰黄色砂に覆われ、良好な集落Ⅱ期の生活域が展開している。また、もっとも多く製玉関連遺物の出土や木柱根、膨大な土坑群の発見に合わせて、土器量は26地区埋積浅谷と同等の約パンケース800箱をはかる。

検出した主な遺構は、環濠06、07、方形周溝墓2基、複数の土坑、掘立柱建物4棟以上がみられる。

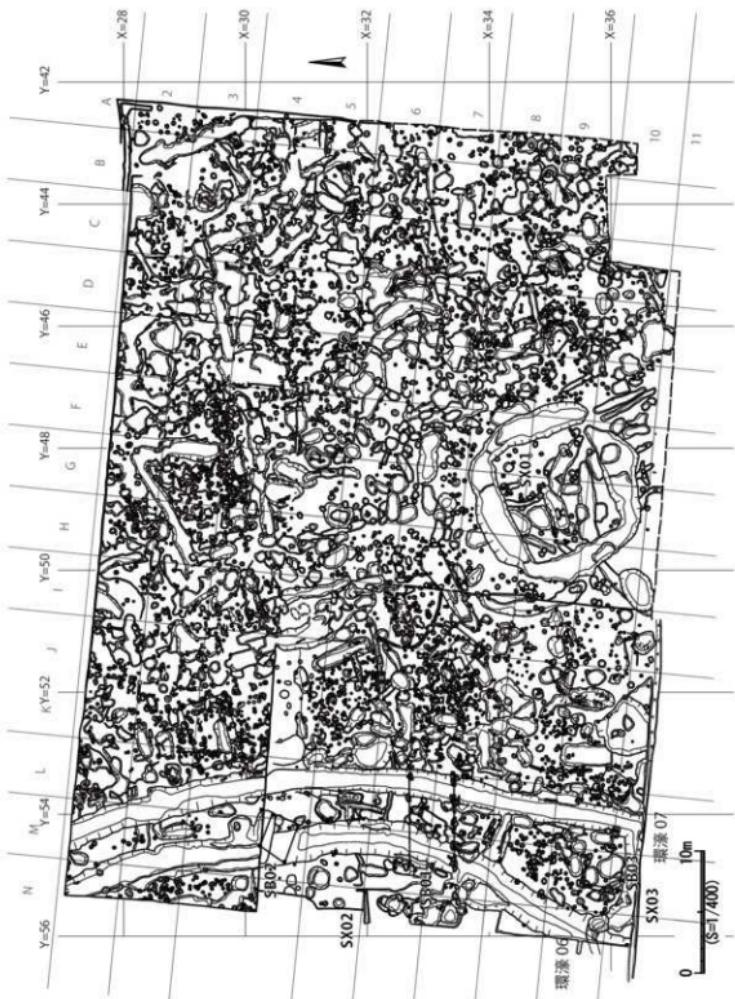
環濠06、07は、平地式建物と思われるSX02や複数の土坑に切られている。環濠06中層からは多くの木製品や八日市地方6-7期併行の土器が出土している。調査担当者によると、下層には木くず層が散見されたとのことで、未成品、半成品との出土と合わせても集落Ⅱ期における木器加工が行われていた可能性が高い。環濠07は06に比較すると、堆積土の多くは黒色土壤であり、環濠06埋没後掘削されたものと考えられ、中層に出土する土器は八日市地方7-8期であり、土器形式との齟齬もない。また、環濠廐絶時に遺物廐棄をする際、環濠肩部を切る土坑が掘削されるようで、環濠内の出土遺物と同様に多量の土器、木製品が出土している。

方形周溝墓の形状は隅円方形を呈し、10mを超える、1隅の陸橋部をもつと考えられる。この周溝上層からは、シカの描かれた絵画土器片やシカが胸に描かれた人形土製品(報告I第100図17)がみられ、特異な祭祀遺物が伴う墓でもある。また、調査終了間際に南側道路下から発見された魚形木製品(報告I第297図38)は、環濠06、07の高まりを利用して集落Ⅲ期併行の方形周溝墓の可能性が高い周溝からの発見であり、墓に供獻する特異的な発見がみられる地区である。

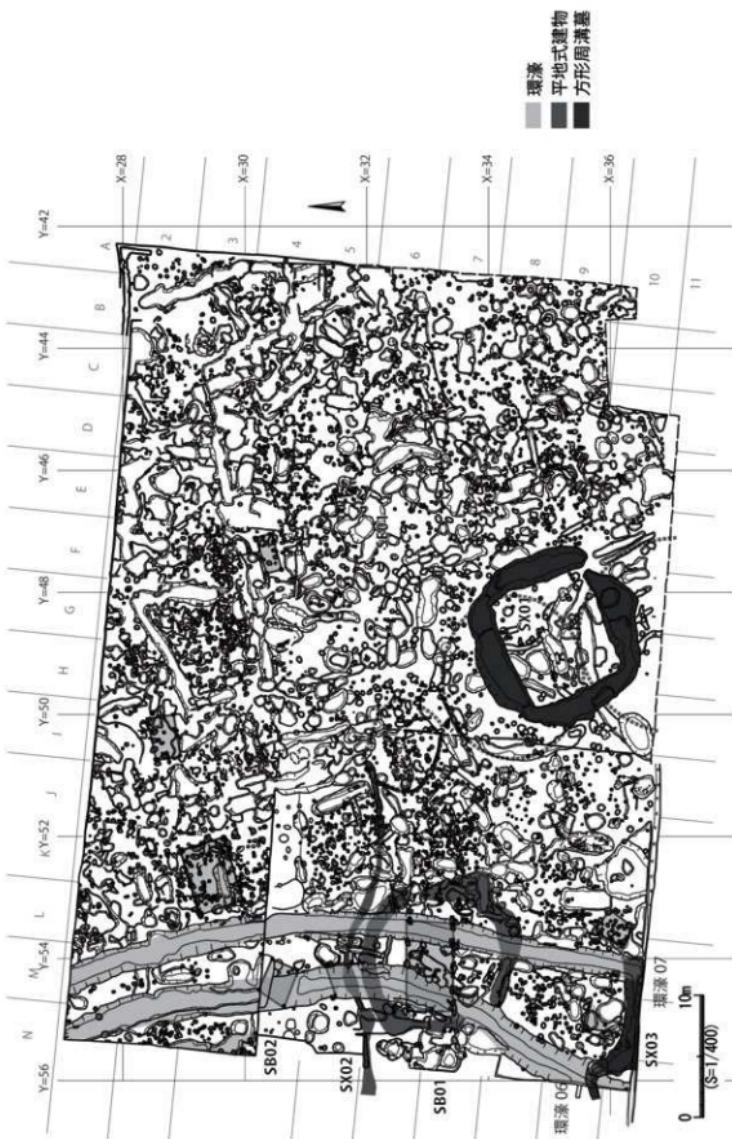
平地式建物としたSX02はSX01同様黒色土壤堆積により円形のプランが確認されたものである。この周溝周辺には、碧玉チップ、玉作関連遺物が出土し、建物との関係が気になるところである。この建物の主柱穴は明確には分かつておらず、ちょうど1間×4間の木柱根を残すSB01と重なりを見せるところは興味深い。木柱は調査終了段階で4間に伸びることがわかり、周溝との関係は現地では捉えにくいものであるが、環濠06、07を切っていることから集落8期以降に位置づけられ、平地式建物周溝同様に集落Ⅲ期に位置づけられる。また、SB03のような柱間寸法2mほどの1間×1間は、4棟以上見つかっている。

なお、この2本の環濠付近では多くの木柱根が発見されており、今後、遺物を合わせた資料検討とともに建物がさらに多く復元できるものと思われる。

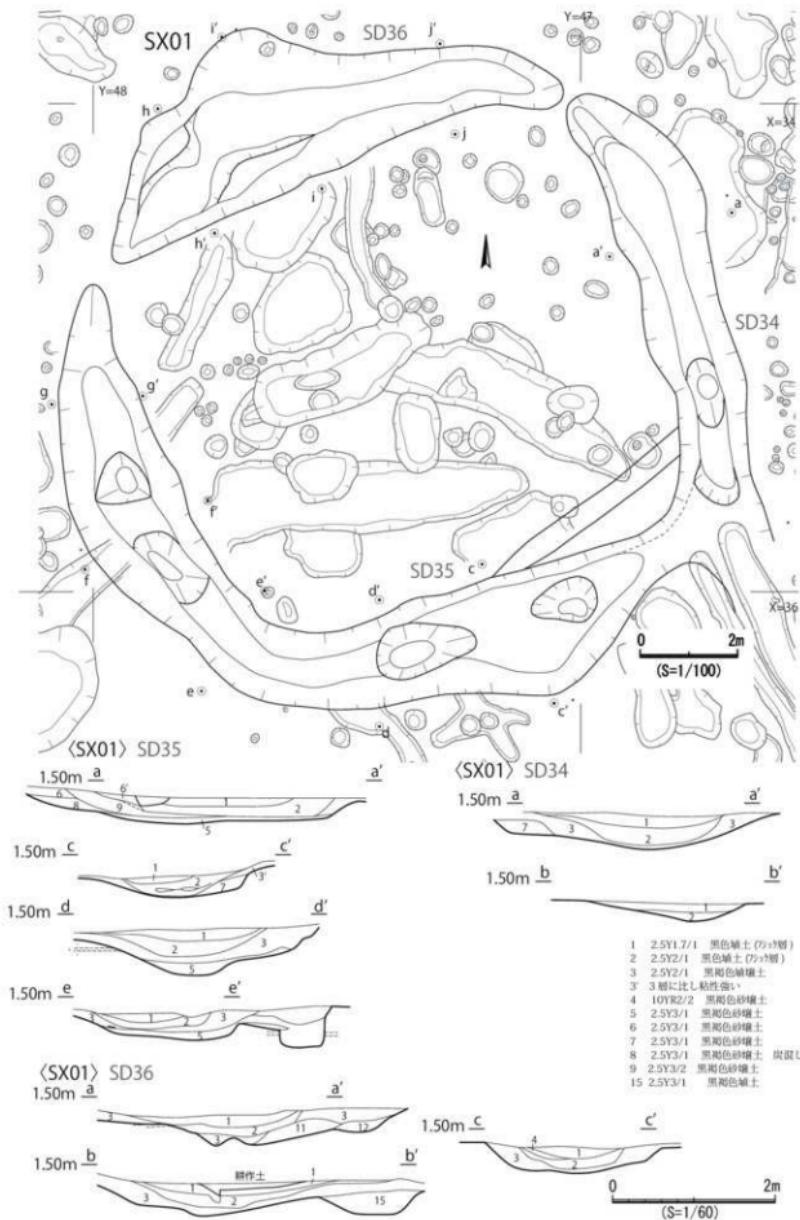
SE01は当遺跡の中で最も良質な樹皮利用の井戸であり、樹皮を内杭と外杭で固定していたことが窺われる。また下層にも重なって同質の樹皮製枠が出土しており(第142図)、作り直しが行われていることがわかる。時期は小片であるが、集落Ⅱ期の土器片が出土しており、概ね集落Ⅱ期相当と思われる。



第135図 11地区全体図(1/400)

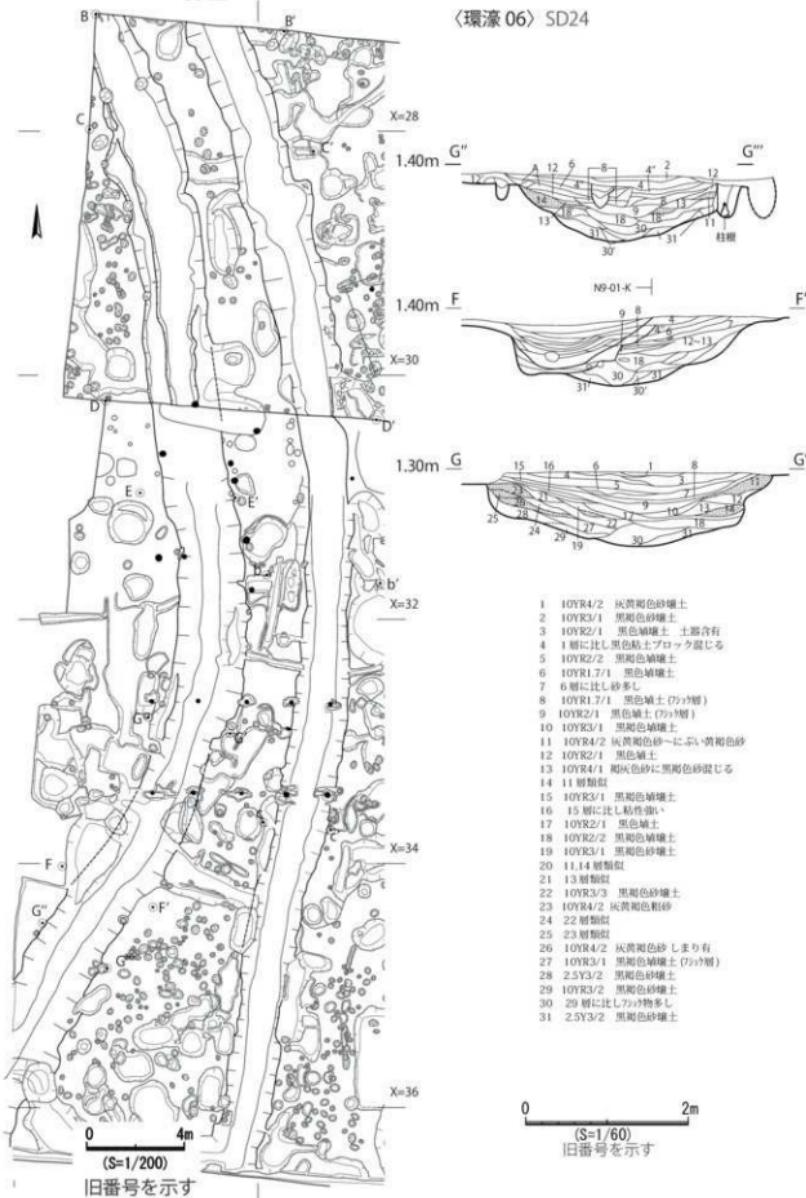


第 136 図 11 地区 变遷図 (1/400)

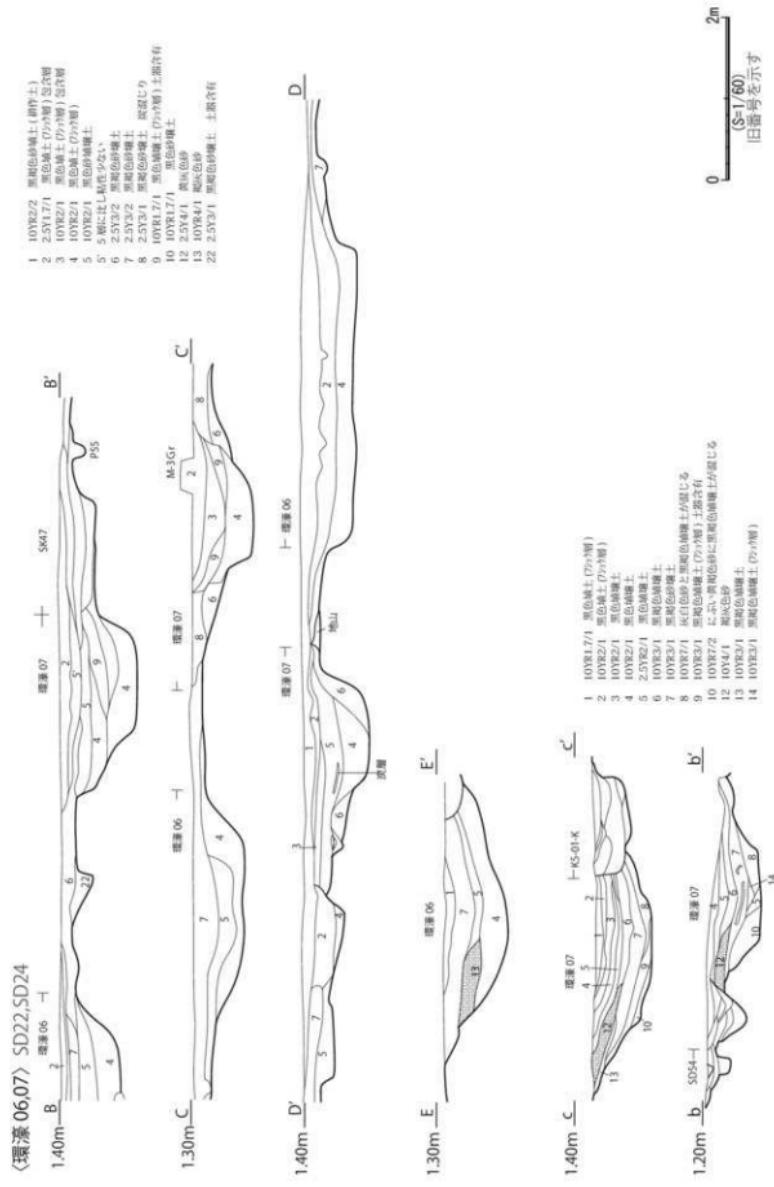


第137図 11地区 SX01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

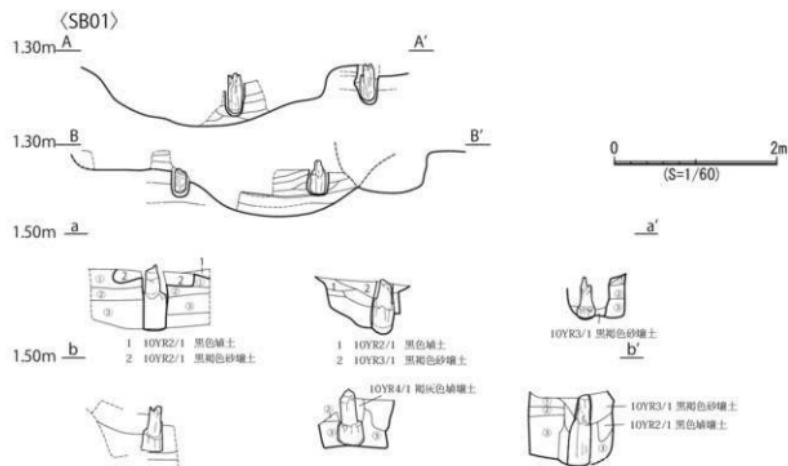
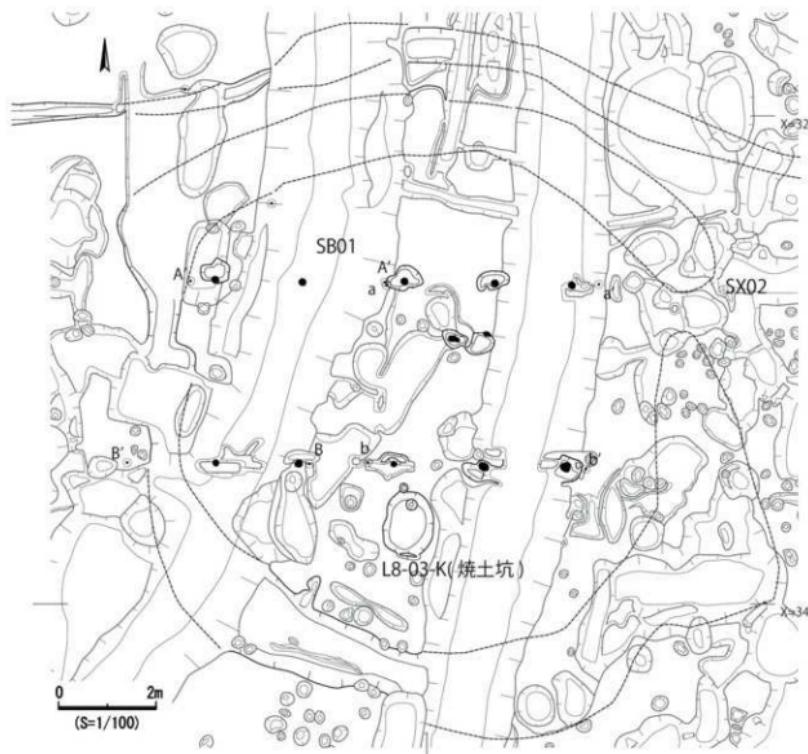
環濠 06 環濠 07  
SD24 SD22 Y=50



第 138 図 11 地区 環濠 06,07 平面図 (1/200), 断面図 (1/60)

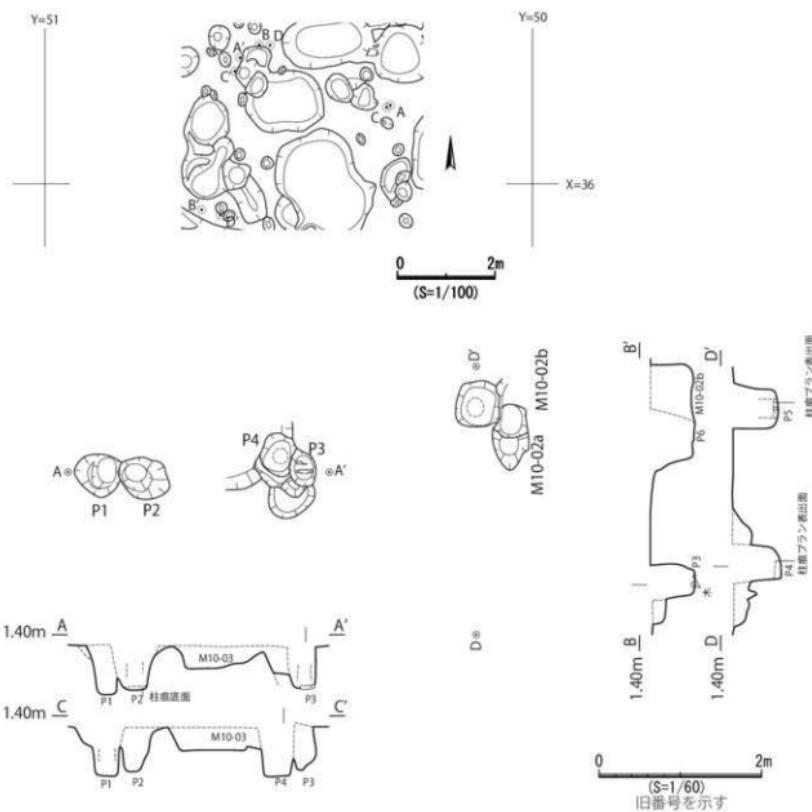


第139図 11地区環濠06,07断面図(1/60)

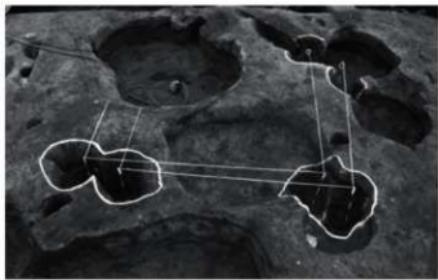


第 140 図 11 地区 SX02,SB01 平面図 (1/100), 断面図 (1/60)

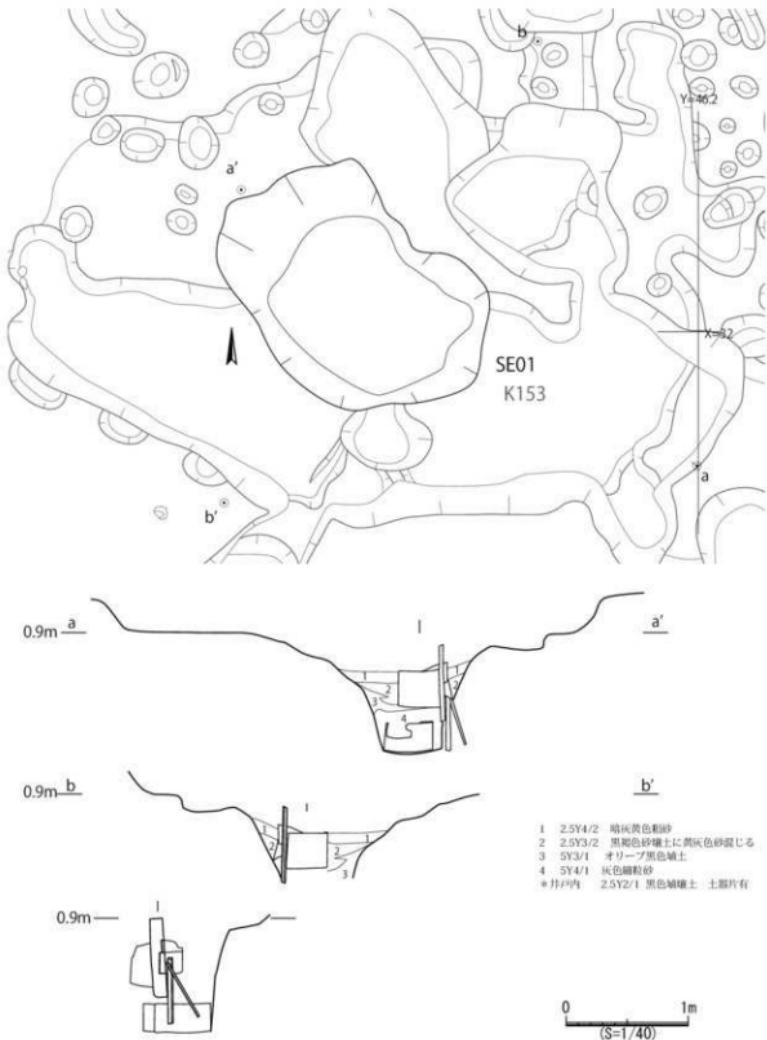
〈SB03〉 M10-SB01



第141図 11地区 SB03 平面図 (1/100), エレベーション図 (1/60)



SB03 検出状況 北から



第142図 11地区SE01平面図,断面図(1/40)

# 第2部 石器編

## 第I章 磚石器

|           |     |
|-----------|-----|
| 第1節 磚石類   | 158 |
| 第2節 四石・石錐 | 172 |
| 第3節 砥石・石皿 | 176 |

## 第II章 磨製石器

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 第1節 磨製円盤（有孔円盤・環石類等） | 191 |
| 第2節 磨製石斧            | 194 |
| 第3節 磨製刃器（石包丁等）      | 201 |
| 第4節 磨製石鎌            | 204 |

## 第III章 打製石器

|               |     |
|---------------|-----|
| 第1節 打製石斧（石鎌）  | 207 |
| 第2節 打製刃器（石鎌等） | 207 |
| 第3節 打製石鎌・石錐   | 208 |

## 第IV章 その他

|          |     |
|----------|-----|
| 第1節 剥片石器 | 213 |
| 第2節 石核   | 221 |
| 第3節 石製品  | 221 |

### 凡例

- 「番号はデータベース上のシリアル番号である。
- 実測図で使用している記号的な表示及び描画は右のとおりである。
- 石材分類及びその名称は専門家の鑑定を受けたものではなく、記号は任意である。

|  |            |  |            |
|--|------------|--|------------|
|  | スス (断面に表示) |  | 磚面         |
|  | ヤケ (断面に表示) |  | 敲打痕        |
|  | 光沢         |  | 分類に寄与する使用痕 |
|  | 磨面         |  | 分類に寄与する加工痕 |
|  | 擦痕         |  |            |

| 記号 | 石 材 名          | 産地区分      | 概 要         |
|----|----------------|-----------|-------------|
| Aa | 黒色安山岩          | 陸地性 / 貝地性 | 主に能登産、奥越前か  |
| Ag | 鷹島             | 在地性       |             |
| An | 安山岩質           | 在地性       |             |
| Bc | 混灰角礫岩          | 在地性       |             |
| Ch | チャート           | 在地性       |             |
| Ch | 玉髓 / 本玉髓 / 黒玉髓 | 在地性 / 貝地性 | 黒玉髓は奥能登産か   |
| Da | デイサイト-a        | 在地性       | あるいは石英斑岩か   |
| Da | デイサイト-b        | 在地性       | いわゆる「濃飛流紋岩」 |
| Di | 閃輝石岩           | 貝地性       | 信州産         |
| Fj | 月長岩            | 在地性       | 月長石または類似する石 |
| Fq | 鵝石英            | 在地性       |             |
| Gd | 瑪瑙質デイサイト       | 貝地性 ?     | 下呂石に類似      |
| Gn | 片麻岩質           | 在地性       | 無鉻斑麻岩       |
| Gr | 花崗岩質           | 在地性       |             |
| Gr | 野玉質岩           | 在地性       | 変質岩         |
| Gr | 緑色凝灰岩          | 在地性       | 変質岩         |
| Ho | 変成砂岩           | 貝地性 ?     |             |
| Ho | 変成真岩           | 貝地性 ?     |             |
| Jd | 鍾乳             | 貝地性       | 赤魚川産        |
| Ja | alcu隕凝灰岩質      | 在地性       | いわゆる「濃飛流紋岩」 |
| Np | 軟玉             | 貝地性       | 赤魚川産        |
| Ob | 黒曜岩            | 貝地性       | 赤地不詳        |
| Pd | 細粒岩質           | 貝地性       | 蛭巻岩に似るが片理なし |

| 記号 | 石 材 名           | 産地区分 | 概 要         |
|----|-----------------|------|-------------|
| Pr | 灰色變色安山岩         | 在地性  | 変質岩?        |
| Pr | 麥玲安山岩類          | 在地性  | 変質岩         |
| Pr | 軽石凝灰岩           | 在地性  | 軽粗な海灰角礫岩    |
| Pu | 軽石              | 在地性  | バミズ         |
| Qc | 鈍水晶 / 水晶        | 在地性  | 結晶          |
| Qu | 珪岩 / 石英         | 在地性  |             |
| Rb | 斑紋岩-a           | 在地性  | デイサイト質?     |
| Rb | 斑紋岩-b           | 在地性  | 層状に節理発達     |
| Rb | 斑紋岩類            | 在地性  |             |
| Sc | 結晶片岩            | 貝地性  | 三波川変成岩      |
| Se | 蛇紋岩             | 貝地性  | 亜魚川産        |
| Sb | 碧玉              | 在地性  | シェーラ        |
| Si | 褐色岩             | 在地性  | 珪化した海灰岩か褐色  |
| Si | 珪質岩類            | 在地性  | 珪化した海灰岩か火山岩 |
| Sl | 貼板岩             | 在地性  | スレード        |
| Sn | 砂岩              | 在地性  |             |
| Sb | 碧質寶石            | 在地性  | 手取層群?       |
| Si | 黑色寶石            | 在地性  |             |
| Sw | 珪化木             | 在地性  |             |
| Ts | 凝灰質砂岩類 / 海灰質頁岩類 | 在地性  |             |
| Tu | 鶴見岩類            | 在地性  |             |
| Vt | 透鏡質岩類           | 在地性  | 内珠羽岩板岩類など   |

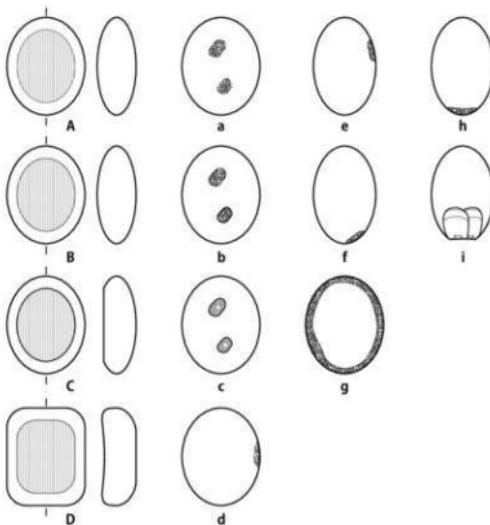
\* 在地性：海相岩。貝地性：海相岩から 100km 開き、貝地性：左記以外の遠隔地

# 第Ⅰ章 磔石器

## 第1節 磔石類

### 1 磔石類の分類

- 円礫～亜円礫をそのまま利用した石器であり、使用痕に基づいて、次のとおり分類した。
- A…礫面に不明瞭な磨面があるもの。  
B…礫面に明瞭な磨面があるもの。  
C…礫面に平坦な磨面があるもの。  
D…礫の凹面に磨面があるもの。  
a…礫面に疎らな敲打痕があるもの。  
b…礫面に著しい敲打痕があるもの。  
c…礫面に明瞭な凹みがあり、摩滅または研磨されているもの。  
d…礫側縁に疎らな敲打痕があるもの。  
e…礫側縁に著しい敲打痕があるもの。  
f…礫側縁端部付近に著しい敲打痕があるもの。  
g…礫側縁全周に著しい敲打痕があるもの。礫全面に及ぶものもある。擦痕を伴うものはg'。  
h…礫端部に著しい敲打痕があるもの。擦痕を伴うものはh'。  
i…礫端部に剥離加工されているもの。



## 2 磨石類の概要

磨石類に分類したものは、既報告分も含めて 2,653 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 91 点である。

分類について、堅果類の加工調理等に係る生産用具と推定されるものは磨石・叩石・台石（石皿）、石器製作等に係る工具と推定されるものは砥石・鎌石・台石とし、参考として下表に示した。ただし、据え置き型の石皿は使用痕 D に限定し、ほかは台石に分類したため、台石については生産用具と工具の区別を想定していない。個別の分類では、手持ち型と据え置き型の目安を重量 1kg に置いた。

また、手持ち型の使用痕 h とした鎌石については、民俗例でトチの加工調理に使用される叩石に類似するものもあり、一概に工具といえない。天然石をそのまま利用したものだけに、具体的な用途については、個別の事例を煮詰めて判断していくほかによい方法が思い当たらない。

特殊な例として、使用痕 C は磨面が平らに削ぎ落としたようになり、使用的結果平らになったというよりは、何かしらの加工を作りうと考えられる。

なお、磨面を作りうものには火にあぶった痕跡が散見されるが、これは摩擦を大きくするための工夫と考えられる。

| 重量 (g)           | 数量         | 累積割合         | 百分率           | 累積百分率         |
|------------------|------------|--------------|---------------|---------------|
| Up To 100        | 3.38       | 3.38         | 12.74%        | 12.74%        |
| <b>100 - 200</b> | <b>372</b> | <b>710</b>   | <b>14.02%</b> | <b>26.76%</b> |
| 200 - 300        | 3.26       | 1.036        | 12.29%        | 39.05%        |
| 300 - 400        | 2.52       | 1.288        | 9.50%         | 48.55%        |
| <b>400 - 500</b> | <b>264</b> | <b>1.552</b> | <b>9.95%</b>  | <b>58.50%</b> |
| 500 - 600        | 1.81       | 1.733        | 6.82%         | 65.32%        |
| 600 - 700        | 1.64       | 1.897        | 6.18%         | 71.50%        |
| <b>700 - 800</b> | <b>127</b> | <b>2.024</b> | <b>4.79%</b>  | <b>76.29%</b> |
| 800 - 900        | 0.96       | 2.110        | 3.24%         | 79.53%        |
| 900 - 1000       | 0.78       | 2.188        | 2.94%         | 82.47%        |
| 1000 - 1100      | 0.61       | 2.249        | 2.30%         | 84.77%        |
| 1100 - 1200      | 0.40       | 2.289        | 1.51%         | 86.28%        |
| 1200 - 1300      | 0.36       | 2.325        | 1.36%         | 87.64%        |
| 1300 - 1400      | 0.37       | 2.362        | 1.39%         | 89.03%        |
| 1400 - 1500      | 0.34       | 2.396        | 1.28%         | 90.31%        |
| 1500 - 1600      | 0.31       | 2.427        | 1.17%         | 91.48%        |
| 1600 - 1700      | 0.26       | 2.453        | 0.98%         | 92.46%        |
| 1700 - 1800      | 0.20       | 2.473        | 0.75%         | 93.22%        |
| 1800 - 1900      | 0.16       | 2.489        | 0.60%         | 93.82%        |
| 1900 - 2000      | 0.11       | 2.500        | 0.41%         | 94.23%        |
| 2000 - 2100      | 0.14       | 2.514        | 0.53%         | 94.76%        |
| 2100 - 2200      | 0.9        | 2.523        | 0.34%         | 95.10%        |
| 2200 - 2300      | 0.12       | 2.535        | 0.45%         | 95.55%        |
| 2300 - 2400      | 0.7        | 2.542        | 0.26%         | 95.82%        |
| 2400 - 2500      | 0.81       | 2.550        | 0.30%         | 96.12%        |
| 2500 - 2600      | 0.6        | 2.556        | 0.23%         | 96.34%        |
| 2600 - 2700      | 0.5        | 2.561        | 0.19%         | 96.53%        |
| 2700 - 2800      | 0.6        | 2.567        | 0.23%         | 96.76%        |
| 2800 - 2900      | 0.5        | 2.572        | 0.19%         | 96.95%        |
| 2900 - 3000      | 0.6        | 2.578        | 0.23%         | 97.17%        |
| 3000 - 3500      | 24         | 2.602        | 0.90%         | 98.08%        |
| 3500 - 4000      | 14         | 2.616        | 0.53%         | 98.61%        |
| 4000 - 4500      | 14         | 2.630        | 0.53%         | 99.13%        |
| 4500 - 5000      | 6          | 2.636        | 0.23%         | 99.36%        |
| 5000 - 5500      | 4          | 2.640        | 0.15%         | 99.51%        |
| 5500 - 6000      | 8          | 2.648        | 0.30%         | 99.81%        |
| 6000 - 6500      | 21         | 2.650        | 0.08%         | 99.89%        |
| 7500 - 8000      | 1          | 2.651        | 0.04%         | 99.92%        |
| 8500 - 9000      | 1          | 2.652        | 0.04%         | 99.96%        |
| 9000 - 9500      | 1          | 2.653        | 0.04%         | 100.00%       |

| 長 (cm)         | 数量         | 累積割合         | 百分率          | 累積百分率         |
|----------------|------------|--------------|--------------|---------------|
| 2 - 3          | 1          | 1            | 0.05%        | 0.05%         |
| 3 - 4          | 19         | 20           | 0.96%        | 1.01%         |
| 4 - 5          | 59         | 79           | 2.97%        | 3.98%         |
| 5 - 6          | 90         | 169          | 4.53%        | 8.51%         |
| 6 - 7          | 113        | 282          | 5.69%        | 14.21%        |
| 7 - 8          | 166        | 448          | 8.36%        | 22.57%        |
| 8 - 9          | 180        | 628          | 9.07%        | 31.64%        |
| 9 - 10         | 178        | 806          | 8.97%        | 40.60%        |
| <b>10 - 11</b> | <b>193</b> | <b>999</b>   | <b>9.72%</b> | <b>50.33%</b> |
| 11 - 12        | 205        | 1,204        | 10.33%       | 60.65%        |
| 12 - 13        | 172        | 1,376        | 8.66%        | 69.32%        |
| <b>13 - 14</b> | <b>156</b> | <b>1,532</b> | <b>7.86%</b> | <b>77.18%</b> |
| 14 - 15        | 120        | 1,652        | 6.05%        | 83.22%        |
| 15 - 16        | 91         | 1,743        | 4.58%        | 87.81%        |
| 16 - 17        | 57         | 1,800        | 2.87%        | 90.68%        |
| 17 - 18        | 41         | 1,841        | 2.07%        | 92.75%        |
| 18 - 19        | 34         | 1,875        | 1.71%        | 94.46%        |
| 19 - 20        | 31         | 1,906        | 1.56%        | 96.02%        |
| 20 - 21        | 19         | 1,925        | 0.96%        | 96.98%        |
| 21 - 22        | 16         | 1,941        | 0.81%        | 97.78%        |
| 22 - 23        | 21         | 1,962        | 1.06%        | 98.84%        |
| 23 - 24        | 7          | 1,969        | 0.35%        | 99.19%        |
| 24 - 25        | 6          | 1,975        | 0.30%        | 99.55%        |
| 25 - 26        | 3          | 1,978        | 0.15%        | 99.65%        |
| 26 - 27        | 1          | 1,979        | 0.05%        | 99.70%        |
| 27 - 28        | 1          | 1,980        | 0.05%        | 99.75%        |
| 29 - 30        | 2          | 1,982        | 0.10%        | 99.85%        |
| 30 - 31        | 1          | 1,983        | 0.05%        | 99.90%        |
| 31 - 32        | 1          | 1,984        | 0.05%        | 99.95%        |
| 34 - 35        | 1          | 1,985        | 0.05%        | 100.00%       |

幅 (cm) 数量 累積割合 百分率 累積百分率

1 - 2 5 5 0.23% 0.23%

2 - 3 32 32 1.48% 1.71%

3 - 4 127 164 5.88% 7.60%

4 - 5 195 359 9.03% 16.63%

**5 - 6** **263** **622** **14.18%** **28.81%**

6 - 7 314 936 14.54% 43.35%

**7 - 8** **332** **1,268** **15.38%** **58.73%**

8 - 9 273 1,541 12.64% 71.38%

**9 - 10** **217** **1,758** **10.05%** **81.43%**

10 - 11 136 1,894 6.30% 87.73%

11 - 12 102 1,996 4.72% 92.45%

12 - 13 59 2,055 2.73% 95.18%

13 - 14 36 2,091 1.67% 96.83%

14 - 15 20 2,111 0.93% 97.78%

15 - 16 19 2,130 0.88% 98.66%

16 - 17 9 2,130 0.42% 99.07%

17 - 18 11 2,150 0.51% 99.58%

18 - 19 2 2,152 0.09% 99.68%

19 - 20 3 2,155 0.14% 99.81%

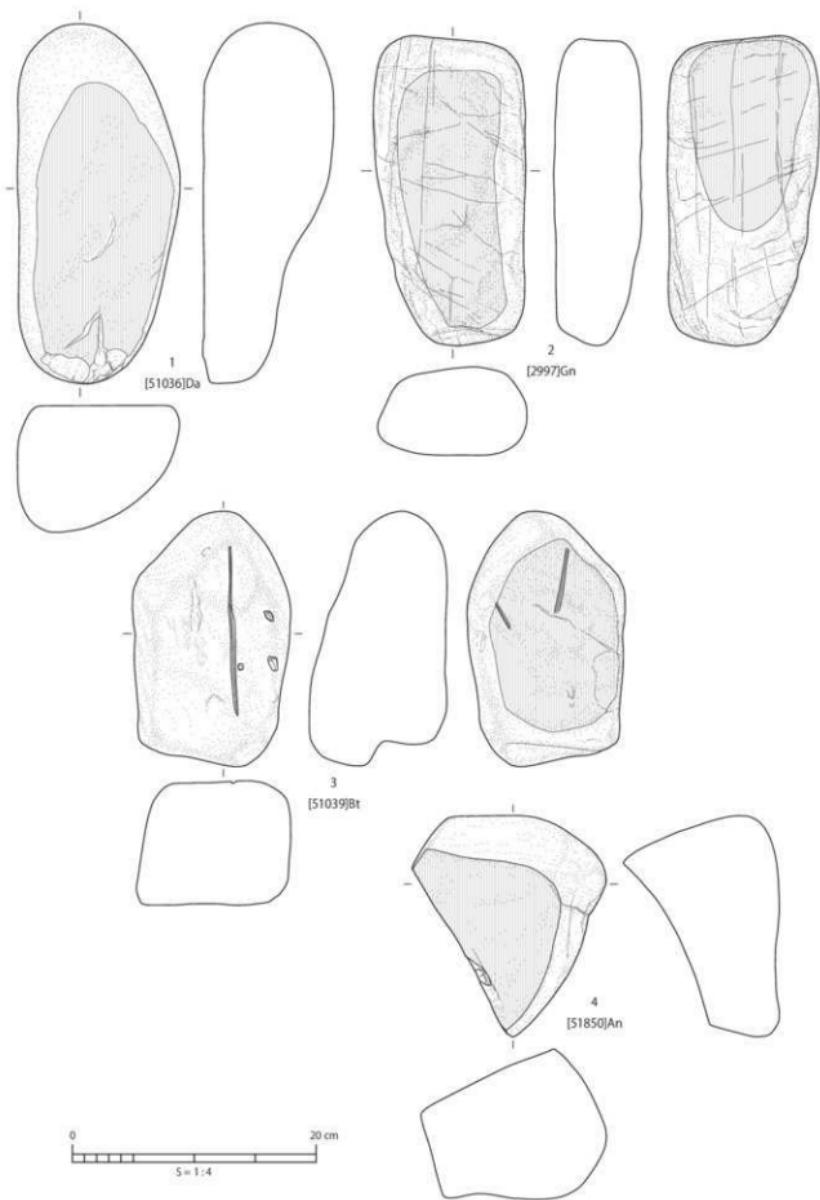
20 - 21 3 2,158 0.14% 99.95%

21 - 22 1 2,159 0.05% 100.00%

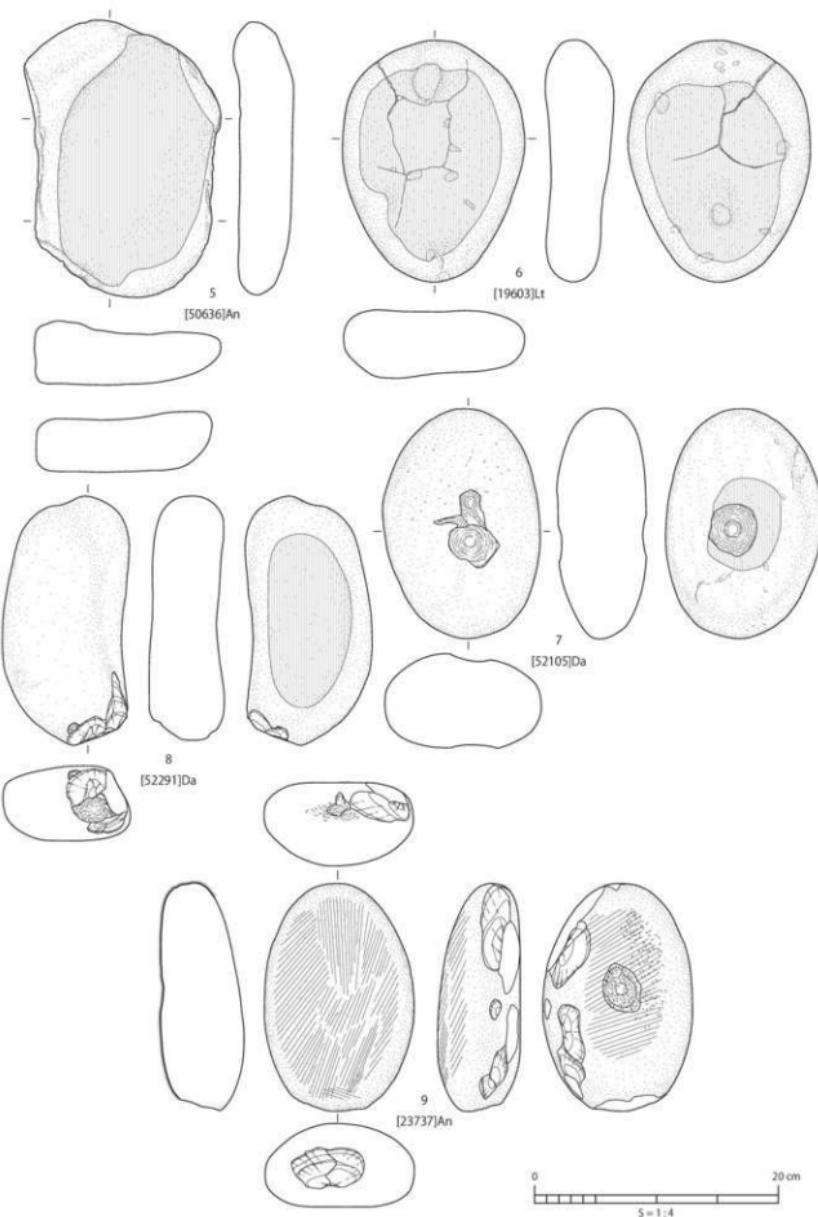
| 厚 (cm)       | 数量         | 累積割合         | 百分率           | 累積百分率         |
|--------------|------------|--------------|---------------|---------------|
| Up To 1      | 21         | 21           | 0.92%         | 0.92%         |
| 1 - 2        | 181        | 202          | 7.90%         | 8.82%         |
| <b>2 - 3</b> | <b>387</b> | <b>589</b>   | <b>16.90%</b> | <b>25.72%</b> |
| 3 - 4        | 521        | 1,110        | 22.79%        | 48.47%        |
| <b>4 - 5</b> | <b>478</b> | <b>1,588</b> | <b>20.87%</b> | <b>69.34%</b> |
| <b>5 - 6</b> | <b>319</b> | <b>1,907</b> | <b>13.93%</b> | <b>83.28%</b> |
| 6 - 7        | 174        | 2,081        | 7.60%         | 90.87%        |
| 7 - 8        | 92         | 2,173        | 4.02%         | 94.89%        |
| 8 - 9        | 52         | 2,225        | 2.27%         | 97.16%        |
| 9 - 10       | 29         | 2,254        | 1.27%         | 98.43%        |
| 10 - 11      | 17         | 2,271        | 0.74%         | 99.17%        |
| 11 - 12      | 9          | 2,280        | 0.39%         | 99.56%        |
| 12 - 13      | 5          | 2,285        | 0.22%         | 99.78%        |
| 13 - 14      | 2          | 2,287        | 0.09%         | 99.87%        |
| 14 - 15      | 2          | 2,289        | 0.09%         | 99.96%        |
| 15 - 16      | 1          | 2,290        | 0.04%         | 100.00%       |

| 重量 (g) | 長 (cm) | 幅 (cm) | 厚 (cm) |
|--------|--------|--------|--------|
| 2,653  | 1,985  | 2,159  | 2,290  |
| 3,153  | 2,70   | 1,48   | 0,60   |
| 4,130  | 11,00  | 7,40   | 4,10   |
| 7,686  | 13,70  | 9,38   | 5,39   |
| 9,140  | 34,20  | 21,30  | 15,50  |

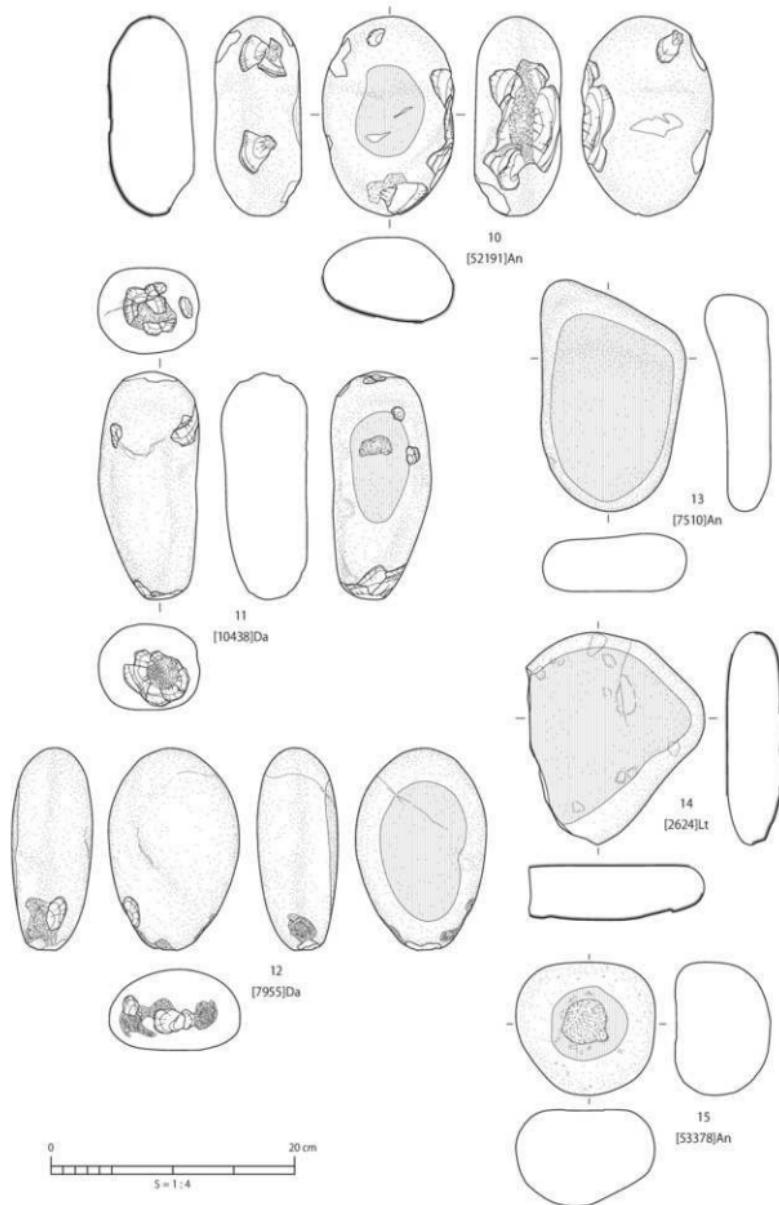
| 使用痕          | A        | B        | C     | D       | a        | b        | c        | d        | e    | f    | g(g') | h(h') | i    |
|--------------|----------|----------|-------|---------|----------|----------|----------|----------|------|------|-------|-------|------|
| 個体数 / 2,653  | 1,494    | 875      | 65    | 30      | 176      | 88       | 8        | 177      | 236  | 142  | 37    | 308   | 100  |
| 出現頻度         | 56.3%    | 33.0%    | 2.5%  | 1.1%    | 6.6%     | 3.3%     | 0.3%     | 6.7%     | 8.9% | 5.4% | 1.4%  | 11.6% | 3.8% |
| 主な用途<br>(推定) | 磨石<br>台石 | 磨石<br>台石 | 砥石    | 石皿      | 叩石<br>台石 | 叩石<br>台石 | 叩石<br>台石 | 叩石<br>台石 | 鍔石   | 鍔石   | 鍔石    | 鍔石    | 鍔石   |
| 9000 - 9500  | 1        | 2,653    | 0.04% | 100.00% |          |          |          |          |      |      |       |       |      |



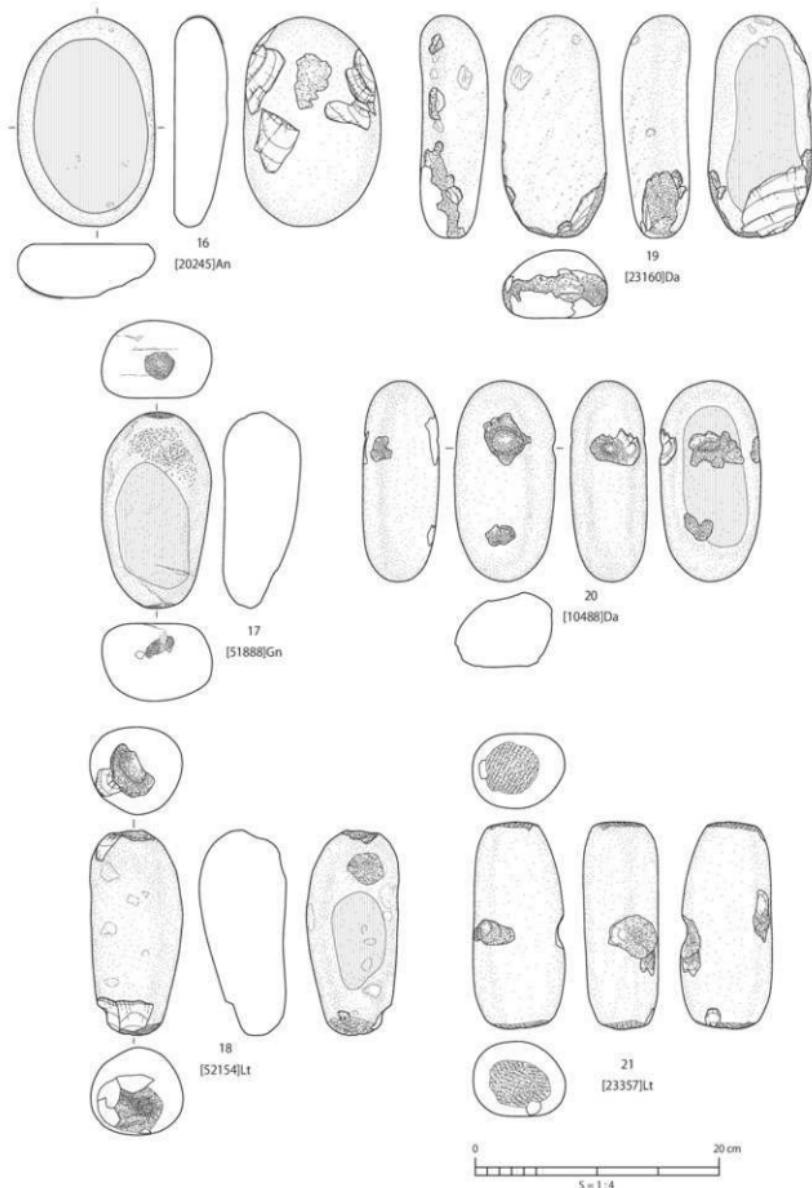
第1図 磨石類実測図1



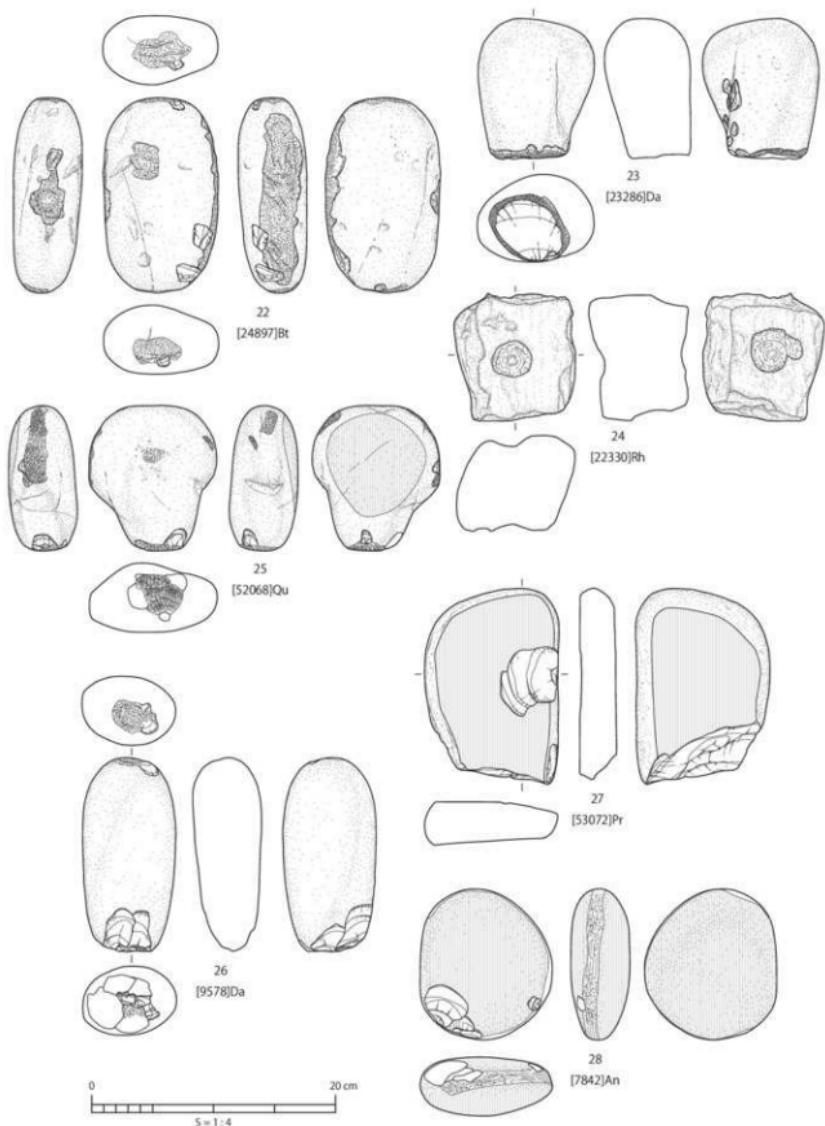
第2図 磨石類実測図2



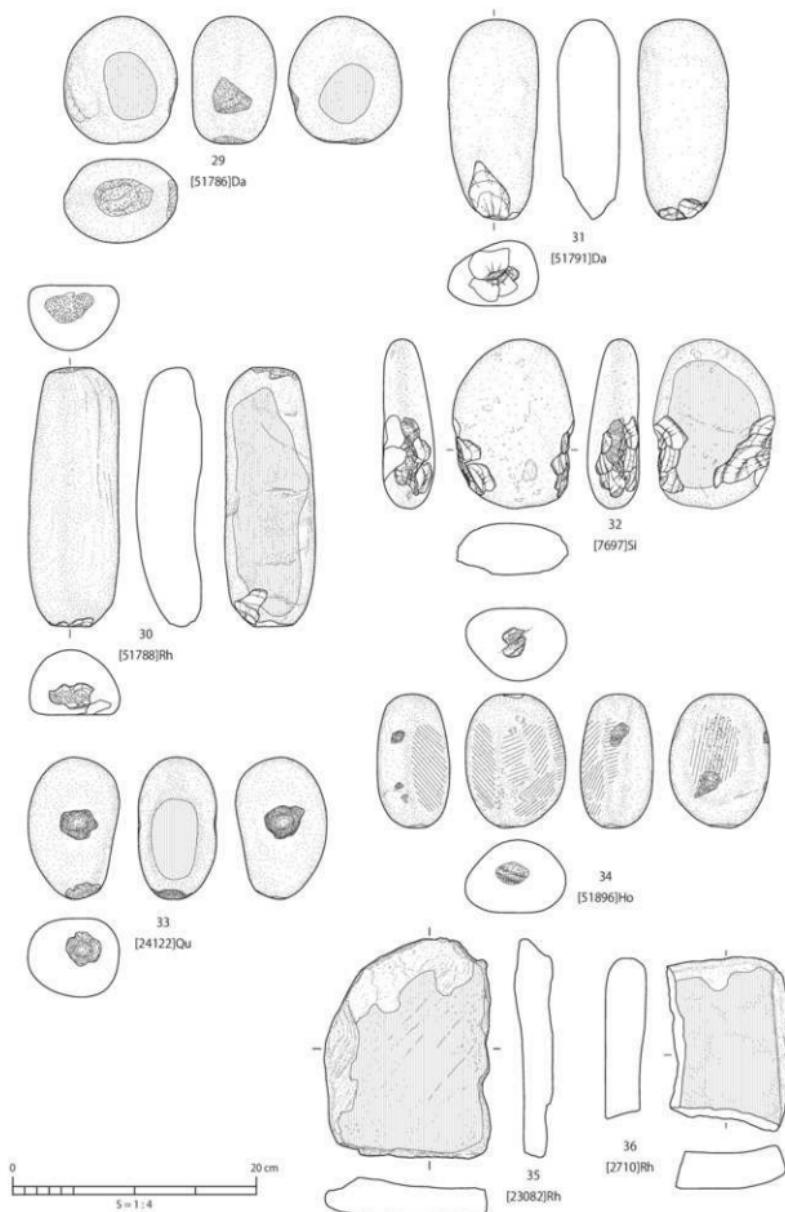
第3図 磨石類実測図3



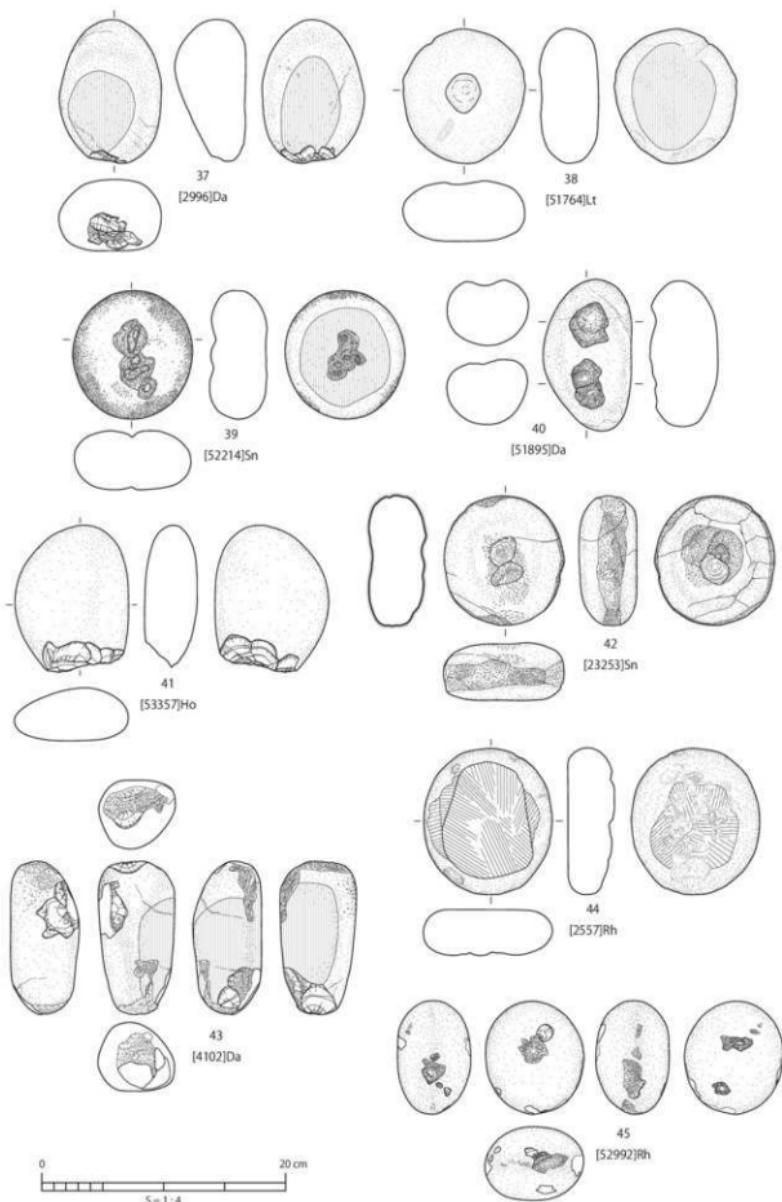
第4図 磨石類実測図4



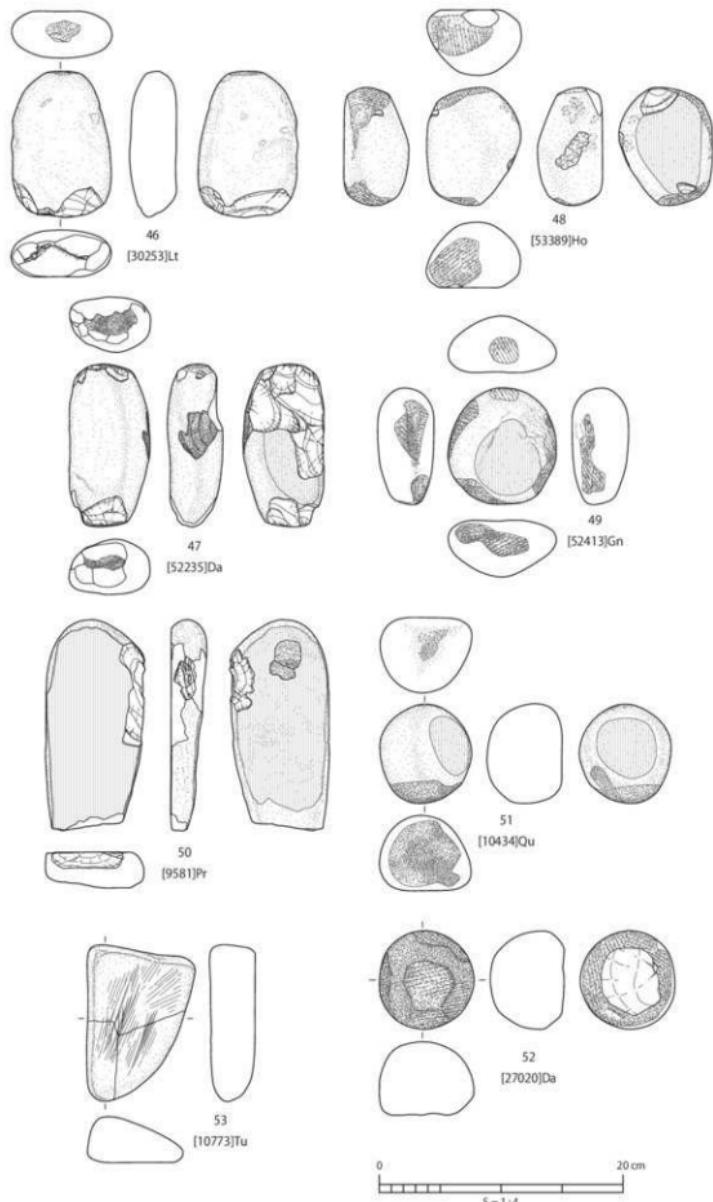
第5図 磨石類実測図5



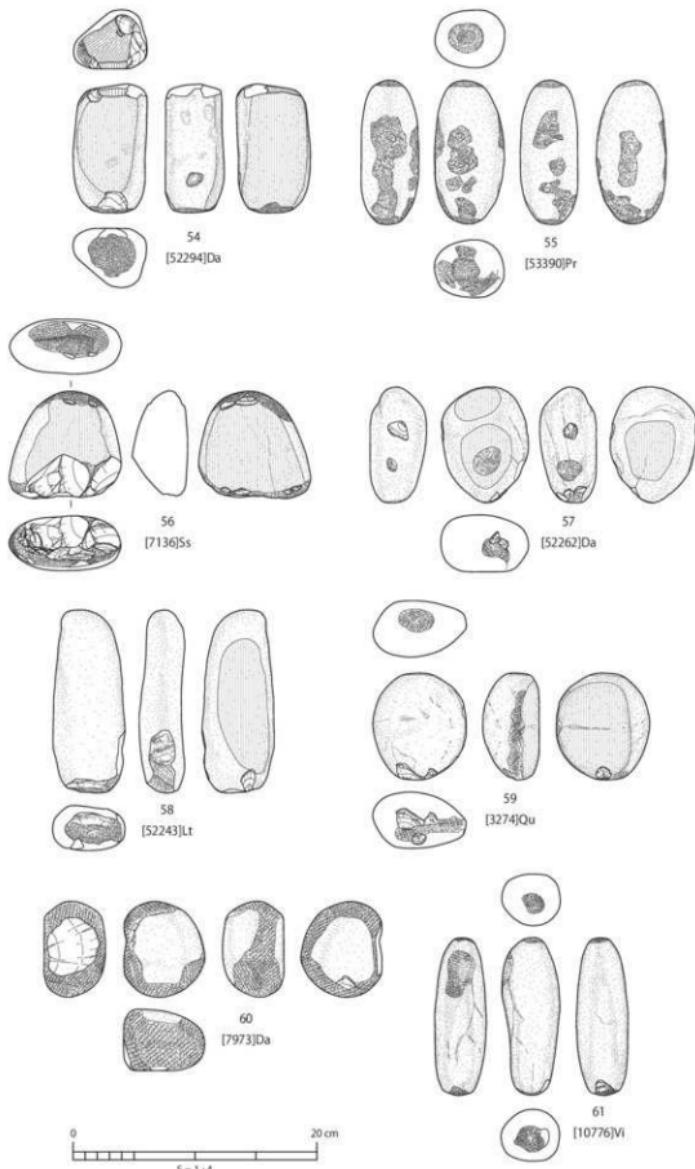
第6図 磨石類実測図6



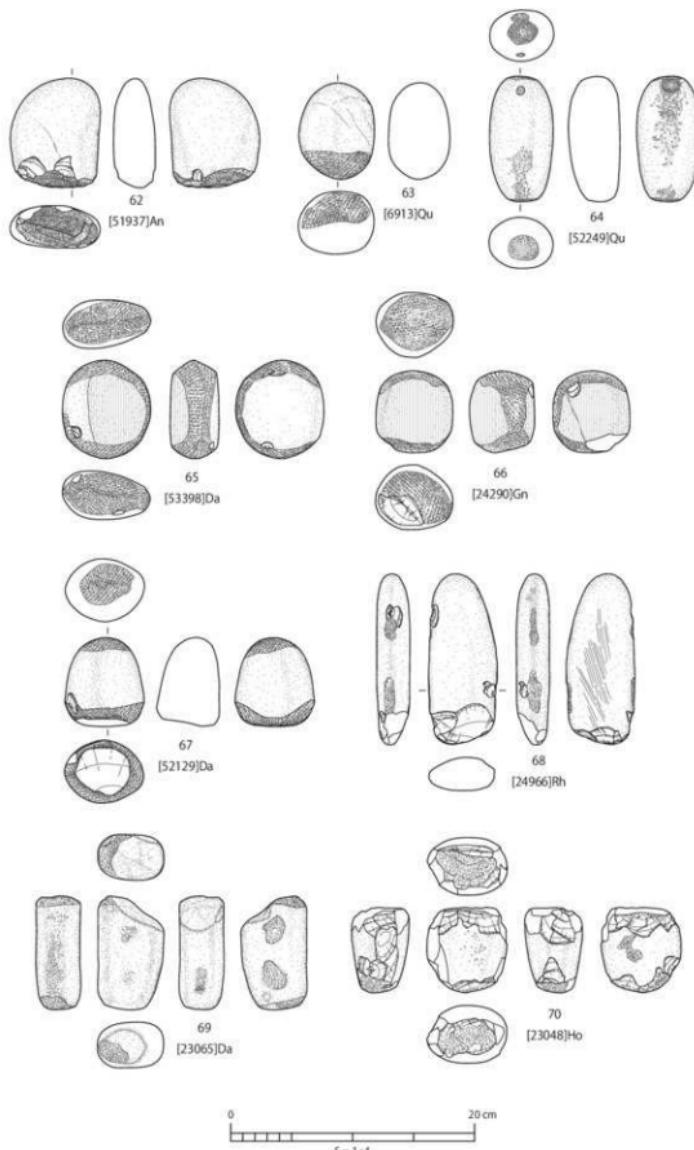
第7図 磨石類実測図7



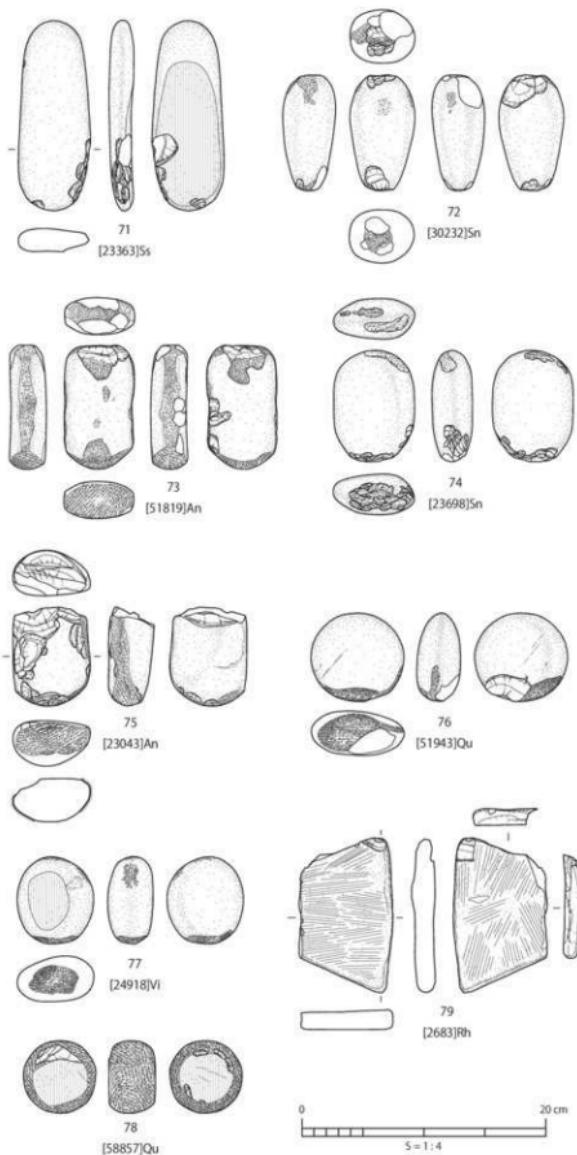
第8図 磨石類実測図8



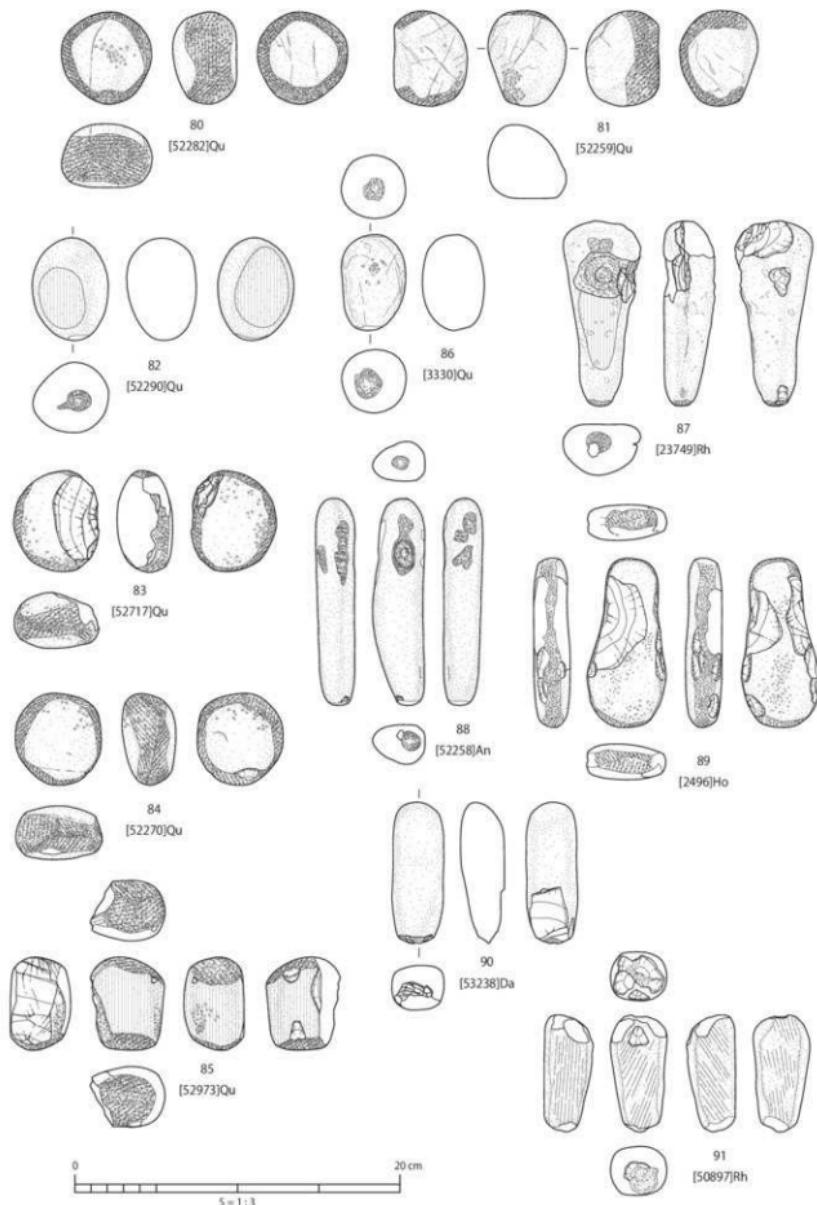
第9図 磨石類実測図9



第10図 磨石類実測図 10



第 11 図 磨石類実測図 11



第12図 磨石類実測図 12

## 第2節 凹石・石錘

### 1 凹石の概要

凹石に分類したものは、既報告分も含めて 21 点（22 地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは 11 点である。

磨石類と同様に大型の据え置き型と小型の手持ち型（？）がある。素材とする石はほぼ無加工だが、小型品はある程度敲打や研磨で整形しているようだ。

使用痕は、円形の凹みに回転痕が残るもので、小型品の場合は表裏に凹みがあり、破損品はいずれも凹みの中央で割れている。これらの特徴から、凹みには破損につながるような荷重がかかっていたと考えられる。

具体的な使用状態に言及できないが、承軸器としての役割を担ったと考えたい。この場合、小型品を手持ち型とすると、石が割れるほどの荷重を手で支えられるものかという問題もあるが、これも含めて今後検討すべき課題としておきたい。

### 2 石錘の分類

素材とする石（原礫）と加工痕の組み合わせに基づいて、次のとおり分類した。

A1 …「礫打欠」原礫の両端を打ち欠くもの。

A2 …「礫有撓」原礫に敲打による極状の凹みをめぐらすもの。

A3 …「礫有抉」原礫の両端を敲打によって凹ませるもの。

A4 …「礫切目」原礫の両端を擦り切りによって凹ませるもの。

B1 …「礫片打欠」割れた原礫の両端を打ち欠くもの。

B2 …「礫片有撓」割れた原礫に敲打による極状の凹みをめぐらすもの。

B3 …「礫片有抉」割れた原礫の両端を敲打によって凹ませるもの。

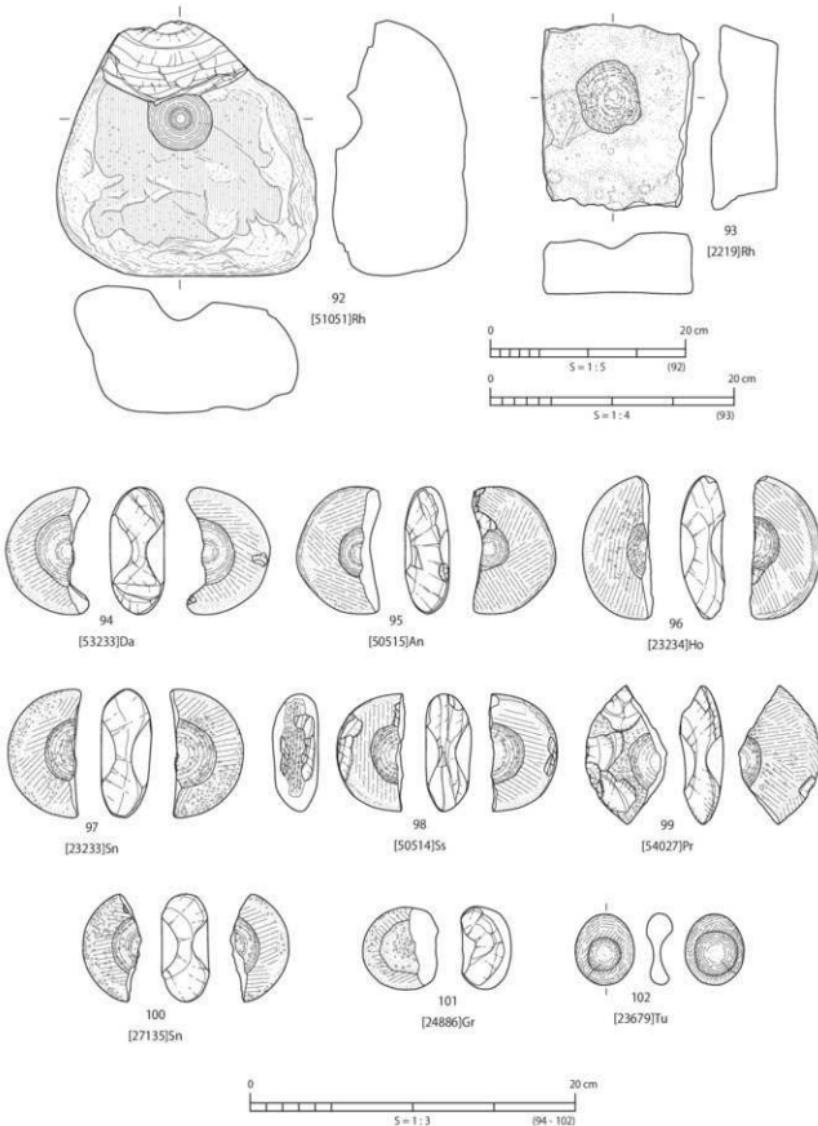
B4 …「礫片切目」割れた原礫の両端を擦り切りによって凹ませるもの。

C …「有溝」加工した原礫の縦横に溝をめぐらすもの。

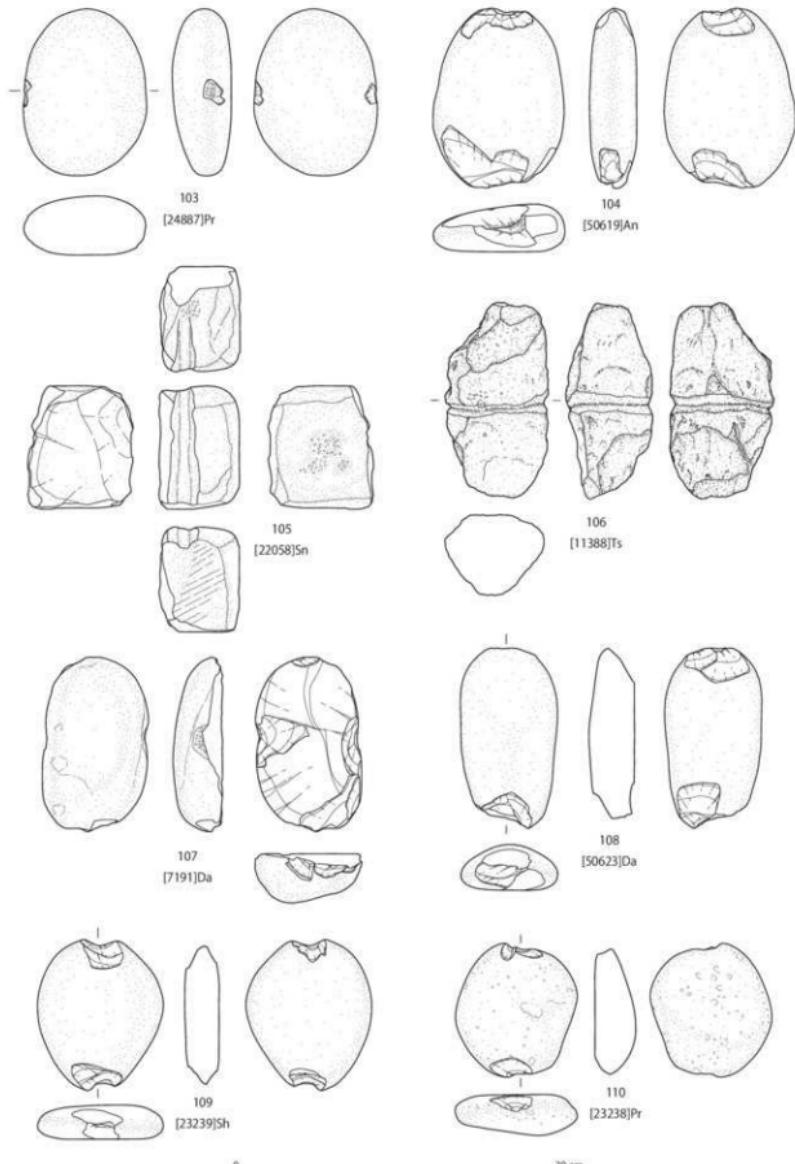
### 3 石錘の概要

石錘に分類したものは、既報告分も含めて 55 点（22 地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは 17 点である。

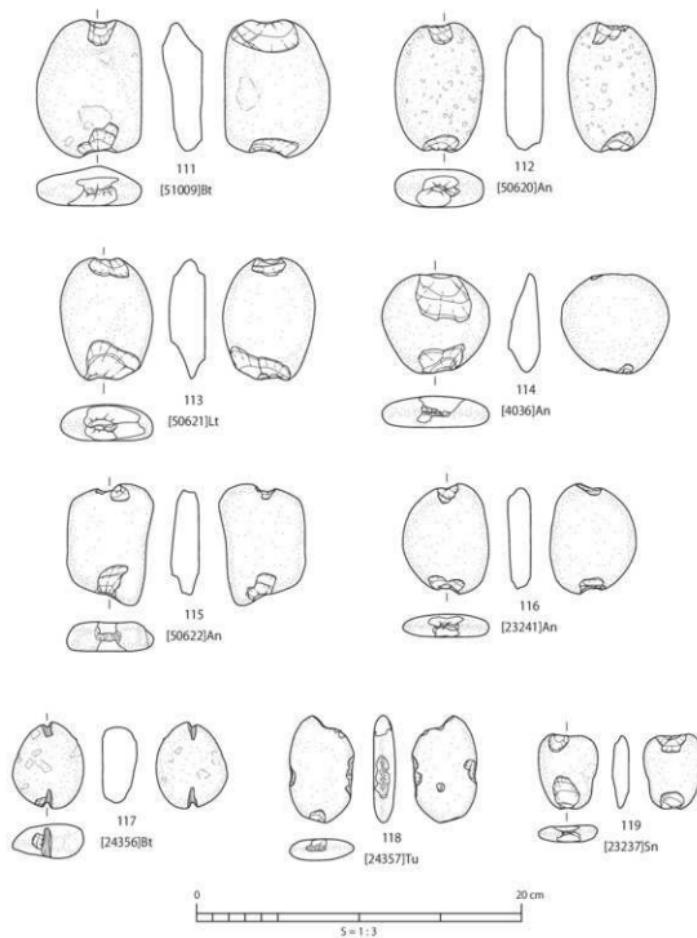
礫に繩を括りつけて錘として使用したと考えられているものである。最も一般的なのは扁平な原礫の長軸側に加工を施すものだが、105 のように厚みのあるものや 106・107 のように短軸側に加工を施すものが散見される。



第13図 凹石実測図



第14図 石錐実測図1



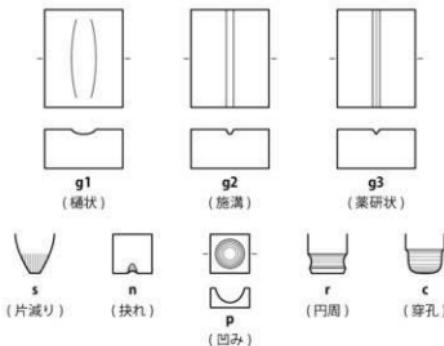
第15図 石錐実測図2

### 第3節 砥石・石皿

#### 1 砥石の分類

角礫～亜角礫をある程度整形し、平坦な磨面（以下、砥面と呼ぶ）がある石器であり、使用部の変形の特徴に基づいて、次のとおり分類した。

- g1 …砥面に幅広の浅い溝ができたもの。
- g2 …砥面にU字状の溝ができたもの、あるいは施したもの。
- g3 …砥面にV字状の溝ができたもの。
- s …砥面の一部または全体に片減りが見られるもの。
- n …砥石の縁に抉れが見られるもの。
- p …砥面に円形の凹みまたは穴ができたもの。内部は回転痕が見られる。
- r …砥石の端に円周する使用痕が見られるもの。
- c …砥石の端または全体が穿孔に使用されたもの。柱状に加工されたものもある。



#### 2 砥石の概要

砥石に分類したものは、既報告分も含めて2,665点（22地区含む）であり、このうち研磨砥石に分類した個体は120点、穿孔砥石は69点である。本報告で図化掲載したものは80点である。

砥石は破片資料が多く、過半数が70g未満である。使用の過程で必要に応じて割ることが考えられ、このときに生じた剥片もしばしば砥石として利用される。砥石の剥片は501点あり、上記の数量には含まれていない。

砥面は平坦になるように整形されていると考えられるが、どのような方法で行われたかは分からぬ。また、擦り切り分割によって切り出された痕跡が認められる個体も稀にある。

使用方法について、砥石も火にあぶった痕跡が散見され、磨石類の場合と同様に摩擦を大きくするための工夫と考えられる。

穿孔砥石について、実質的に穿孔具の一種といえるが、砥石の破片を利用したり、砥石と共に通する石材であったりするものをここに分類した。切削穿孔を行う穿孔具は金剛砂のような媒材を用いると考えられており、金剛砂が砥石の役割を果たしているといえるが、穿孔砥石の場合は砥石そのものを穿孔に使用したと考えられるものである。

| 重量(g)         | 数量  | 平均重量  | 百分率    | 累積百分率   |
|---------------|-----|-------|--------|---------|
| Up To 10      | 267 | 267   | 10.02% | 10.02%  |
| 10 - 20       | 348 | 615   | 13.06% | 23.08%  |
| 20 - 30       | 248 | 863   | 9.31%  | 32.38%  |
| 30 - 40       | 181 | 1,044 | 6.79%  | 39.17%  |
| 40 - 50       | 134 | 1,178 | 5.03%  | 44.20%  |
| 50 - 60       | 139 | 1,317 | 5.22%  | 49.42%  |
| 60 - 70       | 99  | 1,416 | 3.71%  | 53.13%  |
| 70 - 80       | 96  | 1,512 | 3.60%  | 56.74%  |
| 80 - 90       | 90  | 1,602 | 3.38%  | 60.11%  |
| 90 - 100      | 67  | 1,669 | 2.51%  | 62.63%  |
| 100 - 110     | 58  | 1,727 | 2.18%  | 64.80%  |
| 110 - 120     | 58  | 1,785 | 2.19%  | 66.98%  |
| 120 - 130     | 40  | 1,825 | 1.50%  | 68.48%  |
| 130 - 140     | 41  | 1,866 | 1.54%  | 70.02%  |
| 140 - 150     | 42  | 1,908 | 1.58%  | 71.59%  |
| 150 - 160     | 41  | 1,949 | 1.54%  | 73.13%  |
| 160 - 170     | 42  | 1,991 | 1.58%  | 74.71%  |
| 170 - 180     | 34  | 2,025 | 1.28%  | 75.98%  |
| 180 - 190     | 24  | 2,049 | 0.90%  | 76.89%  |
| 190 - 200     | 27  | 2,076 | 1.01%  | 77.90%  |
| 200 - 210     | 22  | 2,098 | 0.83%  | 78.72%  |
| 210 - 220     | 24  | 2,122 | 0.90%  | 79.62%  |
| 220 - 230     | 32  | 2,154 | 1.20%  | 80.83%  |
| 230 - 240     | 23  | 2,177 | 0.86%  | 81.69%  |
| 240 - 250     | 25  | 2,202 | 0.94%  | 82.63%  |
| 250 - 260     | 25  | 2,227 | 0.94%  | 83.56%  |
| 260 - 270     | 17  | 2,244 | 0.64%  | 84.20%  |
| 270 - 280     | 14  | 2,258 | 0.53%  | 84.73%  |
| 280 - 290     | 18  | 2,276 | 0.68%  | 85.40%  |
| 290 - 300     | 10  | 2,286 | 0.38%  | 85.78%  |
| 300 - 310     | 13  | 2,299 | 0.49%  | 86.27%  |
| 310 - 320     | 22  | 2,321 | 0.83%  | 87.09%  |
| 320 - 330     | 10  | 2,331 | 0.38%  | 87.47%  |
| 330 - 340     | 14  | 2,345 | 0.53%  | 87.99%  |
| 340 - 350     | 15  | 2,360 | 0.56%  | 88.56%  |
| 350 - 360     | 10  | 2,370 | 0.38%  | 88.93%  |
| 360 - 370     | 6   | 2,376 | 0.23%  | 89.16%  |
| 370 - 380     | 14  | 2,390 | 0.53%  | 89.68%  |
| 380 - 390     | 11  | 2,401 | 0.41%  | 90.09%  |
| 390 - 400     | 11  | 2,412 | 0.41%  | 90.51%  |
| 400 - 450     | 36  | 2,448 | 1.35%  | 91.86%  |
| 450 - 500     | 24  | 2,472 | 0.90%  | 92.76%  |
| 500 - 550     | 19  | 2,491 | 0.71%  | 93.47%  |
| 550 - 600     | 27  | 2,518 | 1.01%  | 94.48%  |
| 600 - 650     | 20  | 2,538 | 0.75%  | 95.23%  |
| 650 - 700     | 10  | 2,548 | 0.38%  | 95.61%  |
| 700 - 750     | 9   | 2,557 | 0.34%  | 95.95%  |
| 750 - 800     | 9   | 2,566 | 0.34%  | 96.29%  |
| 800 - 850     | 3   | 2,569 | 0.11%  | 96.40%  |
| 850 - 900     | 10  | 2,579 | 0.38%  | 96.77%  |
| 900 - 950     | 7   | 2,586 | 0.26%  | 97.04%  |
| 950 - 1000    | 21  | 2,588 | 0.08%  | 97.11%  |
| 1000 - 1100   | 6   | 2,594 | 0.23%  | 97.34%  |
| 1100 - 1200   | 10  | 2,604 | 0.38%  | 97.71%  |
| 1200 - 1300   | 3   | 2,607 | 0.11%  | 97.82%  |
| 1300 - 1400   | 5   | 2,612 | 0.10%  | 98.01%  |
| 1400 - 1500   | 8   | 2,620 | 0.30%  | 98.31%  |
| 1500 - 1600   | 4   | 2,624 | 0.15%  | 98.46%  |
| 1600 - 1700   | 2   | 2,626 | 0.08%  | 98.54%  |
| 1700 - 1800   | 3   | 2,629 | 0.11%  | 98.65%  |
| 1800 - 2000   | 1   | 2,630 | 0.04%  | 98.69%  |
| 2000 - 2500   | 7   | 2,637 | 0.26%  | 98.95%  |
| 2500 - 3000   | 4   | 2,641 | 0.15%  | 99.10%  |
| 3000 - 3500   | 5   | 2,646 | 0.10%  | 99.29%  |
| 3500 - 4000   | 4   | 2,650 | 0.15%  | 99.44%  |
| 4000 - 5000   | 4   | 2,654 | 0.15%  | 99.59%  |
| 5000 - 6000   | 2   | 2,656 | 0.08%  | 99.66%  |
| 6000 - 7000   | 2   | 2,658 | 0.08%  | 99.74%  |
| 7000 - 8000   | 11  | 2,659 | 0.04%  | 99.77%  |
| 10000 - 15000 | 2   | 2,661 | 0.08%  | 99.85%  |
| 15000 - 20000 | 4   | 2,665 | 0.15%  | 100.00% |

| 長(cm)   | 数量  | 平均重量  | 百分率    | 累積百分率   |
|---------|-----|-------|--------|---------|
| 1 - 2   | 2   | 2     | 0.14%  | 0.14%   |
| 2 - 3   | 25  | 27    | 1.77%  | 1.91%   |
| 3 - 4   | 91  | 118   | 6.44%  | 8.35%   |
| 4 - 5   | 164 | 282   | 11.01% | 19.96%  |
| 5 - 6   | 210 | 492   | 14.86% | 34.82%  |
| 6 - 7   | 216 | 708   | 15.29% | 50.11%  |
| 7 - 8   | 154 | 862   | 10.90% | 61.00%  |
| 8 - 9   | 149 | 1,011 | 10.4%  | 71.55%  |
| 9 - 10  | 113 | 1,124 | 8.00%  | 79.55%  |
| 10 - 11 | 91  | 1,215 | 6.44%  | 85.99%  |
| 11 - 12 | 48  | 1,263 | 3.40%  | 89.38%  |
| 12 - 13 | 49  | 1,311 | 3.40%  | 92.78%  |
| 13 - 14 | 22  | 1,333 | 1.56%  | 94.34%  |
| 14 - 15 | 12  | 1,345 | 0.85%  | 95.19%  |
| 15 - 16 | 13  | 1,358 | 0.92%  | 96.11%  |
| 16 - 17 | 8   | 1,366 | 0.57%  | 96.67%  |
| 17 - 18 | 8   | 1,374 | 0.57%  | 97.24%  |
| 18 - 19 | 2   | 1,376 | 0.14%  | 97.38%  |
| 19 - 20 | 3   | 1,379 | 0.21%  | 97.59%  |
| 20 - 21 | 6   | 1,385 | 0.42%  | 98.02%  |
| 21 - 22 | 5   | 1,390 | 0.35%  | 98.37%  |
| 22 - 23 | 3   | 1,393 | 0.21%  | 98.58%  |
| 23 - 24 | 3   | 1,396 | 0.21%  | 98.80%  |
| 24 - 25 | 2   | 1,398 | 0.14%  | 98.94%  |
| 25 - 26 | 2   | 1,400 | 0.14%  | 99.08%  |
| 26 - 27 | 1   | 1,401 | 0.07%  | 99.15%  |
| 27 - 28 | 2   | 1,403 | 0.14%  | 99.29%  |
| 28 - 29 | 2   | 1,405 | 0.14%  | 99.43%  |
| 29 - 30 | 1   | 1,406 | 0.07%  | 99.50%  |
| 31 - 32 | 1   | 1,407 | 0.07%  | 99.58%  |
| 33 - 34 | 1   | 1,408 | 0.07%  | 99.65%  |
| 37 - 38 | 1   | 1,409 | 0.07%  | 99.72%  |
| 38 - 39 | 1   | 1,410 | 0.07%  | 99.79%  |
| 39 - 40 | 1   | 1,411 | 0.07%  | 99.86%  |
| 46 - 47 | 1   | 1,412 | 0.07%  | 99.93%  |
| 47 - 48 | 1   | 1,413 | 0.07%  | 100.00% |

| 重量(g)  | 長(cm)     | 幅(cm) | 厚(cm) |
|--------|-----------|-------|-------|
| 有効数    | 2,665     | 1,416 | 1,505 |
| 最小値    | 0.12      | 1.60  | 0.60  |
| 四分位25% | 21.68     | 5.40  | 3.70  |
| 中央値    | 61.06     | 7.03  | 5.10  |
| 四分位75% | 171.39    | 9.44  | 6.80  |
| 最大値    | 18,600.00 | 48.00 | 27.00 |

| 使用箇       | g1   | g2   | g3   | s    | n    | p    | r    | c    |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 個体数/2,665 | 138  | 20   | 208  | 30   | 12   | 38   | 44   | 67   |
| 出現頻度      | 5.2% | 0.8% | 7.8% | 1.1% | 0.5% | 1.4% | 1.7% | 2.5% |
| 砥石の種類     |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           |      |      |      |      |      |      |      |      |

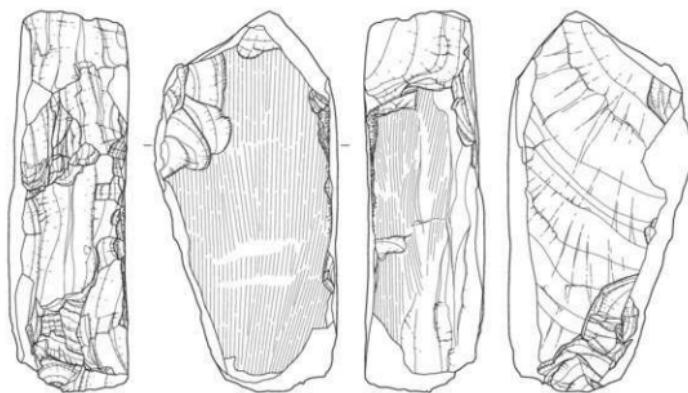
| 幅(cm)   | 数量  | 平均重量  | 百分率    | 累積百分率   |
|---------|-----|-------|--------|---------|
| Up To 1 | 2   | 2     | 0.13%  | 0.13%   |
| 1 - 2   | 62  | 64    | 4.13%  | 4.26%   |
| 2 - 3   | 158 | 222   | 10.52% | 14.78%  |
| 3 - 4   | 237 | 459   | 15.78% | 30.56%  |
| 4 - 5   | 282 | 741   | 18.77% | 49.33%  |
| 5 - 6   | 230 | 911   | 15.31% | 64.65%  |
| 6 - 7   | 196 | 1,167 | 13.05% | 77.70%  |
| 7 - 8   | 117 | 1,284 | 7.79%  | 85.49%  |
| 8 - 9   | 78  | 1,362 | 5.19%  | 90.68%  |
| 9 - 10  | 43  | 1,405 | 2.86%  | 93.54%  |
| 10 - 11 | 31  | 1,436 | 2.06%  | 95.61%  |
| 11 - 12 | 17  | 1,453 | 1.43%  | 96.74%  |
| 12 - 13 | 8   | 1,461 | 0.53%  | 97.27%  |
| 13 - 14 | 10  | 1,471 | 0.67%  | 97.94%  |
| 14 - 15 | 11  | 1,482 | 0.73%  | 98.67%  |
| 15 - 16 | 5   | 1,487 | 0.33%  | 99.00%  |
| 16 - 17 | 3   | 1,490 | 0.20%  | 99.20%  |
| 17 - 18 | 3   | 1,493 | 0.20%  | 99.40%  |
| 18 - 19 | 2   | 1,495 | 0.13%  | 99.53%  |
| 20 - 21 | 3   | 1,498 | 0.20%  | 99.73%  |
| 21 - 22 | 1   | 1,499 | 0.07%  | 99.80%  |
| 22 - 23 | 1   | 1,500 | 0.07%  | 99.87%  |
| 23 - 24 | 1   | 1,501 | 0.07%  | 99.93%  |
| 26 - 27 | 1   | 1,502 | 0.07%  | 100.00% |

| 厚(cm)   | 数量  | 平均重量  | 百分率    | 累積百分率   |
|---------|-----|-------|--------|---------|
| Up To 1 | 134 | 134   | 7.12%  | 7.12%   |
| 1 - 2   | 491 | 625   | 26.10% | 33.2%   |
| 2 - 3   | 418 | 1,043 | 22.22% | 55.45%  |
| 3 - 4   | 348 | 1,387 | 18.29% | 73.74%  |
| 4 - 5   | 207 | 1,594 | 11.00% | 84.74%  |
| 5 - 6   | 138 | 1,732 | 7.34%  | 92.08%  |
| 6 - 7   | 71  | 1,803 | 3.77%  | 95.83%  |
| 7 - 8   | 34  | 1,837 | 1.81%  | 97.66%  |
| 8 - 9   | 13  | 1,850 | 0.69%  | 98.35%  |
| 9 - 10  | 8   | 1,858 | 0.43%  | 98.78%  |
| 10 - 11 | 8   | 1,866 | 0.43%  | 99.20%  |
| 11 - 12 | 3   | 1,869 | 0.16%  | 99.36%  |
| 12 - 13 | 4   | 1,873 | 0.21%  | 99.57%  |
| 13 - 14 | 1   | 1,874 | 0.05%  | 99.63%  |
| 14 - 15 | 2   | 1,876 | 0.11%  | 99.73%  |
| 15 - 16 | 1   | 1,877 | 0.05%  | 99.79%  |
| 16 - 17 | 1   | 1,878 | 0.05%  | 99.84%  |
| 17 - 18 | 1   | 1,879 | 0.05%  | 99.89%  |
| 20 - 21 | 1   | 1,880 | 0.05%  | 99.95%  |
| 24 - 25 | 1   | 1,881 | 0.05%  | 100.00% |

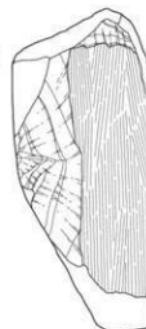
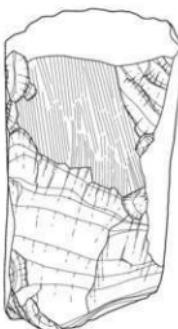
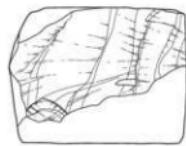
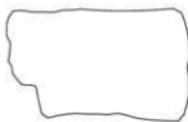
### 3 石皿の概要

石皿に分類したものは、既報告分も含めて5点(22地区含む)であり、本報告で図化掲載したものは1点である。

第21図130がその1点であり、玻璃質岩(Vi)の石皿破片の割れ口を砥石として利用したものである。砥面を整形していないが、溝状の使用痕が認められる。



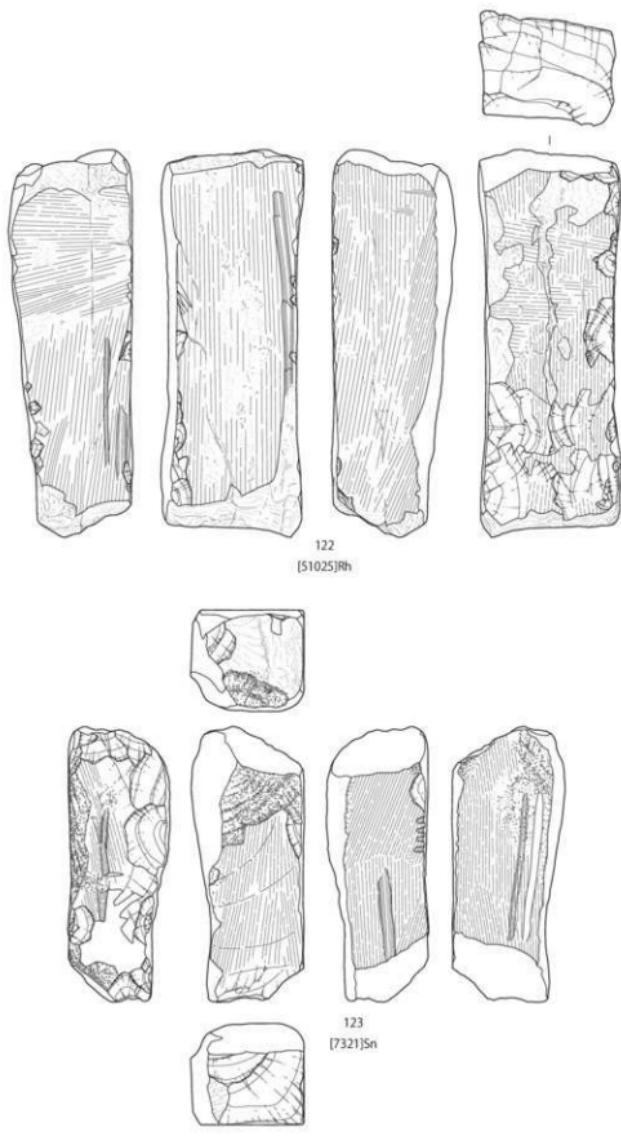
120  
[51055]Ts



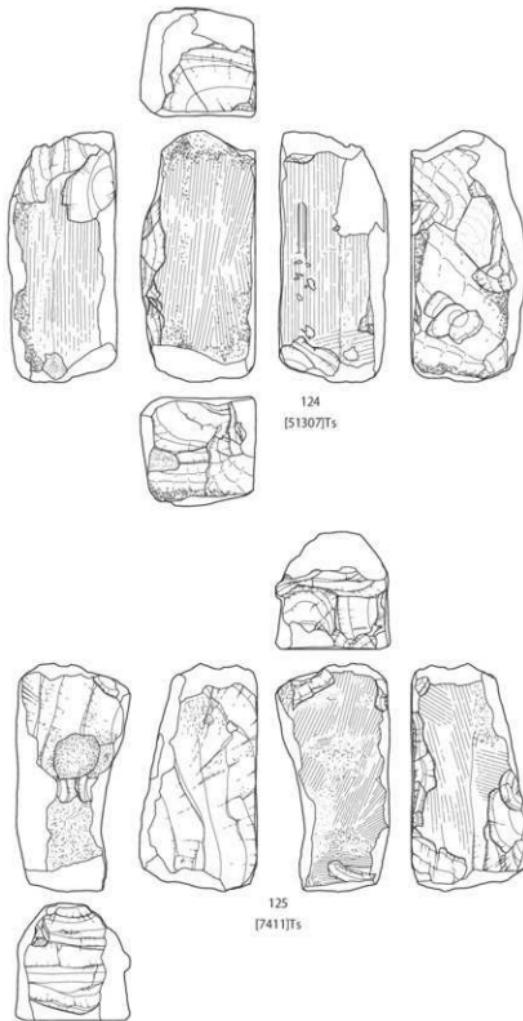
121  
[51056]Ts



第 16 図 砧石実測図 1

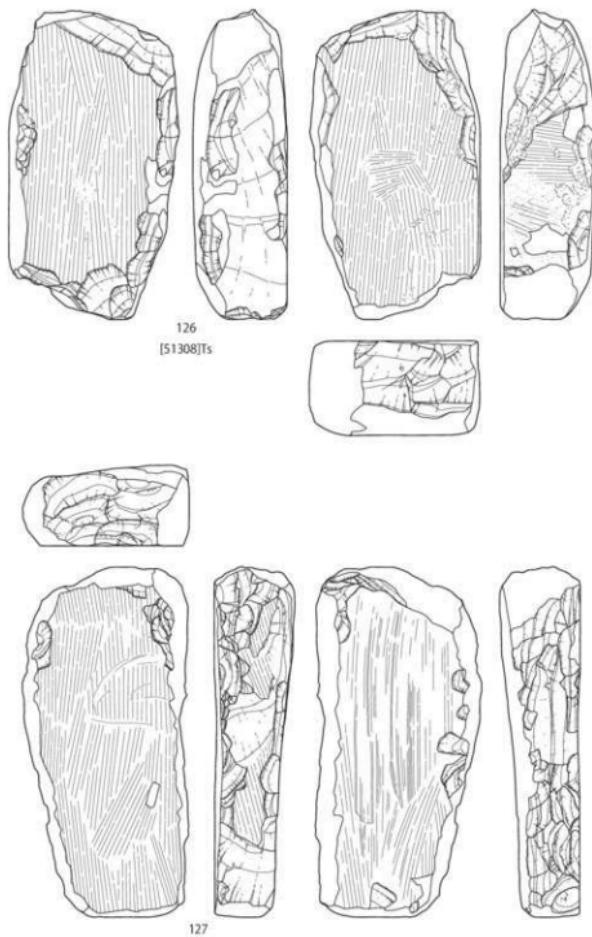


第17図 砕石実測図2

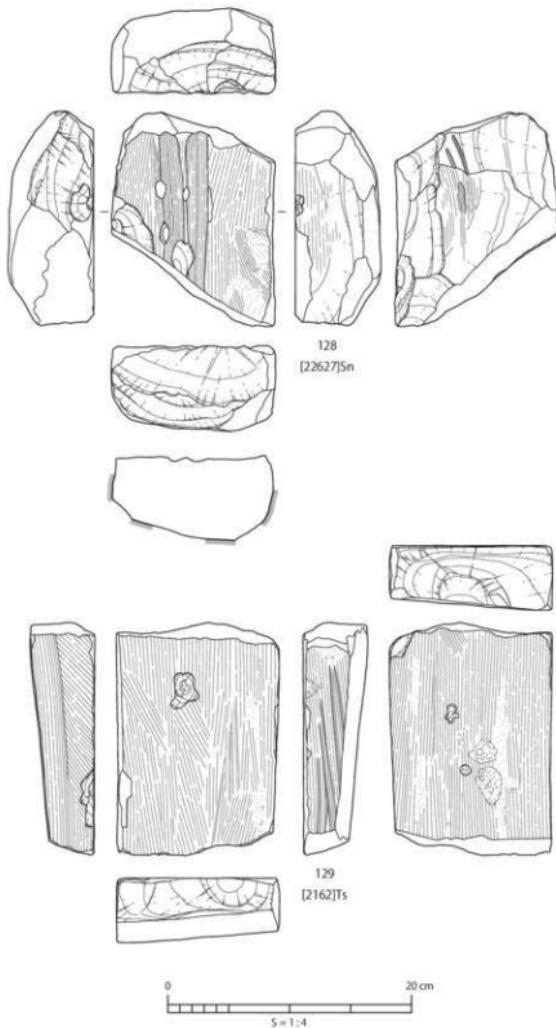


0  
20 cm  
5:1:5

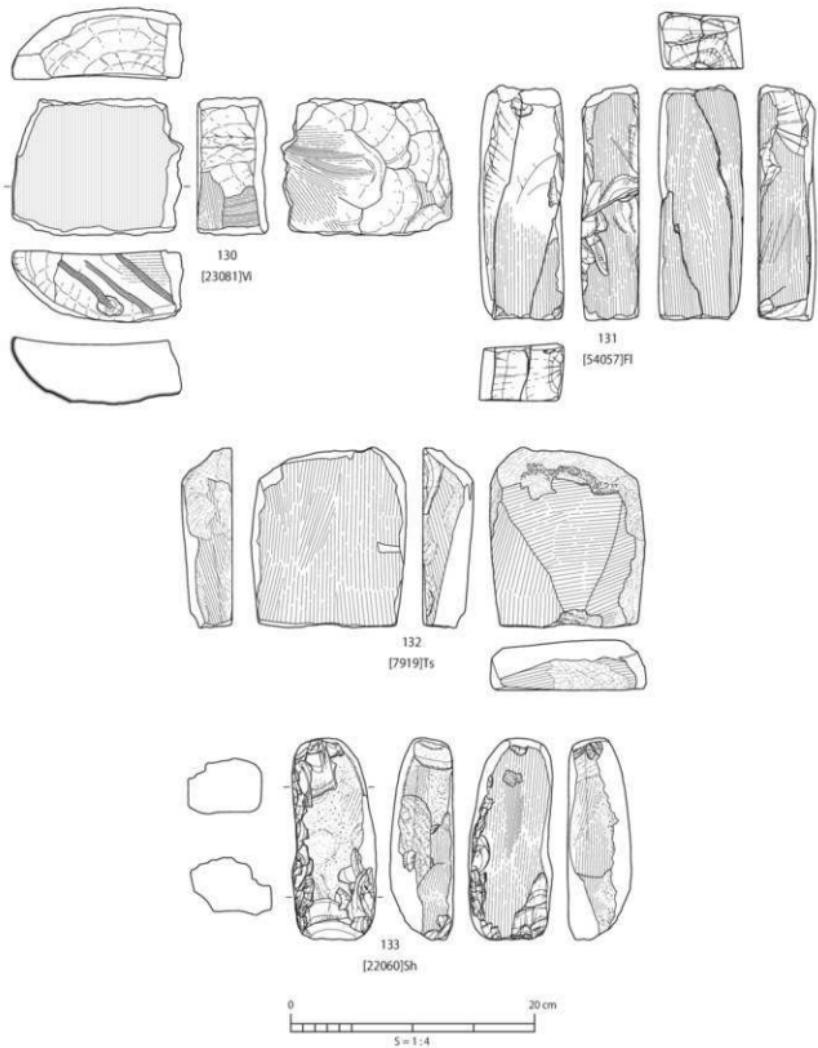
第18図 磨石実測図3



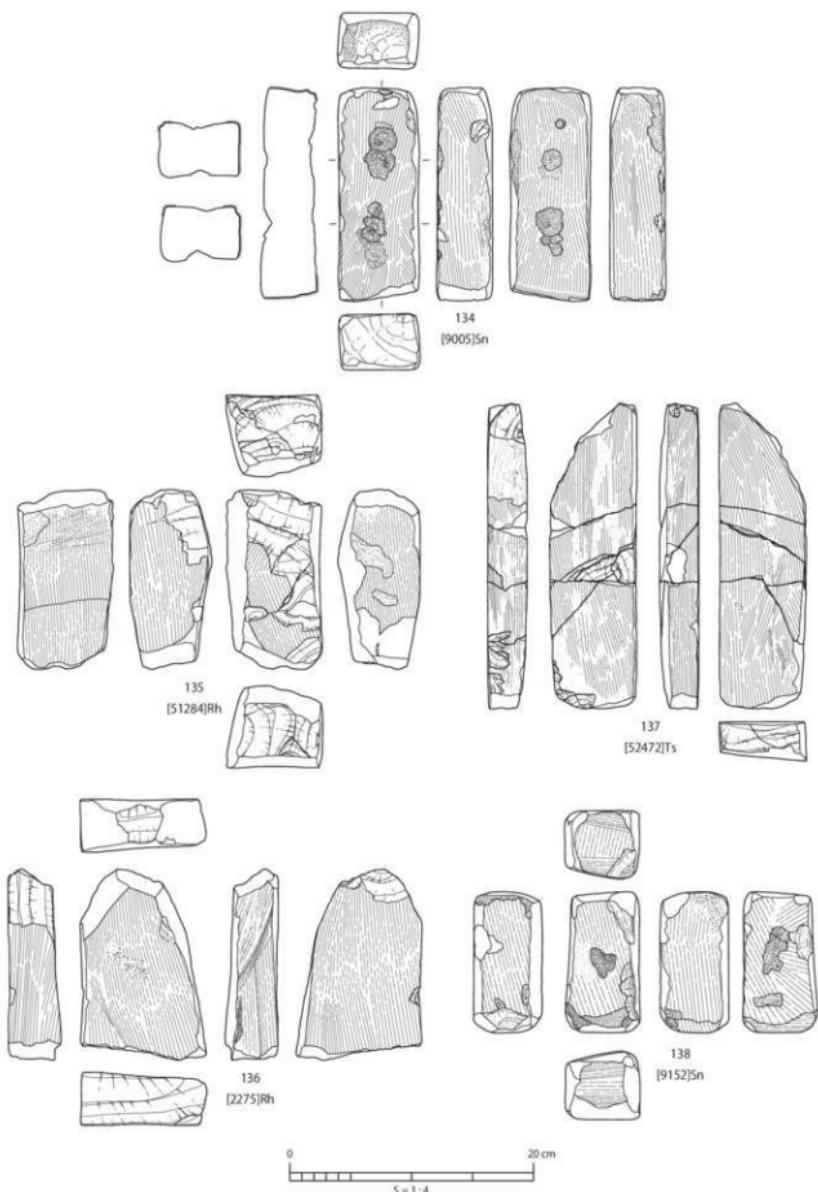
第19図 砧石実測図4



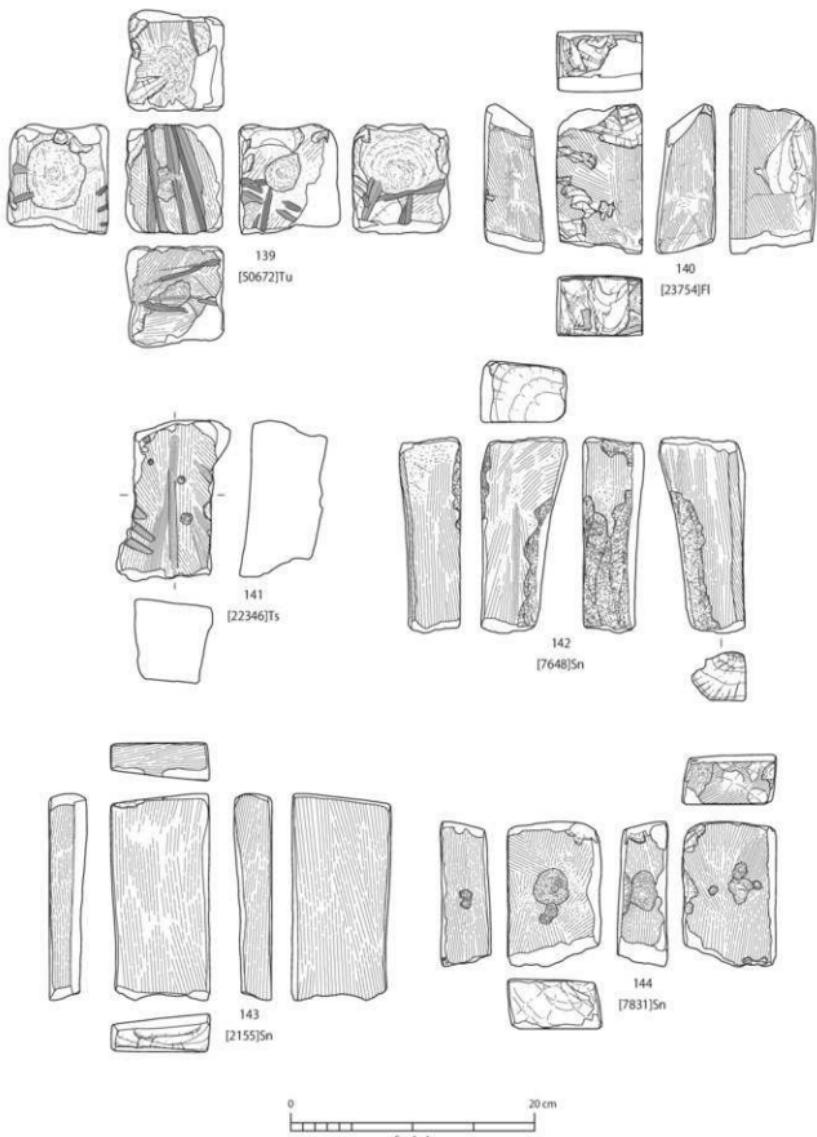
第20図 砧石実測図5



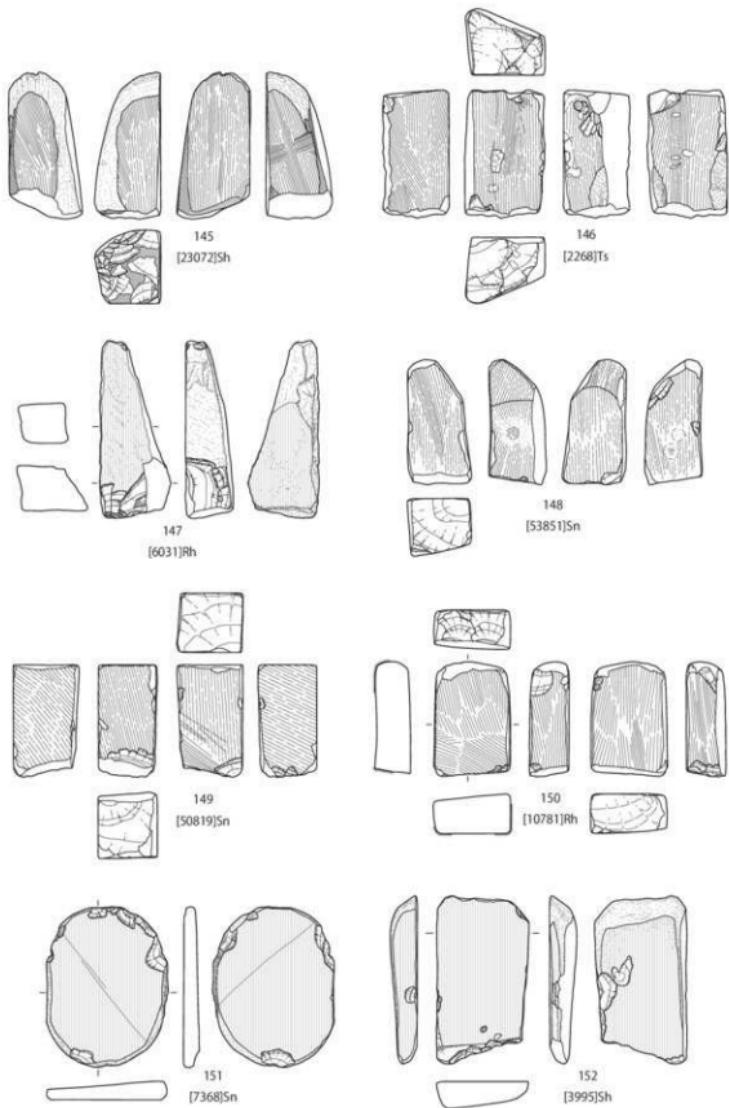
第21図 砥石実測図6・石皿実測図



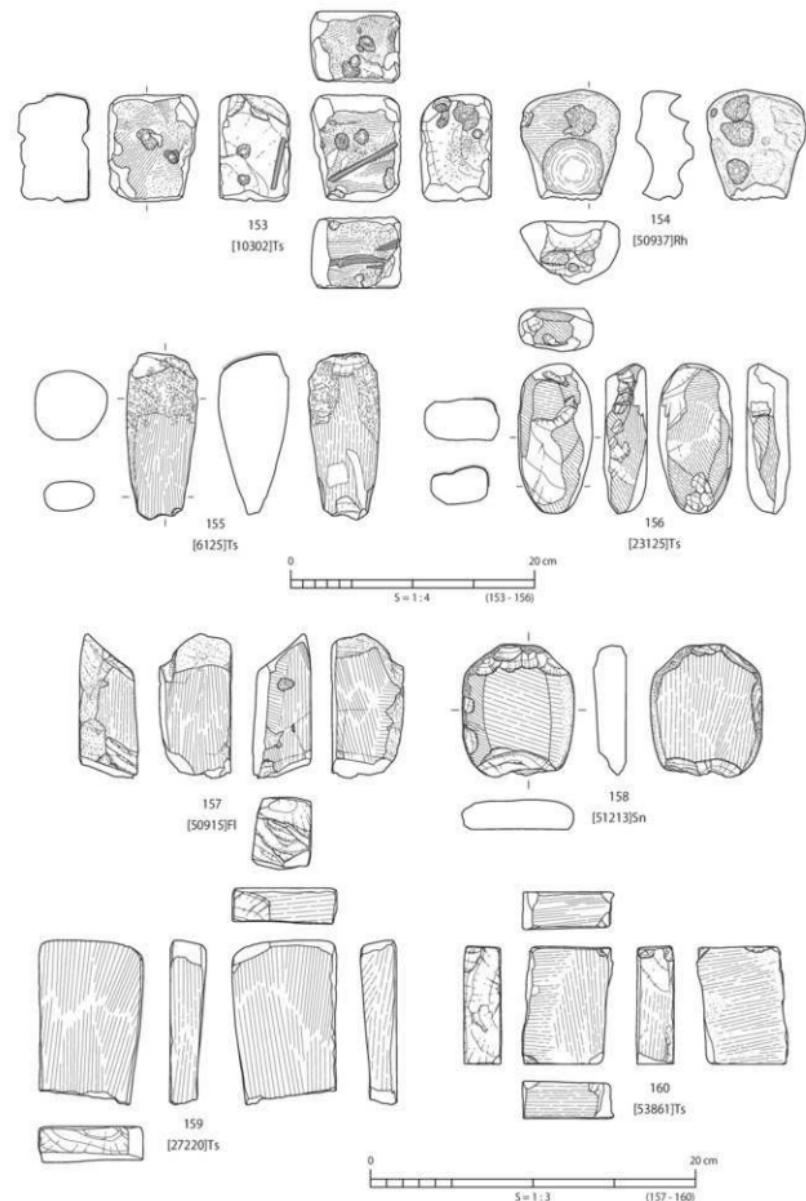
第22図 砧石実測図7



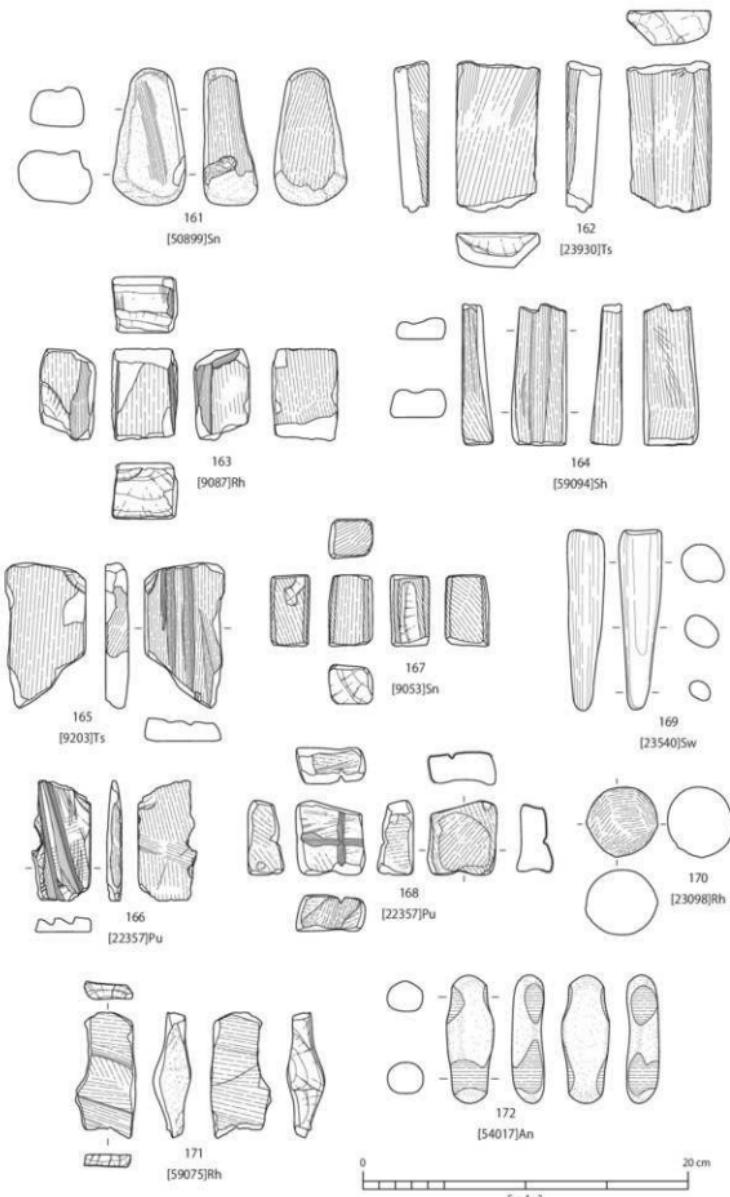
第23図 砧石実測図8



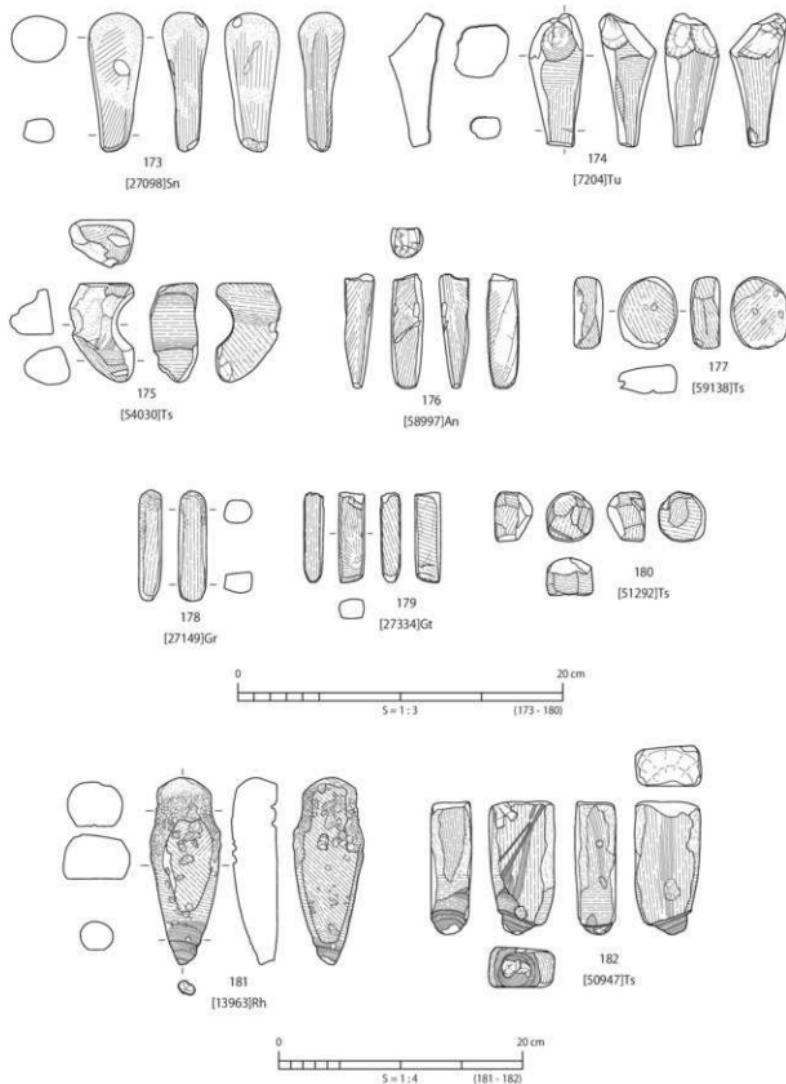
第24図 砕石実測図9



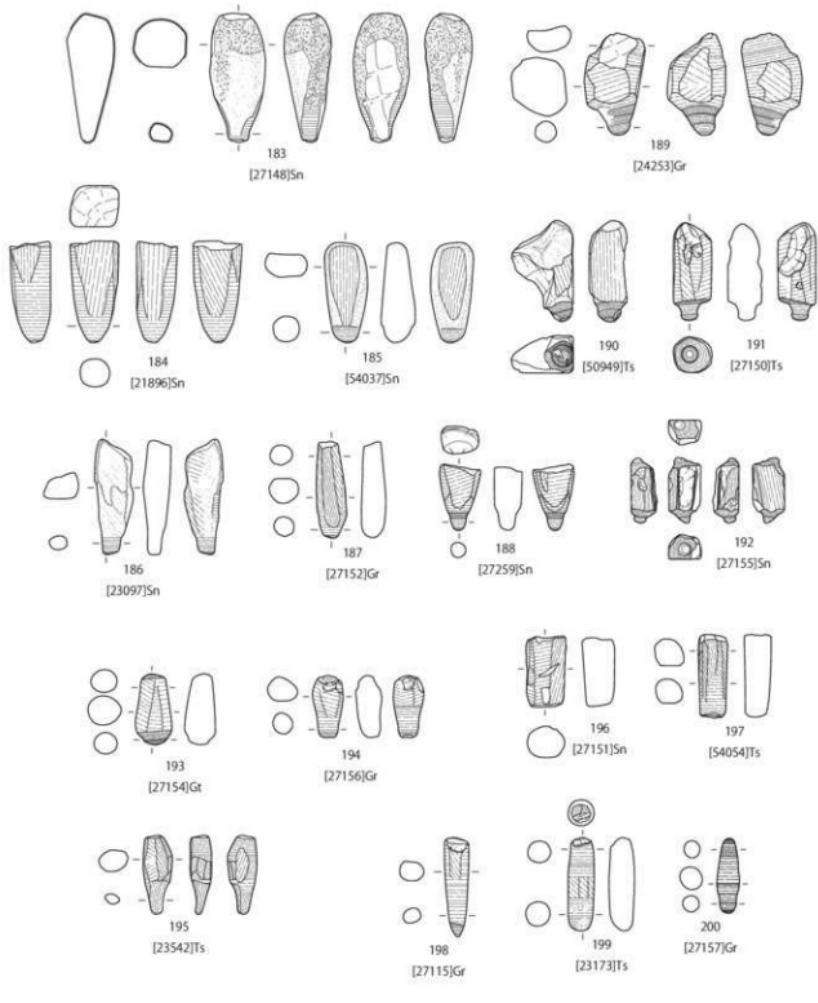
第 25 図 石実測図 10



第 26 図 砥石実測図 11



第27図 砥石実測図12



第 28 図 砥石実測図 13

## 第Ⅱ章 磨製石器

### 第1節 磨製円盤（有孔円盤・環石類等）

#### 1 磨製円盤の分類

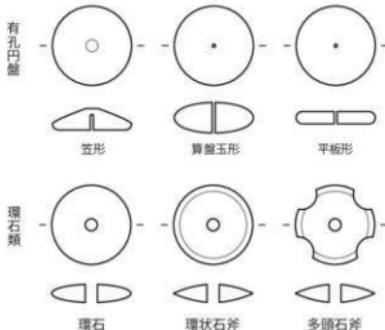
本報告では、平面円形に整形して中央に穿孔する石器を磨製円盤と総称し、中央孔の小さいものを有孔円盤、中央孔の大きいものを環石類として、次のとおり分類した。

##### 【有孔円盤】

- ・笠形 ……上面に傾斜をつけて研磨整形したもの。
- ・算盤玉形 …上下両面とも傾斜をつけて研磨整形したもの。
- ・平板形 ……上下両面とも平坦に研磨整形したもの。既報告では「石製加工円盤」

##### 【環石類】

- ・環石 ……円形に整形して中央孔の大きいもの。
- ・環状石斧 …環石の周縁が刃状に研磨されたもの。
- ・多頭石斧 …環状石斧の周縁刃部に抉りのあるもの。



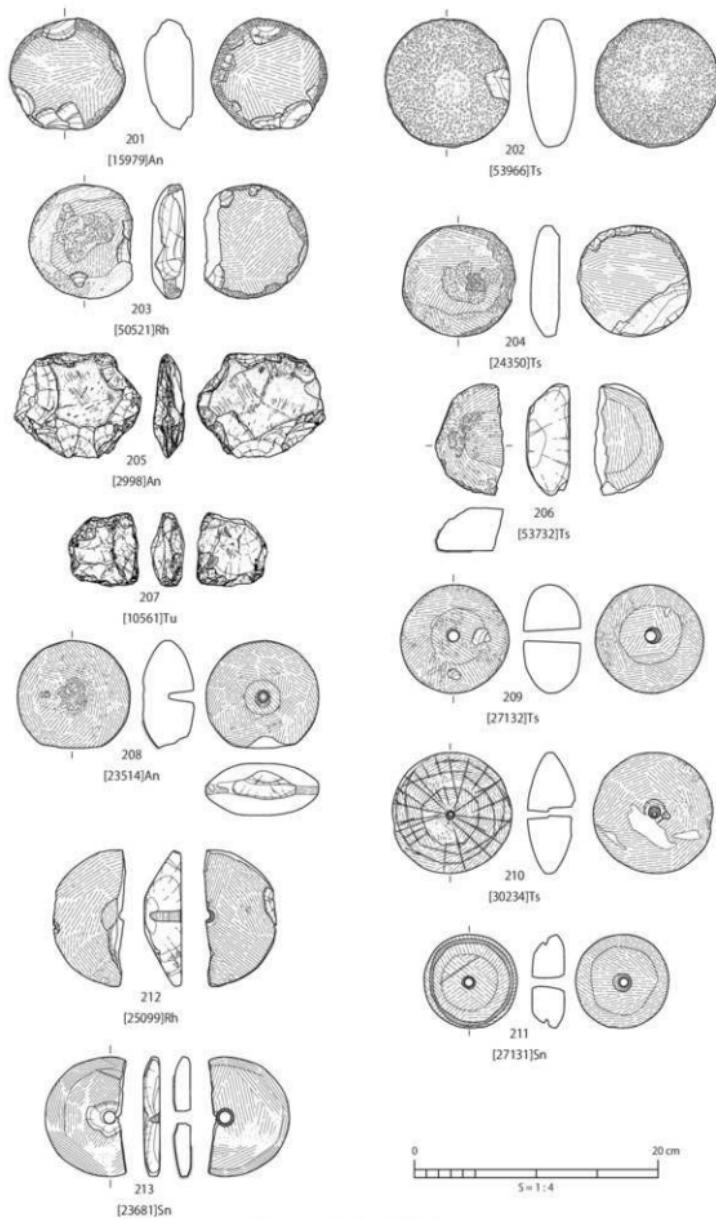
#### 2 磨製円盤の概要

有孔円盤に分類したものは、既報告分も含めて 55 点（22 地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは 20 点である。

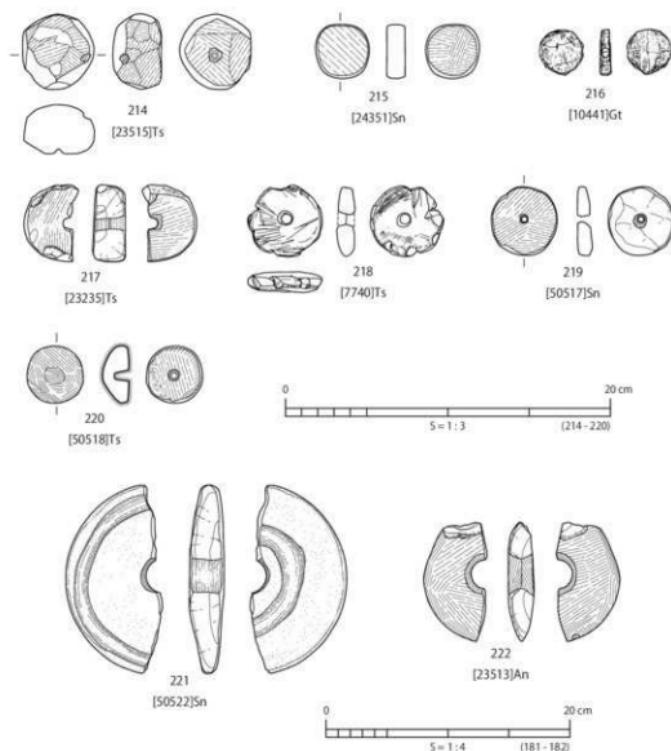
有孔円盤は、上記分類の 3 種類の中で「平板形」としたものは紡錘車、「算盤形」としたものは弾み車と考えられている。中央孔に着目すると、「算盤形」は中央孔が貫通していないものがあるが、208 のように孔の対面中央に敲打によって凹ませる加工があり、本来は貫通させる資料であることが窺われる。これに対し「笠形」の場合、212 のように非貫通の中央孔の対面は研磨されており、この状態で完成品と考えられる。

環石類に分類したものは、既報告分も含めて 5 点（22 地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは 2 点である。

点数は少ないが、周縁の形態以外の特徴はほぼ共通している。221 のように中央孔や周縁に沿うように浅い溝が施されるのは、用途に関係するものか装飾的なものか。



第29図 磨製円盤実測図1



第30図 磨製円盤実測図2

## 第2節 磨製石斧

### 1 磨製石斧の分類

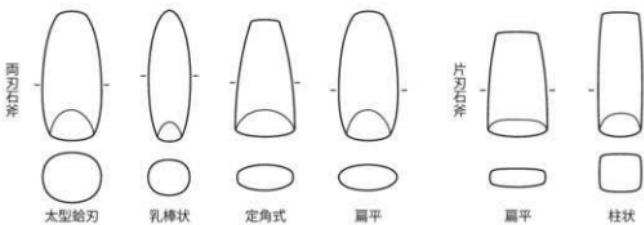
本報告では、磨製石斧を両刃石斧と片刃石斧に大別し、次のとおり分類した。

#### 【両刃石斧】

- ・大型蛤刃 ……基部面が広く、刃部付近の幅が最大となる。信州系
- ・乳棒状 ……基部面と刃部が狭く、身部中央の幅が最大となる。
- ・定角式 ……扁平で側面が明瞭。厳密には定角式でないが、定角式に近い形。
- ・扁平 ……扁平で側面が不明瞭。

#### 【片刃石斧】

- ・扁平 ……幅広で厚みがうすい。小型品あり。
- ・柱状 ……幅と厚さがほぼ同じ。小型品あり。



### 2 磨製石斧の概要

両刃石斧に分類したものは、既報告分も含めて 403 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 56 点である。

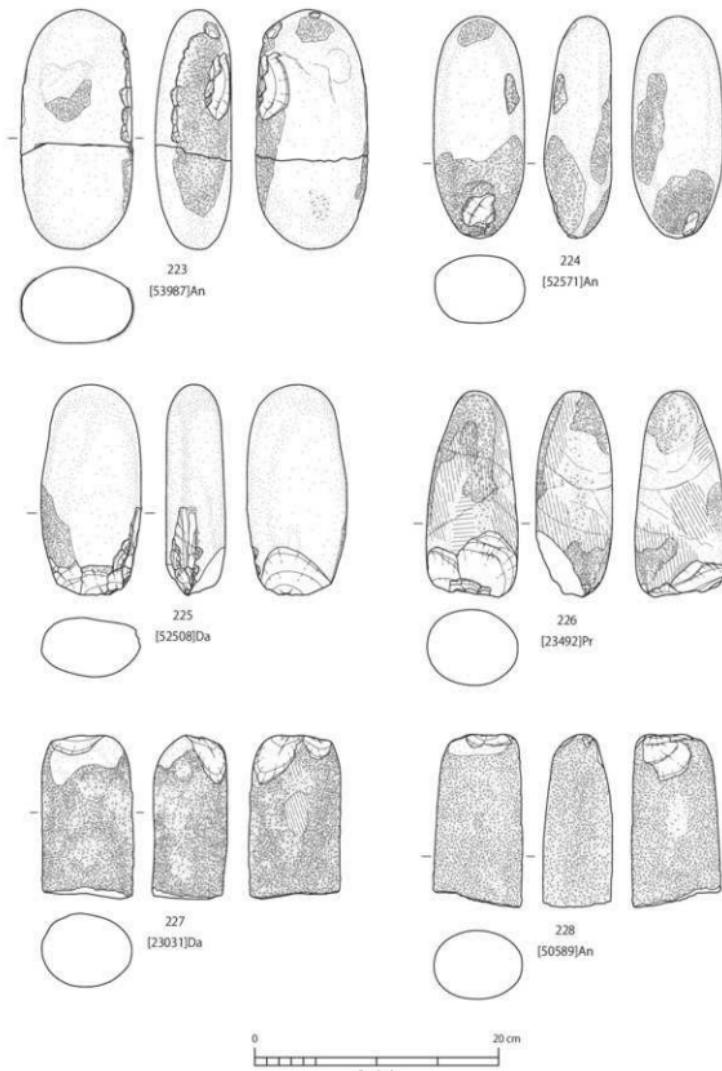
両刃石斧は、閃輝綠岩 (Di) の信州系を除いて 4 種類に形態分類したが、未成品資料を参照する限り、完成品は原礫の形態に依存する傾向があり、必ずしも作り分けられているわけではないようだ。信州系に象徴されるように、交易によって集落外からもたらされた製品もいくらか含まれているようだが、類例検索等は今後の課題としておきたい。

両刃石斧の完成品は大多数の資料に破損歴があり、刃部再生が可能な個体は両刃石斧として再加工され、これが不可能な個体は磨石類（主に鎌石）や石錘等に転用されたと考えられる。

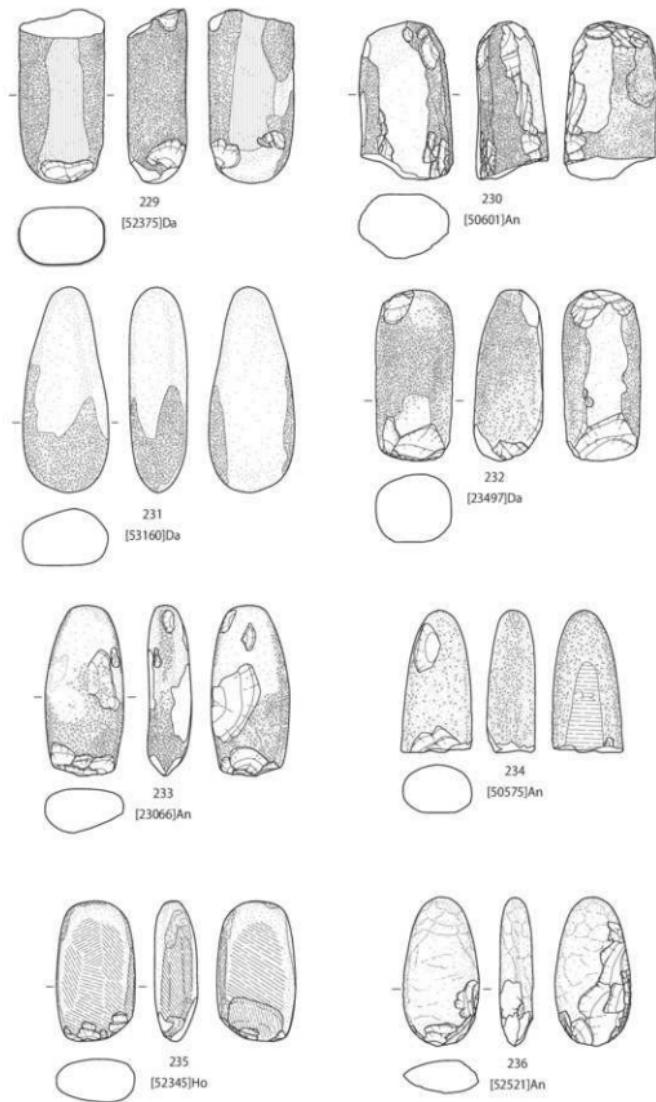
また、276～278 のような小型品も稀にあり、278 のように刃部以外の加工が曖昧なものも、分類上は両刃石斧の範疇とした。

片刃石斧に分類したものは、既報告分も含めて 48 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 3 点である。

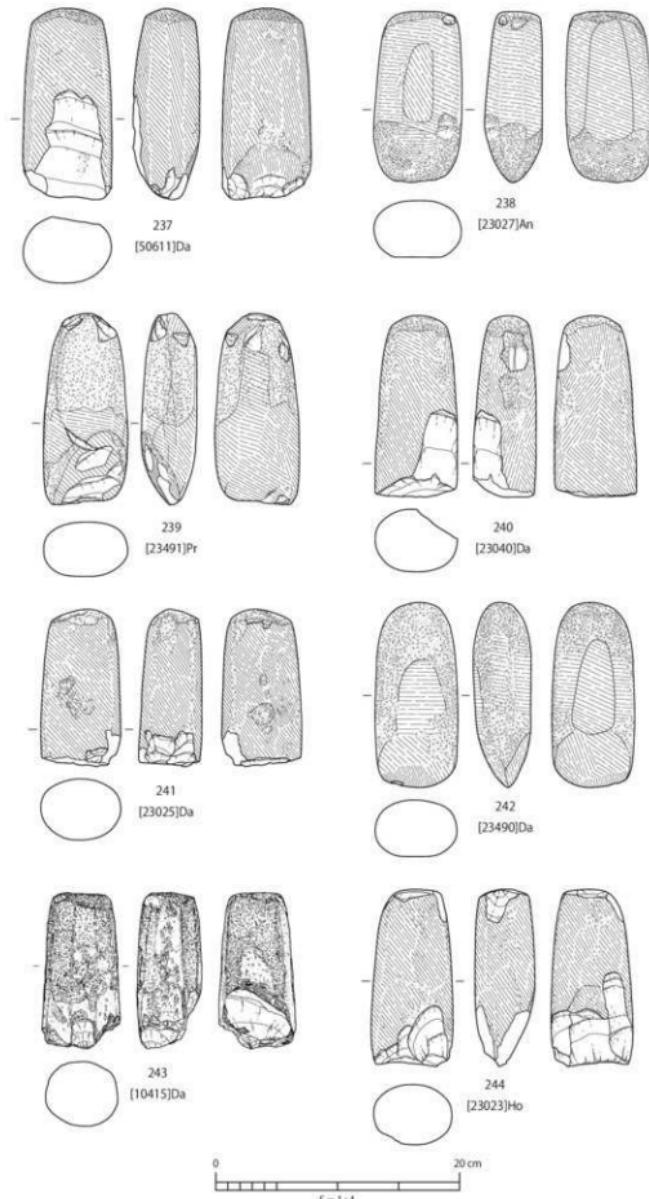
片刃石斧も大多数の資料に破損歴があり、刃の研ぎ直し程度の調整のほかに、279 のように、縦に割けたような破損の場合など、柄に固定可能ならば使用を続ける例もあるようだ。



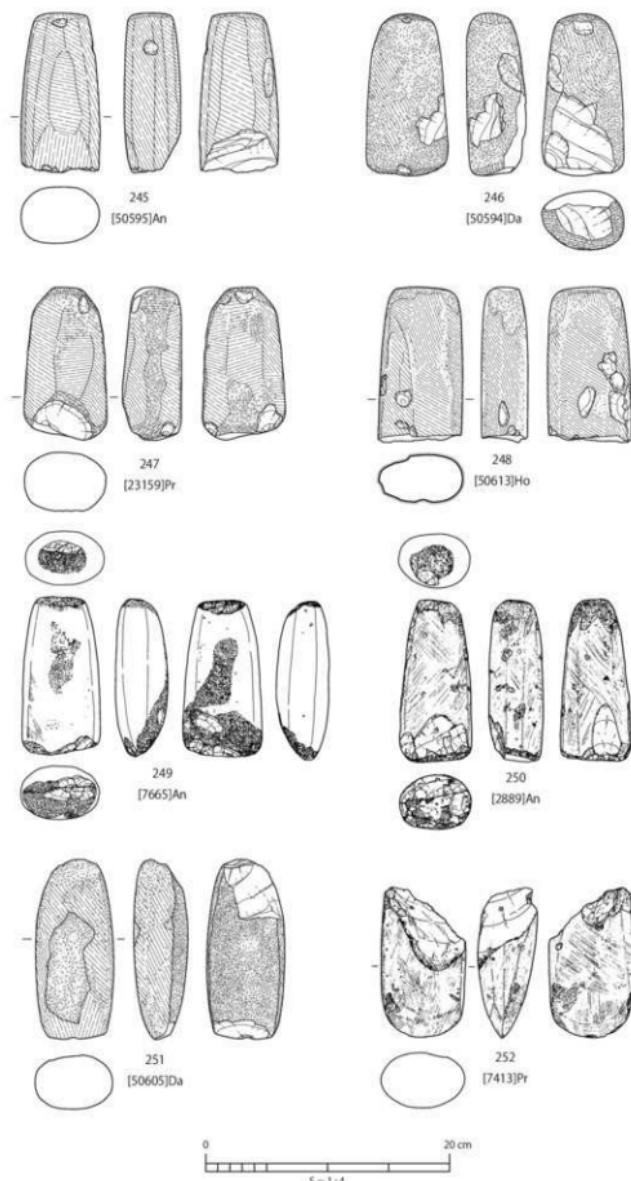
第31図 磨製石斧実測図1



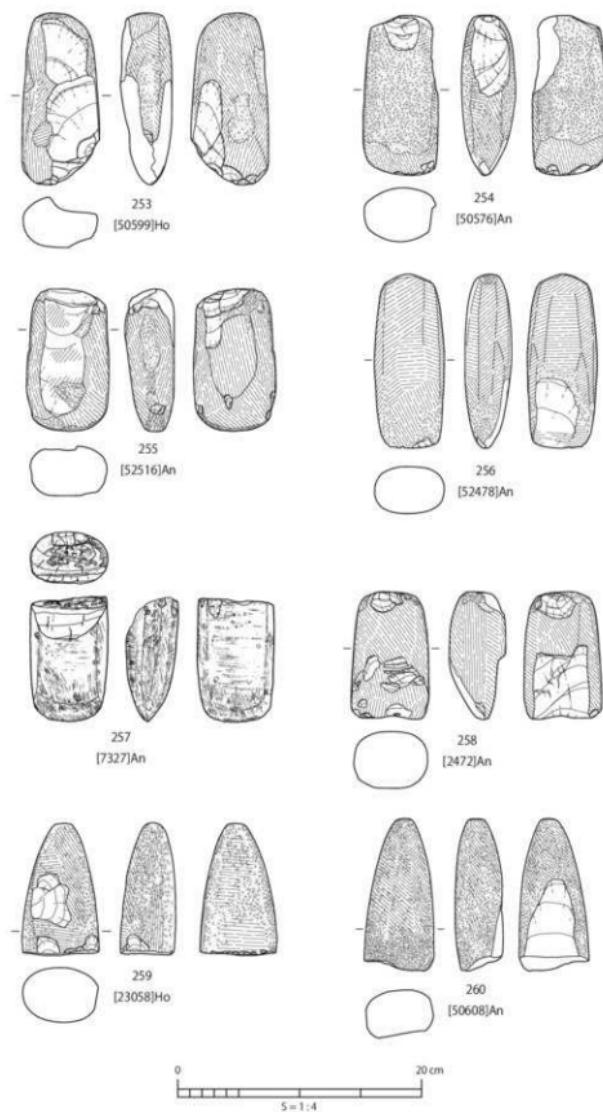
第32図 磨製石斧実測図2



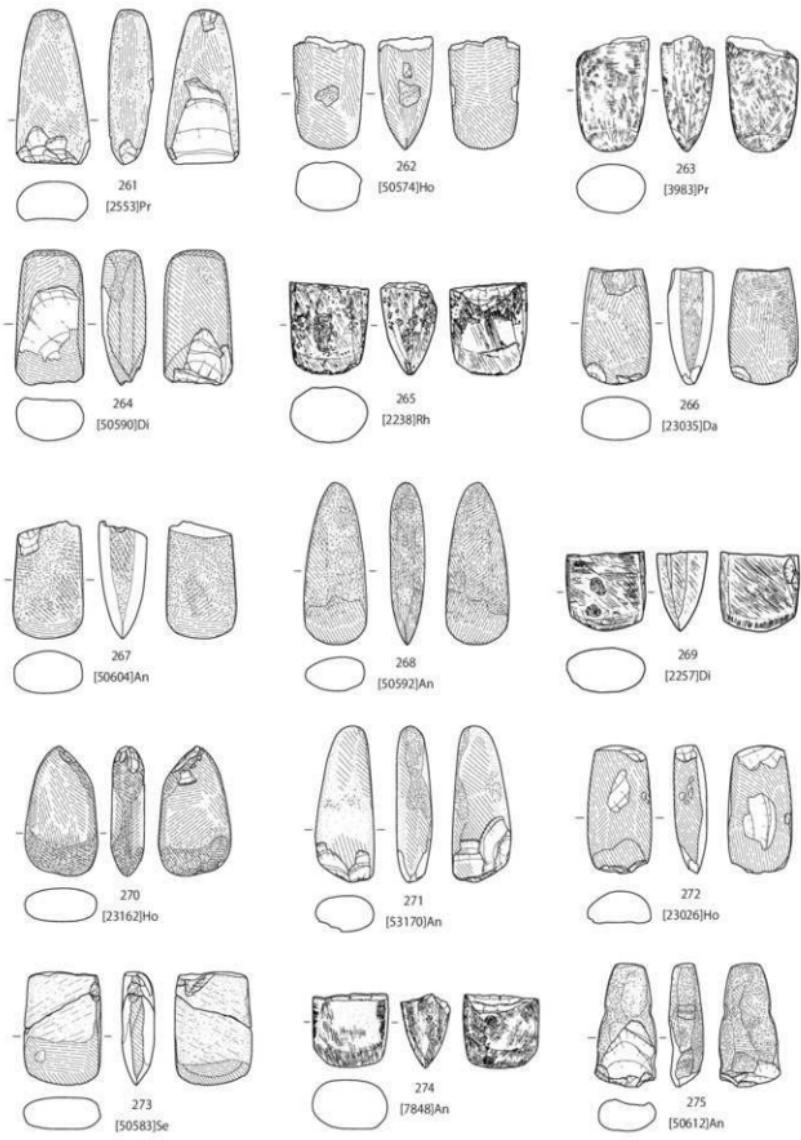
第33図 磨製石斧実測図3



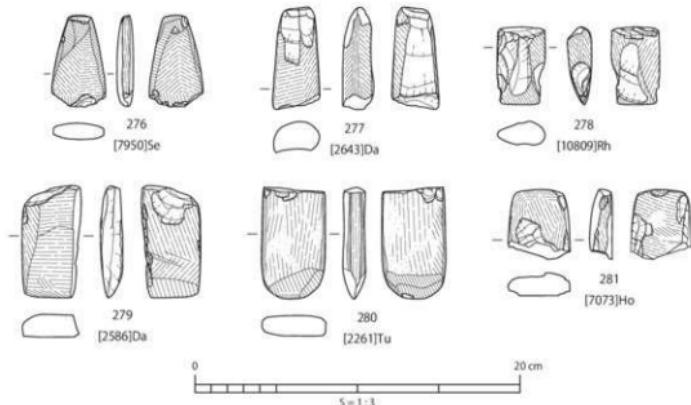
第34図 磨製石斧実測図4



第35図 磨製石斧実測図5



第36図 磨製石斧実測図6



第37図 磨製石斧実測図7

### 第3節 磨製刃器

#### 1 磨製刃器の分類

本報告で磨製刃器とは、薄手幅広で刃部を研磨によって作出する石器の総称とする。実質的に石包丁とこれに類する大型品が主であり、これらを広義に「石包丁」として次のとおり分類した。

A1 …「研磨有孔」全体を研磨整形し、紐掛け孔を穿ったもの。

A2 …「研磨無孔」全体を研磨整形し、紐掛け孔がないもの。

B1 …「剥片有孔」研磨は刃部のみで、紐掛け孔を穿ったもの。

B2 …「剥片無孔」研磨は刃部のみで、紐掛け孔がないもの。

#### 2 磨製刃器の概要

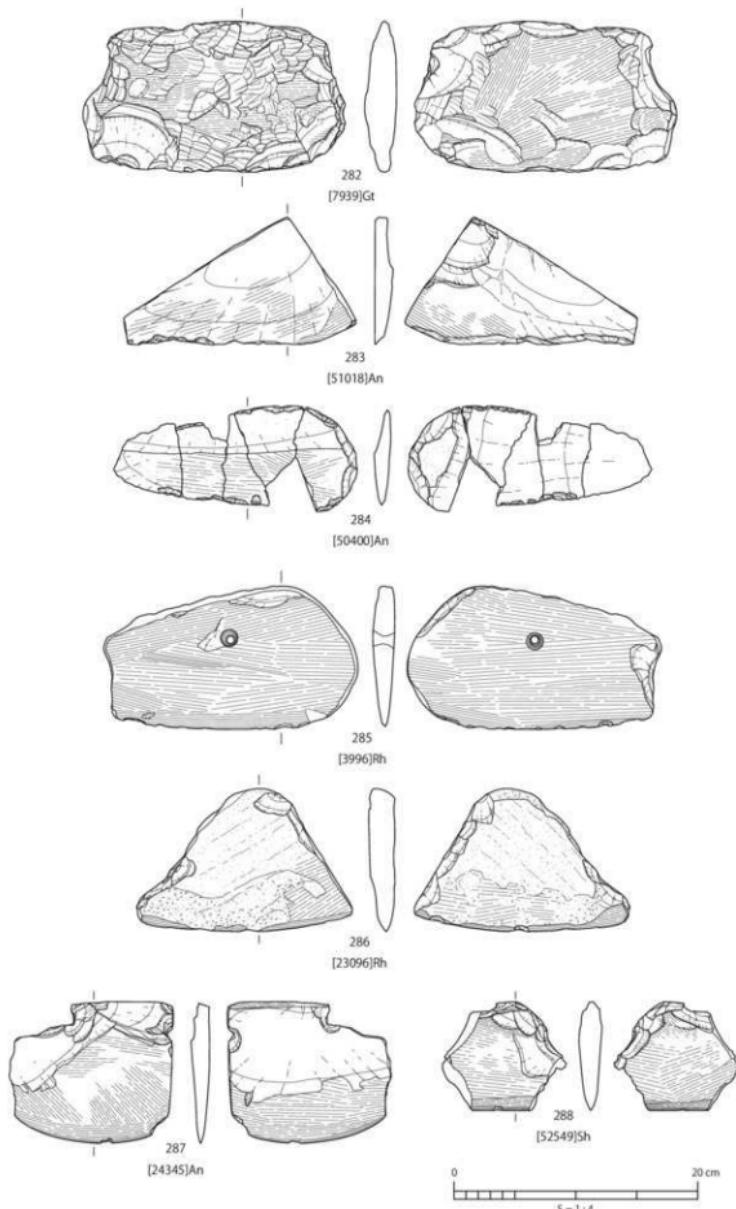
石包丁に分類したものは、既報告分も含めて190点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは10点である。

石包丁は破片資料が多く完形の分かるものが少ないが、平面形は概ね半円形～涙滴形に整形する傾向があり、刃部は概ね直線であり、刃は縁に対して平行に研磨される。紐掛け孔は1～3箇所と個体によって違いがあり、穿孔しないものでも287・289のように抉りをつけるものがある。

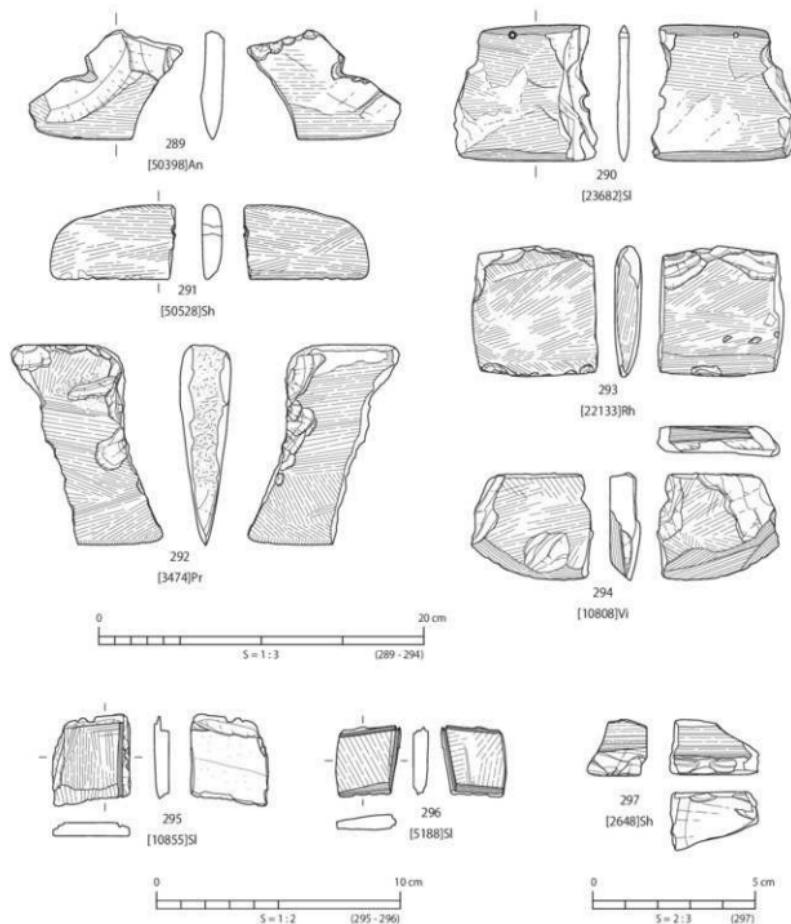
未成品について、282の加工痕にはノミ状の工具を使用した痕跡が認められる。凝灰岩質で珪化していない軟質の石材であることから直ちに鉄製工具につながるものではないが、少なくともこれを想起させる加工法であり、特筆すべき事例であろう。

上記以外で磨製刃器に分類したものは既報告分も含めて20点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは2点である。

このほか、石包丁の破片等を擦り切り分割した資料がある。既報告分も含めて12点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは4点である。石包丁の破片をより小型の磨製石器の素材とするための加工の過程で生じるものであろう。



第38図 磨製刃器実測図1



第39図 磨製刃器実測図2

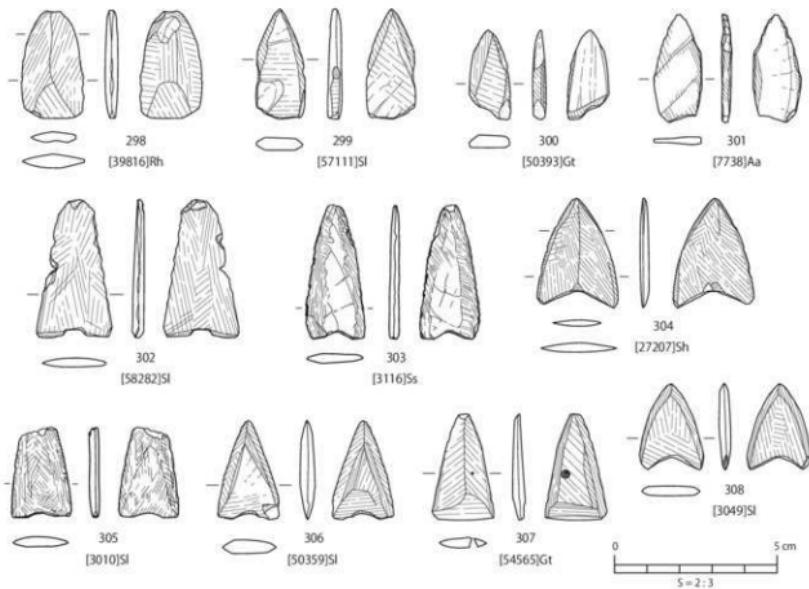
## 第4節 磨製石鎌

### 1 磨製石鎌の概要

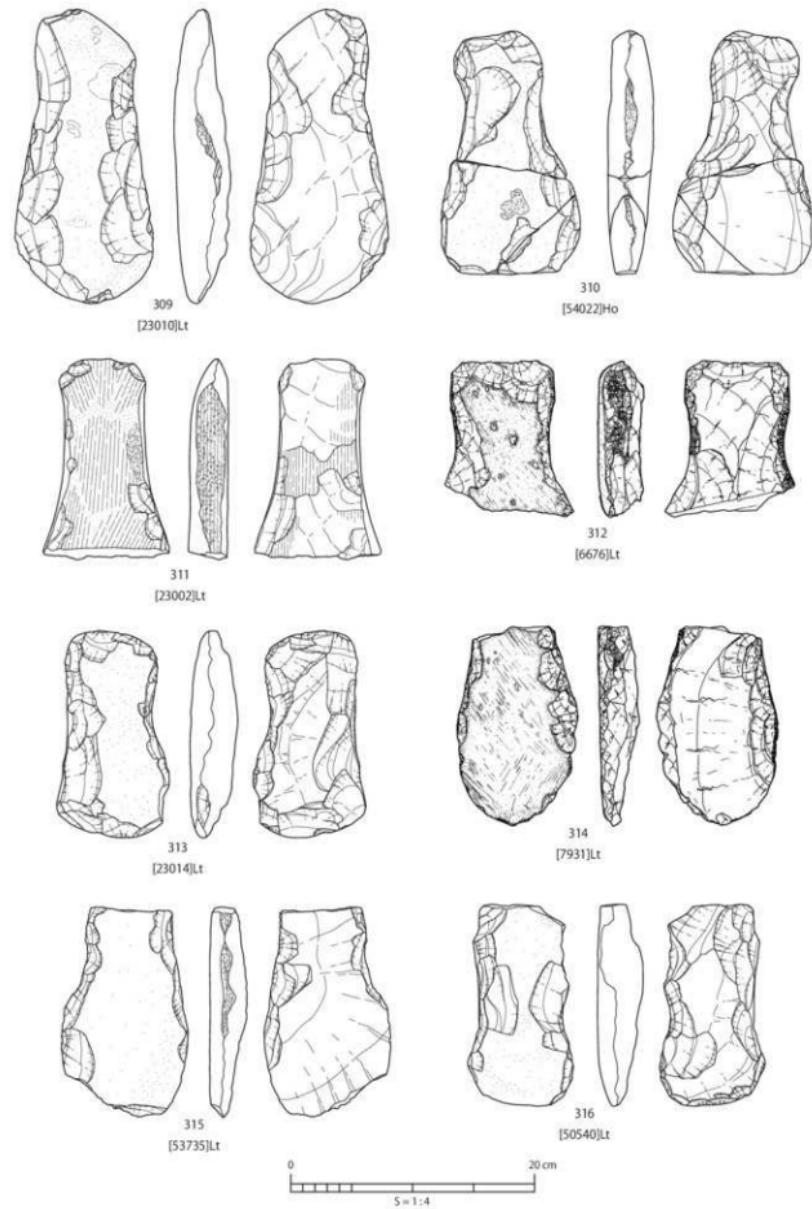
磨製石鎌に分類したものは、既報告分も含めて 26 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 11 点である。

磨製石鎌は、手頃な剥片を利用して製作される印象で、資料から読み取り可能な範囲では研磨のみで加工されている。前節に述べた擦り切り分割片のうち、粘板岩（SI）の第 39 図 296・297 などは、磨製石鎌の素材として用意されたものだろう。形態的には 302・303・305・306 が磨製石鎌として製作された標準的なもので、このほかに 304・307・308 のように打製石鎌に類似するものがある。また、307 に見える穿孔は、貫通しきっていない上に磨製石鎌としてはあまり意味を持たない位置にあるように思われる。

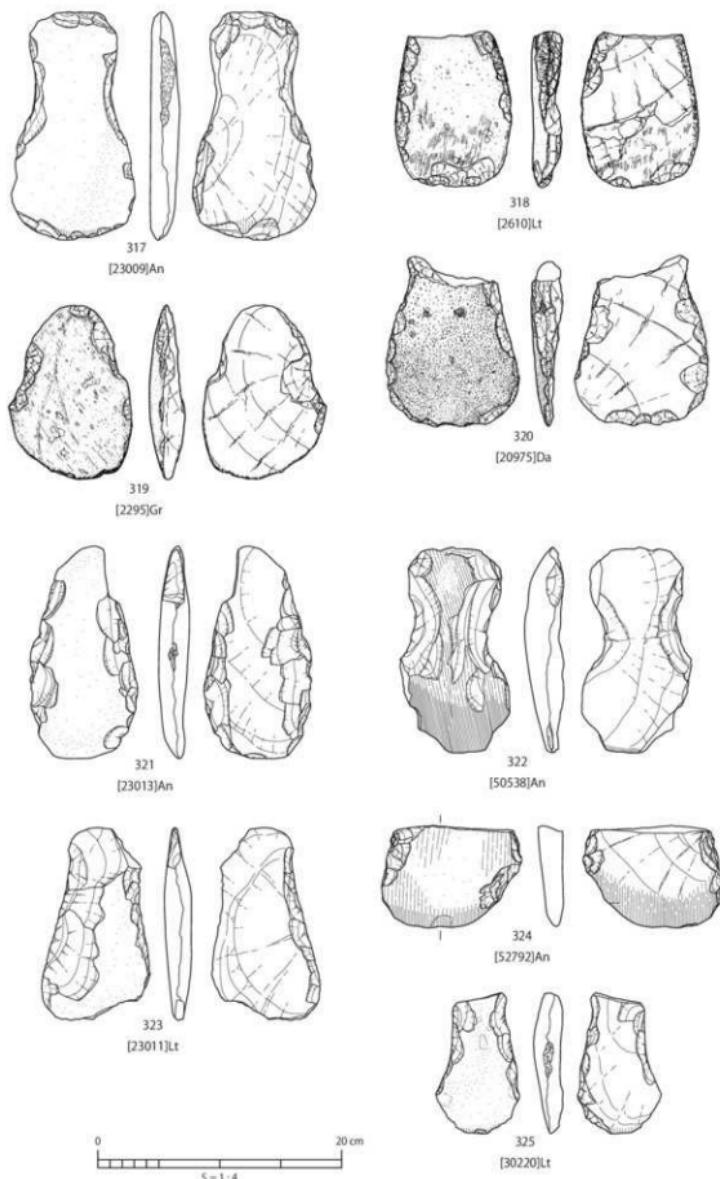
なお、本報告では省略しているが、磨製石剣について、既報告分 3 点のほかに破片資料が 5 点ある。



第 40 図 磨製石鎌実測図



第41図 打製石斧実測図1



第42図 打製石斧実測図2

## 第Ⅲ章 打製石器

### 第1節 打製石斧（石鎌）

#### 1 打製石斧の概要

打製石斧に分類したものは、既報告分も含めて 116 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 17 点である。

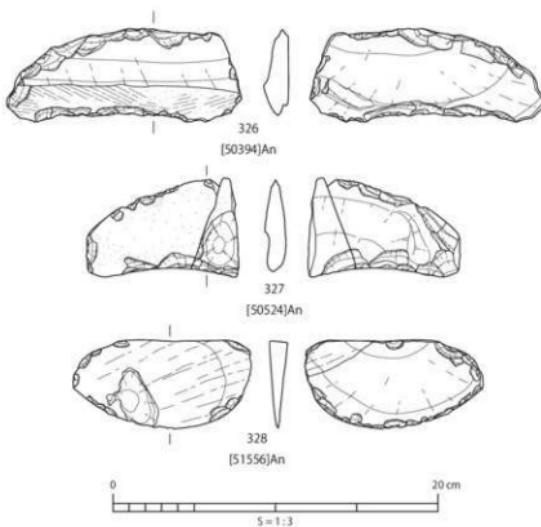
長大な円礫を打ち割った礫端片を素材とし、柄の装着部となるに片を潰す加工のみ施され、刃部はあまり加工しない。形態は素材の円礫に依存するためか、幾分ねじれる傾向がある。

### 第2節 打製刃器（石鎌等）

#### 1 打製刃器の概要

打製刃器に分類したものは、既報告分も含めて 11 点（22 地区出土なし）であり、本報告で図化掲載したものは 3 点である。

指標となる特徴は、326・327 のような凹刃となるもので、器種名として「石鎌」としているが、厳密な意味で石鎌とはいえない形態であり、剥片を利用した石器とした方がよいかもしれない。また、凸刃となる 328 には特に器種名は設定していない。



第43図 打製刃器実測図

### 第3節 打製石鎚・石錐

#### 1 打製石鎚の分類

身部の形態に基づいて、次のとおり分類した。

三角形…両辺が直線的なもの。基部は平基または凹基、前者は稀に有茎となる。

長身型…細身で両辺は先端部が膨らむ。基部は平基または凹基で、有茎となるものはない。

五角形…三角形から長身型に類似するものまであり、身部の下半が凹む。有茎が多い。

柳葉形…または涙滴形で、基部は幅狭となり、凸基または円基が多い。

#### 2 打製石鎚の概要

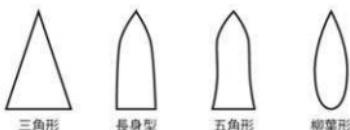
打製石鎚に分類したものは、既報告分も含めて 405 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 61 点である。

形態的な特徴として最も標準的なものは、基部・身部とも直線的に整形される三角形の石鎚である。長さに比例して基部幅が広くなるという特性から、大型にはならない。

大型品は、長身型とした石鎚に特徴的であり、石剣を小型化したような形態である。三角形との比較において長身型は、相対的に幅狭厚手長身であることが特徴である。

五角形としたものは形態的にはばらつきが大きく一概にいえないが、身部下半がゆるく凹むのが共通する特徴である。

柳葉形としたものは、五角形とは対照的に身部下半がゆるく張り出す形態が特徴であり、相対的に幅狭長身となる傾向は長身鎚と共に通するが、薄手の剥片を素材として、周縁のみを調整したものも一定量認められる。



#### 3 石錐の分類

基部と身部の形態に基づいて、次のとおり分類した。

A …基部は幅広で、トリミングによって身部を作出するもの。

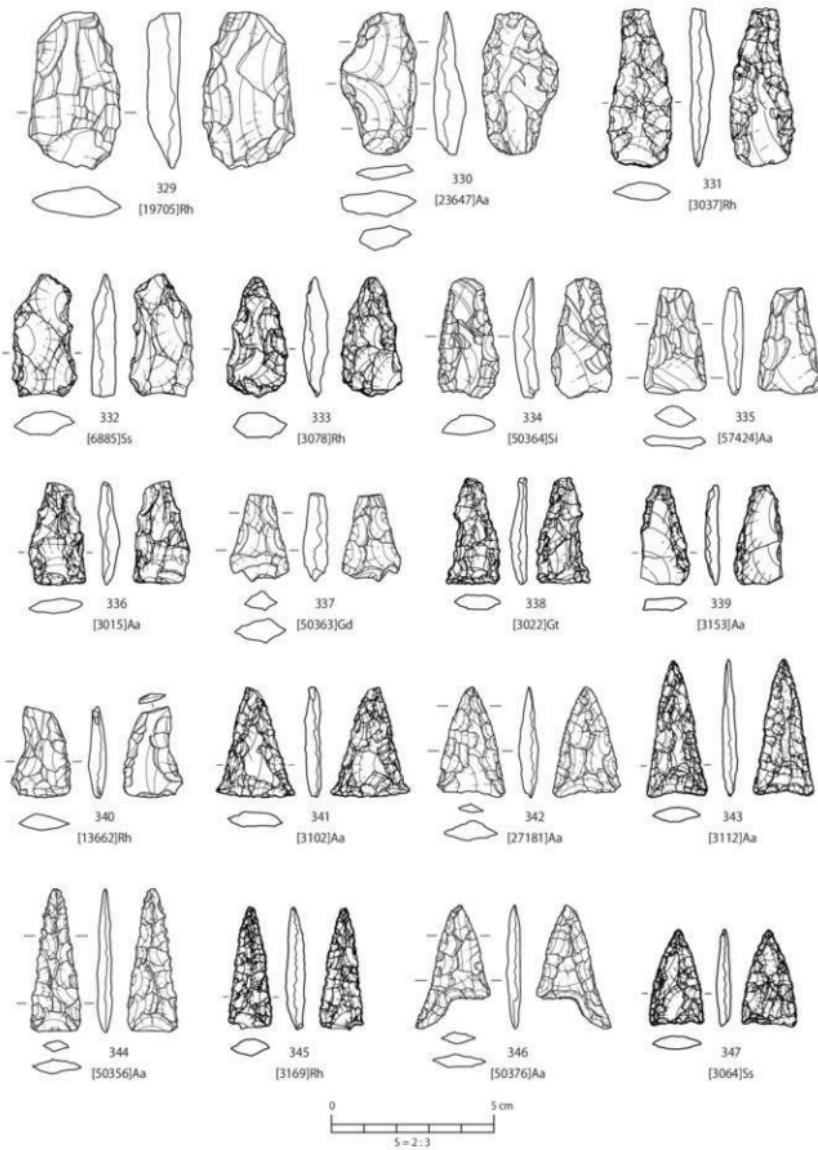
B …基部は幅広で、明確な身部を作出せず、トリミングによって先端を尖らせるもの。

C …明確な基部がなく、全体をトリミングするもの。

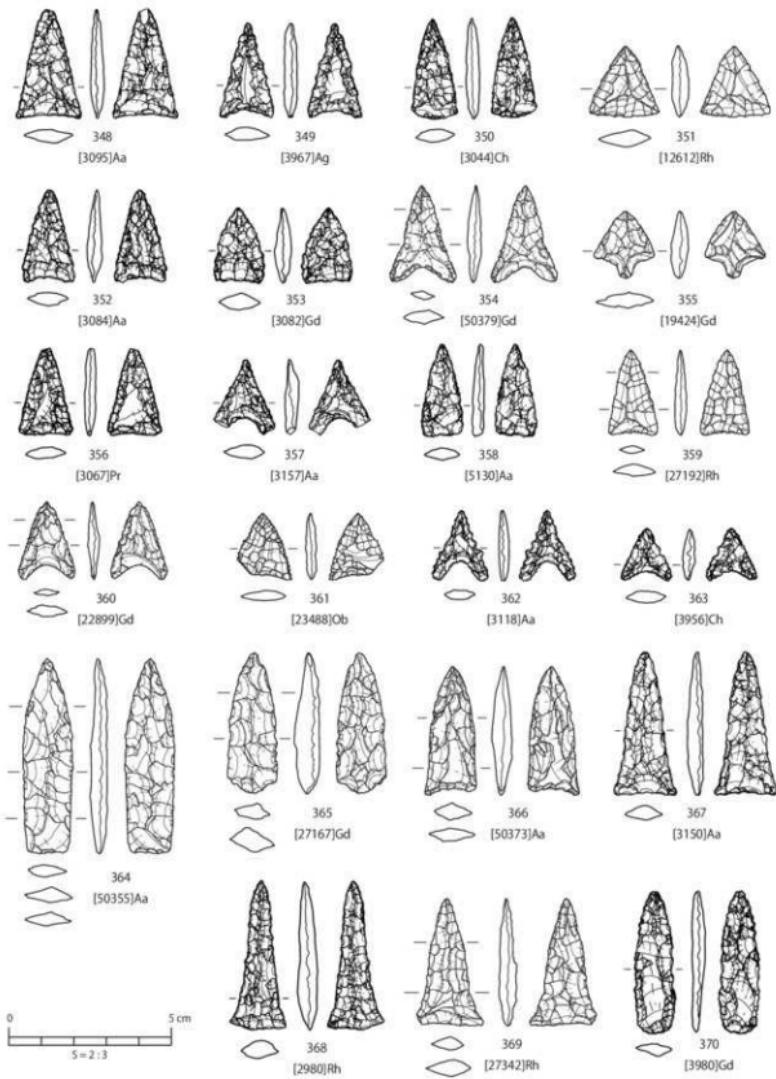
#### 4 石錐の概要

石錐に分類したものは、既報告分も含めて 54 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 11 点である。

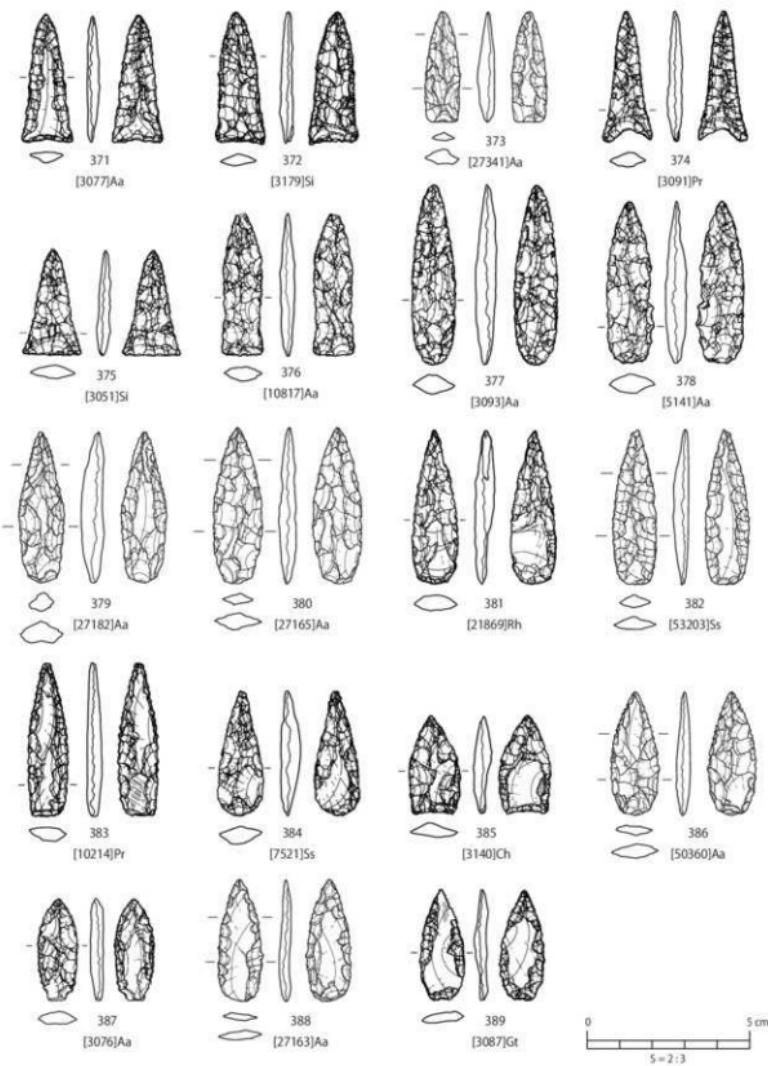
身部以外の部分には明確な加工が認められず、分類の定義上、身部の加工を両面加工に限定したいところではあるが、398・399 を除いてはこれも明確ではないために、分類の説明はトリミングという用語に統一した。実質的には剥片石器の穿孔具のうち、二次加工が明確なものと打製石鎚を再加工転用したものである。



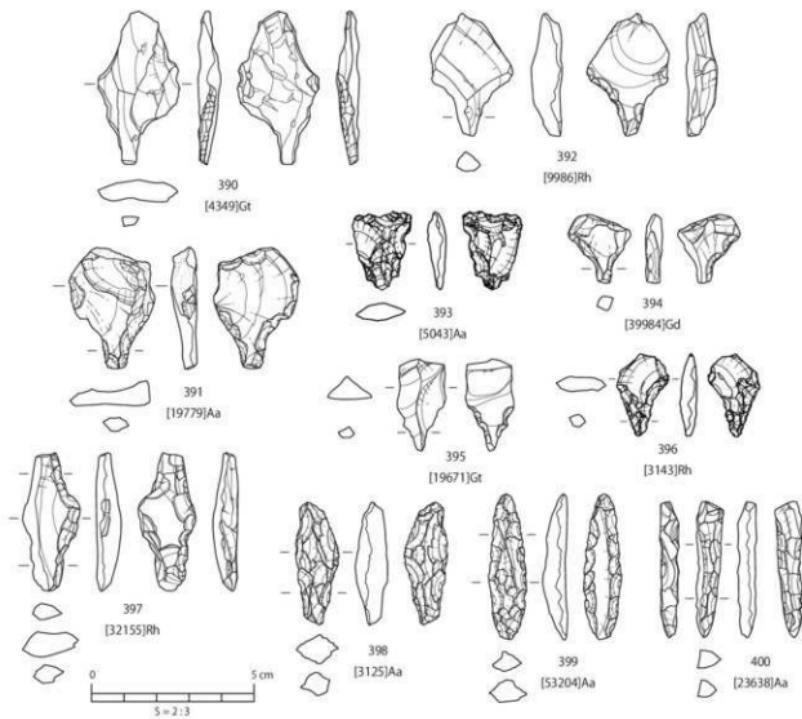
第44図 打製石器実測図1



第45図 打製石器実測図2



第46図 打製石器実測図3



第47図 石錐実測図

## 第IV章 その他

### 第1節 剥片石器

#### 1 剥片石器の分類

剥片は、礫端片とその他の剥片に大きく分類し、使用痕と二次加工により次のとおり分類した。

- ・コーングロス（エッジに強い使用痕光沢が認められるもの。）
- ・ノッチ（二次加工に有意な抉りが認められるもの。）
- ・擦切具（エッジに著しい摩滅が認められるもの。）
- ・刃器（刃部を作出したと思われる二次加工または、エッジに使用痕が認められるもの。）
- ・搔器（刃部を作り出した二次加工のうち、いわゆる急角度剥離と認められるもの。）
- ・穿孔具（剥片に回転痕が認められるもの、または剥片の一部がトリミングされているもの。）
- ・両面加工（エッジに有意な正反の剥離が認められるもの。）
- ・両極剥離（対辺に有為な剥離が認められるもの。本報告では二次加工として分類）
- ・ベッキング（両面加工や両極剥離といえないが類似した剥離が認められるもの。）

#### 2 剥片石器の概要

剥片石器に分類したものは、既報告分も含めて 814 点（22 地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは 122 点である。

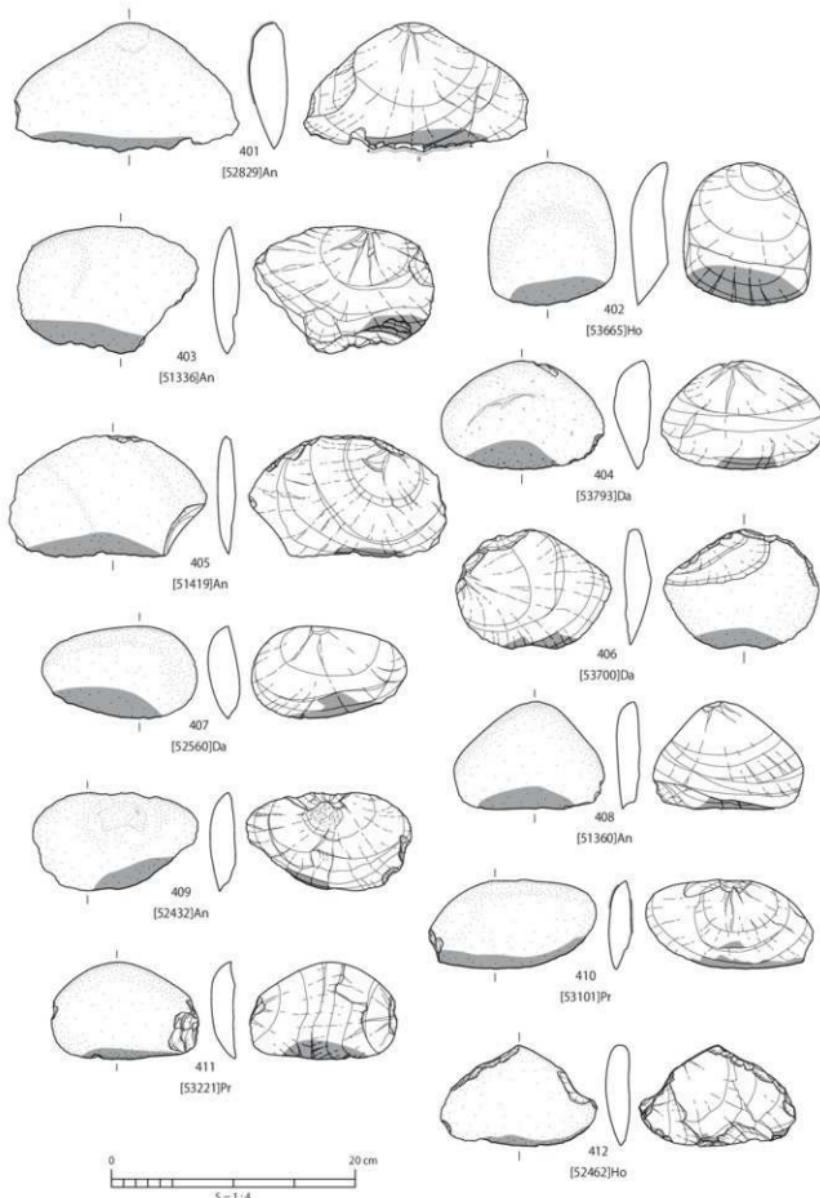
選択される石材について、礫端片石器は礫石器と共に、剥片石器は打製石器に共通するという特徴がある。剥片石器の場合は、この他にとりわけ碧玉質岩（Gt）が多く、剥片石器の過半数に及ぶ。

用途について、礫端片石器はそのまま穂摘具としての利用が主だったと考えられ、使用痕にコーングロスが認められるものが約 3 割ある。剥片石器は穿孔具としての利用がとりわけ多く、全体の 4 割弱を占める。これら穿孔具は碧玉質岩（Gt）に特徴的であり、使用痕が不明瞭ながら水晶にも使用例がある。また、製玉工程品の一部も穿孔具として利用されており、これについては製玉編で報告予定である。

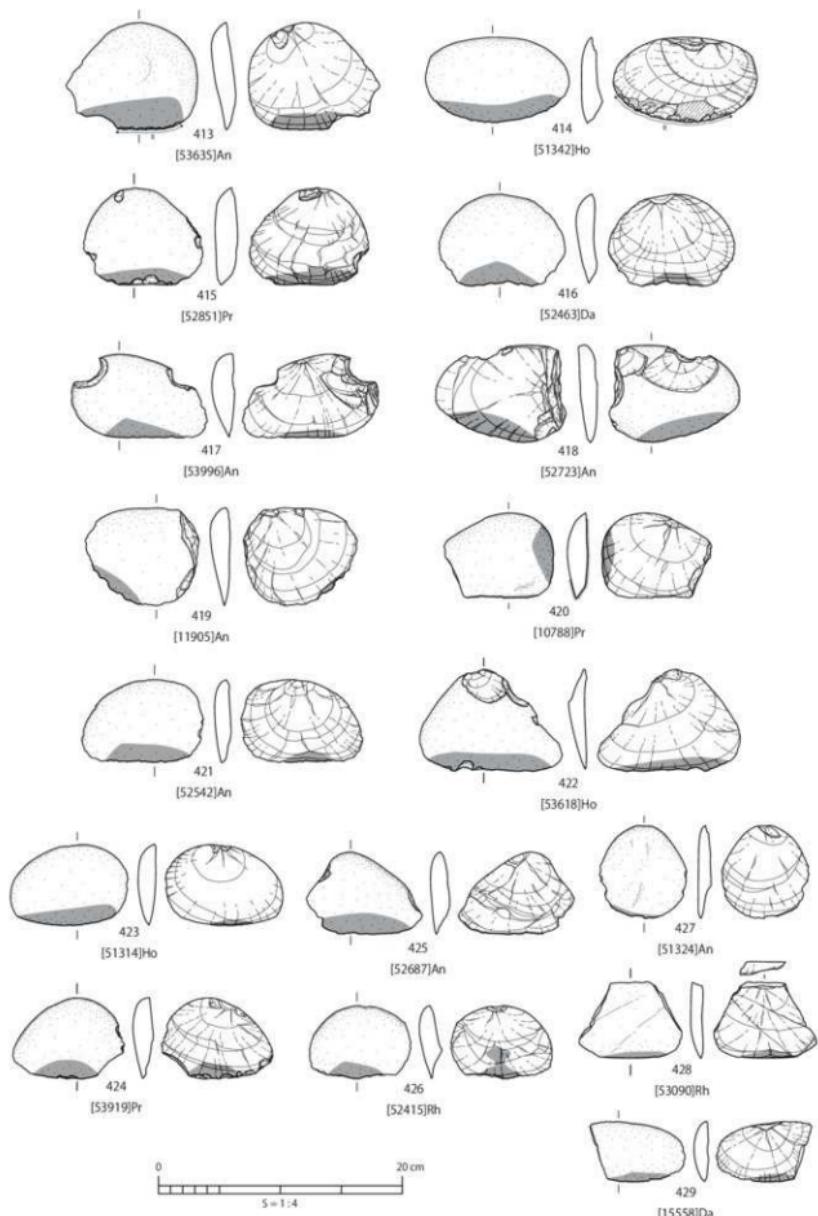
この他では擦切具としての利用も特徴的であり、刃器としたものの一部も擦切具のような用途が推定されるが、本報告では限定しなかった。

| 石材 | 礫端片石器 | 剥片石器 |
|----|-------|------|
| An |       | 82   |
| Ag |       | 22   |
| An | 85    | 12   |
| Ba |       | 1    |
| Ch |       | 4    |
| Da | 48    | 6    |
| Fq |       | 2    |
| Gd |       | 4    |
| Gr |       | 3    |
| Gt |       | 321  |
| Ho | 11    | 3    |
| Iz | 1     |      |
| Ob |       | 3    |
| Pr | 25    | 8    |
| Qc |       | 9    |
| Qu | 2     | 1    |
| Rh | 18    | 91   |
| Sr |       | 3    |
| Sh |       | 2    |
| Si | 4     | 13   |
| Sl |       | 1    |
| Ss | 4     | 14   |
| Sw |       | 1    |
| Tu | 2     |      |
| Vi | 1     | 1    |
| 不明 | 1     | 5    |
| 計  | 202   | 612  |

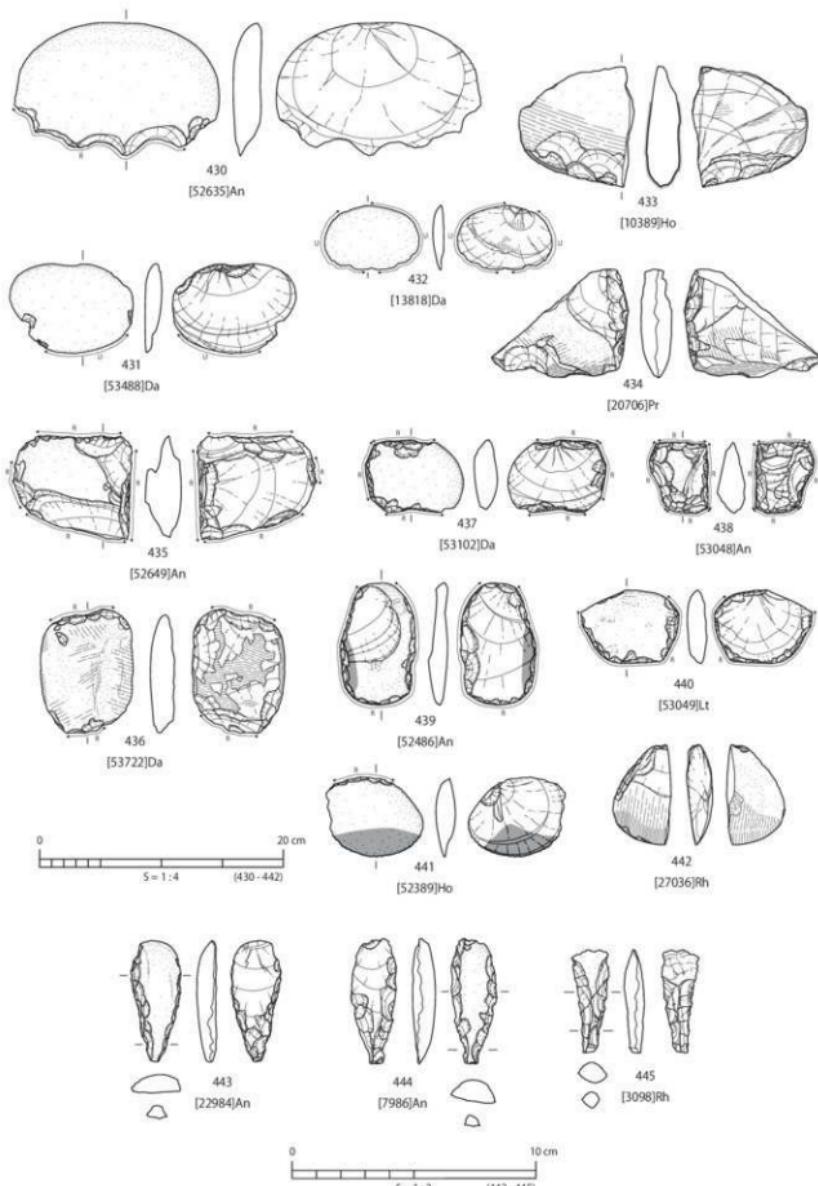
|       | コーングロス | ノッチ  | 擦切具   | 刃器   | 縫隙    | 穿孔具   | 両面加工  | 両極剥離 | ベッキング |
|-------|--------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 礫端片石器 | 61     | 3    | 26    | 19   | 24    | 3     | 2     | 10   | 20    |
| 202 点 | 30.2%  | 1.5% | 12.9% | 9.4% | 11.9% | 1.5%  | 1.0%  | 5.0% | 9.9%  |
| 剥片石器  | 3      | 1    | 34    | 7    | 78    | 228   | 78    | 39   | 27    |
| 612 点 | 0.5%   | 0.2% | 5.6%  | 1.1% | 12.7% | 37.3% | 12.7% | 6.4% | 4.4%  |



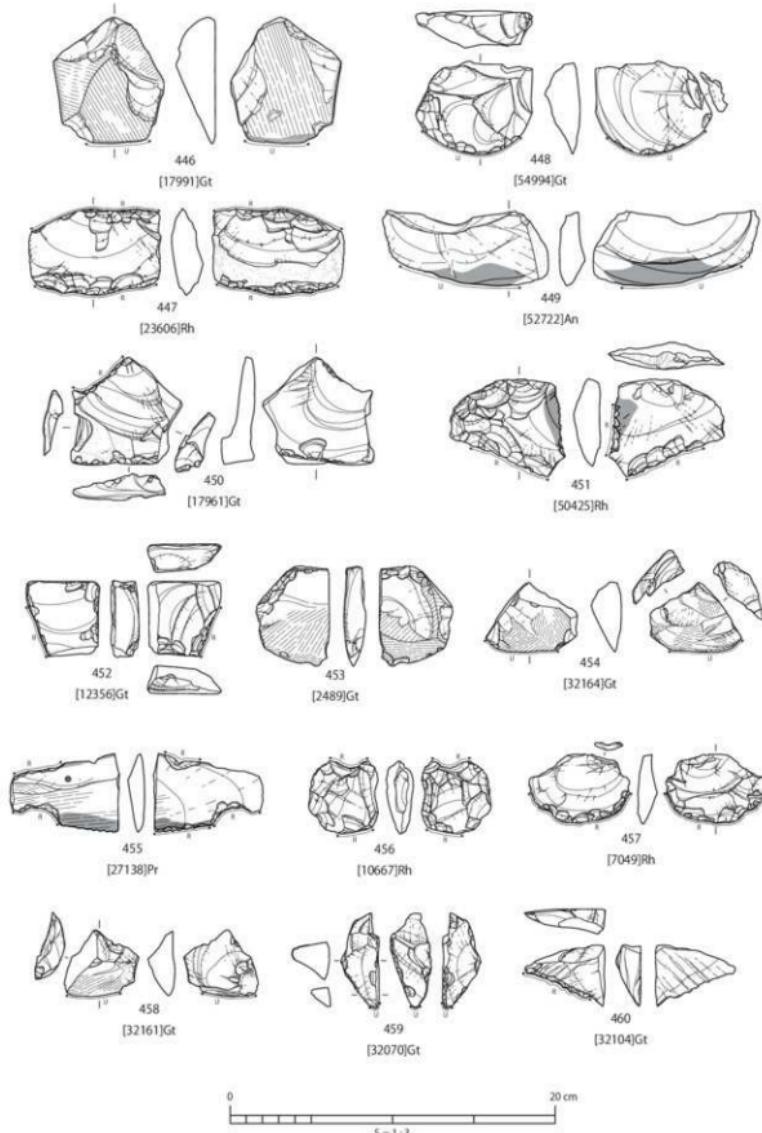
第48図 碓端片石器実測図1



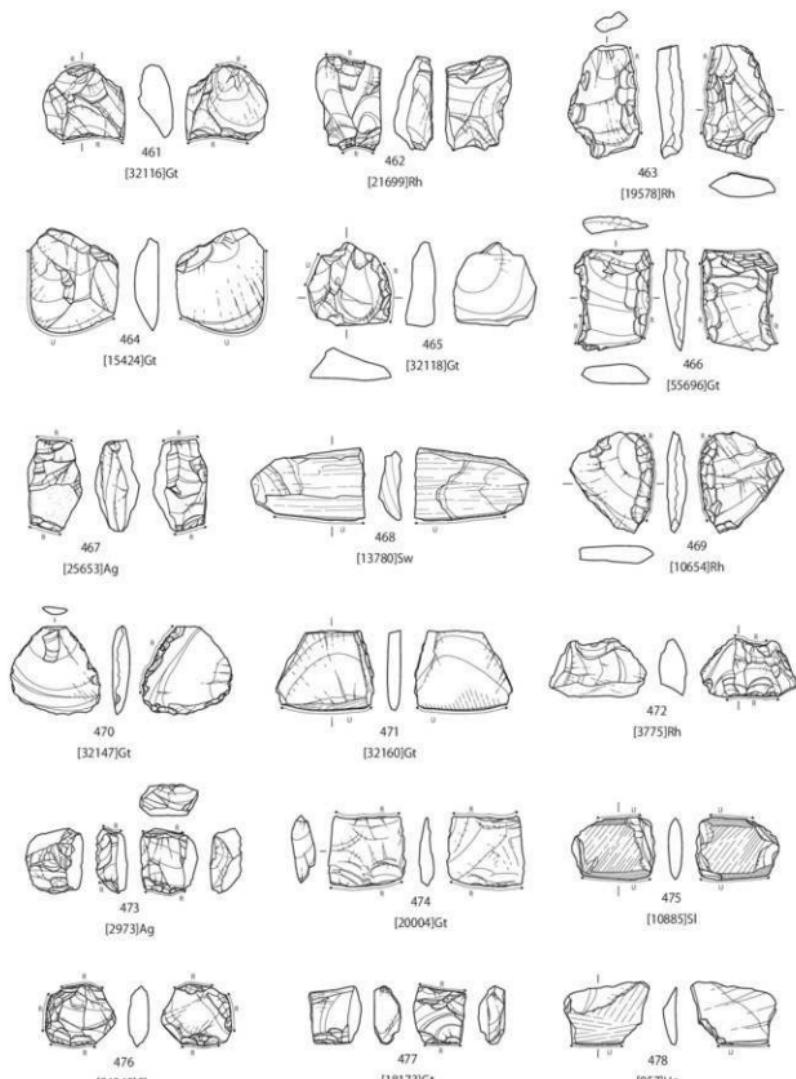
第49図 碓端片石器実測図2



第50図 碟端片石器実測図3

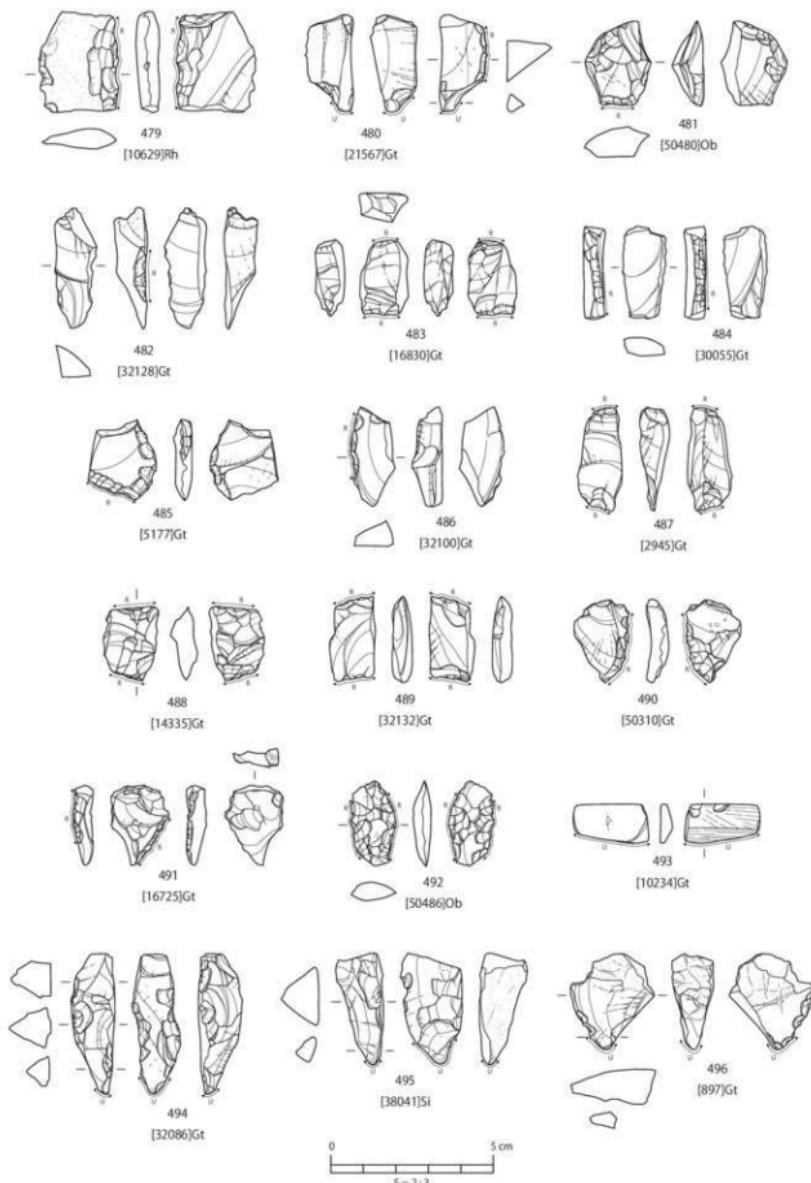


第51図 剥片石器実測図1

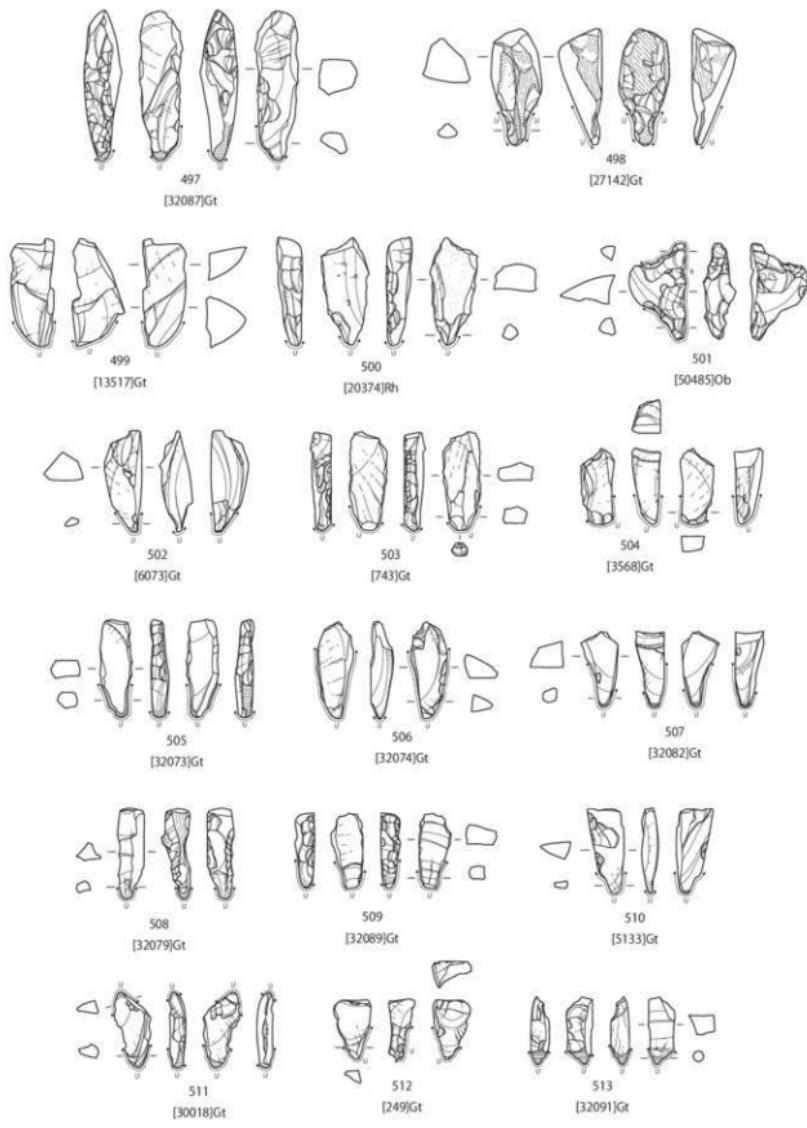


0  
 S = 1:2  
 10 cm

第52図 剥片石器実測図2

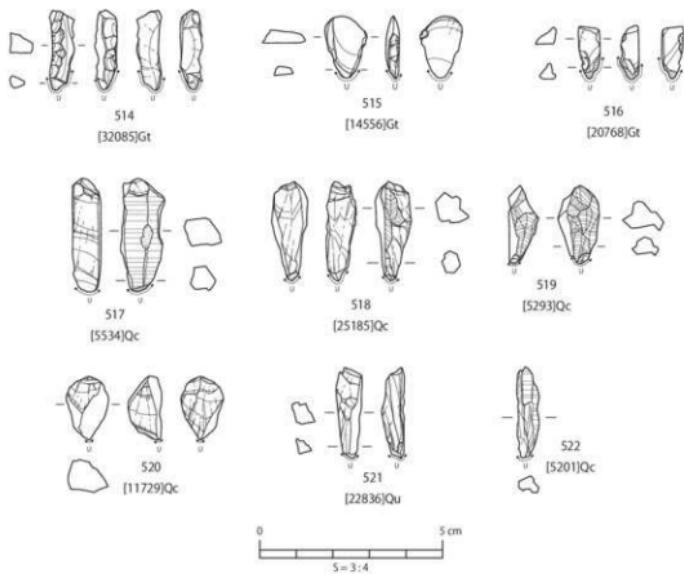


第53図 剥片石器実測図3



0 5 cm  
S = 2:3

第54図 剥片石器実測図4



第55図 剥片石器実測図5

## 第2節 石核

### 1 石核の概要

石核に分類したものは、既報告分も含めて330点（22地区含む）であり、本報告で図化掲載したものは13点である。他に、補足として、磨製石剣に使用例のある珪化木（Sw）の加工礫2点も図化掲載した。なお、黒色安山岩（Aa）と瑪瑙（Ag）の石核は、製玉工具関連資料に一部重複するので、製玉編でまとめて報告するものとし、上記数量に含まず、属性表からも除外した。

礫端石核とした523～526は、礫端片を割り取った残核と考えられる。

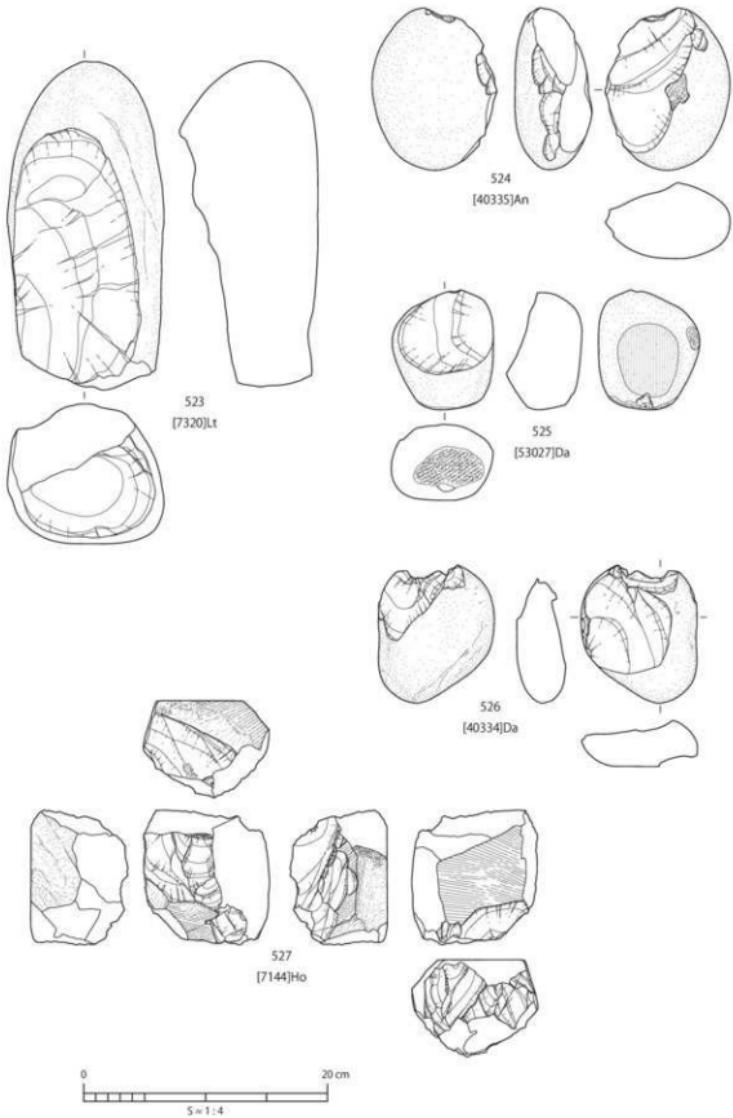
調整石核とした528～534は、円礫の礫面を除去する作業面が見られるものや、磨製石器の未成品の可能性があると考えられるものである。

その他、527・535は繰り返し剥片剥離したと思われる作業面が見られることから残核とした。

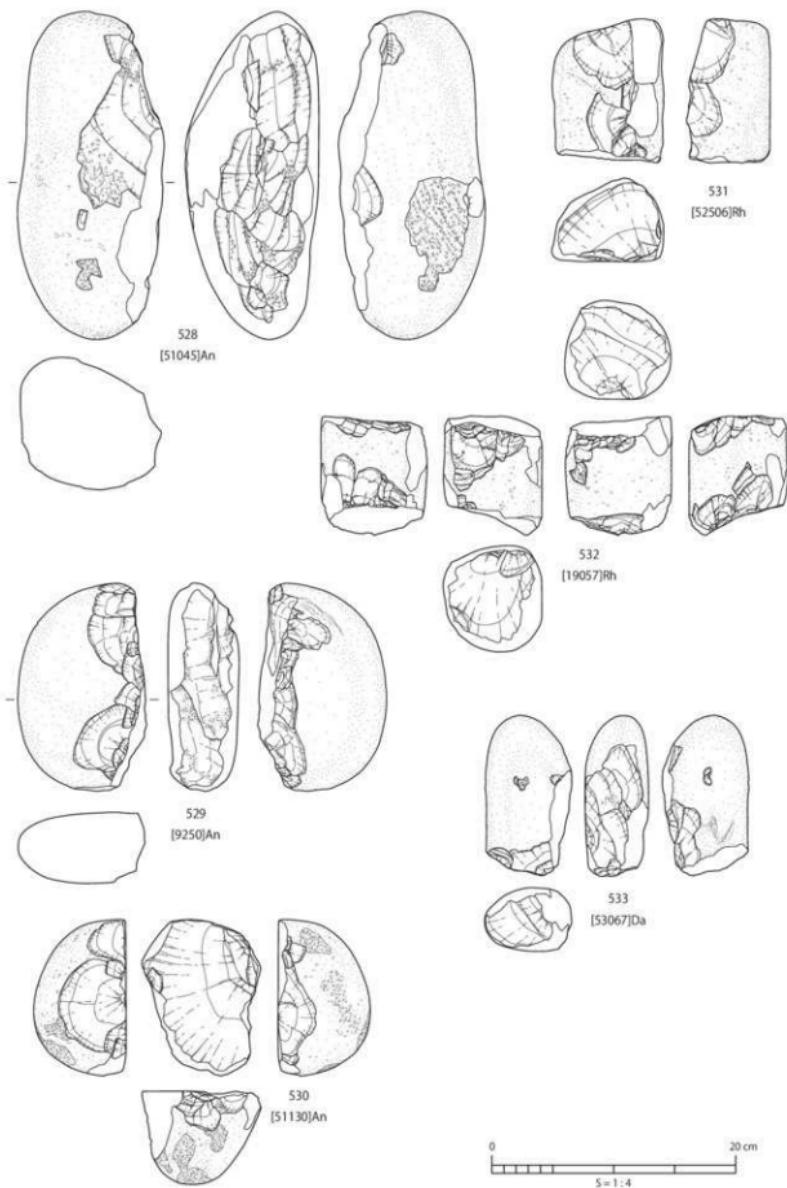
## 第3節 石製品

### 1 石製品の概要

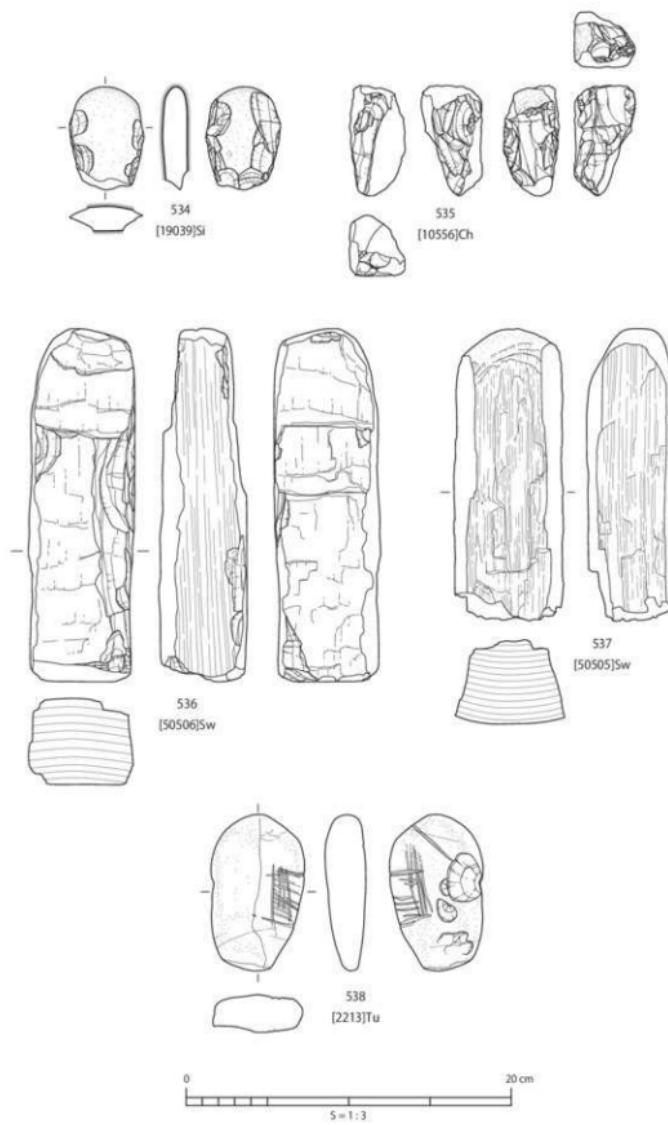
石製品に分類したものは既報告を含めて3点あり、本報告で図化掲載したのは538の線刻石1点のみである。扁平な礫に格子状の線刻が施される。



第 56 図 石核実測図 1



第 57 図 石核実測図 2



第 58 図 石核実測図 3・石製品実測図



1次建物 柱根 C アゼ 北から



28 地区 SX02 検出状況 南東から

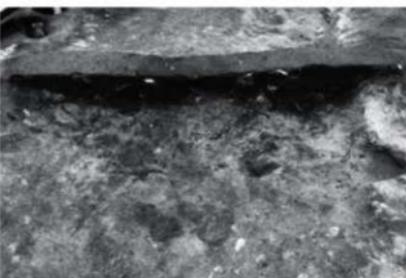
28 ③ B 地区 作業風景 西から



I次調査区 東西から



28 地区 SX03 遺物出土状況 北から



28 地区 SX02 東溝 c アゼ 北から



28 地区 環濠 05・06 土層断面 東から



28 地区 環濠 02・03a アゼ 東から



28 地区 環濠 02・03, 環濠 05・06 完掘状況 東から



28 地区 完掘状況 北から



31 地区 環濠 12 d アゼ 西から



31 地区 SX03 断面 南西から



26 地区 SE01 北から



26 地区 SE01A アゼ 北から



26 地区 SB02 東から



26 地区 SD13C アゼ 西から



26 地区 SI01 遺物状況 東から



4 地区 完掘状況 南から



4 地区 SD01 アゼ東壁 東から



4 地区 SD012 アゼ東壁 東から



6地区 SX04 南溝 南から



6地区 環濠 09 遺物検出状況 南から



6地区東半分 南から



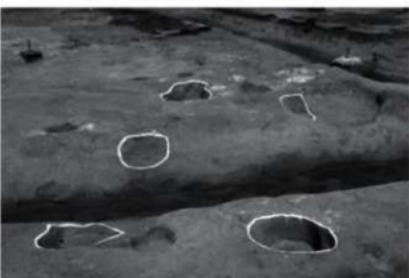
6地区 環濠 09A アゼ 南から



8地区 環濠 09C アゼ 南から



6地区 SI01 北東から



8地区 SB02 南東から



6地区 SX04 南溝遺物検出状況 東から



6地区 SX08 南溝遺物検出状況



6地区 SX02 南東から



6地区 SX04 東から



18 地区 SX02 検出状況 南から



18 地区 SX06 遺物検出状況 北から



18 地区環濠 SX01 北から



28 地区 SX01 主体部 北西から



18 地区 北半分完掘状況 北から



20 地区 完掘状況 西から



20 地区 SX01 北から



20 地区 SX02 北から



20地区 SX02 主体部 東から



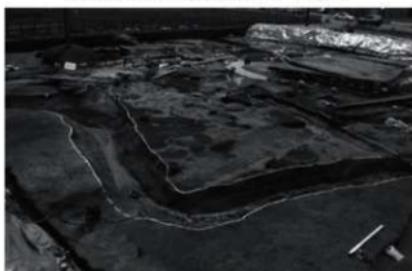
20地区 SX05・環濠 09 西から



20地区 SX04・環濠 09a アゼ 北から



20地区 SX04・環濠 09b アゼ 西から



20地区 SX05・06 北西から



20地区 SX14 南東から



20地区 SX14f アゼ 西から



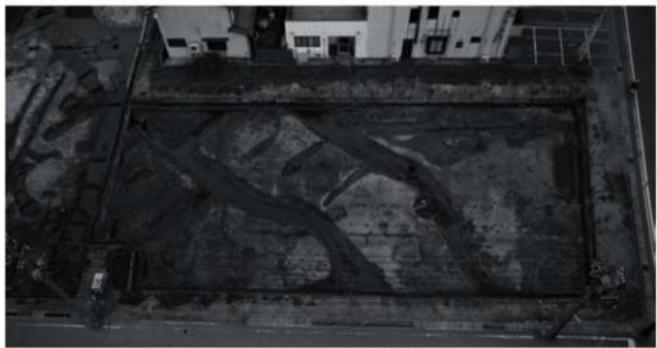
20地区 SX16 西溝掘削状況 東から



17 地区(その2) 全景 東から



17 地区(その3) 全景 西から



17(21) 地区 全景 西から



17 地区 SX06 東から



17 地区 SX01 内ピット 東から



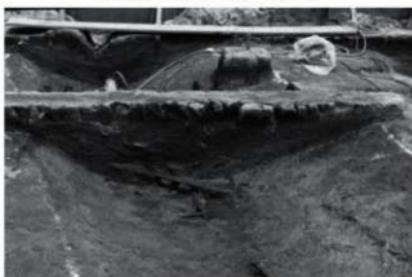
18 地区 SX03 主体部 東から



17 地区 SX01 主体部 北から



17 地区環濠 06E アゼ 東から



17 地区 環濠 05b アゼ 西から



17 地区 SB01G 北西から



17 地区 SB01K 南西から



16 地区西部分全景 北から



15 地区南部分 西から



16 地区環濠 06d アゼ 南から



15 地区 環濠 11K アゼ 東から



16 地区 環濠 04A アゼ 東から



15 地区 SX03K アゼ 東から



15 地区 SD21E アゼ 北東から



15 地区環濠 10 検出状況 東から



11-12 地区 つなぎ箇所 南から



12 地区 完掘状況 南から



12 地区 SX02 検出状況 南から



13 地区 SX01 検出状況 西から



12 地区 SX01 西から



12 地区 SX01 内 粘土ピット



12 地区環濠 03B 編物検出状況 東から



12 地区 SX01 北埋積浅谷肩部 gr 調査風景



11地区東部分全景 西から



11地区 SX01 西から



11地区(その1) 南から



11地区 環濠 06,07 南から



11地区 環濠 07b アゼ 南から



11地区環濠 06F アゼ 南から



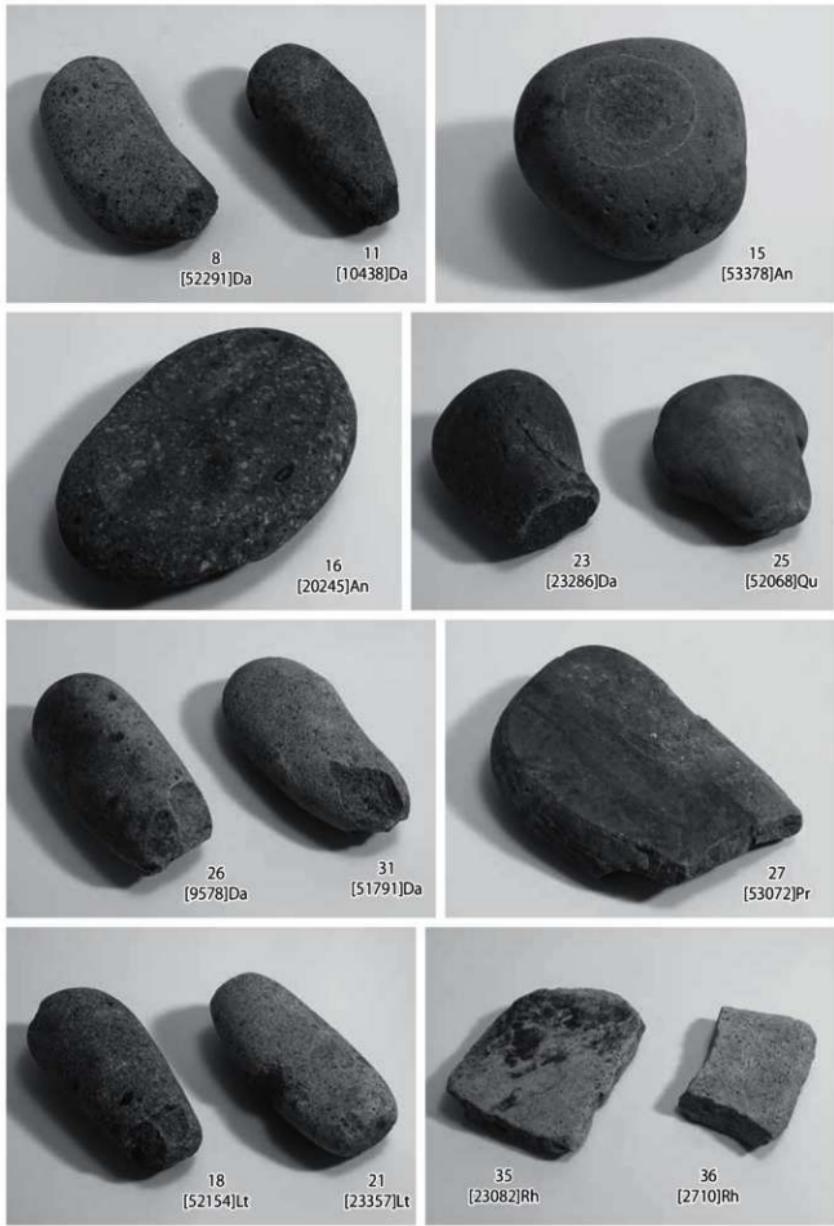
11地区 SB01 東半分 北から



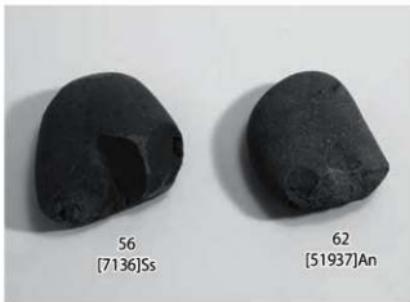
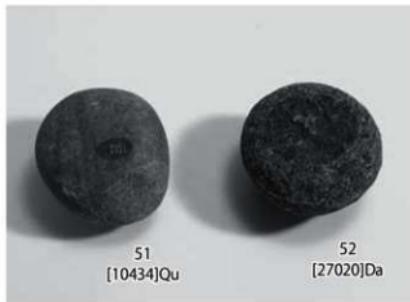
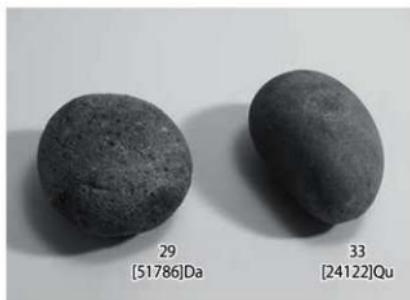
11地区 SB01 環濠 06 内柱根 北から



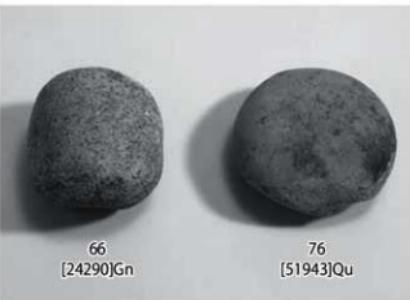
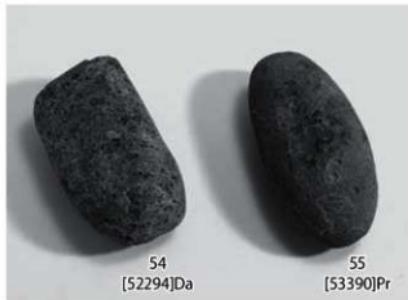
写真図版 11 磔石器（磨石類）



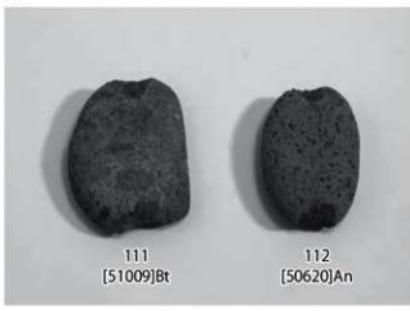
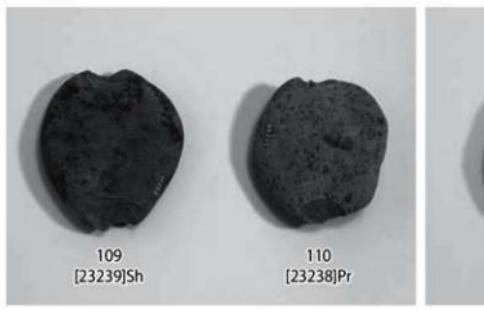
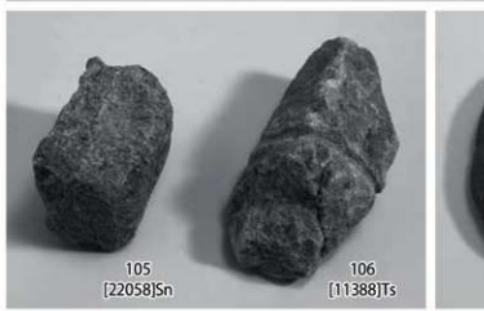
写真図版 12 研石器（磨石類）



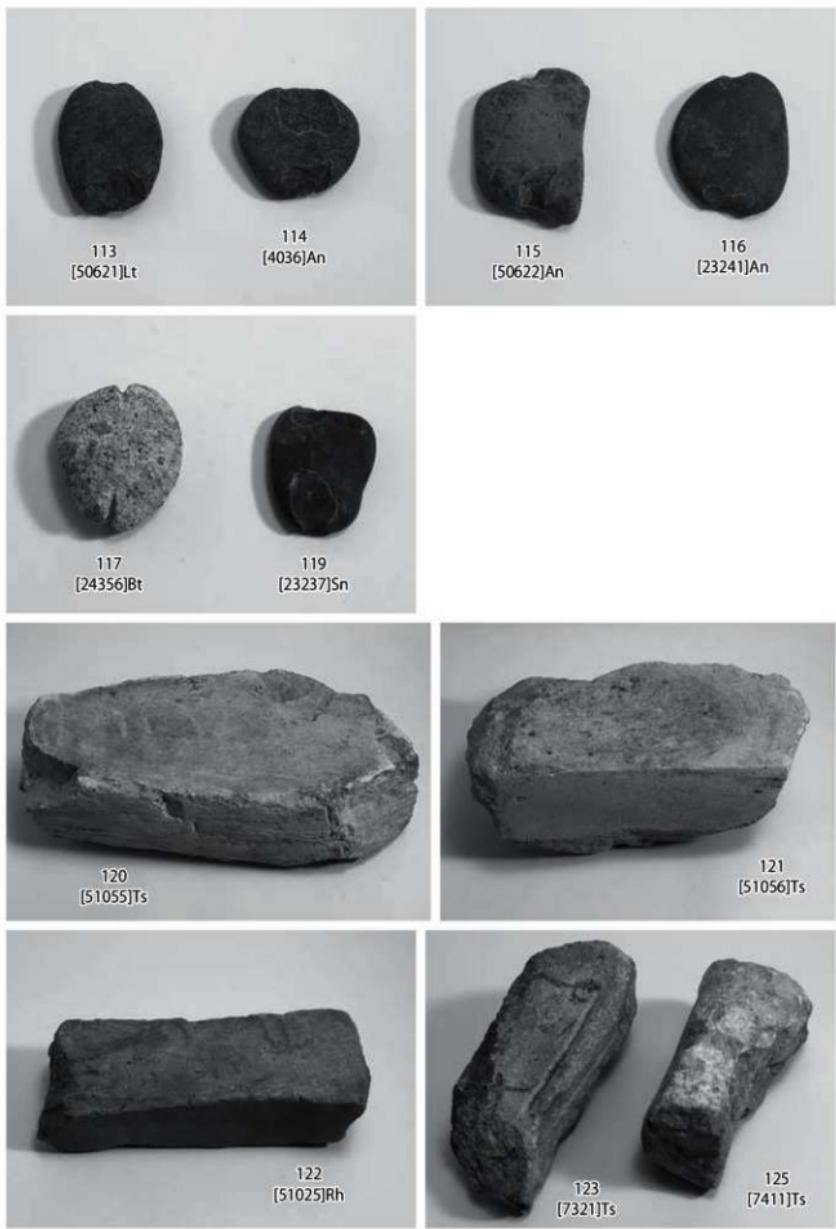
写真図版 13 磔石器（磨石類）



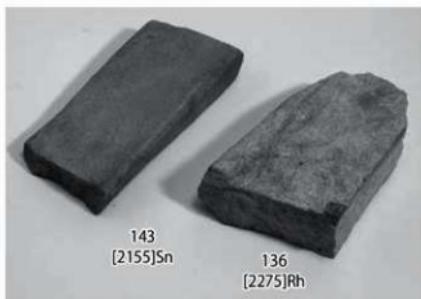
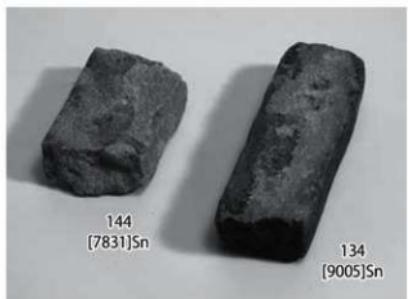
写真図版 14 磨石器（磨石類）



写真図版 15 磚石器 (凹石・石錘)



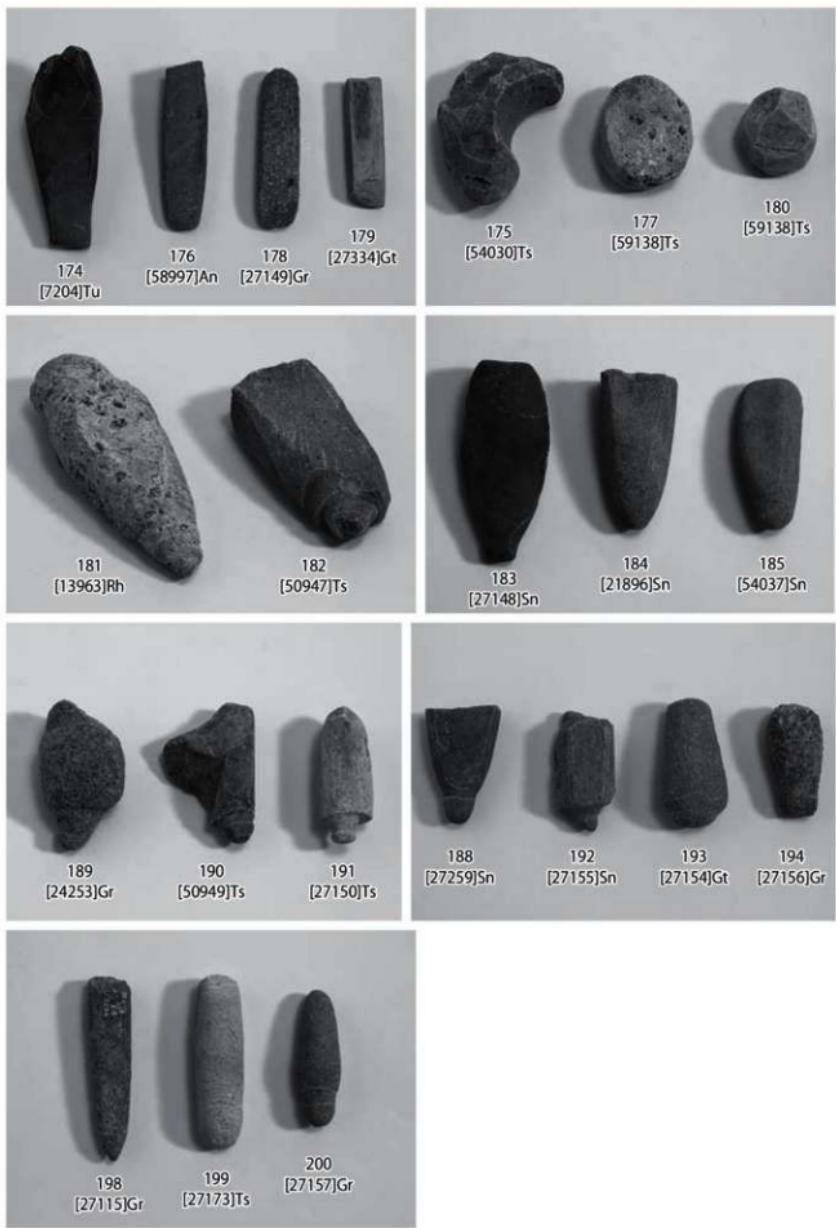
写真図版 16 磔石器（石錘・砥石）



写真図版 17 碓石器（礫石・石皿）



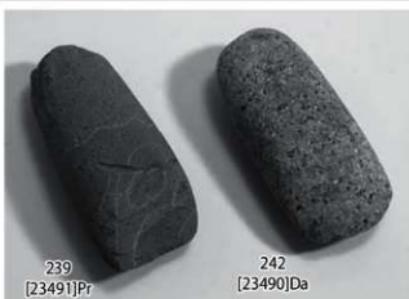
写真図版 18 磔石器（砥石）



写真図版 19 磔石器（砥石）



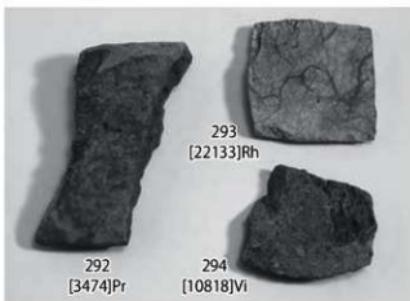
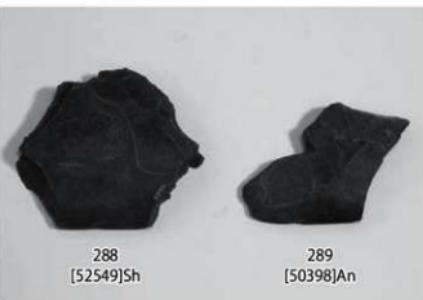
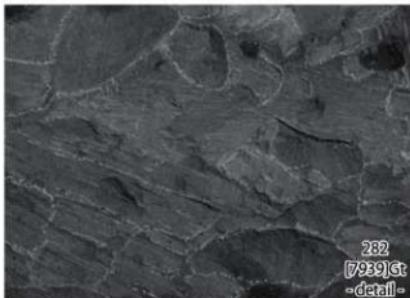
写真図版 20 磨製円盤



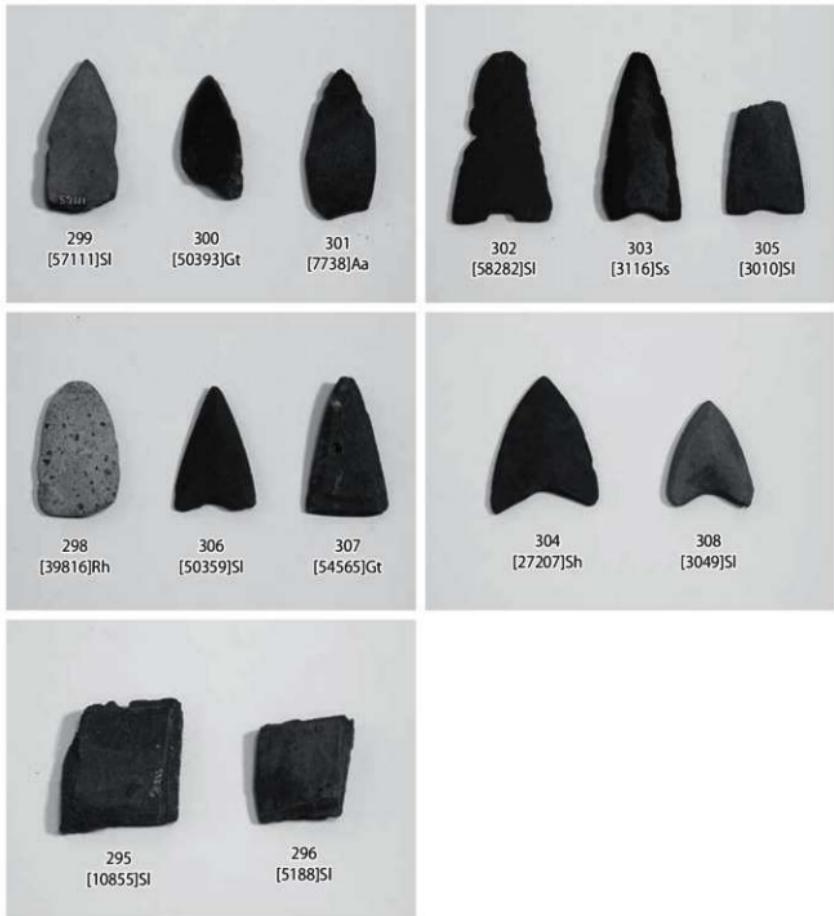
写真図版 21 磨製石斧



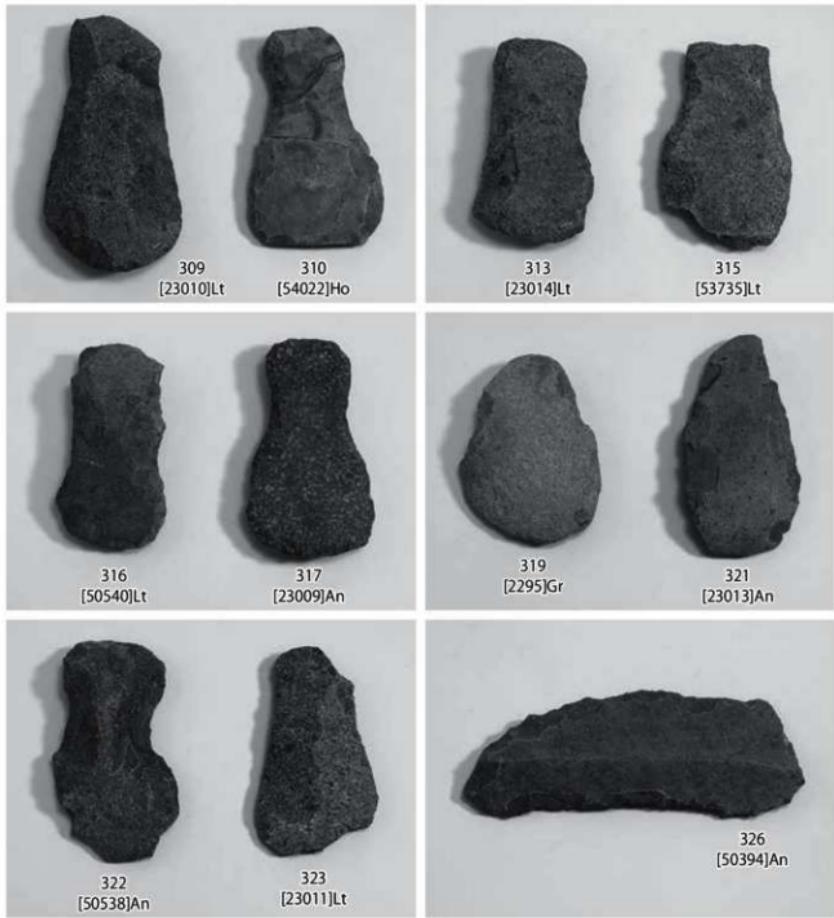
写真図版 22 磨製石斧



写真図版 23 磨製刃器



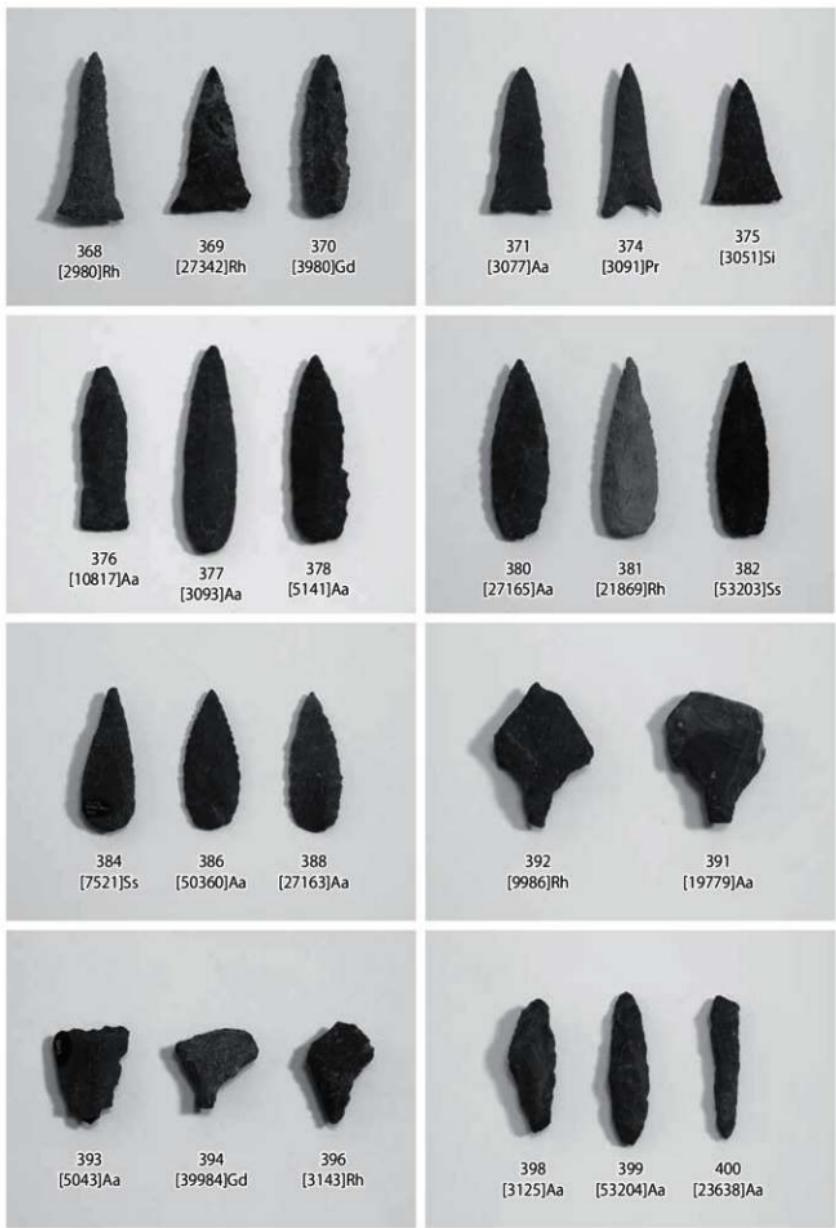
写真図版 24 磨製石器・その他（分割片）



写真図版 25 打製石斧（石鎚）・打製刃器（石鏸）



写真図版 26 打製石鏃



写真図版 27 打製石鏃・石錐



401  
[52829]An



404  
[53793]Da



405  
[51419]An



408  
[51360]An



417  
[53996]An



418  
[52723]An

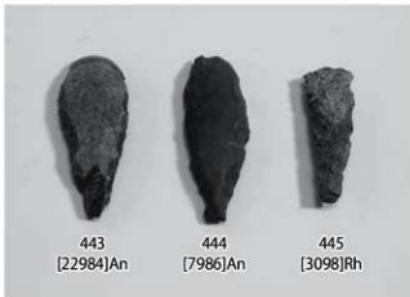
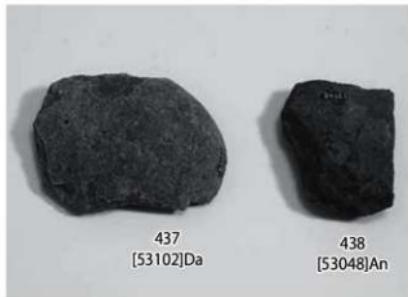


430  
[52635]An

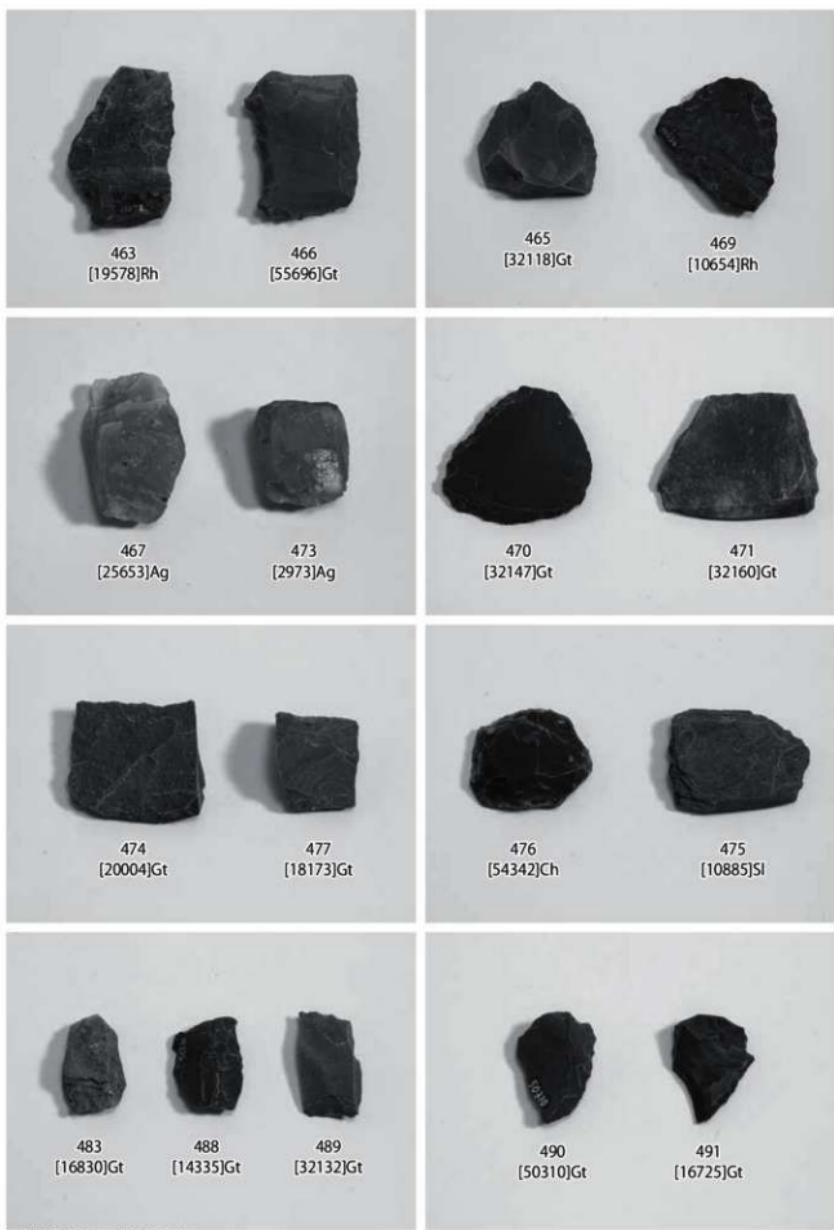


433  
[10389]Ho

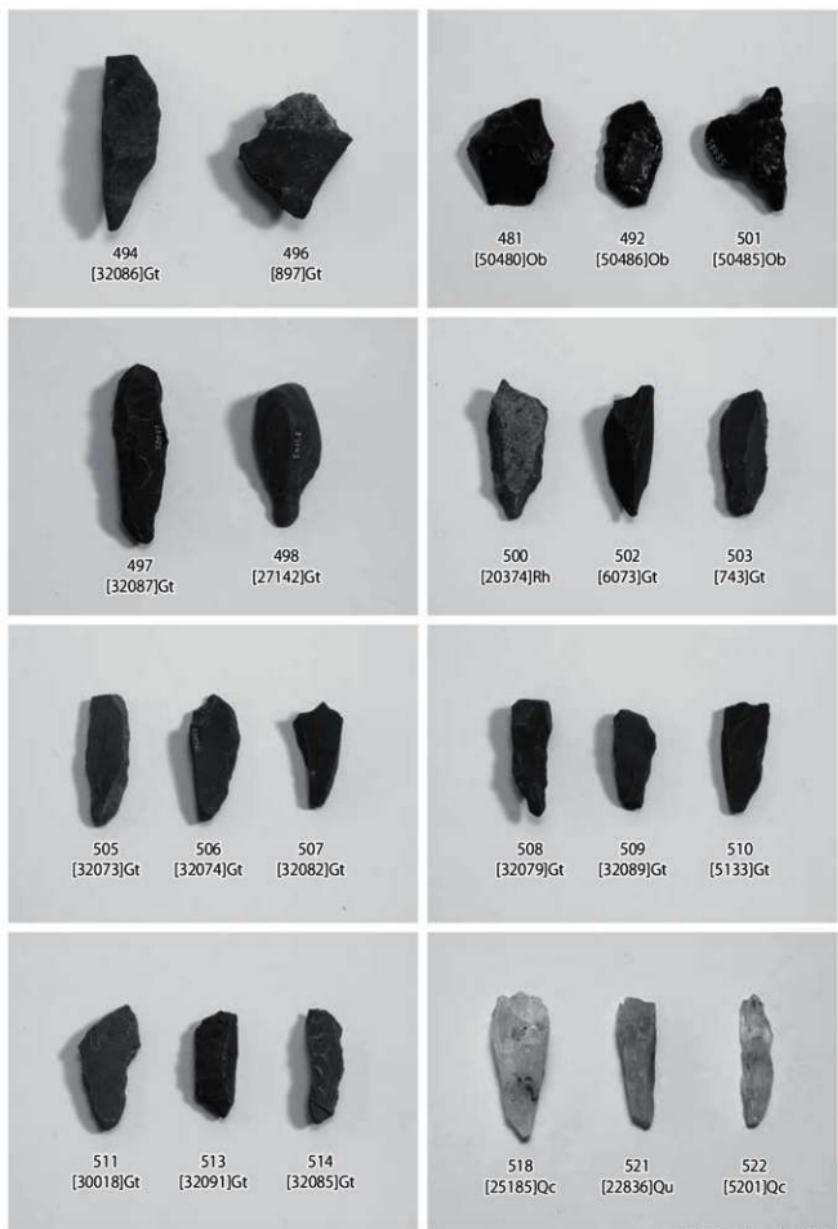
434  
[20706]Pr



写真図版 29 碟端片石器・剥片石器



写真図版 30 刮削器



写真図版 31 剥片石器



写真図版 32 石核・石製品

## 報告書抄録

|       |   |
|-------|---|
| ふりがな  | ようかいちじかたいせき 2                             |
| 書名    | 八日市地方遺跡II                                 |
| 副書名   | 小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書               |
| 巻次    |   |
| シリーズ名 | 第1部遺構編 第2部石器編                             |
| 編・著者名 | 下濱貴子・宮田 明                                 |
| 編集機関  | 石川県小松市教育委員会                               |
| 所在地   | 〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 TEL(0761)22-4111 |
| 発行年月日 | 西暦2013年3月31日                              |

---

---

## 八日市地方遺跡Ⅱ

—小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1部遺構編 第2部石器編

発行日 平成25年3月31日  
編集・発行 石川県小松市教育委員会  
石川県小松市小馬出町91 TEL(0761)22-4111  
印刷 株式会社日本テリード出版  
石川県小松市上本折町299 TEL(0761)24-1166

---

---